世田谷プラットフォーム

単位互換共通シラバス

駒澤大學

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

2019(令和元)年9月

駒澤大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
2	簿記論 a	講義	前期	権　大煥
4	簿記論 b	講義	後期	権　大煥
6	上級簿記 a	講義	前期	杉田　亜紀
8	上級簿記 b	講義	後期	杉田　亜紀
10	経済理論・資本の原理 a	講義	前期	羽島　有紀
12	経済理論・資本の原理 b	講義	後期	羽島　有紀
14	経済理論・経済システムの原理 a	講義	前期	堀内　健一
16	経済理論・経済システムの原理 b	講義	後期	堀内　健一
18	ミクロ経済学	講義	後期	荒木　勝啓
19	ミクロ経済学	講義	後期	松井　柳平
21	マクロ経済学	講義	前期	井上　智洋
23	マクロ経済学	講義	前期	山本　崇広
25	経済学史 a	講義	前期	宮田　惟史
27	経済学史 b	講義	後期	宮田　惟史
29	経済史 a	講義	前期	浅田　進史
31	経済史 b	講義	後期	浅田　進史
33	経済政策 a	講義	前期	井上　智洋
35	経済政策 b	講義	後期	井上　智洋
37	財政学 a	講義	前期	江口　允崇
39	財政学 b	講義	後期	江口　允崇
41	日本経済論 a	講義	前期	小林　正人
43	日本経済論 b	講義	後期	小林　正人
45	国際経済論 a	講義	前期	福島　浩治
47	国際経済論 b	講義	後期	福島　浩治
49	経済数学 a	講義	前期	岡田　多恵
51	経済数学 b	講義	後期	岡田　多恵
53	応用ミクロ経済学 a	講義	前期	荒木　勝啓
54	応用ミクロ経済学 b	講義	後期	荒木　勝啓
55	応用マクロ経済学 a	講義	前期	赤石　秀之
57	応用マクロ経済学 b	講義	後期	赤石　秀之
59	経営分析 a	講義	前期	渡邉　智
61	経営分析 b	講義	後期	渡邉　智
63	景気循環論 a	講義	前期	植林　茂
65	景気循環論 b	講義	後期	植林　茂
67	現代資本主義論 a	講義	前期	小林　陽介
69	現代資本主義論 b	講義	後期	小林　陽介
71	市民と経済学	講義	前期	市村　昌利

駒澤大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
73	社会思想史	講義	後期	市村　昌利
75	日本経済史 a	講義	前期	差波　亜紀子
77	日本経済史 b	講義	後期	差波　亜紀子
79	西洋経済史 a	講義	前期	大塩　量平
81	西洋経済史 b	講義	後期	大塩　量平
83	農業政策 a	講義	前期	溝手　芳計
85	農業政策 b	講義	後期	溝手　芳計
87	工業政策 a	講義	前期	中島　章子
89	工業政策 b	講義	後期	中島　章子
91	中小企業論	講義	前期	吉田　敬一
93	中小企業政策論	講義	後期	吉田　敬一
95	経済地理 a	講義	前期	福井　一喜
97	経済地理 b	講義	後期	福井　一喜
99	公共経済学 a	講義	前期	鈴木　伸枝
101	公共経済学 b	講義	後期	鈴木　伸枝
103	国際金融論 a	講義	前期	吉田　真広
105	国際金融論 b	講義	後期	吉田　真広
107	人口論 a	講義	前期	増田　幹人
109	人口論 b	講義	後期	増田　幹人
111	教育経済論 a	講義	前期	北條　雅一
113	教育経済論 b	講義	後期	北條　雅一
115	環境経済論 a	講義	前期	西林　勝吾
117	環境経済論 b	講義	後期	西林　勝吾
119	アジア経済論 a	講義	前期	鄭　章淵
121	アジア経済論 b	講義	後期	鄭　章淵
123	中国経済論 a	講義	前期	王　穎琳
125	中国経済論 b	講義	後期	王　穎琳
127	現代アメリカ経済論 a	講義	前期	小倉　将志郎
129	現代アメリカ経済論 b	講義	後期	小倉　将志郎
131	現代ヨーロッパ経済論 a	講義	前期	田中　綾一
133	現代ヨーロッパ経済論 b	講義	後期	田中　綾一
135	会計学総論 a	講義	前期	山田　康裕
137	会計学総論 b	講義	後期	山田　康裕
139	ファイナンス基礎 a	講義	前期	齊藤　正
141	ファイナンス基礎 b	講義	後期	齊藤　正
143	流通経済論 a	講義	前期	大野　哲明
145	流通経済論 b	講義	後期	大野　哲明

駒澤大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
147	企業経営学ａ	講義	前期	岩波　文孝
149	企業経営学ｂ	講義	後期	岩波　文孝
151	流通政策ａ	講義	前期	野木村　忠度
153	流通政策ｂ	講義	後期	野木村　忠度
155	消費経済論ａ	講義	前期	姉歯　暁
158	消費経済論ｂ	講義	後期	姉歯　暁
161	銀行システム論	講義	前期	齊藤　正
163	現代銀行事情	講義	後期	齊藤　正
165	財務会計論ａ	講義	前期	小栗　崇資
167	財務会計論ｂ	講義	後期	小栗　崇資
169	会計監査論ａ	講義	前期	森田　佳宏
171	会計監査論ｂ	講義	後期	森田　佳宏
173	管理会計論ａ	講義	前期	石川　祐二
175	管理会計論ｂ	講義	後期	石川　祐二
177	税務会計論ａ	講義	前期	柳　綾子
179	税務会計論ｂ	講義	後期	柳　綾子
181	原価計算論ａ	講義	前期	髙野　学
183	原価計算論ｂ	講義	後期	髙野　学
185	グローバル・ファイナンスａ	講義	前期	小西　宏美
187	グローバル・ファイナンスｂ	講義	後期	小西　宏美
189	ファイナンス論ａ	講義	前期	土井　一人
191	ファイナンス論ｂ	講義	後期	土井　一人
193	証券市場論ａ	講義	前期	深見　泰孝
195	証券市場論ｂ	講義	後期	深見　泰孝
197	保険論ａ	講義	前期	深見　泰孝
199	保険論ｂ	講義	後期	深見　泰孝
201	貿易史ａ	講義	前期	吉田　真広
203	貿易史ｂ	講義	後期	吉田　真広
205	企業管理論ａ	講義	前期	岩波　文孝
207	企業管理論ｂ	講義	後期	岩波　文孝
209	人的資源管理論ａ	講義	前期	堀　龍二
211	人的資源管理論ｂ	講義	後期	堀　龍二
213	非営利組織論ａ	講義	前期	松本　典子
215	非営利組織論ｂ	講義	後期	松本　典子
217	企業戦略論ａ	講義	前期	田淵　泰男
219	企業戦略論ｂ	講義	後期	田淵　泰男
221	企業統治論ａ	講義	前期	水村　典弘

駒澤大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
224	企業統治論ｂ	講義	後期	水村　典弘
227	現代経済事情Ⅰ	講義	前期	宮田　惟史
228	現代経済事情Ⅱ	講義	後期	小幡　道昭
230	現代産業事情Ⅰ	講義	前期	吉岡　路
232	現代産業事情Ⅲ	講義	後期	柳井　香織

東京都市大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
234	微分積分学(1)	講義と演習	前期	中井　洋史
236	微分積分学(2)	講義と演習	後期	中井　洋史
238	線形代数学(1)	講義形式	前期	井上　浩一
240	線形代数学(2)	講義形式	後期	井上　浩一
242	基礎確率統計	講義と演習	前期	兼子　毅
244	微分方程式論	講義と演習	前期前	畑上　到
246	ベクトル解析学	講義と演習	前期後	服部　新
248	フーリエ解析学	講義と演習	後期前	畑上　到
250	関数論	講義と演習	後期後	野原　勉
252	代数学(1)	講義形式	前期	古田　公司
254	代数学(2)	講義形式	後期	井上　浩一
256	代数学(3)	講義と演習	後期	畑上　到
258	物理学(1)	講義形式	前期前	馬塲　一晴
260	物理学(2)	講義形式	後期前	飯島　正徳
262	化学(1)	講義と演習	前期後	吉田　真史
264	化学(2)	講義と演習	後期後	吉田　真史
266	生物学(1)	講義形式	前期前	宮崎　正峰
268	生物学(2)	講義形式	後期後	宮崎　正峰
270	地学(1)	講義形式	前期後	清家　一馬
272	地学(1)	講義形式	前期前	小田島　庸浩
274	地学(2)	講義形式	後期後	小田島　庸浩
276	コンピュータ概論	講義と演習	後期後	田村　慶信
278	数値解析	講義形式	後期	呂　建明
280	情報社会と倫理	板書による講義	前期	山本　史華
282	情報社会と職業	講義とレポート、ディスカッション。	前期	橋本　明彦
284	情報と特許	プロジェクターによる講義	後期後	坂本　聡生
286	キャリアデザイン	講義、グループ討議	後期後	川北　節子
288	専門キャリアデザイン	講義説明をしたうえで、学修課題に対してグループワークを行い発表するアクティブ・ラーニングを実施する。	前期後	松崎　吉衛
290	技術日本語表現技法	配布資料等に基づく講義および演習と学生によるプレゼンテーション	前期前	田村　慶信
292	知能情報工学概論	講義と演習	後期前	田村　慶信

東京都市大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
294	デジタル信号処理	講義形式	後期後	荒井　秀一
296	情報理論	講義形式	前期前	新家　稔央
298	企業会計基礎	講義・演習・発表	前期後	海老沼　利光
300	データサイエンス基礎	講義メイン（一部演習）	前期後	兼子　毅
302	品質管理	講義を中心に，適宜演習，学習課題による宿題，予習および復習の課題による学習をおこなう。	前期前	細野　泰彦
304	プロジェクトマネジメント	講義と演習	前期前	田村　慶信
306	データマイニング	講義と演習	前期後	田村　慶信
308	実験計画法	講義中心	後期前	兼子　毅
310	時系列解析	輪講	後期前	穴田　一
312	特別講義（IS-1）（経営システム工学におけるデザインの領域）	必要に応じて資料を配布、スクリーン等を見ながらの視覚的な講義が主体となります。	前期	竹井　弘幸
314	特別講義(IS-2)(グローバル社会における経営)	２回目～１３回目は経営者を招き夢キャンパスで講義とグループワークを行う。１回目は各講義の前提知識と受講を有意義にするための方法を説明し、１４回目は講義により得られた知見のまとめをアクティブラーニングで行う。	後集中	松崎　吉衛
316	特別講義(IS-3)(メディア戦略概論)	キーノートによる講義60分＋質疑応答・ディスカション40分	後期後	葉村　真樹
319	特別講義(KE-1)(グローバルビジネス入門)	講義及びコラボレーション活動 Lecture and crlaboration activity style	前期後	C・C・ヒメネス
321	特別講義(KE-1)(グローバルビジネス入門)	講義形式	後期後	M・テイボン
323	企業マネジメント	講義と，課題について調査・発表するグループワーク	前期後	渡部　和雄
325	企業評価	講義と演習	後期前	岡田　公治

東京都市大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
327	経営情報システム	講義と演習	後期後	渡部　和雄
329	投資分析	講義と演習	後期後	海老沼　利光
331	グローバル経営	講義説明をしたうえで、学修課題に対してグループワークを行い発表するアクティブ・ラーニングを実施する。	後期前	松崎　吉衛 岡田　公治
333	大規模データ解析応用事例	講義と演習	前期	田村　慶信
335	マーケティング･サイエンス	講義と演習	後期後	田村　慶信
337	ビジネスモデル	講義と演習	後期前	渡部　和雄
339	製品企画	講義と演習	前期	兼子　毅
341	人間工学	座学、ただし随時演習を行う	前期後	岡　誠
343	認知工学	講義形式	後期前	森　博彦
345	知的情報処理	講義形式	後期前	森　博彦
347	ヒューマン･インタフェース	講義形式	前期	森　博彦
349	コンピューテーショナルモデリング	配布資料に基づく講義と演習	前期前	穴田　一
351	古典制御理論	講義形式	後期後	大屋　英稔
354	コンピュータネットワーク	講義を中心に実習も行う。	後期前	塩本　公平
357	ネットワークアルゴリズム	教科書、資料を使用した講義および毎回の講義内容を確認するための演習	後期前	塩本　公平
360	生産システム工学	講義を中心に，適宜演習，学習課題による宿題，予習および復習の課題による学習をおこなう.	前期前	細野　泰彦
363	作業設計工学	配布資料に基づく講義と演習を行う。適宜、レポート課題も出す	後期後	大久保　寛基
365	サプライチェーン･マネジメント	配布資料に基づく講義と演習を行う。適宜、レポート課題も出す	前期後	大久保　寛基

東京都市大学 単位互換開講科目一覧

ページ	科目	授業形態	開講学期	教員氏名
367	知的財産マネジメント	授業は、2コマを１単位とし、この中で、講義、グループ作業、発表、講評を実施します。	後期前	芝　正孝
369	ファシリティー･プランニング	講義を中心に，適宜演習，学習課題による宿題，予習および復習の課題による学習をおこなう.	後期前	細野　泰彦

履修コード/科目名称	092101 / 簿記論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	権　大煥（グオン　デハン）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	簿記論は，免許法施行規則上の商業の関係科目として，企業において日常的に発生する取引について適正に記録するとともに，適正な財務諸表を作成するために必要な資質・能力を育成することを主眼とした科目である。	
到達目標(ねらい)	簿記論は，高等学校学習指導要領で強調されている取引の記録と財務諸表の作成に必要な基礎能力を修得するための科目であり，経済学部の卒業認定・学位授与の方針(DP)5「専門分野の知識・技能の活用力」に関連する。具体的には，(1)簿記実践に関する体系的な理解とそれに関連する技術，(2)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指し，適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的に取り組むための基礎能力の修得を目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	簿記の学び方＆授業運営等について
	第 2 回	簿記の意義と仕組み
	第 3 回	仕訳と転記
	第 4 回	仕訳帳と元帳
	第 5 回	決算
	第 6 回	現金と預金
	第 7 回	繰越商品・仕入・売上
	第 8 回	売掛金と買掛金
	第 9 回	問題演習
	第 10 回	その他の債権・債務
	第 11 回	受取手形と支払手形
	第 12 回	その他の手形
	第 13 回	問題演習
	第 14 回	有価証券
	第 15 回	総合演習
準備学習	簿記取引の計算事例に関しては，予習と復習を必須と考えること。また，授業中に紹介する参考文献や新聞記事等に関しては，図書館およびインターネットで確認し，疑問に思う点について質問をすること。	
履修上の留意点等	1．第1回目の授業に必ず出席し，履修上の留意点について具体的な説明を受けること。 2．シラバスの内容は適宜変更することがある。 3．簿記は反復練習が重要であり，その確認のための小テストを実施する。	
成績評価の方法	50 %	試験
	30 %	レポート
	20 %	小テスト
		平常点

	注1：欠席が5回以上の場合，評価は不可とする。 注2：レポートによる評価は3回実施し，すべて手書きを基本とする。 注3：電卓を用意すること。
教科書/テキスト	渡部裕亘・片山覚・北村敬子編編著『検定簿記講義/3級商業簿記（平成31年度版）』（中央経済社），2019年。 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編編著『検定簿記ワークブック/3級商業簿記』（中央経済社），2019年。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	鈴木義夫・千葉修身『会計研究入門―“会計はお化けだ”―』（森山書店），2015年。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度は，「板書の字が小さく，講義のスピードが速い」という指摘があった。本年度はこれらの点に留意して講義を行うよう努める。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092151 / 簿記論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	権　大煥（グオン　デハン）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	簿記論は，免許法施行規則上の商業の関係科目として，企業において日常的に発生する取引について適正に記録するとともに，適正な財務諸表を作成するために必要な資質・能力を育成することを主眼とした科目である。	
到達目標(ねらい)	簿記論は，高等学校学習指導要領で強調されている取引の記録と財務諸表の作成に必要な基礎能力を修得するための科目であり，経済学部の卒業認定・学位授与の方針(DP)5「専門分野の知識・技能の活用力」に関連する。具体的には，(1)簿記実践に関する体系的な理解とそれに関連する技術，(2)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指し，適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的に取り組むための基礎能力の修得を目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	簿記の学び方
	第 2 回	固定資産
	第 3 回	貸倒損失と貸倒引当金
	第 4 回	資本金と引出金
	第 5 回	収益と費用
	第 6 回	問題演習
	第 7 回	伝票
	第 8 回	決算と決算手続き
	第 9 回	試算表の作成
	第 10 回	棚卸表の作成と決算整理事項
	第 11 回	精算表の作成
	第 12 回	財務諸表の作成
	第 13 回	問題演習
	第 14 回	財務諸表の分析
	第 15 回	総合演習
準備学習	簿記取引の計算事例に関しては，予習と復習を必須と考えること。また，授業中に紹介する参考文献や新聞記事等に関しては，図書館およびインターネットで確認し，疑問に思う点について質問をすること。	
履修上の留意点等	1．第1回目の授業に必ず出席し，履修上の留意点について具体的な説明を受けること。 2．シラバスの内容は適宜変更することがある。 3．簿記は反復練習が重要であり，その確認のための小テストを実施する。 4．簿記論aの知識と計算能力を有することが望ましい。	
成績評価の方法	50 ％	試験
	30 ％	レポート
	20 ％	小テスト
		平常点

	注1：欠席が5回以上の場合，評価は不可とする。 注2：レポートによる評価は3回実施し，すべて手書きを基本とする。 注3：電卓を用意すること。
教科書/テキスト	渡部裕亘・片山覚・北村敬子編編著『検定簿記講義/3級商業簿記（平成31年度版）』（中央経済社），2019年。 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編編著『検定簿記ワークブック/3級商業簿記』（中央経済社），2019年。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	鈴木義夫・千葉修身『会計研究入門―“会計はお化けだ”―』（森山書店），2015年。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度は，「板書の字が小さく，講義のスピードが速い」といった指摘があった。本年度はこれらの点に留意して講義を行うよう努める。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092311 / 上級簿記ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	杉田　亜紀（スギタ　アキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	日商簿記３級程度の知識を前提として、より実践的な商業簿記の知識を習得する。また、基本的な財務諸表の読み取りや作成についても学習する。学習簿記にとどまらず、使える簿記にしていくため、財務諸表の分析についてもふれていく。	
到達目標(ねらい)	日商簿記２級程度の内容中心に網羅的に学習する。詳細は下記のとおりである。 ・商業簿記の基本的な知識を習得すること ・財務諸表を読み取ることにより企業の状況を把握できること なお、本科目は、駒澤大学学位授与方針ＤＰ５に関連している。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス　複式簿記の概要
	第 2 回	株式会社の会計
	第 3 回	剰余金の配当と処分
	第 4 回	株主資本の係数変動
	第 5 回	税金
	第 6 回	商品売買
	第 7 回	手形と電子記録債権
	第 8 回	銀行勘定調整表
	第 9 回	固定資産①
	第 10 回	中間テスト
	第 11 回	固定資産②
	第 12 回	固定資産③
	第 13 回	リース会計
	第 14 回	無形固定資産・研究開発費
	第 15 回	まとめ
準備学習	前回の内容を復習した上で、講義に参加すること	
履修上の留意点等	簿記は積み重ねが必要であるため、なるべく欠席をしないこと。 電卓（スマホの電卓機能は禁止）を持参すること。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
	30 ％	小テスト
		平常点
教科書/テキスト	みんなが欲しかった簿記の教科書　日商２級　商業簿記（ＴＡＣ出版	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	学生の実力にバラツキがあるため、難易度が高いと感じる学生と簡単すぎると感じる学生に差が生じている。低レベルの学生がおちこぼれないように心がけ、また、高レベルの学生が物足りなくならにように留意する。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092351 / 上級簿記ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	杉田　亜紀（スギタ　アキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	日商簿記３級程度の知識を前提として、より実践的な商業簿記の知識を習得する。また、基本的な財務諸表の読み取りや作成についても学習する。学習簿記にとどまらず使える簿記にしていくため、財務諸表の分析についてもふれていく。	
到達目標(ねらい)	日商簿記２級程度の内容を網羅的に学習する。詳細は下記のとおりである。 ・商業簿記の基本的な知識を習得すること ・財務諸表を読み取ることにより企業の状況を把握できること なお、本科目は、駒澤大学学位授与方針ＤＰ５に関連している。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス　上級簿記ａの復習
	第 2 回	有価証券①
	第 3 回	有価証券②
	第 4 回	引当金・収益費用
	第 5 回	外貨建取引
	第 6 回	仕訳日計表及び財務諸表
	第 7 回	税効果会計①
	第 8 回	税効果会計②
	第 9 回	本支店会計
	第 10 回	中間テスト
	第 11 回	連結会計①
	第 12 回	連結会計②
	第 13 回	連結会計③
	第 14 回	製造業会計
	第 15 回	まとめ
準備学習	前回の内容を復習した上で、講義に参加すること	
履修上の留意点等	簿記は積み重ねが必要であるため、なるべく欠席をしないこと。 電卓（スマホの電卓機能は禁止）を持参すること。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
	30 ％	小テスト
		平常点
教科書/テキスト	みんなが欲しかった簿記の教科書　日商２級　商業簿記（ＴＡＣ出版）	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	学生の実力にバラツキがあるため、難易度が高いと感じる学生と簡単すぎると感じる学生に差が生じている。低レベルの学生がおちこぼれないように心がけ、また、高レベルの学生が物足りなくならにように留意する。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	089701 / 経済理論・資本の原理ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 2時限
単位数	2		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	羽島　有紀（ハジマ　ユウキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では資本主義経済についての基礎理論を学びます。 現代社会は金融危機や財政問題、格差・貧困の問題、ブラック企業や過労死・過労自死のほか非正規雇用の拡大など様々な労働問題、地球規模の環境問題など実に多くの問題を抱えています。これらの問題を考えていくためには、この社会を根本的に基礎づけている資本主義経済について理解することが不可欠になります。それはどのようにして成立し、再生産されているのか。またどのようなメカニズムで作用し、どのように変化しているのか。本講義はこうした資本主義経済についての基本的な理解を得ることを目的としています。 講義は毎回配布する講義レジュメをもとに行います。また、経済理論と現実の諸問題との関連をとらえるために、各種統計資料や新聞記事、映像等も適宜利用します。	
到達目標(ねらい)	資本主義経済についての基本的な理解を得ること。 現実社会でおきている様々な問題との関連を捉え、それらを分析・考察するための基礎的な力を養うこと。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	資本主義経済の成立と発展
	第 3 回	商品の分析（１）価値と使用価値
	第 4 回	商品の分析（２）労働の二重性
	第 5 回	商品の分析（３）価値表現のメカニズム
	第 6 回	商品の分析（４）生産関係の物象化と物神崇拝
	第 7 回	商品の分析（５）物象の人格化
	第 8 回	貨幣の分析（１）貨幣とは何か
	第 9 回	貨幣の分析（２）貨幣の機能
	第 10 回	貨幣の分析（３）流通貨幣量
	第 11 回	資本の分析（１）労動過程と価値増殖過程
	第 12 回	資本の分析（２）価値増殖の秘密
	第 13 回	資本の分析（３）労動力の搾取率としての剰余価値率
	第 14 回	賃金の本質とその現象形態
	第 15 回	全体のまとめ
準備学習	講義で配布されるレジュメのほか、講義中に紹介する参考文献や資料等を用いて理解を深めてください。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	大谷禎之介 著『図解 社会経済学:資本主義とはどのような社会システムか』(桜井書店, 2001年, 3,240円, ISBN：4921190089 (978-4921190088))
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	ミヒャエル・ハインリッヒ 著（明石英人, 佐々木隆治, 斎藤幸平, 隅田聡一郎 訳）『『資本論』の新しい読み方 : 21世紀のマルクス入門』(堀之内出版, 2014年, 2,160円, ISBN：978-4906708529) 佐々木隆治 著『私たちはなぜ働くのか―マルクスと考える資本と労働の経済学』（旬報社, 2012年m 1,404円, ISBN：978-4845112777) 佐々木隆治 著『カール・マルクス:「資本主義」と闘った社会思想家』（ちくま新書, 2016年, 929円, ISBN：978-4480068897)
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度の授業アンケートをふまえ、話すスピードに注意し分かりやすい説明を心がけます。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	089751 / 経済理論・資本の原理ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 2時限
単位数	2		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	羽島　有紀（ハジマ　ユウキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では資本主義経済についての基礎理論を学びます。 現代社会は金融危機や財政問題、格差・貧困の問題、ブラック企業や過労死・過労自死のほか非正規雇用の拡大など様々な労働問題、地球規模の環境問題など実に多くの問題を抱えています。これらの問題を考えていくためには、この社会を根本的に基礎づけている資本主義経済について理解することが不可欠になります。それはどのようにして成立し、再生産されているのか。またどのようなメカニズムで作用し、どのように変化しているのか。本講義はこうした資本主義経済についての基本的な理解を得ることを目的としています。 講義は毎回配布する講義レジュメをもとに行います。また、経済理論と現実の諸問題との関連をとらえるために、各種統計資料や新聞記事、映像等も適宜利用します。	
到達目標(ねらい)	資本主義経済についての基本的な理解を得ること。 現実社会でおきている様々な問題との関連を捉え、それらを分析・考察するための基礎的な力を養うこと。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	資本主義経済と商品・貨幣・資本
	第 3 回	絶対的剰余価値の生産（１）労動日の延長
	第 4 回	絶対的剰余価値の生産（２）労働時間規制と自由時間
	第 5 回	相対的剰余価値の生産（１）協業、分業、マニファクチュア
	第 6 回	相対的剰余価値の生産（２）機械制大工業と労働の変化
	第 7 回	相対的剰余価値の生産（３）労働の疎外と物質代謝の撹乱
	第 8 回	資本と資本関係の再生産
	第 9 回	資本の蓄積
	第 10 回	資本構成とその高度化
	第 11 回	相対的過剰人口とその存在形態
	第 12 回	利潤率と利潤率の傾向的低下の法則
	第 13 回	本源的蓄積（１）資本の本源的蓄積とその方法
	第 14 回	本源的蓄積（２）資本主義的生産の歴史的位置
	第 15 回	全体のまとめ
準備学習	講義で配布されるレジュメのほか、講義中に紹介する参考文献や資料等を用いて理解を深めてください。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	大谷禎之介 著『図解 社会経済学:資本主義とはどのような社会システムか』(桜井書店, 2001年, 3,240円, ISBN：4921190089 (978-4921190088))
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	ミヒャエル・ハインリッヒ 著（明石英人, 佐々木隆治, 斎藤幸平, 隅田聡一郎 訳）『『資本論』の新しい読み方 : 21世紀のマルクス入門』(堀之内出版, 2014年, 2,160円, ISBN：978-4906708529) 佐々木隆治 著『私たちはなぜ働くのか―マルクスと考える資本と労働の経済学』（旬報社, 2012年m 1,404円, ISBN：978-4845112777) 佐々木隆治 著『カール・マルクス:「資本主義」と闘った社会思想家』（ちくま新書, 2016年, 929円, ISBN：978-4480068897)
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度の授業アンケートをふまえ、話すスピードに注意し分かりやすい説明を心がけます。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090001 / 経済理論・経済システムの原理ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	堀内　健一（ホリウチ　ケンイチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現代の資本主義経済における貨幣・金融システムのしくみとその特質を明らかにします。とくに1990年代以降のグローバル化による新たな国際分業の展開やいわゆる「マネー資本主義」の膨張を、アメリカを軸とした国際通貨体制（ドル体制）の枠組みから理解し、問題点、展望を考察します。 本講義は「経済理論・資本の原理ａ」と並行して開講されています。そこで展開されている資本主義的生産の基礎理論を前提して、現状の具体的な諸問題について理論的分析を進めていきます。データや資料等をできるだけ多く活用しながら、経済問題の根本的な解明と経済理論の実証を試みます。 現代経済ではいわゆる「カネ余り」が構造化し、グローバルなマネーゲームと結びついて、世界的な金融危機（2008年のリーマンショック）や欧州各国の財政危機（2010年のギリシャショック等）といった世界的な経済システムの危機を顕在化させてきました。こうした危機は条件がそろえば依然として今日でも起きうる状況です。ではなぜ、今日の世界では経済危機を招くほどの投機的な金融取引が生まれ、膨大な金融資産が恒常的に形成されるのでしょうか。それは「経済理論・資本の原理a」で取り扱われた商品・貨幣といった基本的範疇の現代における変容に基づいています。その意味とメカニズムを明らかにします。
到達目標(ねらい)	1)現代資本主義のシステム的な特質と構造的な問題点を理解し指摘することができる。 2)メディアが伝える経済統計の意味、経済動向を理解できる。 3)経済理論や政策論にもとづいて自ら情報を分析し、経済問題について論理的に考察できる。

授業スケジュール	第 1 回	01. ガイダンス・イントロダクション――ドル体制と世界経済
	第 2 回	02. アメリカのバブル（1）家計部門の過剰消費
	第 3 回	03. アメリカのバブル（2）住宅ブーム
	第 4 回	04. 証券化商品の開発とリーマンショック
	第 5 回	05. EUの経済発展とその特質
	第 6 回	06. 欧州債務危機とそのメカニズム
	第 7 回	07. 中国の経済発展とその特質
	第 8 回	08. 中国の経済発展とアメリカのバブル
	第 9 回	09. アメリカの対外赤字の拡大とドル残高－国際収支統計からの理解
	第 10 回	10. アメリカを起点とした国際的資金循環
	第 11 回	11. 国際通貨ドルと外国為替相場（対ドル円相場）
	第 12 回	12. 金ドル交換停止と変動相場制への移行
	第 13 回	13. 現代の金融システムと金融取引の特徴
	第 14 回	14. ドル体制と「マネー資本主義」の展開
	第 15 回	15. まとめ

準備学習	毎回、配付する講義レジュメおよび各自のノートを利用して、復習をしてください。配付したプリントは「イエスタディ」に掲載します。授業では過去に配付したプリントにも言及するのでファイリングをしていつも用意してください。現実の経済事象や経済政策について興味･関心をもってアンテナを張ってほしいと思います。たとえば、『日本経済新聞』をよく読んで下さい。質問も積極的にして下さい。
履修上の留意点等	

成績評価の方法	80 ％	試験
		レポート
		小テスト
	20 ％	平常点
教科書/テキスト	使用しません。毎回、講義資料をプリントして配付します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小西一雄『資本主義の成熟と転換－現代の信用と恐慌』桜井書店、3,700円、978-4905261-20-9、関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄『金融論』青木書店、2,800円、4-250-99021-4、大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、3,000円、921190-08-9、その他講義中に指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	書画装置によってスクリーンに配付プリントを投影しながら説明を行ったが、プリントに書き込む文字についてもっと見やすくなるよう改善を図りたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	090051 / 経済理論・経済システムの原理ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	堀内　健一（ホリウチ　ケンイチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	生産力の発展と富の増大にとって資本主義の経済システムは最も適合的ですが、それは一方で解決すべき矛盾を抱えたシステムでもあります。現代においてそれがどのように現れているのかを明らかにします。とくに「長期停滞」と呼ばれる現代の日本経済を戦後の資本蓄積の動向と金融システムのありかたという枠組みからその問題を分析し、その意味、展望を考察します。 本講義は「経済理論・資本の原理b」と並行して開講されています。そこで展開されている資本主義的生産の基礎理論を前提して、現状の具体的な諸問題について理論的分析を進めていきます。データや資料等をできるだけ多く活用しながら、経済問題の根本的な解明と経済理論の実証を試みます。 現代日本における資本主義経済の発展は生産力を飛躍的に高め、国民生活に物的・貨幣的な豊かさを急速にもたらし、安定した福祉社会を実現しました。これは人々が勤勉であり、企業の経営戦略や政府の経済・産業政策が功を奏したからであることは疑いありません。しかし、1990年代以降、企業の資本蓄積は停滞し、不安定雇用の増大、実質賃金の下落といった人々の労働や生活の条件悪化が構造的に現れるようになりました。長期停滞の到来です。この諸要因と歴史的意味をマルクスの利潤率の傾向的低下法則と「貨幣資本の蓄積と現実資本の蓄積」という分析枠組みから明らかにします。
到達目標(ねらい)	1)現代資本主義のシステム的な特質と構造的な問題点を理解し指摘することができる。 2)メディアが伝える経済統計の意味、経済動向を理解できる。 3)経済理論や政策論にもとづいて自ら情報を分析し、経済問題について論理的に考察できる。

授業スケジュール		
	第 1 回	01. ガイダンス・イントロダクション――日本の景気循環と長期停滞
	第 2 回	02. 資本主義的生産の基本的しくみ
	第 3 回	03. 資本蓄積のメカニズム
	第 4 回	04. 生産力の発展のメカニズムとその作用
	第 5 回	05. 高度経済成長期の資本蓄積
	第 6 回	06. 高度成長期の金融システムの特徴
	第 7 回	07. 日本の輸出大国化
	第 8 回	08. 日本企業の財テクブームとME化投資
	第 9 回	09. バブル経済期の企業金融と資本蓄積
	第 10 回	10. 日本における長期停滞の諸現象
	第 11 回	11. 日本企業の多国籍化（生産拠点の海外移転）
	第 12 回	12. 日本企業の内部留保増大と雇用条件の悪化
	第 13 回	13. 利潤率の傾向的低下法則と日本の長期停滞
	第 14 回	14. 今日の日本経済と展望
	第 15 回	15. まとめ

準備学習	毎回、配付する講義レジュメおよび各自のノートを利用して、復習をしてください。配付したプリントは「イエスタディ」に掲載します。授業では過去に配付したプリントにも言及するのでファイリングをしていつも用意してください。現実の経済事象や経済政策について興味･関心をもってアンテナを張ってほしいと思います。たとえば、『日本経済新聞』をよく読んで下さい。質問も積極的にして下さい。
履修上の留意点等	

成績評価の方法	80 ％	試験
		レポート
		小テスト
	20 ％	平常点
教科書/テキスト	使用しません。毎回、講義資料をプリントして配付します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小西一雄『資本主義の成熟と転換－現代の信用と恐慌』桜井書店、3,700円、978-4905261-20-9、堀内健一『現代日本における銀行資本の蓄積』唯学書房、3,200円、978-4902225-99-0、丸山惠也他編著『経済成長の幻想―新しい経済社会に向けて―』創成社、4,200円、978-4-7944-3166-0、大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、3,000円、921190-08-9、その他講義中に指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	書画装置によってスクリーンに配付プリントを投影しながら説明を行ったが、プリントに書き込む文字についてもっと見やすくなるよう改善を図りたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	090101 / ミクロ経済学		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	4		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	荒木　勝啓（アラキ　ヨシヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	ミクロ経済学は経済学全体の基礎を成す理論で、「限界革命」と呼ばれる経済学史上の革新 以来、約100年以上かけて体系化された学問分野である。その理解には必然的に数学の土台 が不可欠であるが、この講義では必要な数学も基礎から教える。
到達目標(ねらい)	到達目標(ねらい) 各種国家等試験、たとえば国家・地方公務員試験、公認会計士、不動産鑑定士、証券アナリ スト、ファイナンシャル・プランナー試験などに対応可能なように、適宜練習問題を交える ようにする。 さらに応用ミクロではローン計算、回帰分析、最適ヘッジなど実務に必要なテーマまで進む ので、その基礎固めという意味でこの講義を履修するとよい。
授業スケジュール	授業スケジュール 以下の内容を30回に分けて講義する。 ・古典派経済学の概要・水とダイアモンドのパラドックス--使用価値と交換価値の矛盾 ・限界革命 ・Mengerの限界効用表 ・資源制約下の最適問題とは ・月は地球に落ちてくる!--微分係数の概念 ・微分係数の計算と公式 ・全微分と偏微分係数 ・まとめて支払いたい、さあどうする--ベクトルと内積・直交条件 ・制約付き最適化のグラフィックな理解 ・ラグランジュ乗数法その1 ・ラグランジュ乗数法その2--計算練習 ・所得効果と代替効果--需要曲線の導出 ・需要曲線の応用--貿易理論の基礎 ・需要の価格弾力性とその応用--マーシャル・ラーナー条件 ・生産関数--特にコブ・ダグラス生産関数を巡って ・費用最小化問題およびその双対としての生産量最大化問題 ・費用曲線の概念--総費用、平均費用、限界費用および短期・長期の違い ・生産関数から費用曲線の導出 ・完全競争下での利潤最大化問題 ・市場均衡--部分均衡と一般均衡 ・ニュメレールとワルラス法則 ・均衡の安定性--蜘蛛の巣理論 ・独占均衡 ・消費者余剰と生産者余剰および社会的総余剰 ・パレート最適 ・外部効果 ・寡占その1--クールノー均衡 ・寡占その2--シュタッケルベルク均衡 ・独占的競争
準備学習	特になし
履修上の留意点等	履修上の留意点等 全体が積み重ねとして体系化されているので、休むと以降の展開が分からなくなる恐れがあ る。なるべく授業を休まないように。

成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	随時指示する
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時指示する
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	古典派経済学の部分を縮小し、例題演習を多くする。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090201 / ミクロ経済学		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	4		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	松井　柳平（マツイ　リユウヘイ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	【概要】事実判断と価値判断とを混濁する人は、ミクロ経済学の学習の最初の方の段階で躓いてしまいかねません。これはもったいないことです。個々の主体が合理的に行動していても社会全体として不合理が起こり得る。そうした研究が、ミクロ経済学の延長としてこれまでたくさんなされて来ました。まずはミクロ経済学を通じて、経済に内在する論理を学ぶことは、より複雑な現実経済を理解し分析する上で有益なことです。ミクロ経済学は選択の科学ですが、この授業では市場経済という制度がもたらすインセンティブに着目します。諸個人のインセンティブの問題を考慮しないならば、いくらすばらしい理想や理念を唱えても、まったく正反対の監獄のような社会が実現してしまうかもしれません。インセンティブについての理解がなければ、ソ連がなぜ崩壊したのか、北朝鮮の経済はなぜ破綻したのか、その原因についてよく理解しているとは言えません。この授業では、経済分析の参照点としてのミクロ経済学の基礎を学びます。【形態】講義形式。【注意】アクティブ・ラーニングの前提として、授業中に失敗や恥をかくことを極度に恐れていては何も学ぶことはできない。むしろそこから自分が理解していないということを理解し、学び進歩することが重要である。
到達目標(ねらい)	消費者や企業などの個別経済主体が自発的かつ合理的に行動しているとき、どのような社会・経済状態が実現するか理論的に分析する方法を学ぶ。その際、その帰結の理解よりもむしろ、その帰結に至る論理展開、つまり分析方法の理解に重点を置く。ミクロ経済学の理論を基に、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察する能力と習慣を養う。本科目は、経済学部の学位授与の方針DP3 と特に関連が強く、DP5にも関連する。
授業スケジュール	授業は各日2時限連続で実施し、以下の内容を30回の授業で取り扱う。 第1回 ガイダンス（１）：数学計算の復習 第2回 ガイダンス（２）：なぜ学ぶか 第3回 まちのパン屋（１）：価格・販売量・純利益 第4回 まちのパン屋（２）：競争相手がいる場合の最適化 第5回 まちのパン屋（３）：囚人のジレンマ 第6回 戦略と均衡（１）：戦略形表現と最適反応 第7回 戦略と均衡（２）：ナッシュ均衡 第8回 戦略と均衡（３）：ナッシュ均衡の練習問題 第9回 戦略と均衡（４）：ナッシュ均衡の演習 第10回 戦略と均衡（５），展開型ゲーム（１）：展開型表現 第11回 展開型ゲーム（２）：サブゲーム 第12回 展開型ゲーム（３）：バックワードインダクション 第13回 展開型ゲーム（４）：展開型ゲームの練習問題 第14回 展開型ゲーム（５）：展開型ゲームの演習 第15回 展開型ゲーム（６），消費者理論の考え方（１）：稀少性と予算制約 第16回 消費者理論の考え方（２）：制約条件と効用最大化問題の概要 第17回 消費者理論の考え方（３）：制約条件と効用最大化問題の例解 第18回 消費者理論の考え方（４）：制約条件と効用最大化問題の練習問題 第19回 消費者理論の考え方（５）：制約条件と効用最大化問題の演習 第20回 金融市場と一般均衡（１）：一般均衡分析と部分均衡分析の概要 第21回 金融市場と一般均衡（２）：異時点間の予算制約と時間選好 第22回 金融市場と一般均衡（３）：企業の利潤最大化行動 第23回 金融市場と一般均衡（４）：多変数関数と偏微分 第24回 金融市場と一般均衡（５）：ラグランジュ未定乗数法 第25回 金融市場と一般均衡（６），制約条件下の最適化問題（１） 第26回 制約条件下の最適化問題（２）：ラグランジュ未定乗数法による例題 第27回 制約条件下の最適化問題（３）：ラグランジュ未定乗数法による練習問題 第28回 制約条件下の最適化問題（４）：ラグランジュ未定乗数法による演習 第29回 まとめ（１）［課題授業］：今年度の課題による。 第30回 まとめ（２）［課題授業］：今年度の課題による。
準備学習	講義プリントを、YeStudyから事前にプリントアウトして、教科書・講義プリントを実際によく読んで考え、必ず予習してきた上で、講義に臨むこと。講義の前提として、中学時代の数学の計算問題等について、理解と計算能力を完全にしておくこと。
履修上の留意点等	上記の準備学習は、事前学習として毎回の授業の前提となるので、毎回の授業に先立って必ず自宅または図書館などで取り組んでおくこと。

	この授業では、小学校・中学校での算数・数学について、とくに計算方法の理解がきちんとできていることが前提となる。 授業を欠席しても困らないように、授業で友人をつくっておくこと。そして友人同士で教え合いながら理解を深めること。 この授業は公務員試験・各種資格試験に関係します。
成績評価の方法	85 % 試験 15 % レポート 小テスト 平常点
教科書/テキスト	梶井・松井『ミクロ経済学―戦略的アプローチ』（日本評論社）ISBN: 978-4535552029 及び、YeStudyのこの授業のページにあるプリント。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014/9/25），ISBN-10: 453555756X. 奥野正寛，ほか『ミクロ経済学』東京大学出版会，2008.（ISBN:9784130421270). 奥野正寛，ほか『ミクロ経済学演習 第2版』東京大学出版会，2018.（ISBN:978-4130421508). 岡田 章，ほか『ゲーム理論ワークブック』有斐閣，2015.（ISBN:9784641164635). 遠山智久『弱点克服 大学生のミクロ経済学』東京図書（2008/10），ISBN-10: 4489020422. 三土修平『初歩からのミクロ経済学―市場経済の論理と倫理［第2版］』日本評論社，ISBN-10: 4535551979. 岩田 規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書）筑摩書房，ISBN: 978-4480056023. ジョセフ・ヒース（栗原百代(訳)）『資本主義が嫌いな人のための経済学』エヌティティ出版，ISBN-10: 4757122810.
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	事前学習が不十分な学生が多い。予習の状況をモニターできるような工夫を考えたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090301 / マクロ経済学		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	4		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	井上　智洋（イノウエ　トモヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この講義ではマクロ経済学の基礎を学び、日本経済や世界経済が抱える様々な問題について理解を深めていく。授業は２限目に教科書に沿って基礎を学び、３限目に問題演習を行う予定である（ただし、授業の進捗に応じて演習時間は適宜調整する）。	
到達目標(ねらい)	マクロ経済学の基礎を学ぶことにより、新聞や雑誌、インターネットで取り上げられる経済問題について理解し、自分で考えることができるようになる。また、社会人になっても役立つ知識が身に付く。	
授業スケジュール	第 1 回	マクロ経済学とは？：ガイダンス、マクロ経済学とは何か（マクロ経済学の対象・構造・学派の違い等）
	第 2 回	GDP（１）：付加価値、中間投入財、国内総生産（GDP）、GDI、GDE、三面等価の原則
	第 3 回	GDP（２）：NDP、NI、実質GDPと名目GDP、GDPデフレータ、消費者物価指数、インフレ率
	第 4 回	財市場の理論（１）：総需要と総供給、ケインズ型消費関数、45度線分析
	第 5 回	財市場の理論（２）：45度線分析（復習）、乗数効果、政府支出乗数、租税乗数
	第 6 回	財市場の理論（３）：投資、IS曲線の導出、IS曲線のシフト
	第 7 回	貨幣市場の理論（１）：貨幣の定義、日銀、銀行の機能と信用創造
	第 8 回	貨幣市場の理論（２）：債権と債券利回り、流動性選好説と貨幣需要、LM曲線
	第 9 回	IS-LM分析（１）：IS-LM分析と均衡
	第 10 回	IS-LM分析（２）：財政政策・金融政策の効果、流動性の罠
	第 11 回	AD-AS分析（１）：AD曲線の導出、AS曲線の導出
	第 12 回	AD-AS分析（２）：AD-AS分析、財政政策・金融政策の効果
	第 13 回	発展的な話題（１）：近年の日本経済を巡る状況
	第 14 回	発展的な話題（２）：近年の世界経済を巡る状況
	第 15 回	授業の復習とまとめ
準備学習	事前に教科書をよく読んでおくこと。	
履修上の留意点等	講義は一年生から履修可能であり、特に予備知識は必要としない。必要な数学は講義の中で解説する。履修者の理解度等によっては講義の進捗及び内容を調整する可能性がある。なお、この授業は公務員試験・各種資格試験に関係します。	
成績評価の方法	70 %	試験
		レポート
	30 %	小テスト
		平常点

教科書/テキスト	中村勝克、(2015)、『基本講義 マクロ経済学（ライブラリ経済学基本講義２)』、新世社、ISBN-13: 978-4883842230
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適宜指定する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート実施後に必要があれば授業でフィードバックします。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090401 / マクロ経済学		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	4		
付記			
主担当教員氏名(カナ)	山本　崇広（ヤマモト　タカヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この講義ではマクロ経済学の基礎を学び、日本経済や世界経済が抱える様々な問題について 理解を深めていく。授業は２限目に教科書に沿って基礎を学び、３限目に問題演習を行う予 定である（ただし、授業の進捗に応じて演習時間は適宜調整する）。	
到達目標(ねらい)	マクロ経済学の基礎を学ぶことにより、新聞や雑誌、インターネットで取り上げられる経済 問題について理解し、自分で考えることができるようになる。また、社会人になっても役立 つ知識が身に付く。	
授業スケジュール	第 1 回	マクロ経済学とは？：ガイダンス、マクロ経済学とは何か（マクロ経済学の対象・構造・学派の違い等）
	第 2 回	GDP（１）：付加価値、中間投入財、国内総生産（GDP）、GDI、GDE、三面等価の原則
	第 3 回	GDP（２）：NDP、NI、実質GDPと名目GDP、GDPデフレータ、消費者物価指数、インフレ率
	第 4 回	財市場の理論（１）：総需要と総供給、ケインズ型消費関数、45度線分析
	第 5 回	財市場の理論（２）：45度線分析（復習）、乗数効果、政府支出乗数、租税乗数
	第 6 回	財市場の理論（３）：投資、IS曲線の導出、IS曲線のシフト
	第 7 回	貨幣市場の理論（１）：貨幣の定義、日銀、銀行の機能と信用創造
	第 8 回	貨幣市場の理論（２）：債権と債券利回り、流動性選好説と貨幣需要、LM曲線
	第 9 回	IS-LM分析（１）：IS-LM分析と均衡
	第 10 回	IS-LM分析（２）：財政政策・金融政策の効果、流動性の罠
	第 11 回	AD-AS分析（１）：AD曲線の導出、AS曲線の導出
	第 12 回	AD-AS分析（２）：AD-AS分析、財政政策・金融政策の効果
	第 13 回	発展的な話題（１）：近年の日本経済を巡る状況
	第 14 回	発展的な話題（２）：近年の世界経済を巡る状況
	第 15 回	授業の復習とまとめ
準備学習	事前に教科書をよく読んでおくこと。	
履修上の留意点等	講義は一年生から履修可能であり、特に予備知識は必要としない。必要な数学は講義の中で 解説する。履修者の理解度等によっては講義の進捗及び内容を調整する可能性がある。な お、この授業は公務員試験・各種資格試験に関係する。	
成績評価の方法	70 %	試験
		レポート
	30 %	小テスト
		平常点

教科書/テキスト	中村勝克、(2015)、『基本講義 マクロ経済学（ライブラリ経済学基本講義２)』、新世社、 ISBN-13: 978-4883842230	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適宜指定する。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート実施後に必要があれば授業でフィードバックする。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	090501 / 経済学史ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	宮田　惟史（ミヤタ　コレフミ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では、資本主義経済の生成とともに発展してきた経済学の歴史を、古典派経済学、マルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学等の代表的な学説を中心に、体系的に理解することを目的とする。また、資本主義経済を分析した各々の経済学説の理解を通じ、現代の資本主義社会とはどのような社会システムであるのかを把握するための、基礎学力を育成することを目指す。また本講義では、アクティブラーニングの一環として、反転学習を重視している。 「経済学史a」では、主に、経済学の成立過程から古典派経済学、新古典派経済学を対象にする。なお、講義は毎回講義ノートを配布し、それに基づき進める。	
到達目標(ねらい)	資本主義経済の発生とともに確立し発展してきた経済学の歴史を、主要な学派とそれぞれの代表的な学説を中心に、体系的に理解する。 なお経済学部の教育課程の編成方針(ディプロマポリシー)において、コース制を重視しているが、本講義は経済学科の経済学コースの基幹科 目である	
授業スケジュール	第 1 回	経済学史の課題と対象
	第 2 回	重商主義（1）重商主義の背景、保護主義と自由貿易論
	第 3 回	重商主義（2）ジェームズ・スチュアートの経済学
	第 4 回	重農学派（1）重農学派とその背景／自然法の思想
	第 5 回	重農学派（2）ケネーの経済学と『経済表』
	第 6 回	アダム・スミスの経済学（1）古典派経済学の成立と時代背景／『道徳感情論』
	第 7 回	アダム・スミスの経済学（2）『国富論』の体系（a）
	第 8 回	アダム・スミスの経済学（3）『国富論』の体系（b）
	第 9 回	リカードの経済学（1）リカード経済学の形成／地金論争と穀物法論争
	第 10 回	リカードの経済学（2）『経済学および課税の原理』
	第 11 回	古典派経済学の展開と動揺：マルサスの『人口論』・J.S. ミルの経済学
	第 12 回	古典派経済学の分裂：セーとシスモンディ
	第 13 回	新古典派経済学（1）新古典派経済学の形成背景とその特徴
	第 14 回	新古典派経済学（2）オーストリア学派：メンガーと限界効用理論
	第 15 回	新古典派経済学（3）ローザンヌ学派：ワルラスと一般均衡理論
準備学習	講義での配布資料や紹介した参考文献を用いて、講義内容の理解を補完すること。	
履修上の留意点等	出席は必須である。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

	基本的には試験で評価するが、レポート等を行う場合には事前に必ずアナウンスする。
教科書/テキスト	資料を毎回配布する。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	『経済学の歴史――市場経済を読み解く』（中村達也、新村聡、他著、有斐閣、2001年 ISBN:4641121389）。その他は、授業内に適宜指示する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年の学生による授業アンケート結果を生かし、さらに質の高い講義を試みたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090551 / 経済学史ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	宮田　惟史（ミヤタ　コレフミ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では、資本主義経済の生成とともに発展してきた経済学の歴史を、古典派経済学、マルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学等の代表的な経済学説を中心に、体系的に理解することを目的とする。また、資本主義経済を分析した経済学説の理解を通じ、現代の資本主義社会とはどのような社会システムであるのかを把握するための、基礎学力を育成することを目指す。本講義では、アクティブラーニングの一環として、反転学習を重視している。 「経済学史b」では、「経済学史a」の内容理解を前提にして、主に、マルクス経済学とケインズ経済学、そして現代に至る経済学説の潮流を対象にする。なお、毎回講義内に資料を配布し、講義はそれに基づき進める。	
到達目標(ねらい)	資本主義経済の生成とともに発展してきた経済学の歴史を、主要な学派とそれぞれの代表的な経済学説を中心に、体系的に理解する。 なお、経済学部の教育課程の編成方針(ディプロマポリシー)において、コース制を重視しているが、本講義は経済学科の経済学コースの基幹科目である。	
授業スケジュール	第 1 回	新古典派経済学（4）マーシャルの経済学 ※「経済学史a」の続き
	第 2 回	マルクス経済学（1）マルクス経済学の成立とその背景
	第 3 回	マルクス経済学（2）『資本論』の主要内容：商品および貨幣
	第 4 回	マルクス経済学（3）『資本論』の主要内容：剰余価値論
	第 5 回	マルクス経済学（4）『資本論』の主要内容：資本蓄積論
	第 6 回	歴史学派：歴史派経済学の背景と特質／リストの経済学
	第 7 回	制度学派（1）制度派経済学の背景と特質、組織と制度
	第 8 回	制度学派（2）ヴェブレンとコモンズの経済学
	第 9 回	ケインズ経済学（1）ケインズの時代背景／『一般理論』の形成
	第 10 回	ケインズ経済学（2）『一般理論』の体系と構造（a）
	第 11 回	ケインズ経済学（3）『一般理論』の体系と構造（b）
	第 12 回	ケインズ経済学（4）ケインズ理論の展開／新古典派経済学総合
	第 13 回	新古典派総合以後から現代の潮流（1）フリードマンの経済学とマネタリズム
	第 14 回	新古典派総合以後から現代の潮流（2）合理的期待形成論／ゲーム理論
	第 15 回	おわりに：経済学史と現代
準備学習	講義での配布資料や紹介した参考文献を用いて、講義内容の理解を補完すること。	
履修上の留意点等	「経済学史 b」の講義は、「経済学史 a」の内容理解を前提にして行う。なお、出席は必須である。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

	基本的に学期末試験で評価するが、レポート等を行う場合には事前に必ずアナウンスする。
教科書/テキスト	授業用の資料を毎回配布する。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	『経済学の歴史――市場経済を読み解く』（中村達也、新村聡、他著、有斐閣、2001年 ISBN:4641121389）。その他は、授業内に適宜指示する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の授業アンケート結果を生かし、さらに質の高い講義を試みたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090601 / 経済史ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	浅田　進史（アサダ　シンジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義はおもに近現代経済の歴史を、世界各地の事例を織り交ぜながら概観します。現在、アジアが世界経済を牽引する役割を担うようになっていますが、そのアジア経済も世界経済の枠組みのなかにあります。その世界経済が歴史的にいかに成立したかを理解することは重要でしょう。 前期では、近年の研究成果や論争・論点を紹介しながら、中世から第一次世界大戦以前までの世界経済の歴史を、具体的な事例を加えて論じていきます。 本講義は、ICT教育の一環としてYeStudyを活用しています。YeStudyを随時確認するようにしてください。	
到達目標(ねらい)	（1）近現代の経済史を世界大の視野から把握する思考力を養うことができる。 （2）具体的な歴史上の事例を通じて、経済史上の論争を学び、その要点を理解できる。 本科目は経済学科のディプロマポリシーDP5に関連する。	
授業スケジュール	第 1 回	経済史とは何か
	第 2 回	中世の世界経済
	第 3 回	近世論
	第 4 回	重商主義の経済史
	第 5 回	大西洋システム
	第 6 回	プロト工業化論
	第 7 回	産業革命を考える
	第 8 回	ヨーロッパの工業化――フランス
	第 9 回	ヨーロッパの工業化――ドイツ
	第 10 回	アメリカ大陸の工業化
	第 11 回	19世紀末の世界経済――「大不況」とその影響
	第 12 回	19世紀末の世界経済――植民地主義から考える
	第 13 回	アジアの工業化とアジア間貿易論
	第 14 回	第一次世界大戦以前の世界経済
	第 15 回	まとめ
準備学習	各回のトピックに関わる参考文献の該当個所を読んでおくこと。	
履修上の留意点等	本講義は経済学科1年次から履修できることを踏まえ、講義では毎回のテーマについて基本的な事項をおさえたうえで、応用的な内容を加えます。 YeStudyを利用します。 私語は厳禁です。守れない者は退出してもらいます。	
成績評価の方法		試験
	50 %	レポート
	25 %	小テスト
	25 %	平常点

	毎回の小課題の提出（25％）、小テスト形式の中間課題3回（25％）、期末レポート（最終日に授業内実施、50％）の提出を課します。
教科書/テキスト	特に指定しません。毎回プリントを配布します。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史――アジアから考える』ミネルヴァ書房 2016年 3200円+税 978-4623066810 石見徹『世界経済史――覇権国と経済体制』東洋経済新報社 1999年 3,240円 978-4492370889 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 2012年 3,024円 978-4771023406 岡田泰男編『西洋経済史』八千代出版 1995年 3,456円 978-4842909745 その他の参考書については、講義中に随時、指示します。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」において、おおむね全項目で平均程度の評価であった。「プリントが見やすい」、「質問にしっかり答えてくれる」という声が多かった一方で、声のボリュームや聞き取りやすさについて、個別回答では声が聞き取りにくい、滑舌が悪いという意見があった。改善したい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090651 / 経済史ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	浅田　進史（アサダ　シンジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義はおもに近現代経済の歴史を、世界各地の事例を織り交ぜながら概観します。現在、アジアが世界経済を牽引する役割を担うようになっていますが、そのアジア経済も世界経済の枠組みのなかにあります。その世界経済が歴史的にいかに成立したかを理解することは重要でしょう。 後期では、近年の研究成果や論争・論点を紹介しながら、第一次世界大戦から現代までの世界経済の歴史を、具体的な事例を加えて論じていきます。 本講義は、ICT教育の一環としてYeStudyを活用しています。YeStudyを随時確認するようにしてください。	
到達目標(ねらい)	(1) 近現代の経済史を世界大の視野から把握する思考力を養うことができる。 (2) 具体的な歴史上の事例を通じて、経済史上の論争を学び、その要点を理解できる。 本科目は経済学科のディプロマポリシーDP5に関連する。	
授業スケジュール	第 1 回	導入――第一次大戦以後の世界経済
	第 2 回	戦債・賠償問題と金本位制の再建
	第 3 回	相対的安定期のアメリカ
	第 4 回	相対的安定期のヨーロッパ
	第 5 回	世界恐慌
	第 6 回	世界恐慌とアジア
	第 7 回	ニューディール
	第 8 回	ファシズムの経済政策
	第 9 回	第二次世界大戦
	第 10 回	中間まとめ
	第 11 回	パクス・アメリカーナ
	第 12 回	高度成長から低成長へ
	第 13 回	冷戦期の東アジア経済
	第 14 回	経済史からみた現代世界
	第 15 回	まとめ
準備学習	各回のトピックに関わる参考書の該当個所を読んでおくこと。	
履修上の留意点等	本講義は経済学科1年次から履修できることを踏まえ、毎回の講義では、それぞれのテーマについて、基本的な事項をおさえたうえで、応用的な内容を加えます。 YeStudyを利用します。 私語は厳禁です。守れない者は退出してもらいます。	
成績評価の方法		試験
	50 %	レポート
	25 %	小テスト
	25 %	平常点

	毎回の小課題の提出（25％）、小テスト形式の中間課題3回（25％）、期末レポート（最終日に授業内実施、50％）の提出を課します。
教科書/テキスト	特に指定しません。毎回プリントを配布します。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史――アジアから考える』ミネルヴァ書房 2016年 3200円+税 978-4623066810 石見徹『世界経済史――覇権国と経済体制』東洋経済新報社 1999年 3,240円 978-4492370889 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 2012年 3,024円 978-4771023406 岡田泰男編『西洋経済史』八千代出版 1995年 3,456円 978-4842909745 その他の参考書については、講義中に随時、指示します。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」では、おおむね平均より高めの評価であった。「スライドとレジュメがわかりやすい」、「毎回質問に答えてくれる」という声があった一方で、声の聞きづらさを指摘された。改善したい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090701 / 経済政策ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	井上　智洋（イノウエ　トモヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	経済政策に関連した様々なトピックを扱う。行動経済学、政治思想、経済史、未来学といった多様な視点から経済政策を論じる。数学は基本的に使わない。	
到達目標(ねらい)	具体的な経済問題に対し、自分なりに考え判断し主張する力を身につける。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション
	第 2 回	政府は何をなすべきか（功利主義・パターナリズム・リバタリアニズム）
	第 3 回	ダイエットはなぜ失敗するのか（行動経済学）
	第 4 回	経済成長は幸福をもたらすか（幸福のパラドックス）
	第 5 回	社会主義経済はなぜ崩壊したのか（経済計算論争）
	第 6 回	どうして世界は豊かな国と貧しい国に分かれたのか（マルサスの罠・大分岐論争）
	第 7 回	産業革命とイノベーション（汎用目的技術）
	第 8 回	経済はいかにして成長するか（経済成長理論）
	第 9 回	人工知能やロボットは雇用を奪うか？（技術的失業）
	第 10 回	生活保護 VS ベーシックインカム（社会保障制度・再分配政策）
	第 11 回	リーマンショックはなぜ起きたのか（金融市場の規制）
	第 12 回	平成不況とアベノミクス（ケインズ政策）（１）
	第 13 回	平成不況とアベノミクス（ケインズ政策）（２）
	第 14 回	これからの日本経済
	第 15 回	まとめ
準備学習	各自、飯田泰之(2010)『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店、を読んでおいてください。	
履修上の留意点等	数学は基本的に使いません。数理的なマクロ経済政策に興味のある人は「マクロ経済学」を、数理的なミクロ経済政策に興味のある人は「経済政策b」を履修してください。 授業中に何度か課題を提出してもらう予定で、それらの結果は平常点に含めます。定期試験を主な評価対象とします。	
成績評価の方法	70 %	試験
		レポート
		小テスト
	30 %	平常点
教科書/テキスト	独自資料を配布する。	
参考書	飯田泰之(2010)『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店　ISBN-13: 978-4047102576	

▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート実施後に必要があれば授業でフィードバックします。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090751 / 経済政策ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	井上　智洋（イノウエ　トモヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	基本的なミクロ経済学の知識に基づき、「電力事業」「資格試験」などの事例を題材にして、何が妥当な経済政策であるかを考える。教科書的な理論を習得するとともに、その理論をツールとして使いこなせるようになって欲しい。つまり、具体的な事例に対し自分なりに考え判断し主張する力を身につけてもらいたい。 この科目は数学をかなり使います。	
到達目標(ねらい)	ミクロ経済政策に関する教科書的な理論を習得する。具体的な経済問題に対し、理論に基づきつつも、自分なりに考え判断し主張する力を身につける。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション
	第 2 回	企業と供給（１）
	第 3 回	企業と供給（２）
	第 4 回	企業と供給（３）
	第 5 回	家計と需要（１）
	第 6 回	家計と需要（２）
	第 7 回	家計と需要（３）
	第 8 回	完全競争市場（１）
	第 9 回	完全競争市場（２）
	第 10 回	不完全競争市場
	第 11 回	電力事業はなぜ自由化されるのか（市場の失敗・自然独占）（１）
	第 12 回	電力事業はなぜ自由化されるのか（市場の失敗・自然独占）（２）
	第 13 回	資格試験はなぜあるのか（市場の失敗・情報の非対称性）（１）
	第 14 回	資格試験はなぜあるのか（市場の失敗・情報の非対称性）（２）
	第 15 回	まとめ
準備学習	各自、飯田泰之(2010)『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店、を読んでおいてください。	
履修上の留意点等	数学を使って計算問題を解くことが多いので、ご注意ください。基本的な微分の知識を前提としています。 授業中に何度か計算課題を提出してもらう予定で、それらの結果は平常点に含めます。主な評価対象は期末試験です。 積み重ねが必要な内容なので、ほぼ毎回出席することが求められます。それができないという人は履修しないようお願いします。 なお、この授業は公務員試験・各種資格試験に関係します。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
		小テスト
	30 ％	平常点

教科書/テキスト	独自資料を配布する。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	飯田泰之(2010)『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店　ISBN-13: 978-4047102576	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート実施後に必要があれば授業でフィードバックします。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	090801 / 財政学ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	江口　允崇（エグチ　マサタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、財政学の理論と、現実の日本の財政制度についてバランスよく学習します。まず、経済になぜ政府が必要なのか、どのような場合に政府が介入することで市場に任せるよりも良い結果を得られるのかを学び、政府の基本的な役割について整理したうえで、前期は、財政政策、財政赤字、社会保障などのマクロ的な財政問題について講義します。後期は、独占の問題や公共財の供給、外部生などのミクロ的な財政問題について講義します。それに合わせて、実際の日本の国家予算の仕組みや、税制度、財政改革の歴史的経緯など、現実的な側面も学習します。 また、財政赤字問題、年金問題、生活保護や失業保険などの社会保障問題、消費税の増税といった我々にとって身近な現実の時事問題についても積極的に取り上げます。不景気と高齢化による社会保障費の増大を受けて、現在日本の一般政府の総債務残高は1000兆円（GDPの2倍）を超える水準に上り、消費税増税をはじめとした財政再建の取り組みがなされつつあります。しかし、不景気が続く中での増税は、さらなる景気後退を招く恐れもあり、反対の声も大きいようです。この景気と財政再建のせめぎあいの中、どのような財政運営を行なっていくか、我々国民一人一人が考えていかなければなりません。 この講義では、政府債務の本質は何か、財政赤字のメリットとデメリットは何か、財政破綻はどのような条件下で生じるのか、消費税増税はどのような影響を経済に与えるのか等も解説します。これらの学習を通じて、履修者が経済理論の視点から現実の問題について自分なりに考えられるようになるとともに、社会に出ていくうえで必要な教養を身につけることを目的とします。 授業は板書とスライドで進めていきます。スライドは毎回YeStudyにアップロードしますので、事前に学習をした上で、各自で持参して下さい。また、不定期にYeStudy上で小テストを行い、履修者の理解度をチェックしながら授業を進めていきます。
到達目標(ねらい)	履修者が経済理論の視点から現実の問題について自分なりに考えられるようになるとともに、社会に出ていくうえで必要な教養を身につけることを目的とします。
授業スケジュール	1. 財政学とは何か：経済学における財政学の位置付け、財政の現状と諸問題 2. 財政の範囲と規模：日本の政府部門の規模、予算制度 3. 政府の役割：市場の効率性と市場の失敗 4. 財政の３機能：資源配分機能、所得再分配機能、景気安定化機能 5. マクロ経済政策（１）：GDPの決定、ケインズ政策 6. マクロ経済政策（２）：財政政策の有効性 7. 日本における財政政策：戦後日本の財政運営、日本の社会資本整備 8. 財政赤字（１）：国債の本質、リカード＝バローの中立命題 9. 財政赤字（２）：財政の持続可能性、世代会計 10. 日本の財政赤字問題：財政破綻の可能性、財政再建のあり方 11. 社会保障（１）：効率性と公平性、リスクシェアリング 12. 社会保障（２）：年金制度、医療制度 13. 日本の所得再分配政策：日本の社会保障支出、国民負担率 14. 前期の総復習（１） 15. 前期の総復習（２）
準備学習	マクロ経済学及びミクロ経済学を履修していることが望ましい。
履修上の留意点等	

成績評価の方法	
	試験
	レポート
100 %	小テスト
	平常点

教科書/テキスト	使用しません。オリジナルのスライドを毎回アップロードします。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	財務省官房企画調査課長編『図説・日本の財政（各年度版）』東洋経済新報社.
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	板書が多いことに対して、じっくり理解できて良いという意見と、多すぎて疲れてしまうという意見で賛否両論であった。相対的には肯定的な意見の方が多かったので、やはり板書を中心として授業を行う予定であるが、今年度はテキストやスライドを積極的に活用することで板書量をやや軽減させるつもりである。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	090851 / 財政学ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	江口　允崇（エグチ　マサタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、財政学の理論と、現実の日本の財政制度についてバランスよく学習します。まず、経済になぜ政府が必要なのか、どのような場合に政府が介入することで市場に任せるよりも良い結果を得られるのかを学び、政府の基本的な役割について整理したうえで、前期は、財政政策、財政赤字、社会保障などのマクロ的な財政問題について講義します。後期は、独占の問題や公共財の供給、外部生などのミクロ的な財政問題について講義します。それに合わせて、実際の日本の国家予算の仕組みや、税制度、財政改革の歴史的経緯など、現実的な側面も学習します。 また、財政赤字問題、年金問題、生活保護や失業保険などの社会保障問題、消費税の増税といった我々にとって身近な現実の時事問題についても積極的に取り上げます。不景気と高齢化による社会保障費の増大を受けて、現在日本の一般政府の総債務残高は1000兆円（GDPの2倍）を超える水準に上り、消費税増税をはじめとした財政再建の取り組みがなされつつあります。しかし、不景気が続く中での増税は、さらなる景気後退を招く恐れもあり、反対の声も大きいようです。この景気と財政再建のせめぎあいの中、どのような財政運営を行なっていくか、我々国民一人一人が考えていかなければなりません。 この講義では、政府債務の本質は何か、財政赤字のメリットとデメリットは何か、財政破綻はどのような条件下で生じるのか、消費税増税はどのような影響を経済に与えるのか等も解説します。これらの学習を通じて、履修者が経済理論の視点から現実の問題について自分なりに考えられるようになるとともに、社会に出ていくうえで必要な教養を身につけることを目的とします。 授業は板書とスライドで進めていきます。スライドは毎回YeStudyにアップロードしますので、事前に学習をした上で、各自で持参して下さい。また、不定期にYeStudy上で小テストを行い、履修者の理解度をチェックしながら授業を進めていきます。
到達目標(ねらい)	履修者が経済理論の視点から現実の問題について自分なりに考えられるようになるとともに、社会に出ていくうえで必要な教養を身につけることを目的とします。
授業スケジュール	１．課税の効果（１）：代替効果、所得効果、超過負担 ２．課税の効果（２）：租税の負担と帰着、最適課税論 ３．日本の税体系： 課税の現状と問題点、税制改革 ４．経済規制（１）：外部生、自然独占 ５．経済規制（２）：規制と経済活動 ６．日本の経済規制：環境規制、規制改革 ７．公共財（１）：非競合性、非排除性、ただ乗り問題 ８．公共財（２）：サミュエルソンルール、リンダール均衡 ９．日本の公共財供給：ボランティア活動、公共財の費用便益分析 10. 政府行動と民主主義（１）：政党と投票、選挙と棄権 11. 政府行動と民主主義（２）：望ましい投票制度、政党と利益団体 12. 日本の選挙制度：選挙と政策決定、選挙制度改革 13. 地方分権（１）：政府間の役割分担、地方間再分配政策 14. 地方分権（２）：地方分権のあるべき姿、地方改革の現状と課題 15. 後期の総復習
準備学習	マクロ経済学及びミクロ経済学を履修していることが望ましい。
履修上の留意点等	数学的な議論が多くなるので注意すること。

成績評価の方法	
	試験
	レポート
100 %	小テスト
	平常点

教科書/テキスト	使用しません。オリジナルのスライドを毎回アップロードします。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	財務省官房企画調査課長編「図説・日本の財政（各年度版）」東洋経済新報社.
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	板書が多いことに対して、じっくり理解できて良いという意見と、多すぎて疲れてしまうという意見で賛否両論であった。相対的には肯定的な意見の方が多かったので、やはり板書を中心として授業を行う予定であるが、今年度はテキストやスライドを積極的に活用することで板書量をやや軽減させるつもりである。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	091101 / 日本経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小林　正人（コバヤシ　マサト）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	日本経済の戦後（第二次世界大戦後）の歴史について基本的な知識を講義するとともに、経済発展と産業発展を構造的に考えるための力をやしなう。前期（日本経済論a）では、高度経済成長期の日本経済について、後期（日本経済論b）では1980年代以降の日本経済について講義する。 日本は、1955年から1970年までの高度経済成長によって「経済大国」になり、現代の日本経済の基盤になる経済力をつくりあげた。日本の高度経済成長の歴史、それを可能にした要因、さらにそれを終わらせた要因について、具体的に、また分かりやすく、講義する。	
到達目標(ねらい)	戦後（第二次世界大戦後）から高度経済成長期の日本経済の歴史について基本的な知識を講義する。 本科目は、経済学部の学位授与の方針DP3、DP5と特に関連が強い。	
授業スケジュール	第 1 回	1年間の講義の概要と予定
	第 2 回	戦後日本経済史の概要（1）
	第 3 回	戦後日本経済史の概要（2）
	第 4 回	日本経済の近況（1）経済成長率とGDP/GNP
	第 5 回	日本経済の近況（2）失業率、企業収益、国民の暮らし
	第 6 回	映像からみた日本の経済成長
	第 7 回	日本の高度経済成長の統計的概観
	第 8 回	日本の高度経済成長の国内要因（1）設備投資
	第 9 回	日本の高度経済成長の国内要因（2）産業構造
	第 10 回	日本の高度経済成長の国内要因（3）産業政策、労使関係
	第 11 回	日本の高度経済成長の海外要因（1）IMF-GATT体制と固定相場制
	第 12 回	日本の高度経済成長の海外要因（2）天然資源の安価で豊富な輸入
	第 13 回	日本の高度経済成長の海外要因（3）欧米からの技術導入
	第 14 回	日本の高度経済成長の海外要因と国内要因との相互関係
	第 15 回	前期のまとめ
準備学習	世界史と日本史の基礎知識が重要。　下記の「履修上の留意点」と「参考書」を参照。	
履修上の留意点等	講義資料をほぼ毎回、配ります。一度しか配らないので確実に集めて保管し、授業に持参して、定期試験にそなえてほしい。教場の前面のスクリーンに講義資料を見せながら話をするので、見やすい位置の席についてほしい。プレゼンテーション中心の講義になるから、板書は少ない。 ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト（下記の「関連リンク」を見て） の 「講義 ＞ 日本経済論」のサイトにも載せている。 日本経済論a（前期）を受講しないと、日本経済論b（後期）は理解できない。 講義についてのどんな質問を歓迎します。そのときは、関連する講義資料を持ってきてもらいたい。	
成績評価の方法	50 %	試験
		レポート
	50 %	小テスト
		平常点

	小テストとは、授業の節目に提示する設問に従って数回提出する「小論文」のこと。	
教科書/テキスト	なし	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適時紹介する。なお、経済学の概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典を一つは常備してもらいたい（有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している）。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度は、授業のすすめ方が適切（87％）、教員の授業への熱意（93％）、授業内容がよく理解できた（66％）などだった。　具体的には、「現代社会に絡めて話してくれることもあり自分とつなげて考えられる」、「グラフを多く用いているためイメージがしやすい」、「グラフが多いので、視覚的に経済を学べる点。高度経済成長をより細やかに学習できる」、「レジュメがとても分かりやすく、資料も多くのものが載っているので分かりやすい」、「経済の歴史、現状について詳しく話してくださるのでとても楽しい」などの評価を得たが、さらに改善する。	
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/ の「講義 ＞ 日本経済論」のサイト。Google から、“駒澤大学 小林正人” で検索できる。	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	091151 / 日本経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小林　正人（コバヤシ　マサト）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	日本経済の戦後（第二次世界大戦後）の歴史について基本的な知識を講義するとともに、経済発展と産業発展を構造的に考えるための力をやしなう。 前期（日本経済論a）では高度成長期の日本について講義したので、後期（日本経済論b）では1980年代以降の日本経済について講義する。 講義の柱は、日本の産業のイノベーションと、バブル経済の形成と崩壊である。経済構造や産業構造の変化をできるだけリアルにつかめるように、産業や企業の実態にも分け入り、技術発展とか企業間競争の現実について講義する。	
到達目標(ねらい)	1980年代以降の日本経済の歴史について基本的な知識を講義する。 本科目は、経済学部の学位授与の方針DP3、DP5と特に関連が強い。	
授業スケジュール	第 1 回	講義の概要と予定
	第 2 回	産業構造の変化と経済発展
	第 3 回	二つのイノベーション：製品革新と工程革新
	第 4 回	プラザ合意の衝撃
	第 5 回	日本の自動車産業と生産システムのイノベーション
	第 6 回	日本型イノベーションとしてのトヨタ生産方式（1）概要と「かんばん方式」
	第 7 回	日本型イノベーションとしてのトヨタ生産方式（2）少人化と省人化
	第 8 回	日本型イノベーションとしてのトヨタ生産方式（3）多能工と日米比較
	第 9 回	バブルの歴史：1929年大恐慌（1）株式バブルと非自発的失業
	第 10 回	バブルの歴史：1929年大恐慌（2）株式投機、銀行取り付け、実体経済の縮小
	第 11 回	日本のバブル経済（1）　1986-1991年　バブル経済の展開と銀行信用の膨張
	第 12 回	日本のバブル経済（2）　1991-2002年　バブルの崩壊と金融危機
	第 13 回	景気循環の理論：実体経済の拡大と縮小、信用膨張と信用収縮
	第 14 回	景気循環の理論：実体経済と金融部門との相乗作用
	第 15 回	後期のまとめ
準備学習	世界史と日本史の基礎知識が重要。　下記の「履修上の留意点」と「参考書」を参照。	
履修上の留意点等	講義資料をほぼ毎回、配ります。一度しか配らないので確実に集めて保管し、授業に持参して、定期試験にそなえてほしい。教場の前面のスクリーンに講義資料を見せながら話をするので、見やすい位置の席についてほしい。プレゼンテーション中心の講義になるから、板書は少ない。 ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト（下記の「関連リンク」を見て）の 「講義 ＞ 日本経済論」のサイトにも載せている。 日本経済論a（前期）を受講しないと、日本経済論b（後期）は理解できない。 講義についてのどんな質問を歓迎します。そのときは、関連する講義資料を持ってきてもらいたい。	
成績評価の方法	50 ％	試験
		レポート
	50 ％	小テスト
		平常点

	小テストとは、授業の節目に提示する設問に従って数回提出する「小論文」のこと。	
教科書/テキスト	なし	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適時紹介する。なお、経済学の概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典を一つは常備してもらいたい（有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している）。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度は、授業の進み方は適切（90％）、教員の授業への熱意（94％）、授業内容がよく理解できた（79％）などだった。具体的には、「プリントが分かりやすく、予習・復習もしやすい」、「スクリーンを使っての授業なので、話を聞くことに集中できる」、「プリントだけだと理解しにくいところもあるが、話を聴きながらだと理解ができ、わからない所が無くなる達成感を味わえる」、「データから読み取れる背景の理解を徹底し、必要があれば画像や映像資料も参照にしながら、視覚的にも理解しやすくなるような授業作りに努めている」などの評価を得たが、小テストの形式については必ず改善する。	
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/ の「講義 ＞ 日本経済論」のサイト。Google から、“駒澤大学 小林正人” で検索できる。	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	091201 / 国際経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	福島　浩治（フクシマ　コウジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバル経済と呼ばれる現代世界は、一体どのような政治経済的特質を内在させた時代なのか。世界経済と国際経済ならびにグローバル経済の共通性と異質性はなにか。リーマンショックに象徴される世界金融恐慌、所得や地域間格差の広がり、食糧とエネルギー問題、気候変動や大気・水質汚染など環境と公害問題、地球人口増加の影で進む少子高齢化、国際労働移動とジェンダー、多国籍企業の展開による土地収奪など、国境を越えたグローバルな課題群はすべて現代国際経済の動向展開に通底している。 本講義では、開放経済としての国際マクロ経済学の基礎的理解を射程に、国際貿易、国際金融、国際通貨などの経済理論と政策の史的展開を理解し、これらの底流にある国際的な政治経済メカニズムに接近し、現代国際経済のダイナミズムを歴史的にどう位置づけ把握するべきかを検討する。既存理論や政策を刷新していくような政治経済上の構想を探究したい。	
到達目標(ねらい)	①現代国際経済を舞台とする貿易、投資、通貨、金融などの経済理論、経済政策をめぐる基礎的 理解ができ、他者に説明ができる。 ②現代国際経済の史的ダイナミズムを、政治、社会、環境、人間などとの相互的な影響関係のなか で立体的または構造的に捉えることができる。 ③現代国際経済の課題群の克服にむけて、政策上の代替案を、持続可能性、公共性、再配分、共 生などの鍵概念を用いて、グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルな重層的視点から構 想できる。	
授業スケジュール	第 1 回	授業ガイダンス
	第 2 回	グローバリゼーションとはなにか：現代世界経済の射程
	第 3 回	多国籍企業と直接投資①：グローバリゼーションと巨大企業群
	第 4 回	多国籍企業と直接投資②：多国籍企業の理論パラダイム
	第 5 回	金融グローバリゼーション①：外国為替市場と国際金融市場
	第 6 回	金融グローバリゼーション②：国際資本移動と国際金融危機
	第 7 回	国際収支統計とグローバルインバランス①：国際収支統計の基本構造
	第 8 回	国際収支統計とグローバルインバランス②：国際不均衡問題
	第 9 回	国際貿易①：自由貿易と保護貿易
	第 10 回	国際貿易②：グローバリゼーションと交易条件
	第 11 回	戦後国際経済体制の再編①：パクス・アメリカーナの動揺
	第 12 回	戦後国際経済体制の再編②：経済摩擦から構造調整へ
	第 13 回	「世界経済の政治的トリレンマ」から考えるポスト・グローバリゼーション①
	第 14 回	「世界経済の政治的トリレンマ」から考えるポスト・グローバリゼーション②
	第 15 回	前期試験
準備学習	（１）指定参考書、授業内で紹介する文献などは、大学図書館を最大限活用し意欲的に読み込むこ と。 （２）紙媒体、電子媒体を通して内外のニュース報道に意識的に日々触れること。 （３）ドキュメンタリー映画など現代世界を活写した優れた映像作品に触れる機会をつくること。 （４）国連専門機関、ＮＧＯ（非政府組織）、ＮＰＯ（非営利組織）など、国際機関や	

	市民社会組織が発 　信する国際社会の多様な課題群にかんする豊富な情報源にアクセスを試みること。
履修上の留意点等	（１）本講義は、教育の質的向上を図る一環として、受講予約の対象科目となっています。登録者が 　定員超過となった場合、授業開始前に抽選を行います。 （２）授業の質的向上には、教室の物理的な環境設定や、担当教員の創意工夫など外的条件にくわ 　えて、履修者の皆さんの「準備」による内的条件を整えることで相乗効果が高まります。本シラバ 　ス「準備学習」を参考に日々の学習に取り組んでください。
成績評価の方法	100 ％　試験 レポート 小テスト 平常点 （注）出席は取らない。ただし授業内で不定期に求めるリアクションペーパーの内容がきわめて優れ ている場合、加算点として評価する場合がある。
教科書/テキスト	教科書は指定しない。ただし指定参考書および授業内で紹介する文献等は、準備学習と復習に活用し授業の理解向上に努めること。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	レオ・パニッチほか『グローバル資本主義の形成と現在』作品社、2018年 西川潤『2030年 未来の選択』日本経済新聞出版社、2018年 ブランコ・ミラノヴィッチ『大不平等』みすず書房、2017年 ノーム・チョムスキー『アメリカンドリームの終わり』Discover、2017年 ジョセフ・E・スティグリッツ『これから始まる新しい世界経済の教科書』徳間書店、2016年 アンソニー・ギデンズ『揺れる大欧州：未来への変革の時』岩波書店、2015年 P.R.クルーグマン『国際経済学：理論と政策（上）（下）』丸善出版、2014年 西川潤『新・世界経済入門』岩波新書、2014年 中山智香子『経済ジェノサイド：フリードマンと世界経済の半世紀』平凡社、2013年 水野和夫『世界経済の大潮流』太田出版、2012年 栃木雅彦ほか編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社、2010年 デヴィッド・ハーヴェイ『新自由主義：その歴史的展開と現在』作品社、2007年 増田正人ほか編『国際経済政策論』有斐閣ブックス、2005年
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	（１）難解な専門用語の一時的記憶ではなく、学生みずからが国際経済の現状と未来について考え 　られるスタイルの授業となるように努める。 （２）適宜リアクションペーパー等を通じて授業内容の理解度をチェックし、また優れたコメントを次回 　講義で紹介するなど、教員と学生が双方向の関係性を保てるように努める。 （３）文字ベースの文献資料だけではなく、映像資料等を利用しながら国際経済へのイメージが広が 　り理解が深まるように努める。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	091251 / 国際経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	福島　浩治（フクシマ　コウジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバル経済と呼ばれる現代世界は、一体どのような政治経済的特質を内在させた時代なのか。世界経済と国際経済ならびにグローバル経済の共通性と異質性はなにか。リーマンショックに象徴される世界金融恐慌、所得や地域間格差の広がり、食糧とエネルギー問題、気候変動や大気・水質汚染など環境と公害問題、地球人口増加の影で進む少子高齢化、国際労働移動とジェンダー、多国籍企業の展開による土地収奪など、国境を越えたグローバルな課題群はすべて現代国際経済の動向展開に通底している。 本講義では、開放経済としての国際マクロ経済学の基礎的理解を射程に、国際貿易、国際金融、国際通貨などの経済理論と政策の史的展開を理解し、これらの底流にある国際的な政治経済メカニズムに接近し、現代国際経済のダイナミズムを歴史的にどう位置づけ把握するべきかを検討する。既存理論や政策を刷新していくような政治経済上の構想を探究したい。
到達目標(ねらい)	①現代国際経済を舞台とする貿易、投資、通貨、金融などの経済理論、経済政策をめぐる基 礎的理解ができ、他者に説明ができる。 ②現代国際経済の史的ダイナミズムを、政治、社会、環境、人間などとの相互的な影響関係 のなかで立体的または構造的に捉えることができる。 ③現代国際経済の課題群の克服にむけて、政策上の代替案を、持続可能性、公共性、再配分、共 生などの鍵概念を用いて、グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルな重層的視点から構 想できる。

授業スケジュール		
	第 1 回	授業ガイダンス
	第 2 回	アメリカの戦後構想①：世界大恐慌と通貨ブロック
	第 3 回	アメリカの戦後構想②：ホワイト案とケインズ案
	第 4 回	国際援助政策と経済復興：冷戦とマーシャルプラン
	第 5 回	国際援助政策と経済復興：対日援助政策と逆コース
	第 6 回	戦後ブレトンウッズ体制の崩壊とドル①：ニクソンショック
	第 7 回	戦後ブレトンウッズ体制の崩壊とドル②：スタグフレーション
	第 8 回	石油危機とオイルダラー還流の構図①：アメリカの中東政策
	第 9 回	石油危機とオイルダラー還流の構図②：オイルダラー還流の構図
	第 10 回	世界経済体制の再編①：スタグフレーションと強いアメリカ政策
	第 11 回	世界経済体制の再編②：双子の赤字とプラザ合意
	第 12 回	経済摩擦と構造調整
	第 13 回	資本自由化と通貨危機：変動相場制体制
	第 14 回	多国籍企業：多国間投資協定
	第 15 回	後期試験

準備学習	（１）指定参考書、授業内で紹介する文献などは、大学図書館を最大限活用し意欲的に読み込むこ と。 （２）紙媒体、電子媒体を通して内外のニュース報道に意識的に日々触れること。 （３）ドキュメンタリー映画など現代世界を活写した優れた映像作品に触れる機会をつくること。 （４）国連専門機関、ＮＧＯ（非政府組織）、ＮＰＯ（非営利組織）など、国際機関や

	市民社会組織が発 信する国際社会の多様な課題群にかんする豊富な情報源にアクセスを試みること。
履修上の留意点等	（１）本講義は、教育の質的向上を図る一環として、受講予約の対象科目となっています。登録者が 定員超過となった場合、授業開始前に抽選を行います。 （２）授業の質的向上には、教室の物理的な環境設定や、担当教員の創意工夫など外的条件にくわ えて、履修者の皆さんの「準備」による内的条件を整えることで相乗効果が高まります。本シラバ ス「準備学習」を参考に日々の学習に取り組んでください。
成績評価の方法	100 ％ 試験 レポート 小テスト 平常点 （注）出席は取らない。ただし授業内で不定期に求めるリアクションペーパーの内容がきわめて優れ ている場合、加算点として評価する場合がある。
教科書/テキスト	教科書は指定しない。ただし指定参考書および授業内で紹介する文献等は、準備学習と復習に活用し授業の理解向上に努めること。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	レオ・パニッチほか『グローバル資本主義の形成と現在』作品社、2018年 西川潤『2030年 未来の選択』日本経済新聞出版社、2018年 ブランコ・ミラノヴィッチ『大不平等』みすず書房、2017年 ノーム・チョムスキー『アメリカンドリームの終わり』Discover、2017年 ジョセフ・E・スティグリッツ『これから始まる新しい世界経済の教科書』徳間書店、2016年 アンソニー・ギデンズ『揺れる大欧州：未来への変革の時』岩波書店、2015年 P.R.クルーグマン『国際経済学：理論と政策（上）（下）』丸善出版、2014年 西川潤『新・世界経済入門』岩波新書、2014年 中山智香子『経済ジェノサイド：フリードマンと世界経済の半世紀』平凡社、2013年 水野和夫『世界経済の大潮流』太田出版、2012年 栃木雅彦ほか編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社、2010年 デヴィッド・ハーヴェイ『新自由主義：その歴史的展開と現在』作品社、2007年 増田正人ほか編『国際経済政策論』有斐閣ブックス、2005年
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	（１）難解な専門用語の一時的記憶ではなく、学生みずからが国際経済の現状と未来について考え られるスタイルの授業となるように努める。 （２）適宜リアクションペーパー等を通じて授業内容の理解度をチェックし、また優れたコメントを次回 講義で紹介するなど、教員と学生が双方向の関係性を保てるように努める。 （３）文字ベースの文献資料だけではなく、映像資料等を利用しながら国際経済へのイメージが広が り理解が深まるように努める。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092501 / 経済数学ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	岡田　多恵（オカダ　タエ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	経済学が数学をかなり頻繁に用いることはよく知られています。この講義では，なるべく経済学的話題に沿いながら，経済学の理論の学習にとって不可欠となるいくつかの数学的手法を解説します。 前期は、解析学を学びます。具体的には、関数の基礎、微分等を学び、それぞれの経済学への応用を解説します。	
到達目標(ねらい)	経済学だけなく、公務員試験等の資格試験でも必要となる数学の基礎知識を身に着けることを到達目標とします。より具体的な目標としては、関数の基礎から始め、微分等の知識を身に着け、さらに経済学の問題に応用し、それらの問題が自分で解けるようになります。 ディプロマポリシーDP3「情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕」が身につきます。	
授業スケジュール	第 1 回	履修ガイダンス
	第 2 回	関数とは何か 経済学における関数の応用
	第 3 回	費用関数といくつかの費用概念 微分と「限界」費用
	第 4 回	微分法の公式（１） 和と差の公式(p.55)、積の公式(p.56)
	第 5 回	微分法の公式（２） ベキ関数の公式(p.55)、商の公式(p.56)
	第 6 回	経済学における微分の応用（１） 費用関数の分析
	第 7 回	微分法の公式（３） 合成関数の微分(p.57)と逆関数の微分
	第 8 回	微分法の公式（４） 指数関数の微分と対数関数の微分
	第 9 回	対数微分法 経済学における微分の応用（２） 経済成長率
	第 10 回	平均値の定理と関数の極値
	第 11 回	１変数関数の極大・極小 完全競争企業と独占企業の利潤最大化問題
	第 12 回	多変数関数の微分 偏微分 経済学における多変数関数の微分の応用 生産関数の偏微分
	第 13 回	全微分 経済学における全微分の応用 限界効用と限界代替率
	第 14 回	積分とその応用 不定積分と定積分、数列とその和、複利計算、割引現在価値
	第 15 回	総復習と期末試験対策
準備学習	授業資料をダウンロードし、該当箇所の教科書を読んでおくこと。	
履修上の留意点等	数学の予備知識は高校数学程度（数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B）とする。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート

	10 ％	小テスト
	20 ％	平常点
	テスト（試験期間中に実施する予定）の評点を偏差値化し、さらに平常点を加味して成績評価を行ないます。	
教科書/テキスト	Ｅ．ドウリング（著）、1995年、『例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉』、大住 栄治（訳）、 川島 康男（訳）、シーエーピー出版 Ｅ．ドウリング（著）、1996年、『例題で学ぶ入門・経済数学〈下〉』、大住 栄治（訳）、 川島 康男（訳）、シーエーピー出版	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	浦田健二、神谷諭一、古屋核、『経済学を学ぶためのはじめての微分法』、同文館出版、2017年 三土修平『初歩からの経済数学（第２版）』、日本評論社、1996年 丹野忠晋著『経済数学入門』 、日本評論社、2017年 小山昭雄、『経済数学教室５　微分積分の基礎　上』、岩波書店、1995年 尾山大輔 ・安田洋祐 、『改訂版 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』、日本評論社、 2013年	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	板書に時折計算ミスが見られるとの指摘があったため、計算ミスがないように留意します。	
関連リンク	特になし。	
実務経験がある教員による授業科目	担当教員は財務省財務総合政策研究所と内閣府経済社会総合研究所の勤務経験を生かして実践的な授業を行っています。	

履修コード/科目名称	092551 / 経済数学ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	岡田　多恵（オカダ　タエ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	経済学が数学をかなり頻繁に用いることはよく知られています。この講義では，なるべく経済学的話題に沿いながら，経済学の理論の学習にとって不可欠となるいくつかの数学的手法を解説します。具体的には制約付き極大・極小、線形代数等を学び、それぞれの経済学への応用を解説します。	
到達目標(ねらい)	経済学だけなく、公務員試験等の資格試験でも必要となる数学の基礎知識を身に着けることを到達目標とします。 後期は、制約付き最適化と線形代数を学びます。具体的な目標としては、制約付き極大・極小や線形代数等の知識を身に着け、さらに経済学の問題に応用し、それらの問題が自分で解けるようになります。 ディプロマポリシーDP3「情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕」が身につきます。	
授業スケジュール	第 1 回	履修ガイダンス
	第 2 回	前期の復習と前期期末試験の講評
	第 3 回	制約付き最適化問題 　ラグランジュ未定乗数法 経済学における制約付き最適化問題（１） 　生産割当がある場合の費用最小化問題 　予算制約下の効用最大化問題
	第 4 回	経済学における制約付き最適化問題（２） 　消費者行動の理論と予算制約下の効用最大化問題 行列の基本(p.168)
	第 5 回	行列の演算 　行列の加減、スカラー積、ベクトル積 　行列の積
	第 6 回	行列式 　行列式と行列の歴史 　サラスの法則（３次までの行列式）
	第 7 回	行列式の性質 n次の行列式（１） 　順列と行列式 　転倒と転倒数
	第 8 回	n次の行列式（２） 　転倒と転倒数 １次独立と１次従属
	第 9 回	行列の基本変形と階数 余因子展開（１） 　小行列式と余因子 　余因子展開
	第 10 回	逆行列 　余因子行列と随伴行列 　逆転公式
	第 11 回	逆行列による連立方程式の解法 クラーメルの公式 　クラーメルの公式とその証明 　クラーメルの公式による連立方程式の解法
	第 12 回	ガウスの消去法 　拡大行列 　ガウスの消去法による連立方程式の解法 　ガウスの消去法による逆行列の解法
	第 13 回	行列の経済学への応用例（１） 　比較静学の例（IS－LM分析）

		産業連関分析・レオンチェフ逆行列 多変数関数の極大・極小（条件付極大・極小を含む）の十分条件
	第 14 回	行列の経済学への応用例（２） 比較静学の例（スルツキー方程式） 回帰分析と最小二乗法
	第 15 回	総復習と後期試験対策
準備学習	授業資料をダウンロードし、該当箇所の教科書を読んでおくこと。	
履修上の留意点等	数学の予備知識は高校数学程度（数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B）とする。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
	10 ％	小テスト
	20 ％	平常点
教科書/テキスト	Ｅ．ドウリング（著）、1995年、『例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉』、大住 栄治（訳）、 川島 康男（訳）、シーエーピー出版 Ｅ．ドウリング（著）、1996年、『例題で学ぶ入門・経済数学〈下〉』、大住 栄治（訳）、 川島 康男（訳）、シーエーピー出版	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	三宅敏恒、『入門線形代数』、培風館、2002年 三土修平、『初歩からの経済数学（第２版）』、日本評論社、1996年 小山昭雄、『経済数学教室５ 線形代数の基礎 上』、岩波書店、1994年 尾山大輔 ・安田洋祐 、『改訂版 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』、日本評論社、 2013年	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	板書に時折計算ミスが見られるとの指摘があったため、計算ミスがないように留意します。	
関連リンク	特になし。	
実務経験がある教員による授業科目	担当教員は財務省財務総合政策研究所と内閣府経済社会総合研究所の勤務経験を生かして実践的な授業を行っています。	

履修コード/科目名称	092611 / 応用ミクロ経済学ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	荒木　勝啓（アラキ　ヨシヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	全体を前期・後期2部構成とする。 前期は、社会に出て役に立つ、経済学の応用に必要な分析ツールを基礎から学ぶ。割引計 算、近似計算、積立計算、ローン計算、指数関数、対数、対数微分、成長理論、技術進歩、 分配理論などである。後期は一転して経済分析に必要な最低限の統計理論と回帰分析を表計 算ソフトの使い方とともに実践的に学習する。また時間が許せば最適ヘッジ(金融工学基礎) といった実務などで役に立つ応用分析を学ぶ。 内容はすべて基礎から解説するので、数学になじみがない学生でも理解可能である。 また各種公務員試験、宅建、ファイナンシャルプランナー（FP）などの経済学科目が必須な 資格試験を目指す学生は、授業中に行う練習問題が格好の試験対策となるので、この授業は 必須であろうと思われる。
到達目標(ねらい)	国1、地方、FP2級などの経済学試験問題程度までの難易度を目標とする。後半はややマクロ 的になるが、なかなか他の科目でやる機会のない産業連関分析を最後に追加する
授業スケジュール	以下の内容を前期15回で講義する。 ・複利と割引 ・関数電卓の使い方 ・積立計算 ・ローン計算 ・マクローリン展開と近似計算 ・近似によるローン計算 ・指数関数と対数関数 ・対数の応用 ・対数微分とその応用 ・コブ・ダグラス関数 ・成長理論 ・技術進歩 ・分配理論 ・産業連関分析その1: 数量体系 ・産業連関分析その2: 価格体系
準備学習	特にないが、できればミクロ経済学の入門書位は目を通しておいたほうが望ましい
履修上の留意点等	ある。この機会に高校で学習しなかった数学分野を改めて勉強したいという学生は履修する とよい。 また将来銀行、証券、保険などの金融分野、貿易関係、不動産関係など実用的経済学が必要 となる分野に進もうと思っている学生は、この授業を取っていないと会社に入って恥をかく のではないかと思う。授業スケジュールに書いてある各項目はそうした分野の仕事では 「知っていて当然」であるが、もし今知らなかったら、単位や成績といった目先のことでは なく、将来への自己投資のつもりでこの授業を取るべきであろう。
成績評価の方法	100 % 試験 レポート 小テスト 平常点 試験は、ノート持込可、ノートのコピー持込不可、それ以外のすべての本などの資料持込 可。 関数電卓、ノートパソコン、スマートフォンや、iPadなどのタブレットにダウンロードした表計算機能持込可。 試験問題は授業中にやった問題の数字が変化した程度の問題なので、基本的に授業に出てい た学生はすべて解答可能である。
教科書/テキスト	随時指示する
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時指示する
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	関数電卓の使い方をもう少し練習させること
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092651 / 応用ミクロ経済学ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	荒木　勝啓（アラキ　ヨシヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	全体を前期・後期2部構成とする。 後期は実用的な役に立つ応用編である。 昨年の結果からすると次の4テーマに絞ってかも多くの演習をするのがよいという結論に達し た。 1. 徹底した表計算の習熟 2. 統計的な基礎知識の学習と例題による演習 3. 線形回帰の演習と検定の仕方の習熟 4. 最適ヘッジ理論と実際
到達目標(ねらい)	「計算可能」「実用性」ということが目標である。最低、関数電卓の使い方、表計算ソフト のExcel、あるいはスマートフォンでダウンロードした表計算ソフトなどのマクロの使い方を マスターする。 多くのビジネスの場で、データの説得性や見通しの予測に「回帰モデル」をプレゼンとして 使う場合が多いが、この授業ではその導出と提示の方法を解説する。 さらに、たとえばA株10000株ホールドをB株でヘッジする場合、B株何株をウリまたはカイが 最適か、といった問題に対して、仮想的なデータから計算する。 レベルは最終的にはFA、証券アナリスト試験、宅建、またはMBA1年次程度にまで達するが、 今までの経験から、出席し続けた学生は例年ほとんど脱落なく計算方法をマスターするよう である。
授業スケジュール	以下の内容を後期15回で講義する。 ・表を使った和と積和の計算 ・表計算による平均、分散、標準偏差、偏差値の計算 ・マクロの使い方 ・仮想的本店による各支店の売り上げの集計 ・グラフの出し方 ・確率、確率分布、密度分布、期待値 ・単純線形回帰式の導出と公式 ・表計算を使った回帰分析 ・回帰分析の計算演習 ・回帰分析の生産演習の徹底 ・t-検定 ・回帰式のベータに対するt-検定 ・回帰式のベータの対するt-検定の演習 ・最適ヘッジ理論 ・最適ヘッジの演習
準備学習	特になし
履修上の留意点等	すべてが「ノウ・ハウ」なので授業を休まないように
成績評価の方法	100 % 試験
	レポート
	小テスト
	平常点
	授業の性質上、関数電卓市価(1000円程度)またはそれに相当するスマート・フォンやノート パソコン上の関数電卓ソフト(無料)が必要。 機能的にはべき乗、ルート、e、log、lnがあれば十分である。 ノートパソコンを持っていれば授業に持ち込むと便利であるが、なくても問題ない。最低スマート・フォンに無料の表計算ソフトをダウン・ロードできる。
教科書/テキスト	随時指示する
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時指示する
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	特になし
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092711 / 応用マクロ経済学ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	赤石　秀之（アカイシ　ヒデユキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	マクロ経済学で学ぶ「乗数効果」による経済変動の原因・メカニズムは、我々が置かれている経済環境（消費意欲、投資意欲、貿易依存度、そして財政状況）によってその効果が異なってしまう。今後我々がどのような立場でどのような国で生活しようとも、その効果を適切に判断することが経済学部の学生には求められるであろう。 そこで、この授業では「乗数効果」と様々な経済環境との間の関係を明らかにすることによって、マクロ経済学を現実世界に応用する方法を習得することを目的とする。	
到達目標(ねらい)	この授業を受けた学生は、以下のことが出来るようになる： ①乗数効果による経済変動の原因・メカニズムの説明 ②経済環境による乗数効果の違いの説明 ③様々なマクロ経済モデルによる乗数効果の違いの説明	
授業スケジュール	第 1 回	国民所得の循環と計測
	第 2 回	国民所得の決定・変動の基本原則
	第 3 回	投資乗数のメカニズムと効果
	第 4 回	貿易乗数のメカニズムと効果
	第 5 回	財政乗数のメカニズムと効果
	第 6 回	国民所得・利子率の決定・変動の基本原則
	第 7 回	投資乗数のメカニズムと効果2
	第 8 回	貿易乗数のメカニズムと効果2
	第 9 回	財政乗数のメカニズムと効果2
	第 10 回	国民所得・利子率・物価の決定・変動の基本原則
	第 11 回	投資乗数のメカニズムと効果3
	第 12 回	貿易乗数のメカニズムと効果3
	第 13 回	財政乗数のメカニズムと効果3
	第 14 回	投資乗数・貿易乗数・財政乗数の比較
	第 15 回	期末試験（およびレポート）と授業のまとめ
準備学習	常日頃から、ネット・テレビ・新聞などを通して、日本に限らずあらゆる国の経済事情に関心を持つこと。	
履修上の留意点等	授業では、グラフを中心とした説明を行う。グラフに習熟するためには、授業中そして授業後の復習・予習の際に自分の手でグラフを何度も書くことをお勧めする。	
成績評価の方法		試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	60 %	期末試験（またはレポート）
	40 %	ミニ課題

	授業を履修する学生の人数によって期末試験か期末レポートが課される。また、ミニ課題とは授業中または宿題として実施してもらう課題であり、基本的には授業内容を反復できるものである。
教科書/テキスト	特に使用しない。授業では、毎回レジメを配布する。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	特に使用しない。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度に引き続き、見やすいグラフと分かりやすい説明が出来るように心掛ける。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092751 / 応用マクロ経済学ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	赤石　秀之（アカイシ　ヒデユキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	「マクロ経済政策（財政・金融・貿易・為替政策）」は、その国が置かれている経済環境（消費意欲、投資意欲、貿易依存度、そして財政状況）や直面している経済問題（失業・不況・デフレ・インフレなど）によってその効果が異なってしまう。今後我々がどのような立場でどのような国で生活しようとも、その効果を適切に判断することが経済学部の学生には求められるであろう。 そこで、この授業では「マクロ経済政策」と様々な経済環境・問題との間の関係を明らかにすることによって、マクロ経済学を現実世界に応用する方法を習得することを目的とする。	
到達目標(ねらい)	この授業を受けた学生は、以下のことが出来るようになる： ①マクロ経済政策のメカニズム・効果の説明 ②経済環境の違いによるマクロ経済政策の効果の説明 ③経済問題の違いによるマクロ経済政策の効果・役割の説明	
授業スケジュール	第 1 回	マクロ経済モデルの種類・特徴
	第 2 回	IS-LMモデルの特徴
	第 3 回	財政政策のメカニズム・効果
	第 4 回	金融政策のメカニズム・効果
	第 5 回	貿易・為替政策のメカニズム・効果
	第 6 回	IS-LM-BPモデルの特徴
	第 7 回	財政政策のメカニズム・効果2
	第 8 回	金融政策のメカニズム・効果2
	第 9 回	貿易・為替政策のメカニズム・効果2
	第 10 回	AD－ASモデルの特徴
	第 11 回	財政政策のメカニズム・効果3
	第 12 回	金融政策のメカニズム・効果3
	第 13 回	貿易・為替政策のメカニズム・効果3
	第 14 回	マクロ経済政策の効果の比較
	第 15 回	期末試験（またはレポート）と授業のまとめ
準備学習	常日頃から、ネット・テレビ・新聞などを通して、日本に限らずあらゆる国の政策事情に関心を持つこと。	
履修上の留意点等	授業では、グラフを中心とした説明を行う。グラフに習熟するためには、授業中そして授業後の復習・予習の際に自分の手でグラフを何度も書くことをお勧めする。	
成績評価の方法		試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	60 %	期末試験（またはレポート）
	40 %	ミニ課題

	授業を履修する学生の人数によって期末試験かレポートが課される。また、ミニ課題とは授業中または宿題として実施してもらう課題であり、基本的には授業内容を反復できるものである。
教科書/テキスト	特に使用しない。授業では、毎回レジメを配布する。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	特に使用しない。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度に引き続き、見やすいグラフと分かりやすい説明が出来るように心掛ける。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097501 / 経営分析ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	渡邉　智（ワタナベ　サトシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業は財務諸表を開示することによって、財政状態や経営成績などの会計情報を広く一般に伝えているが、財務諸表の見方を知らなければ情報を正確に把握することはできない。経営分析とは、分析対象となる企業の財務諸表や必要な資料を収集し、それらを正確に分析し、当該企業がどの様な状態にあるのか判断するものである。この講義では、経営分析に関する基本的な知識や技能を身に付け、自ら簡単な経営分析ができるようにすることを目指している。また、近年、様々な指標や技法が次々と紹介されており、この様な情報についても可能な限り提供してゆきたいと考えている。
到達目標(ねらい)	この講義では、経営分析に関する基本的な知識を習得しながら、基礎レベルのテーマについて検討し、初歩的な経営分析を行なう能力を身に付けることを目標としている。
授業スケジュール	（1）財務諸表分析とは何か　（2）財務諸表分析の意義（3）連結財務諸表の見方その１　連結貸借対照表と連結損益計算書　（4）連結財務諸表の見方その２　連結包括利益計算書と連結キャッシュ・フロー計算書（5）短期・長期の安全性分析（6）有利子負債（7）損益計算書の分析その１　基本編　（8）損益計算書の分析その２　応用編　（9）収益性の分析その１　基本編（10）収益性の分析その２　応用編（11）効率性の分析（12）キャッシュ・フロー分析その１　基本編（13）キャッシュ・フロー分析その２　応用編（14）総合問題演習（15）前期のまとめ
準備学習	1.簿記・会計関連科目を履修済であることが望ましい。 2.日頃から企業の動向に関心を持ち、財務諸表や資料を自ら収集して分析を行なうなど、積極的な姿勢で課題に取り組むことが求められる。 3.履修・出席しているだけでは講義内容を理解することはできず、また、単位の取得も困難となる点に十分留意し、基本的事項について常に練習を重ね学力の維持を図ること。予習・復習は毎回必ず行ない、.理解が不十分な点を放置せず、自習や質問などによって必ず各自で解決しておくこと。
履修上の留意点等	経営分析ｂとセットでａからｂの順に履修すること。ｂのみまたｂからａの順に履修しないこと。 初回に講義に関する説明を行なうので必ず出席すること。 受講に際しては学生証を携帯し、必要に応じて提示できる様にしておくこと。 遅刻、欠席および早退等がないようにすること。 私語、電子機器（PC、スマホ等）の使用、睡眠、内職、中抜および頻繁な入退出等、講義とは無関係な迷惑行為は厳禁とする。 以下の様な行為があった場合、大学当局等に通報の上厳正に対処する。また、単位が与えられず、以後の履修をお断わりする場合もある。 1.不適切な要求行為、粗暴な言動および上記の様な迷惑行為等により講義やこれに関わる業務を妨害する様な行為。 2遅刻、欠席、早退、中抜および頻繁な入退出等の行為を前提とした様な履修。 3.出欠状況の確認・各種試験（含レポート）などにおける不正行為・諸規則等に反する行為。

成績評価の方法		
	60 ％	試験
		レポート
	40 ％	小テスト
		平常点
	期末試験の結果（60点満点）、小テストの結果（40点満点）によって成績評価を行なう。	

教科書/テキスト	乙政正太著『財務諸表分析』 同文舘出版 定価3,000円＋税

	ISBN9784495193027
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	平林亮子編『財務諸表分析入門』改訂版 アスキーメディアワークス 定価1,800円＋税 ISBN978-4-04-886879-2 大津広一著『戦略思考で読み解く経営分析入門』 ダイヤモンド社 定価3,200円＋税 ISBN978-4-478-00367-1 大津広一著『企業価値を創造する会計指標入門』 ダイヤモンド社 定価3,600円＋税 ISBN4-478-47076-6 日本経営分析学会編『新版　経営分析辞典』税務経理協会 定価4,400円＋税 ISBN978-4-419-06157-9 講義の進行状況に応じてプリントを配布する場合もある。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	試験のあり方については口頭でも直接意見が寄せられていたため、この点については多くの履修者の希望に沿うかたちで改善できたのではないかと考えているが、新たに別の問題も発生することになり、対応の難しさを感じている。とはいえ、前期の講義については概ね良好な結果に終わったのではないかと考えている。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097551 / 経営分析ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	渡邉　智（ワタナベ　サトシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業は財務諸表を開示することによって、財政状態や経営成績などの会計情報を広く一般に伝えているが、財務諸表の見方を知らなければ情報を正確に把握することはできない。経営分析とは、分析対象となる企業の財務諸表や必要な資料を収集し、それらを正確に分析し、当該企業がどの様な状態にあるのか判断するものである。この講義では、前期に習得した経営分析に関する基本的な知識や簡単な経営分析を行なうことができる能力を活用して、さらにもう一歩進んだ知識と技能を習得することを目指している。また、近年、様々な指標や技法が次々と紹介されており、この様な情報についても可能な限り提供してゆきたいと考えている。
到達目標(ねらい)	この講義では、前期に習得した経営分析に関する基礎知識を活用して、やや難しいレベルのテーマについても検討し、もう一歩進んだ経営分析を行なう能力を身に付けることを目標としている。
授業スケジュール	（1）損益分岐点分析その１　基本編（2）損益分岐点分析その２　応用編（3）成長性分析（4）付加価値分析その１　基本編　（5）付加価値分析その２　応用編（6）キャッシュ・フローに基づく株式価値評価その１　基本編（7）キャッシュ・フローに基づく株式価値評価　その２応用編（8）会計利益に基づく株式価値評価その１基本編（9）会計利益に基づく株式価値評価その２　応用編（10）利益マネジメントと財務諸表分析その１　基本編　（11）利益マネジメントと財務諸表分析その２　応用編　（12）貨幣の時間的価値と割引計算その１　基本編（13）貨幣の時間的価値と割引計算その２　応用編（14）総合問題演習（15）後期のまとめ
準備学習	1.簿記・会計関連科目を履修済であることが望ましい。 2.日頃から企業の動向に関心を持ち、財務諸表や資料を自ら収集して分析を行なうなど、積極的な姿勢で課題に取り組むことが求められる。 3.履修・出席しているだけでは講義内容を理解することはできず、また、単位の取得も困難となる点に十分留意し、基本的事項について常に練習を重ね学力の維持を図ること。予習・復習は毎回必ず行ない、.理解が不十分な点を放置せず、自習や質問などによって必ず各自で解決しておくこと。
履修上の留意点等	経営分析aとセットでａからｂの順に履修すること。ｂのみまたｂからａの順に履修しないこと。 初回に講義に関する説明を行なうので必ず出席すること。 受講に際しては学生証を携帯し、必要に応じて提示できる様にしておくこと。 遅刻、欠席および早退等がないようにすること。 私語、電子機器（PC、スマホ等）の使用、睡眠、内職、中抜および頻繁な入退出等講義とは無関係の迷惑行為は厳禁とする。 以下の様な行為があった場合、大学当局等に通報の上厳正に対処する。また、単位が与えられず、以後の履修をお断わりする場合もある。 1.不適切な要求行為、粗暴な言動および上記の様な迷惑行為等により講義やこれに関わる業務を妨害する様な行為。 2遅刻、欠席、早退、中抜および頻繁な入退出等の行為を前提とした様な履修。 3.出欠状況の確認・各種試験（含レポート）などにおける不正行為・諸規則等に反する行為。

成績評価の方法		
	60 ％	試験
		レポート
	40 ％	小テスト
		平常点
	期末試験の結果（60点満点）、小テストの結果（40点満点）によって成績評価を行なう。	

教科書/テキスト	乙政正太著『財務諸表分析』 同文舘出版 定価3,000円＋税 ISBN9784495193027
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	平林亮子編『財務諸表分析入門』改訂版 アスキーメディアワークス 定価1,800円＋税 ISBN978-4-04-886879-2 大津広一著『戦略思考で読み解く経営分析入門』 ダイヤモンド社 定価3,200円＋税 ISBN978-4-478-00367-1 大津広一著『企業価値を創造する会計指標入門』 ダイヤモンド社 定価3,600円＋税 ISBN4-478-47076-6 日本経営分析学会編『新版　経営分析辞典』税務経理協会 定価4,400円＋税 ISBN978-4-419-06157-9 講義の進行状況に応じてプリントを配布する場合もある。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	試験の各種資料持込に関する意見など、試験に関する様々な要望があったため、試験方法については直ちに見直した。また、当初使用予定であった教科書が使用できず、やむを得ず使用した教科書についても意見が寄せられたため、新年度では別の教科書を用いることとした。なお、不適切な投稿は、当講義の利害関係者に多大な迷惑を掛けるばかりではなく、最終的に自身が様々な責任を負うことになる点を理解しておくこと。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093001 / 景気循環論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	植林　茂（ウエバヤシ　シゲル）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	日本経済は90年代のバブル崩壊後、長期にわたって低迷し、「失われた20年」などと言われ、この脱却を企図してマイナス金利など様々な政策を打ち出し、景気は緩やかな拡大を続けているように窺われます。景気は、企業・家計など、人々の経済活動、生活に大きな影響を与えます（皆さんが近い将来経験する就職活動などはその典型です）が、それは循環的な動きを伴っていることが多いと言えます。それでは、私たちの生活に大きな影響を与える景気を理解するにはどうしたらよいのでしょうか。 景気循環論aでは、景気をみていくうえで必要な基礎的な用語、統計の定義などを理解するとともに、各種の統計数値の長期時系列の動きや制度の変化、経済全体に占める位置づけなどをみていくことで、景気循環を理解するために必要な知識を身につけていきます。また、その前提となる経済情報の入手方法や入手した情報を扱う上での留意点なども学びます。さらに、明治以降の我が国の景気循環の概要を把握するほか、景気循環と経済政策との関係をみることで、日本経済の現状についての理解を深めます。 なお、本授業は、受講にあたり特別な知識や他授業の受講を求めません。	
到達目標(ねらい)	新聞、TV、インターネット等で報じられている一般的な経済記事をスムーズに理解できるような用語　の知識、経済的なセンスを身につけるとともに、景気や経済的な事象について実務に携わる人とコミュニケーションができる程度の能力を身につけることをねらいとしています。 さらに、経済情報の入手の仕方、入手した情報についての留意点も身につけ、就活に役立つことをねらっています。	
授業スケジュール	第 1 回	経済情報・データの入手方法、理解に欠かせない諸概念
	第 2 回	景気を見る上で重要な統計（１）支出面
	第 3 回	景気を見る上で重要な統計（２）生産面
	第 4 回	景気を見る上で重要な統計（３）分配面
	第 5 回	景気を見る上で重要な統計（４）経済全体、企業アンケート、物価
	第 6 回	マーケット関係指標、金融関係指標等
	第 7 回	経済政策、経済対策
	第 8 回	戦前の景気循環
	第 9 回	戦後の景気循環（１）全体像
	第 10 回	戦後の景気循環（２）高度成長期まで
	第 11 回	戦後の景気循環（３）オイルショック等減速経済期
	第 12 回	戦後の景気循環（４）バブルとその後の長期不況
	第 13 回	グローバル化と景気循環
	第 14 回	景気循環とアベノミクス
	第 15 回	まとめ（景気のを見る上での道具立て、いかに景気をみていくか）
準備学習	日ごろから新聞、TV、インターネットの経済ニュースに接するように心がけてください。一日、最低10分は経済ニュースに接するようにしましょう。	
履修上の留意点等	特になし（数学的な知識や経済学の他の授業の受講を前提としません）。	
成績評価の方法		試験
	50 %	レポート
		小テスト

	50 %	平常点
	授業中に小レポートの提出を求めることが数回あり、これが平常点としてカウントされます。	
教科書/テキスト	なし（必要に応じて資料を配布）。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	景気循環学会、金森久雄編[2002]『ゼミナール　景気循環入門』東洋経済新報社 有沢広巳監修『昭和経済史 下』日経新書　日本経済新聞社	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	・経済記事等についての説明を充実させてほしいとの要望があるので、授業内でこうした時間を増やしていく。 ・経済の基礎用語が難しいとの声があるので、用語の説明や解説に今まで以上に時間を割く。 ・パワーポイントの資料については、一部の学生から、字が小さく見づらい部分があるとの意見をいただいていているので、投影資料をさらに改善する一方、着席する座席についてもきめ細かく指示を行っていく。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目	かつて日本銀行(中央銀行)に長きにわたり勤務し経済分析の仕事に携わったほか、経済企画庁(現内閣府)に出向し政府経済見通しの作成作業にも携わるなど、景気循環と関連の深い実務の経験を有する。	

履修コード/科目名称	093051 / 景気循環論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	植林　茂（ウエバヤシ　シゲル）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本授業では、経済学を学ぶ学生が景気および景気循環を理解していくうえで必須の分野である「景気循環についての経済理論」(例えば、キチン波、ジュグラー波、クズネッツ波、コンドラチェフ波など）について学ぶほか、金融・財政政策の景気に与える影響などを扱います。 また、景気をみるうえで重要なツールとなっている景気動向指数の概要を理解し、どうやって景気の転換点(山、谷)を決めるのかを学ぶほか、政府・中央銀行の景気の判断、経済見通し(政府経済見通し、日銀展望レポート)についても勉強していきます。 さらに、海外の景気循環を鳥瞰したうえで、金融危機の景気に与える影響をみていくほか、段階的接近法・マクロモデルによる経済予測など、各種の経済予測の方法などについても、その仕組みを学習することで、景気循環についての理解を深めます。 このほか、毎回の授業で、新聞に掲載されているホットは経済の話題を取り上げることを通して、現在の景気局面を的確に把握するとともに、現在、我が国が直面している経済問題を理解していきます。 本授業を受講する学生は、可能であれば、前期科目である「景気循環論a」を受講して下さい。
到達目標(ねらい)	本授業では、以下の点をねらいとしています。 ①景気循環に関する主要な考え方を理解する。 ②金融・財政政策、その他の経済政策の枠組み、経済効果、特徴などについて理解する。 ③戦後の主な景気循環とその景気後退局面で打ち出した経済対策等について把握する。 ④経済予測について各種のアプローチの概況を学ぶ。 ⑤シンクタンクや金融機関調査部のエコノミストレポートなどを一応理解できる力を身につける。

授業スケジュール		
	第 1 回	授業で必要な基本知識、諸概念の説明
	第 2 回	コンドラチェフ波、クズネッツ波について
	第 3 回	ジュグラー波、キチン波について
	第 4 回	ケインズ以前の景気循環論
	第 5 回	リアル・ビジネスサイクル、その他の様々な景気循環論①
	第 6 回	財政政策と景気循環
	第 7 回	金融政策と景気循環
	第 8 回	その他の様々な景気循環論②
	第 9 回	恐慌・金融危機と景気循環、リーマンショック
	第 10 回	景気動向指数(１)概要
	第 11 回	景気動向指数(２)作成方法、指数作成により景気転換点を判断する
	第 12 回	景気の予測(１)様々な景気予測手法について
	第 13 回	景気の予測(２)GDP予測にチャレンジする
	第 14 回	政策当局の経済見通し等
	第 15 回	まとめ(経済、景気の先行きをどうみていくか)

準備学習	事業の進行に応じて、適宜のタイミングで配布する資料、経済記事、エコノミストレポートなどを予め配布して準備学習を求めるほか、簡単なレポート作成、ワークシートによる作業を求めることがあります。ただし、あまり大きな負担のものではありません。

履修上の留意点等	前期科目「景気循環ａ」を履修しておくことが望ましい。ただし、必須ではない。	
成績評価の方法	40 ％	試験
	30 ％	レポート
		小テスト
	30 ％	平常点
	時間中に出題し回収するワークシートによる作業や小レポート(時間中に出題し回収されるもの)は平常点に反映される。	
教科書/テキスト	なし（必要に応じて授業の際に資料を配布）	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	景気循環学会、金森久雄編[2002]『ゼミナール　景気循環入門』東洋経済新報社 グレゴリー・マンキュー[2011]『マクロ経済学Ｉ(第3版)：入門編』東洋経済新報社	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	・学生の問題意識をさらに高めるため、積極的にアクティブラーニングの手法を活用し、学生通しでのディスカッションやワークシートを使った経済予測なども行っていきます。 ・パワーポイントの資料について、一部に字が小さいところがあるとの意見をいただいていますので、字を大きくすることなどで改善を図っていきます。 ・配布新聞記事の解説を充実させてほしいという声があるので、解説時間を長くしつつ分かり易い説明に努めます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目	かつて日本銀行(中央銀行)に長きにわたり勤務し経済分析の仕事に携わったほか、経済企画庁(現内閣府)に出向し政府経済見通しの作成作業にも携わるなど、景気循環と関連の深い実務の経験を有する。	

履修コード/科目名称	093101 / 現代資本主義論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小林　陽介（コバヤシ　ヨウスケ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバル化が進む現代の資本主義経済は、一方では世界の多くの人々に豊かな生活をもたらしましたが、他方では、先進諸国とそうでない地域との格差、頻発する金融危機、各国で累積する財政赤字と社会保障制度の見直し、雇用の不安定化と所得格差の拡大など、いくつもの問題を抱えています。この授業では、それらを資本主義経済の歴史的変化という大きな枠組みの中で把握することを目指します。現代資本主義論aでは、20世紀半ばから現在に至る日本経済の歴史を概観した後、産業構造と生産システム、労働と格差、金融システム、経済政策と財政などの面から日本経済の現状を把握します。授業は、パワーポイントと板書を用いた講義形式によって行います。必要に応じて補助資料を活用します。	
到達目標(ねらい)	・基礎的な経済用語・概念を理解し説明することができる。 ・現代資本主義の諸問題を指摘し、自身の考え・分析を展開することができる。	
授業スケジュール	第 1 回	現代資本主義論の方法と対象
	第 2 回	日本経済の歩み（１）
	第 3 回	日本経済の歩み（２）
	第 4 回	日本経済の歩み（３）
	第 5 回	日本経済の歩み（４）
	第 6 回	日本経済の歩み（５）
	第 7 回	産業構造と生産システム（１）
	第 8 回	産業構造と生産システム（２）
	第 9 回	労働と格差（１）
	第 10 回	労働と格差（２）
	第 11 回	金融システム（１）
	第 12 回	金融システム（２）
	第 13 回	経済政策と財政（１）
	第 14 回	経済政策と財政（２）
	第 15 回	まとめ
準備学習	・事前に教科書の該当ページを読んでおくこと。 ・テレビや新聞等から経済の動きをチェックしてほしい。	
履修上の留意点等	私語は厳禁です。また、携帯電話はマナーモード等音の出ない状態にしてください。	
成績評価の方法	70 ％	試験
	30 ％	レポート
		小テスト
		平常点

	「日本経済の歩み」の内容を終えた段階で基礎的な事項を確認するレポートを実施します。試験では、自分の意見を述べる設問にウエイトをおいて評価します。
教科書/テキスト	SGCIME編、『現代経済の解読』第３版、御茶の水書房、2700円、978-4275020772。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	SGCIME編、『現代経済の解読』増補新版、御茶の水書房、2484円、978-4275010247。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	声が聞き取りにくい時があるという意見があったため、マイクのボリュームと持ち方に気を付けたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093151 / 現代資本主義論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小林　陽介（コバヤシ　ヨウスケ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバル化が進む現代の資本主義経済は、一方では世界の多くの人々に豊かな生活をもたらしましたが、他方では、先進諸国とそうでない地域との格差、頻発する金融危機、各国で累積する財政赤字と社会保障制度の見直し、雇用の不安定化と所得格差の拡大など、いくつもの問題を抱えています。この授業では、それらを資本主義経済の歴史的変化という大きな枠組みの中で把握することを目指します。現代資本主義論bでは、20世紀半ばから現在に至る世界経済の歴史を概観した後、アメリカ、ヨーロッパ、新興諸国それぞれの変化と現状を把握します。授業は、パワーポイントと板書を用いた講義形式によって行います。必要に応じて補助資料を活用します。
到達目標(ねらい)	・基礎的な経済用語・概念を理解し説明することができる。 ・現代資本主義の諸問題を指摘し、自身の考え・分析を展開することができる。

授業スケジュール		
	第 1 回	現代資本主義論の方法と対象
	第 2 回	世界経済の歩み（１）
	第 3 回	世界経済の歩み（２）
	第 4 回	世界経済の歩み（３）
	第 5 回	世界経済の歩み（４）
	第 6 回	世界経済の歩み（５）
	第 7 回	アメリカ経済の展開（１）
	第 8 回	アメリカ経済の展開（２）
	第 9 回	アメリカ経済の展開（３）
	第 10 回	アメリカ経済の展開（４）
	第 11 回	ヨーロッパ経済の展開（１）
	第 12 回	ヨーロッパ経済の展開（２）
	第 13 回	新興諸国の展開（１）
	第 14 回	新興諸国の展開（２）
	第 15 回	まとめ

準備学習	・事前に教科書の該当ページを読んでおくこと。 ・テレビや新聞等から経済の動きをチェックしてほしい。
履修上の留意点等	私語は厳禁です。また、携帯電話はマナーモード等音の出ない状態にしてください。

成績評価の方法		
	70 ％	試験
	30 ％	レポート
		小テスト
		平常点

	「世界経済の歩み」の内容を終えた段階で基礎的な事項を確認するレポートを実施します。試験では、自分の意見を述べる設問にウエイトをおいて評価します。
教科書/テキスト	SGCIME編、『現代経済の解読』第３版、御茶の水書房、2700円、978-4275020772。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	SGCIME編、『現代経済の解読』増補新版、御茶の水書房、2484円、978-4275010247。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	声が聞き取りにくい時があるという意見があったため、マイクのボリュームと持ち方に気を付けたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093211 / 市民と経済学		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	市村　昌利（イチムラ　マサトシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現代社会は資本主義経済を基礎としている。本講義では、どのような考え方や歴史的な背景のもとで資本主義経済社会発展の基礎がつくられたのか、その思想と経済学について学ぶ。	
到達目標(ねらい)	資本主義経済の考え方や構造を理解し、現代社会経済の問題をとらえる視点、基礎的な考察力を養うことを目標とする。	
授業スケジュール	第 1 回	本講義の対象と課題
	第 2 回	１８世紀のイギリス社会と資本主義
	第 3 回	アダム・スミス『道徳感情論』～道徳哲学から経済学へ
	第 4 回	アダム・スミス『道徳感情論』～公平で中立的な観察者の目と経済的認識
	第 5 回	アダムスミスの経済学～重商主義批判
	第 6 回	アダムスミスの経済学～富の本質と分業
	第 7 回	アダムスミスの経済学～商品の価値と労働価値
	第 8 回	アダムスミスの経済学～市場価格と自然価格
	第 9 回	マルクス経済学の考え方～商品と価値
	第 10 回	マルクス経済学の考え方～価値と貨幣
	第 11 回	マルクス経済額の考え方～剰余価値と資本の再生産
	第 12 回	ケインズ経済学の考え方～伝統的理論批判
	第 13 回	ケインズ経済学の考え方～有効需要の原理
	第 14 回	ケインズ経済学の考え方～乗数理論
	第 15 回	本講義のまとめ
準備学習	配布資料やノートで復習すること。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	60 %	試験
		レポート
		小テスト
	10 %	平常点
	30 %	レポートまたは小テストなど
教科書/テキスト	使用しない。必要に応じて講義内でプリント配布。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時紹介する。	
学生による授業アンケート結	前年度、「その日の授業の内容を復習する時間が欲しい」との意見があったことをふま	

果等による授業内容・方法の改善について	え、配布資料の改善とより丁寧な板書、口頭説明に努めるとともに、分かりやすい講義となるようまとめの時間を取れるように心がける。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093221 / 社会思想史		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	市村　昌利（イチムラ　マサトシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	人間の平等と自由から出発しつつ社会体制を根拠づける思想（社会契約論）は、民主主義の構成原理とも考えられている。本講義では、現代社会を成り立たせている土台やルールを考える上で重要な思想である社会契約論の考え方を学ぶ。	
到達目標(ねらい)	現代の社会構造や社会問題を捉える視点、基礎的な考察力を養うことを目標とする。	
授業スケジュール	第 1 回	本講義の対象と課題
	第 2 回	イギリス社会の歴史的推移～絶対王政の危機
	第 3 回	イギリス社会の歴史的推移～王党派と議会派の対立
	第 4 回	ホッブズの思想～自然状態と自然権
	第 5 回	ホッブズの思想～自然法
	第 6 回	ホッブズの思想～コモンウェルス
	第 7 回	名誉革命とロック～『市民政府論』
	第 8 回	ロックの思想～自然状態と自然法
	第 9 回	ロックの思想～固有権の考え方
	第 10 回	ロックの思想～政治社会の構成
	第 11 回	ロックの思想～権利と革命権
	第 12 回	ルソーの思想～『人間不平等起源論』の概要
	第 13 回	ルソーの思想～『社会契約論』における自然状態と自然人
	第 14 回	ルソーの思想～共同体の設立と人民主権
	第 15 回	本講義のまとめ
準備学習	配布資料やノートで復習すること。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	60 %	試験
		レポート
		小テスト
	10 %	平常点
	30 %	レポート、小テストなど
教科書/テキスト	使用しない。必要に応じて講義内でプリント配布。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時紹介する。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改	前年度は対象外であったため、アンケートを実施していない。丁寧な口頭説明、板書に	

善について	務める。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093301 / 日本経済史ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	差波　亜紀子（サシナミ　アキコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	太閤検地から日露戦後期までの、日本経済の展開について講義します。この時期を通じ、「家」と「村」を単位とした農業中心の社会は、多くの工場や会社を擁する資本主義体制へと変化しました。19世紀なかば、西洋諸国の働きかけによる自由貿易の開始が、変化への大きな画期となりましたが、前提として重要な役割を果たしたのは、幕藩体制期を通じた国内経済社会組織の発達や生産力の向上、資本の蓄積でした。講義では、様々な要因が、いつ、どのように作用して、日本経済の展開をもたらしたのか、考察します。その際、文献資料や図版、統計データなどを示し、できるだけ具体的に当時の状況を理解できるよう努めます。	
到達目標(ねらい)	歴史をたどると、ある時代、ある地域の常識が、時を経て大きく変わるのは珍しいことではありません。どうしてそのような変化が、ある機会に生じたのかという基本的な歴史の知識とともに、歴史的見方を身につけることを目指します。	
授業スケジュール	第 1 回	課題と方法
	第 2 回	幕藩制社会の成立
	第 3 回	幕藩制社会の変容
	第 4 回	開港前夜の幕藩制社会
	第 5 回	開港の経済的影響
	第 6 回	金貨流出と貨幣制度改革
	第 7 回	地租改正と秩禄処分
	第 8 回	殖産興業政策
	第 9 回	松方財政
	第 10 回	企業勃興
	第 11 回	日清・日露戦争と日本経済
	第 12 回	産業革命（１）　紡織工業
	第 13 回	産業革命（２）　重工業
	第 14 回	インフラストラクチャーの整備
	第 15 回	まとめ
準備学習	毎回、授業の最後に次回の予告をします。その内容について、文献やインターネット上の情報など、自分なりの方法で予備知識を付けてきてください。	
履修上の留意点等	授業内容は、連続しています。欠席や遅刻は、内容理解を困難にするので、注意してください。授業中に理解できないことは放置せず、参考文献や辞書などを利用して調べるようにしましょう。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	指定しません。各回、資料や図表をまとめたプリントを配布します。配布済みの資料を参照することもあるので、各自ファイルして毎回持参してください。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史－太閤検地から戦後復興まで－』（税務経理協会、2002年）。沢井実・谷本雅之『日本経済史－近世から現代まで－』（有斐閣、2016年）。そのほか各回の配付プリントで、参考文献を指示します。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度授業アンケート結果無し。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093351 / 日本経済史ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	差波　亜紀子（サシナミ　アキコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	第一次世界大戦直前から高度経済成長期末までの、日本経済の展開について講義します。この時期を通じ、日本は国際社会との結び付きをいっそう強めながら、政治・経済いずれの面でも現代的様相を呈するようになりました。講義では、様々な要因が、いつ、どのように作用して、日本経済の展開をもたらしたのか、考察します。その際、文献資料や図版、統計データなどを示し、できるだけ具体的に当時の状況を理解できるよう努めます。この講義は、2019年前期開講の日本経済史ａの続きにあたります。	
到達目標(ねらい)	歴史をたどると、ある時代、ある地域の常識が、時を経て大きく変わるのは珍しいことではありません。どうしてそのような変化が、ある機会に生じたのかという基本的な歴史の知識とともに、歴史的見方を身につけることを目指します。	
授業スケジュール	第 1 回	課題と方法
	第 2 回	日本経済と第一次世界大戦
	第 3 回	大戦景気と戦後不況
	第 4 回	労働運動と農民運動
	第 5 回	金解禁と井上財政
	第 6 回	高橋財政
	第 7 回	日中戦争期の日本経済
	第 8 回	太平洋戦争期の日本経済
	第 9 回	戦後の経済改革
	第 10 回	戦後インフレと占領政策の転換
	第 11 回	高度経済成長（１）　国際的条件
	第 12 回	高度経済成長（２）　財政・経済政策
	第 13 回	高度経済成長（３）　企業と社会
	第 14 回	ニクソン・ショックと石油危機
	第 15 回	まとめ
準備学習	毎回、授業の最後に次回の予告をします。その内容について、文献やインターネット上の情報など、自分なりの方法で予備知識を付けてきてください。	
履修上の留意点等	授業内容は、連続しています。欠席や遅刻は、内容理解を困難にするので、注意してください。授業中に理解できないことは放置せず、参考文献や辞書などを利用して調べるようにしましょう。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	指定しません。各回、資料や図表をまとめたプリントを配布します。配布済みの資料を参照することもあるので、各自ファイルして毎回持参してください。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史－太閤検地から戦後復興まで－』（税務経理協会、2002年）。沢井実・谷本雅之『日本経済史－近世から現代まで－』（有斐閣、2016年）。そのほか各回の配付プリントで、参考文献を指示します。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度授業アンケート結果無し。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093401 / 西洋経済史ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	大塩　量平（オオシオ　リヨウヘイ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現在のグローバル経済には大きなしくみに基づいて動いています。自由主義的な資本主義と市場経済という2つのしくみです。そのしくみに基づく経済活動は西洋、特に西ヨーロッパで過去200～250年ほどの間に発達してきました。日本もそれらの影響下で明治以降、特に戦後に経済成長を遂げてきたのです。西洋経済の歴史を学ぶことは、現代の経済のしくみを考えることにつながるでしょう。 この授業では、西洋発祥の市場経済がどんな歴史的経緯で世界的に拡大浸透したのか、ということを講義します。
到達目標(ねらい)	この授業は、経済学部学位授与方針で規定されたDP5（専門分野の知識・技能の活用力）と、DP2（幅広い教養、多様性の理解と尊重）の能力の育成を目指します。この授業を履修することで、受講者は市場経済という近現代の経済の根幹の歴史的意味を理解し、現在および今後の世界経済のあり方への自分の考えを述べることができるようになるでしょう。
授業スケジュール	全15回の授業は以下のように進めます。 ①　西洋経済史とは：近代ヨーロッパの経済史的インパクト ②　近代以前のヨーロッパの市場経済①：中世社会のしくみ ③　近代以前のヨーロッパの市場経済②：近世の商工業と国際市場の発達 ④　イギリスの産業革命と新しい市場の形成（18世紀） ⑤　大陸ヨーロッパの工業化と国民市場の形成(18世紀から19世紀) ⑥　大陸ヨーロッパの工業化と国民市場の形成（つづき）とアメリカ合衆国の工業化 ⑦　第二次工業化と社会・環境の変化(19世紀) ⑧　19世紀初頭までのヨーロッパの国内・国際市場 ⑨　19世紀の国際経済のグローバル化――自由貿易か保護貿易か ⑩　20世紀初頭の国際経済システムの変容――経済面の競争から第一次世界大戦へ ⑪　第一次世界大戦と戦後復興、そして戦後処理 ⑫　戦間期の西洋の社会経済と第二次世界大戦 ⑬　戦後のヨーロッパ経済――経済復興と冷戦、そしてヨーロッパ統合 ⑭　アメリカ主導の戦後の国際貿易体制 ⑮　グローバルな現代の市場経済へ
準備学習	西洋史の知識がない方にも理解できるよう、周辺知識もわかりやすく説明しますが、必要に応じて各自で自習してください。（自習方法は授業中に指示します） 授業中に疑問に思ったことは終了後に教員に質問するか、コメント用紙に記入し提出して下さい。　講義内容は多いですから、授業後はよく復習するようにしてください。授業中の自分のメモ・ノートを整理し、疑問点があれば調べましょう。余裕があれば参考文献や関連する事項を調べると内容理解が深まります。
履修上の留意点等	受講者には集中して静かに講義を聴き、必要なことはメモをする、ということを求めます。そのため、前日はよく睡眠をとってください。集中できるかどうかが大学の勉強の成果を左右します。 なお出席はとりませんが、遅刻早退は特別な理由がない限り避けること。教室内の緊張感を削ぐようなことは厳に慎んでください。
成績評価の方法	95 ％　試験

		レポート
		小テスト
	5 %	平常点
	※平常点について： 出席は取らないが、時おり授業の終わりに授業の要約や感想･質問を書いて提出してもらう。	
教科書/テキスト	なし（授業ごとに詳しい参考資料を配付します。　※欠席した受講者には翌週以降に配付します）	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	各回に応じた参考書を授業中に指示します。 （西洋経済史全般について関心があれば、後期の同じ教員の授業[西洋経済史ｂ]を履修してください）	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	（※今年度初めての担当のため、授業アンケート実績なし）	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	093451 / 西洋経済史ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	大塩　量平（オオシオ　リヨウヘイ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現在の経済の基本となるしくみは市場経済と資本主義です。前期の授業（西洋経済史a）では市場経済の発達から近現代の経済の歴史と現代経済への影響を扱いましたが、この授業（西洋経済史b）では、中世以来のヨーロッパでの資本主義の発達に焦点を当てながら、近現代の西洋および世界経済の歴史的経緯を説明し、最後に現在・将来の経済を、過去数百年の流れの中から改めて見つめ直すことにしたいと思います。
到達目標(ねらい)	この授業は、経済学部学位授与方針で規定されたDP5（専門分野の知識・技能の活用力）と、DP2（幅広い教養、多様性の理解と尊重）の能力の育成を目指します。この授業を履修することで、受講者は資本主義および市場経済という近現代の経済の根幹の歴史的意味を理解し、また経済はなぜ・どのように発達してきたのか、さらには現在および今後の経済はどうあるべきか、ということについて自分の考えを述べることができるようになるでしょう。
授業スケジュール	全１５回の授業の各回の構成は以下の通りです。 ①　イントロダクション：西洋経済史から経済発展を考える ②　資本主義とは何か ③　中近世の資本主義の発達 ④　産業革命とは何か ⑤　近代資本主義の経済制度 ⑥　近代の国家と経済活動 ⑦　自然環境と経済活動 ⑧　近代の社会・家と経済活動 ⑨　資本主義体制下の世界経済システム ⑩　近代から現代へ ⑪　第１のグローバル経済と第一次大戦 ⑫　第一次大戦とその後（戦間期）の経済 ⑬　第二次大戦とその後（戦後）の経済 ⑭　第2のグローバル化の時代 ⑮　歴史的に将来を考える：経済成長の限界と可能性
準備学習	西洋史の知識がない方にも理解できるよう、周辺知識もわかりやすく説明しますが、必要に応じて各自で自習してください。（自習方法は授業中に指示します） 授業中に疑問に思ったことは終了後に教員に質問するか、コメント用紙に記入し提出して下さい。 講義内容は多いですから、授業後はよく復習するようにしてください。授業中の自分のメモ・ノートを整理し、疑問点があれば調べましょう。余裕があれば参考文献や関連する事項を調べると内容理解が深まります。
履修上の留意点等	受講者には集中して静かに講義を聴き、必要なことはメモをする、ということを求めます。 そのため、前日はよく睡眠をとってください。授業中に集中できるかどうかが、大学の勉強の 成果を左右します。 出席はとりませんが、遅刻早退は特別な理由がない限り避けること、また教室内の緊張感を削ぐようなことは厳に慎むことを徹底してください。

成績評価の方法	95 %	試験
		レポート
		小テスト
	5 %	平常点
	※出席は取らないが、時おり授業の終わりに授業の要約や感想･質問を書いて提出してもらう。	
教科書/テキスト	授業中に詳しい参考資料（一部は下記の参考書に基づいています）を配付します。 ※欠席した受講生は翌週以降の授業で配付します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小野塚知二（著）『経済史 いまを知り、未来を生きるために』有斐閣、4000円、ISBN978-4641165151。 ※授業の基本的な流れはこの本に基づいています。自宅学習としてこの本を読むことは有益でしょう。 その他、各授業ごとに関連する参考書を指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	（※今年度初めての担当のため、授業アンケート実績なし）	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	093501 / 農業政策ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	溝手　芳計（ミゾテ　ヨシカズ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	かつて、農業政策の中心課題は、農民の貧困問題の原因究明と解決策の提示であったが、今日では、食料の安全・安心・安定的確保や農村地域振興や環境への影響といった新しい問題がクローズアップされている。講義では、そうした変化を念頭に置いて、農業の産業的特質を踏まえつつ、現在進行している農業及び農業政策の急激な変化の実態と意義を明らかにする。考察に当たっては、経済全体の動向との関連を重視する。ａでは、イメージを描きやすい食料問題・食料政策を手がかりとして、「食と農の工業化」及びアグリビジネスの影響力拡大について論じる。	
到達目標(ねらい)	ａ では、①食料問題の質的側面（安全･安心）と量的側面（安定供給）の実態を知る、②現代の食料問題の背景に「食と農の工業化」を通じたフードシステムの変化、特にアグリビジネス（農業関連産業）の影響力拡大とグローバル展開があることをを理解する、③アグリビジネス台頭が20世紀における農業生産技術の急激な進歩と関連していることを、農業の産業的特質との関連で整理する、以上の力を養うことを目標とする。	
授業スケジュール	第 1 回	農業政策とは？（ａのガイダンス）
	第 2 回	食料問題と食料政策(1)食料問題とは何か？
	第 3 回	食料問題と食料政策(2)食料自給率の低下と需要サイドの要因
	第 4 回	食料問題と食料政策(3)食料自給率の低下と供給サイドの要因
	第 5 回	食料問題と食料政策(4)食の外部化・サービス化とフードシステム
	第 6 回	食料問題と食料政策(5)フードシステムの発展とアグリビジネスの影響力拡大
	第 7 回	食料問題と食料政策(6)グローバリゼーションと食料･食品安全問題
	第 8 回	食料問題と食料政策(7)食料安全保障と食料主権論
	第 9 回	農業の特質と現代農業(1)農業の産業的特質（生物資源培養産業、環境関連産業）
	第 10 回	農業の特質と現代農業(2)農業の産業的特質（土地利用産業）
	第 11 回	農業の特質と現代農業(3)現代農業革命と食と農の工業化
	第 12 回	農業の特質と現代農業(4)食と農の工業化とアグリビジネスによる農業支配
	第 13 回	農業の特質と現代農業(5)アグリビジネスのグローバル展開と世界の農業問題（先進国）
	第 14 回	農業の特質と現代農業(6)アグリビジネスのグローバル展開と世界の農業問題（後発途上国）
	第 15 回	ａ のまとめ
準備学習	前渡レジュメ及び参考書等を予習して授業を受けてください。	
履修上の留意点等	初回の授業で、より詳細な履修ガイダンスを行うので、出席すること。やむを得ず欠席する場合は、２週間以内に、説明希望を申し出ること。 教科書は使わないが、参考書①の内容を基本に据えて授業を行うので、入手して予復習することをすすめる。 充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布するので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

	成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストを一部考慮します。（総点の20％以内、詳しくは、初回授業で説明します。）	
教科書/テキスト	なし。ただし、下記の参考書①の内容を基本として構成している。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	①田代洋一『農業･食料問題入門』、大月書店、2,808円、ISBN9784-2721-4060-2 ②大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』、有斐閣、ISBN4-641-28094-0 ③鈴木宣弘･木下順子『食料を読む』、日経文庫、ISBN978-4-532-11215-8 C1233	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	・早口にならないよう、注意します。 ・遅刻をしないよう心がけます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	093551 / 農業政策ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	溝手　芳計（ミゾテ　ヨシカズ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	かつて、農業政策の中心課題は、農民の貧困問題の原因究明と解決策の提示であったが、今日では、食料の安全・安心・安定的確保や農村地域振興や環境への影響といった新しい問題がクローズアップされている。講義では、そうした変化を念頭に置いて、農業の産業的特質を踏まえつつ、現在進行している農業及び農業政策の急激な変化の実態と意義を明らかにする。考察に当たっては、経済全体の動向との関連を重視する。 ｂ では、戦後日本の食料･農業政策の歩みを紹介したうえで、食と農の工業化との関連で近年の農業政策の大変化の意味を検討する。	
到達目標(ねらい)	ｂ では、①日本農業の特質としての零細性の実態とその制約を知る、②戦後日本の農業政策の歩みを経済全体の動向との関連において整理する、③食と農の工業化を背景として世界と日本の食料･農業政策の考え方が大きく転換し、そのことが新たな問題を引き起こしていることを批判的に検討する、以上の力を養うことを目標とする。	
授業スケジュール	第 1 回	農業政策とは？（ａのポイント整理とｂのガイダンス）
	第 2 回	日本の農業問題と農業政策(1)日本の農業政策を見る目
	第 3 回	日本の農業問題と農業政策(2)零細農耕＝零細分散錯圃制の形成
	第 4 回	日本の農業問題と農業政策(3)農地改革と零細農耕＝零細分散錯圃制
	第 5 回	日本の農業問題と農業政策(4)高度経済成長と農業基本法農政
	第 6 回	日本の農業問題と農業政策(5)低成長への移行と地域農政
	第 7 回	日本の農業問題と農業政策(6)ＷＴＯ農業協定と農政改革
	第 8 回	日本の農業問題と農業政策(7)食料･農業・農村基本法
	第 9 回	日本の農業問題と農業政策(8)政権交代と農業政策
	第 10 回	農産物価格と価格･所得問題(1)農産物価格形成の特殊性（土地利用産業と差額地代）
	第 11 回	農産物価格と価格･所得問題(2)農産物価格形成の特殊性（家族経営の価格形成、独占価格）
	第 12 回	農産物価格と価格･所得問題(3)農産物価格政策の２類型（価格支持と不足払い）
	第 13 回	農産物価格と価格･所得問題(4)戦後日本の農産物価格政策（米価政策を中心に）
	第 14 回	農産物価格と価格･所得問題(5)価格政策のから直接支払いへ
	第 15 回	ｂ のまとめ
準備学習	前渡レジュメ及び参考書を予習して授業を受けてください。	
履修上の留意点等	初回の授業で、より詳細な履修ガイダンスを行うので、出席すること。やむを得ず欠席する場合は、２週間以内に、説明希望を申し出ること。 教科書は使わないが、参考書①の内容を基本に据えて授業を行うので、入手して予復習することをすすめる。 充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布するので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

	成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストを一部考慮します。（総点の20％以内、詳しくは、初回授業で説明します。）	
教科書/テキスト	なし。ただし、下記の参考書①の内容を基本として構成している。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	①田代洋一『農業･食料問題入門』、大月書店、2,808円、ISBN9784-2721-4060-2	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	・早口にならないよう、注意します。 ・遅刻をしないよう心がけます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	093601 / 工業政策ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	中島　章子（ナカジマ　アキコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現代日本における工業は、人材不足など厳しい状況にあるものの、高い技術力をもって今なお国際競争力を持つ日本の主たる産業である。本科目では日本における工業の実態や特徴をみながら、それらが抱える課題に対し、どのように政策が講じられているのか考察していく。 前期では、工業政策の基本的な事項（枠組み、目的、手段）について学び、併せてこれまでの工業政策の変遷をみながら、政策が日本における産業の形成にどのように関わってきたのかを考察していく。さらに中小企業や地域単位における工業政策についても検討していく。	
到達目標(ねらい)	・日本における工業（産業）政策の基本コンセプトや形成、展開など基礎的な知識を習得する。 ・日本における産業発展と政策の変遷過程を学ぶことで、グローバル化が進展する近年において、日本産業を取り巻く環境と課題について総合的な知識を習得する。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：工業政策を学ぶにあたって
	第 2 回	工業政策の目的
	第 3 回	工業政策の役割
	第 4 回	工業政策の手段と執行
	第 5 回	日本における工業（ものづくり産業）の特性と役割
	第 6 回	日本の産業構造とその変遷
	第 7 回	産業構造政策：成長産業の育成
	第 8 回	産業構造政策：衰退産業の保護
	第 9 回	戦後から1950年代における工業政策
	第 10 回	50年代から60年代における工業政策：高度経済成長期の産業
	第 11 回	70年代以降の工業政策
	第 12 回	現代日本の工業（産業）が抱える課題
	第 13 回	中小企業政策
	第 14 回	自治体による工業政策
	第 15 回	まとめ
準備学習	現在の日本における工業分野（ものづくり）における、新製品の開発をはじめとした企業、産業動向に対して関心を高めてほしい。新聞やインターネット等より、日常的にこれらの情報に注目し、触れることが望ましい。	
履修上の留意点等	工業政策a、bを一括履修することが望ましい。	
成績評価の方法	80 %	試験
		レポート
	20 %	小テスト
		平常点

教科書/テキスト	毎回レジュメを配布する。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業内で適宜紹介する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	新採用教員による科目のため、前年度アンケート実績なし。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093651 / 工業政策ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	中島　章子（ナカジマ　アキコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現代日本における工業は、人材不足など厳しい状況にあるものの、高い技術力をもって今なお国際競争力を持つ日本の主たる産業である。本科目では日本における工業の実態や特徴をみながら、それらが抱える課題に対し、どのように政策が講じられているのか考察していく。 後期では主に３つの視点における工業政策について考察していく。まず地方自治体など地域レベルでの政策、次に工業が他の分野に展開していくうえでの政策、最後に日本における新規創業を促進する政策について検討を加える。	
到達目標(ねらい)	・日本における工業（産業）政策の基本コンセプトや形成、展開など基礎的な知識を習得する。 ・日本における産業発展と政策の変遷過程を学ぶことで、グローバル化が進展する近年において、日本産業を取り巻く環境と課題について総合的な知識を習得する。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：工業政策とは（前期の振り返り）
	第 2 回	工業が立地する決定要因
	第 3 回	産業集積の諸理論
	第 4 回	産業立地にかかる政策
	第 5 回	地域特性と産業
	第 6 回	中小企業における産業構造
	第 7 回	中小製造業にみる下請構造
	第 8 回	産業を横断するものづくり：工業とサービス分野の例
	第 9 回	産業を横断するものづくり：工業とデザイン
	第 10 回	日本における機械情報産業の位置付け
	第 11 回	機械情報産業の変遷
	第 12 回	現代の機械情報産業における課題と政策
	第 13 回	工業におけるイノベーション創出にかかる政策
	第 14 回	日本における創業・ベンチャーの現状と政策
	第 15 回	まとめ
準備学習	現在の日本における工業分野（ものづくり）における、新製品の開発をはじめとした企業、産業動向に対して関心を高めてほしい。新聞やインターネット等より、日常的にこれらの情報に注目し、触れることが望ましい。	
履修上の留意点等	工業政策a、bを一括履修することが望ましい。	
成績評価の方法	80 ％	試験
		レポート
	20 ％	小テスト
		平常点

教科書/テキスト	毎回レジュメを配布する。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業内で適宜紹介する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	新採用教員による科目のため、前年度アンケート実績なし。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093811 / 中小企業論		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉田　敬一（ヨシダ　ケイイチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	ハイテク製品を作るベンチャーも、商店街のパン屋さんも中小企業。中小企業は異質で多様 な形で存在しています。しかも戦後日本の経済発展において中小企業は意外に大きな役割を 果たしてきました。そこで講義では主力産業である自動車工業を事例として中小企業の経済 的役割を明らかにしていきます。日本経済の中の中小企業の位置と役割がメインテーマで す。また授業の節 目時に資料配布等を通じてアクティブラーニングの狙いである主体的な思考・発表能力 の習得を高める内容を目指します。	
到達目標(ねらい)	製造業を事例として国民経済の中に占める中小企業の役割を理解すること、日本の企業間格 差は先進国では異例の現象であること、本来の先進国型経済では企業規模の大小が企業の優 劣を決めているのではないこと、教育課程の編成方針に従って特にグローバル時代に持続可能な国民経済を担う一つの役割を 中小企業が持っていることについて、教育課程の編成方針の趣旨を踏まえて、理解することが狙いです。	
授業スケジュール	第 1 回	授業ガイダンス 前期講義の内容と構成の説明。
	第 2 回	中小企業の基礎理論 1 中小企業の法的規定
	第 3 回	2 中小企業の経営類型
	第 4 回	3 中小企業と会社形態
	第 5 回	4 日本型下請け構造の特質（1）
	第 6 回	5 日本型下請け構造の特質（2）
	第 7 回	日本型下請けシステムの形成過程 1-1 日本経済復活期の生産分業構造（1）
	第 8 回	1-2 日本経済復活期の生産分業構造（2）1-2 日本経済復活期の生産分業構造（2）
	第 9 回	2-1 高度成長期の下請け管理の合理化（1）
	第 10 回	2-2 高度成長期の下請け管理の合理化（2）
	第 11 回	3-1 国際化と日本型下請けシステムの確立（1）
	第 12 回	3-2 国際化と日本型下請けシステムの確立（2）
	第 13 回	4-1 グローバル化と中小企業問題（1）
	第 14 回	4-2 グローバル化と中小企業問題（2）
	第 15 回	講義のまとめ
準備学習	中小企業問題は国内外の経済現象と密接にかかわりあっているので、新聞に目を通すとこを 心掛けてもらいたい。また講義で述べる統計類などは中小企業庁のホームページで閲覧でき るので活用してもらいたい。	
履修上の留意点等	テキストは使用せず、ノート講義方式で授業は行います。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	テキストは使用しません。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	『中小企業白書』、渡辺幸男ほか『２１世紀中小企業』、吉田敬一ほか『地域振興と中小企 業』など。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	板書が多いので、ていねいに書くように心がけます。	
関連リンク	ありません。	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	093821 / 中小企業政策論		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉田　敬一（ヨシダ　ケイイチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	戦後日本の高度成長を支えた中小企業の経営・技術革新過程を支援した中小企業政策の手法 と施策を経済政策との関係のことで説明していきます。合わせてアジア諸国の経済政策の基 本となった近代化政策の原型が日本の中小企業政策であったことを、授業の節目時に資料配布等を通じてアクティブラーニングの狙いである主体的な思考・発表能力の習得を含めて、授業内容を理解してもらいます。	
到達目標(ねらい)	中小企業は遅れた存在、劣った存在というイメージは現実に中小企業が果たしている役割を 見ていない誤った理論であること、ただし現代日本では正当な評価を中小企業が受けていな い現実があることを理解し、教育課程の編成方針の趣旨を踏まえて持続可能な経済建設に果たす中小企業の役割を考える基礎知識 を身に着けてもらうことが講義の狙いです。	
授業スケジュール	第 1 回	授業ガイダンス
	第 2 回	1-1 戦後復興期の中小企業政策（占領下の中小企業政策）
	第 3 回	1-2 戦後復興期の中小企業政策（中小企業金融システムの形成）
	第 4 回	1-3 戦後復興期の中小企業政策（経済民主化と中小企業政策）
	第 5 回	2-1 高度成長と中小企業近代化政策（下請法の制定）
	第 6 回	2-2 高度成長と中小企業近代化政策（中小企業基本法と近代化政策）
	第 7 回	2-3 高度成長と中小企業近代化政策（中小企業近代化政策の構図）
	第 8 回	2-4 高度成長と中小企業近代化政策（中小企業近代化政策の変遷）
	第 9 回	2-5 高度成長と中小企業近代化政策（国際化と中小企業近代化政策）
	第 10 回	3-1 中小企業政策の大転換（バイタルマジョリティ論）
	第 11 回	3-2 中小企業政策の大転換（テクノポリス構想と中小企業政策）
	第 12 回	3-3 中小企業政策の大転換（自治体の中小企業政策）
	第 13 回	4-1 経済のグローバル化と中小企業政策（空洞化問題）
	第 14 回	4-2 経済のグローバル化と中小企業政策（中小企業基本法の改訂）
	第 15 回	講義のまとめ
準備学習	1．新聞を読む習慣を身に着けること 2．官公庁のホームページで統計類・調査報告書を探す練習をすること。	
履修上の留意点等	テキストは使用せず、ノート講義方式で授業は行います。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	テキストは使用しません。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	『中小企業白書』『経済財政白書』『ものづくり白書』など官公庁の資料類。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	板書が多いので、ていねいに書くように心がけます。	
関連リンク	特にありません。	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	093701 / 経済地理 a		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	福井　一喜（フクイ　カズキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では，経済地理に関する基本的理論や状況を学ぶ．授業は講義形式で行うが，学生に意見を求めることもある．	
到達目標(ねらい)	本講義では，経済地理学の基本的理論を学び，経済現象を地理学的に理解する視点を身につけることができる．先進国ないし日本の経済状況は，いかなる視点からいかなるものとして理解されるのか，日本の諸地域にいていかなる経済現象が生じているのかについて学ぶことができる．文学部学位授与方針2（DP2）「各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点から的確に対応できる。」に深く関連する．	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：なぜ経済地理なのか？
	第 2 回	経済地理学とは何か？
	第 3 回	経済の主な作用主体
	第 4 回	先進国経済の動向：知識経済化
	第 5 回	企業立地の空間理論
	第 6 回	サービス経済化と地域格差(1)
	第 7 回	サービス経済化と地域格差(2)
	第 8 回	地域格差と“地方創生”
	第 9 回	進学と就職の経済地理
	第 10 回	観光ビジネスの立地と地域：ネコの島
	第 11 回	社会の二極化と都市の二極化
	第 12 回	非正規雇用の経済地理学
	第 13 回	集積の利益と外部経済
	第 14 回	世界の多極化」
	第 15 回	まとめ
準備学習	普段の生活で，身近な地域を経済地理の観点から観察し，講義内容と結びつけて考察すること．	
履修上の留意点等	静かに受講すること．私語は厳禁とし，厳しく注意する．	
成績評価の方法		試験
	90 %	レポート
		小テスト
	10 %	平常点
教科書/テキスト	指定しない．	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	アンケート未実施である.
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093751 / 経済地理ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	福井　一喜（フクイ　カズキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では，経済地理に関する基本的理論や状況を学ぶ．授業は講義形式で行うが，学生に意見を求めることもある．	
到達目標(ねらい)	本講義では，経済地理学の基本的理論を学び，経済現象を地理学的に理解する視点を身につけることができる．先進国ないし日本の経済状況は，いかなる視点からいかなるものとして理解されるのか，日本の諸地域にいていかなる経済現象が生じているのかについて学ぶことができる．文学部学位授与方針2（DP2）「各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点から的確に対応できる。」に深く関連する．	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：なぜ経済地理か？
	第 2 回	大都市の産業集積
	第 3 回	コミュニケーション志向と産業集積(1)
	第 4 回	コミュニケーション志向と産業集積(2)
	第 5 回	先進国の農業現況
	第 6 回	先進国農村の経済保護
	第 7 回	世界遺産登録と地域経済
	第 8 回	聖地の経済地域化
	第 9 回	観光産業集積と経済地理学：比叡山
	第 10 回	交通が便利な街，とは？
	第 11 回	ITベンチャーの経済地理
	第 12 回	農作物の地域ブランド化
	第 13 回	フードデザート問題
	第 14 回	監視社会とレジャー行為
	第 15 回	まとめ
準備学習	普段の生活で，身近な地域を経済地理の観点から観察し，講義内容と結びつけて考察すること．	
履修上の留意点等	静かに受講すること．私語は厳禁とし，厳しく注意する．	
成績評価の方法		試験
	90 %	レポート
		小テスト
	10 %	平常点

教科書/テキスト	指定しない.
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	アンケート未実施である.
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	099111 / 公共経済学ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	鈴木　伸枝（スズキ　ノブエ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か．どのような政策が望ましいのか．理想をすべて満たすような政策はあるのか．ないとすれば，どのような政策なら実現可能なのか．そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか．公共経済学では，こうした問題をミクロ経済学の手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます． 市場への政府介入の経済学的根拠は，効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の３要因と，「公平性」にあります．一方，市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません．不完全情報のため最適な政策が実施できなかったり，規制が新たな不完全競争の原因となったりするからです． 【公共経済学a】では，上で挙げた効率性３要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら，完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます．【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに，「外部性」と「公平性」を組み合わせて所得再分配を説明したり，「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと，より高度な理論を紹介していきます．この講義をしっかり理解すれば，講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり，専門書を読んでさらに知識を深めることができるはずです．	
到達目標(ねらい)	ミクロ経済モデルを用いた分析方法をしっかりと身につけます．	
授業スケジュール	第 1 回	1．ガイダンス＆イントロダクション
	第 2 回	2．政府の役割 政府の役割と経済学 政府に対する見方と公共経済学のアプローチ
	第 3 回	3．完全競争 企業の利潤最大化行動 微分
	第 4 回	3．完全競争 微分 完全競争企業
	第 5 回	3．完全競争 完全競争企業 社会的余剰
	第 6 回	4．課税 財への課税の効果
	第 7 回	4．課税 日本の税制
	第 8 回	5．価格統制 二重価格制度 価格抑制政策・価格維持政策
	第 9 回	ここまでの復習
	第 10 回	6．独占 不完全競争 独占企業
	第 11 回	6．独占 自然独占
	第 12 回	7．寡占 クールノー競争 ベルトラン競争
	第 13 回	ここまでの復習
	第 14 回	7．寡占 シュタッケルベルク競争

		8．競争均衡の効率性・公平性 パレート効率性
	第 15 回	8．競争均衡の効率性・公平性 消費者理論I その他の価値判断基準
準備学習	予習は不要です．復習をしっかりとしてください．	
履修上の留意点等	【ミクロ経済学】もしくは【企業経済学a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます．また，公共経済学は数学を多用する分野です．高校数学の予備知識は要求しませんが，講義でわからなかった部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしません． なお，この授業は公務員試験・各種資格試験に関係します．	
成績評価の方法	40 ％	試験
		レポート
	60 ％	小テスト
		平常点
	ほぼ毎回YeStudyを用いた小テストを実施します．試験と小テストの比重は受講生へのアンケート等によって変更する場合があります．	
教科書/テキスト	なし．プリント・板書を中心に授業を行います．	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索		
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	アンケートでは，スライドが見やすいという声と見にくいという声が両方出ました．より見やすくするよう，努力しています．	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	099121 / 公共経済学ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	鈴木　伸枝（スズキ　ノブエ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	社会福祉や環境政策といった政府介入はなぜ必要か．どのような政策が望ましいのか．理想をすべて満たすような政策はあるのか．ないとすれば，どのような政策なら実現可能なのか．そして実施された政策はどんな効果をもたらすのか．公共経済学では，こうした問題をミクロ経済学の手法を用いて効率性・公平性の観点から考えます． 市場への政府介入の経済学的根拠は，効率性面での市場の失敗を引き起こす「不完全競争」「外部性」「不完全情報」の３要因と，「公平性」にあります．一方，市場の失敗は必ずしも政府介入により解決されるとは限りません．不完全情報のため最適な政策が実施できなかったり，規制が新たな不完全競争の原因となったりするからです． 【公共経済学a】では，上で挙げた効率性３要因のうち「不完全競争」を中心に扱いながら，完全競争市場の効率性・公平性と政府介入の影響について学びます．【公共経済学b】では「外部性」「不完全情報」を学ぶとともに，「外部性」と「公平性」を組み合わせて所得再分配を説明したり，「外部性」と「不完全情報」の両側面から教育を捉えたりと，より高度な理論を紹介していきます．この講義をしっかり理解すれば，講義時間内で扱いきれない多くの政策についても習得した理論を応用して自分で考えたり，専門書を読んでさらに知識を深めることができるはずです．	
到達目標(ねらい)	ミクロ経済モデルを用いた分析方法をしっかりと身につけます．	
授業スケジュール	第 1 回	9．ガイダンス&前期復習
	第 2 回	10．消費者理論II・数学的準備II 無差別曲線と効用最大化 偏微分
	第 3 回	10．消費者理論II・数学的準備II 個人の効用最大化効用
	第 4 回	11．外部性 外部性とは
	第 5 回	11．外部性 外部性とは 合併による解決
	第 6 回	11．外部性 交渉による解決
	第 7 回	11．外部性 税・補助による解決
	第 8 回	11．外部性 規制による解決
	第 9 回	復習
	第 10 回	12．公共財 公共財とは
	第 11 回	12．公共財 政府による公共財供給
	第 12 回	12．公共財 リンダール方式
	第 13 回	12．公共財 GCメカニズム
	第 14 回	13．応用 所得再分配もしくは環境問題
	第 15 回	復習
準備学習	予習は不要です．復習をしっかりとしてください．	

履修上の留意点等	【公共経済学a】に加えて，【ミクロ経済学】もしくは【企業経済学a・b】を履修済みであることを前提として講義を進めます．また，公共経済学は数学を多用する分野です． 高校数学の予備知識は要求しませんが，講義でわからなかった部分を理解するまで根気よく復習できない人には履修をお勧めしません． なお，この授業は公務員試験・各種資格試験に関係します．	
成績評価の方法	40 %	試験
		レポート
	60 %	小テスト
		平常点
	ほぼ毎回YeStudyを用いた小テストを実施します．試験と小テストの比重は受講生へのアンケート等によって変更する場合があります．	
教科書/テキスト	穴埋め式の講義ノートを配布します．市販の教科書は特に指定しません．	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索		
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	試験と小テストの比重についての不満のコメントが複数出て以来，真面目に授業を受けている学生が納得いく比重になるように，授業出席者にアンケートを取って最終的な配点を決めています．	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	094201 / 国際金融論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉田　真広（ヨシダ　マサヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	国際金融における為替取引と為替相場に関する基礎を学びます。また、原理を学ぶだけではなく、アクティブ・ラーニングとして、現実の国際金融上の問題を自分自身の問題として捉え、その問題の分析を進めるための基礎を学びます。	
到達目標(ねらい)	本講義では国際金融市場と国際金融制度に関する基礎的な理解を深めることを目的としています。また、ディプロマ・ポリシーに基づいて、国際金融問題の分析を進めるための基礎力を身につけることを目的としています。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション、国際金融論の概要、国際金融を学ぶ意義
	第 2 回	国際収支 1（国際収支と国際貸借など）
	第 3 回	国際収支 2（国際収支の記載原理など）
	第 4 回	国際収支 3（経常収支項目）
	第 5 回	国際収支 4（経常収支以外の項目）
	第 6 回	国際収支 5（IMF国際収支マニュアル）
	第 7 回	国際収支 6（国際収支の最近の動向）
	第 8 回	国際収支 7（国際収支統計と国民所得統計）
	第 9 回	為替取引 1（為替手形と約束手形）
	第 10 回	為替取引 2（外国為替取引の特徴）
	第 11 回	為替取引 3（逆為替と並為替）
	第 12 回	為替相場 1（為替相場とは何か）
	第 13 回	為替相場 2（受取勘定建て・支払勘定建て）
	第 14 回	為替相場 3（相場変動の影響）
	第 15 回	まとめ
準備学習	なし	
履修上の留意点等	国際金融論ｂも履修することが望ましい	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	特になし	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索		

学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	分かり易い説明をしていく
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	094251 / 国際金融論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉田　真広（ヨシダ　マサヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	国際金融論ａの知識を踏まえて、国際金融市場の機能と構造と国際金融制度の変遷を学びます。国際金融制度の変遷を学ぶ理由は、過去の制度を踏まえなければ、現在の「変動」相場制度の意味が明らかにならないからです。また、アクティブ・ラーニングとして、原理や制度、経緯などを学ぶだけではなく、現実の国際金融上の問題を自分自身の問題として捉え、その問題の分析を自らが進めるための知識を学びます。	
到達目標(ねらい)	国際金融論ａの知識を踏まえて、国際金融上のより具体的な姿を学んでいくことを目的としています。なお、ディプロマ・ポリシーに基づいて、国際金融を経済学や社会などの広い視野から考えることも大切です。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション、国際金融市場と国際金融制度の概略
	第 2 回	国際金融市場 1（直物と先物）
	第 3 回	国際金融市場 2（銀行間市場と対顧客市場）
	第 4 回	銀行の為替業務 1（電信相場と一覧払相場など）
	第 5 回	銀行の為替業務 2（持高資金調整）
	第 6 回	銀行の為替業務 3（銀行の持高と国際収支・為替相場）
	第 7 回	国際金融デリヴァティブ 1（スワップと金利裁定相場）
	第 8 回	国際金融デリヴァティブ 2（先物とオプションなど）
	第 9 回	国際金融制度 1（金本位制 1）
	第 10 回	国際金融制度 2（金本位制 2）
	第 11 回	国際金融制度 3（為替相場水準の意味と非金本位制＝現在）
	第 12 回	国際金融制度 4（第二次大戦後の固定相場制）
	第 13 回	国際金融制度 5（２つの水準の矛盾と固定相場制の崩壊）
	第 14 回	国際金融制度 6（変動相場制）
	第 15 回	まとめ
準備学習	国際金融論ａの内容を復習しておくこと	
履修上の留意点等	国際金融論ａの履修を前提としています。したがって、国際収支項目や為替取引方法などを理解しているものとして講義を行います。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	特になし	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	でるだけ分かり易く説明していきます。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	094301 / 人口論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	増田　幹人（マスダ　ミキト）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	人口学を学ぶ上で必要な基礎知識の習得を目指す。具体的には、人口統計の基礎や人口学的メカニズムなどを解説するとともに、出生、死亡、結婚などに及ぼす社会経済要因の影響を理論的に明らかにする。本授業は講義形式として実施するが、適宜、問題演習を行い、次週に解説するというアクティブラーニングを実施する。	
到達目標(ねらい)	基礎的な人口指標、経済発展と出生・死亡との関係、出生や結婚に及ぼす影響についての知識を理解・修得し、人口学の知識を基に社会経済問題を自分で考えることができるようになることを目指す。なお、本科目は、人口学の専門的知識および関連する分析例などについて学習するので、経済学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）である「情報分析力と問題解決力」と「専門分野の知識・技能の活用力」に強く関連している。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション～人口学とは何か
	第 2 回	人口統計の基礎（１）～人口静態統計と人口動態統計
	第 3 回	人口統計の基礎（２）～出生についての統計指標
	第 4 回	少子化のメカニズム～有配偶率・有配偶出生率が少子化に及ぼす影響
	第 5 回	出生タイミングと少子化～出生タイミングが期間およびコーホートの出生率に及ぼす影響
	第 6 回	高齢化に関する統計指標～老年人口係数を始めとする高齢化を測ることのできる様々な統計指標
	第 7 回	高齢化のメカニズム～高齢化の要因としての出生率の低下と平均寿命の伸長
	第 8 回	高齢化の各国比較～高齢化の水準と速度の国際比較
	第 9 回	人口転換理論～出生率の低下の歴史的考察
	第 10 回	出生力の経済学～出生率低下の理論的考察
	第 11 回	将来人口推計～日本における将来人口推計の計算手法
	第 12 回	将来の日本人口の動向～９つの仮定からなる日本の将来人口
	第 13 回	欧米先進国の少子化の進展状況～緩少子化国と超少子化国
	第 14 回	発展途上国の人口の動向～発展途上国における多様な人口現象
	第 15 回	世界人口の現状および将来展望～先進国と途上国の世界人口における位置づけ
準備学習	授業を受ける前には、少子高齢化および人口減少に関する知識について、何らかの手段で得ておくことが望ましい。また、授業を受講した後は、理解を深めるために、授業で習った内容を文章としてまとめておくことが望ましい。なお、授業内容や学習方法について学生から質問が出た場合には、その次の週に受講者全員にそれに対する回答を周知する。	
履修上の留意点等	この授業の内容は、公務員試験（経済事情、経済理論）などに関連する。なお、周囲の邪魔になる私語は厳禁とする。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

	試験の評価については、専門知識の理解やそれを用いて人口学における諸現象を説明できるか等、総合的に行う。	
教科書/テキスト	特に指定しない。なお、必要に応じてプリントを配布する。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	①大淵寛・森岡仁著、『経済人口学』、新評論、3,456円、1981年、ISBN:4-7948-7303-4 ②阿藤誠著、『現代人口学：少子高齢化の基礎知識』、日本評論社、2,916円、2000年、ISBN:978-4-535-55227-2	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」において、本授業のよかった点として「説明が丁寧で分かりやすい」との意見が多かった。今年度は、事例を用いるなどして、一層学生に興味を持ってもらうよう、分かりやすい説明を行う予定である。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目	内閣府において経済人口学に関する計量分析の実務を担当した経験を活かし、経済人口学の専門知識や関連する分析例などについて解説します。	

履修コード/科目名称	094351 / 人口論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	増田　幹人（マスダ　ミキト）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	人口変動が社会経済に及ぼす影響について様々な角度から解説することにより、今日の人口問題の理解を深める。具体的には、少子高齢化や人口減少が経済、財政、年金、労働力、自然環境などに及ぼす影響、およびそれらに対する対応策について解説する。本授業は講義形式として実施するが、適宜、問題演習を行い、次週に解説するというアクティブラーニングを実施する。	
到達目標(ねらい)	少子高齢化や人口減少がもたらす様々な社会経済問題についての知識を理解・修得し、人口学の知識を基に社会経済問題を自分で考えることができるようになることを目指す。なお、本科目は、人口学の専門的知識および関連する分析例などについて学習するので、経済学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）である「情報分析力と問題解決力」と「専門分野の知識・技能の活用力」に強く関連している。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション～年齢構造の変化が社会経済に及ぼす影響
	第 2 回	人口ボーナスと人口オーナス～出生率の低下が経済に及ぼす短期的・長期的影響
	第 3 回	高齢化と年金財政～現役世代の年金負担を緩和するための施策
	第 4 回	少子高齢化・人口減少と労働力～労働力に及ぼす短期的・長期的影響
	第 5 回	高齢化・人口減少と貯蓄・投資・科学技術～人口現象が貯蓄・投資・科学技術に及ぼす短期的・長期的影響
	第 6 回	少子高齢化・人口減少と消費市場～消費市場に及ぼす短期的・長期的影響
	第 7 回	高齢化と消費行動～高齢者特有の消費行動
	第 8 回	少子化対策（１）～出産・育児と就業の両立支援（出産・育児と就業への影響）
	第 9 回	少子化対策（２）～出産・育児に係る費用の負担軽減
	第 10 回	少子化対策（３）～働き方の改善、結婚支援
	第 11 回	少子化と教育費負担～少子化の重要な要因である教育費負担
	第 12 回	地域人口と経済・財政～地域の経済・財政を見るべきポイント（地方創生、財政赤字）
	第 13 回	市町村合併と経済・財政～財政赤字を解消するための市町村合併
	第 14 回	人口変動と資源・環境～人口増加が資源・環境に及ぼす影響（正の効果と負の効果）
	第 15 回	人口密度・世帯規模と資源・環境～人口集中と効率的なエネルギー利用
準備学習	授業を受ける前には、少子高齢化および人口減少が原因となっている社会経済問題に関する知識について、何らかの手段で得ておくことが望ましい。また、授業を受講した後は、理解を深めるために、授業で習った内容について文章としてまとめておくことが望ましい。なお、授業内容や学習方法について学生から質問が出た場合には、その次の週に受講者全員にそれに対する回答を周知する。	
履修上の留意点等	この授業の内容は、公務員試験（経済事情、経済理論）などに関連する。なお、周囲の邪魔になる私語は厳禁とする。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

	試験の評価については、専門知識の理解やそれを用いて人口学的な社会経済問題を説明できるか等、総合的に行う。	
教科書/テキスト	特に指定しない。なお、必要に応じてプリントを配布する。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	①大淵寛・兼清弘之編著、『少子化の社会経済学』、原書房、3,024円、2005年、ISBN:978-4-562-09102-7 ②井上孝・渡辺真知子編著、『首都圏の高齢化』原書房、3,456円、2014年、ISBN:978-4-562-09194-2 ③高橋重郷・大淵寛編著、『人口減少と少子化対策』、原書房、3,456円、2015年、ISBN:978-4-562-09203-1 ④阿部正浩編著、『少子化は止められるか？ 政策課題と今後のあり方』、有斐閣、2,160円、2016年、ISBN:978-4-641-16472-7	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」において、本授業のよかった点として「説明が丁寧で分かりやすい」との意見が多かった。今年度は、事例を用いるなどして、一層学生に興味を持ってもらうよう、分かりやすい説明を行う予定である。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目	内閣府において経済人口学に関する計量分析の実務を担当した経験を活かし、経済人口学の専門知識や関連する分析例などについて解説します。	

履修コード/科目名称	094401 / 教育経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	北條　雅一（ホウジヨウ　マサカズ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	教育経済学は，教育に関する問題を経済学の視点から分析する学問領域です。高学歴化や少子化が進む日本において，教育に対する国民の関心は高く，また教育成果の向上は国や地方の政府にとって重要な政策課題として位置付けられています。この授業では，教育経済学の基本的な考え方に基づいて，主に教育の需要側に焦点を当てた解説をおこないます。同時に，国内外の教育の現状や制度について，データ等を用いて紹介します。	
到達目標(ねらい)	・教育の経済学的特徴を理解し，適切に論じることができる。 ・日本の教育の現状について，適切に論じることができる。 ・教育需要と労働市場の関わりを理解し，適切に論じることができる。 本科目は，経済学部のディプロマポリシーDP5との関連が強く，DP2およびDP3とも関連しています。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション：教育経済学で何を学ぶのか
	第 2 回	教育の経済学的特徴(1)政府の関与
	第 3 回	教育の経済学的特徴(2)投資としての教育，費用負担
	第 4 回	教育の経済学的特徴(3)教育と経済成長，教育生産関数
	第 5 回	教育の現状と国際比較：日本の現状と制度，先進諸国との比較
	第 6 回	教育の経済効果（１）人的資本論の考え方
	第 7 回	教育の経済効果（２）進学の意思決定問題
	第 8 回	教育の経済効果（３）効果の計測
	第 9 回	教育の経済効果（４）シグナリング理論の考え方
	第 10 回	教育の経済効果（５）情報の不完全性と政府による教育供給
	第 11 回	教育と世代間移転（１）日本における世代間連鎖の現状，大衆教育社会
	第 12 回	教育と世代間移転（2）世代間連鎖モデル
	第 13 回	学校選択制(1)制度の概要と日本の現状
	第 14 回	学校選択制(2)マッチング問題
	第 15 回	期末試験（授業内試験）
準備学習	前日までにC-Learningで講義スライドを配布するので，目を通しておいてください。	
履修上の留意点等	「ミクロ経済学」を履修済みであることが望ましいです。履修者の理解度等によっては講義の内容を調整する可能性があります。授業中，他の受講生の迷惑となるような行為は慎んでください。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	特になし
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	荒井一博『教育の経済学―大学進学行動の分析』，有斐閣，1995年. 小塩隆士『教育の経済分析』，日本評論社，2002年. 川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』有斐閣，2017年. 経済協力開発機構『図表でみる教育 OECDインディケータ』，明石書店. 濱中淳子『検証・学歴の効用』，勁草書房，2013年.
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート実施後に必要があれば授業でフィートバックします。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	094451 / 教育経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	北條　雅一（ホウジヨウ　マサカズ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	教育経済学は，教育に関する問題を経済学の視点から分析する学問領域です。高学歴化や少子化が進む日本において，教育に対する国民の関心は高く，また教育成果の向上は国や地方の政府にとって重要な政策課題として位置付けられています。この授業では，近年活発に研究が進められている教育の供給側に焦点を当てた解説をおこないます。また，現代の日本が抱える教育課題についても解説します。	
到達目標(ねらい)	・教育の成果とその規定要因について理解し，適切に論じることができる。 ・教育政策の効果について理解し，適切に論じることができる。 ・現代の教育課題について適切に論じることができる。 本科目は，経済学部のディプロマポリシーDP5との関連が強く，DP2およびDP3とも関連しています。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション：概要説明
	第 2 回	教育データ分析の基礎（１）統計分析の考え方
	第 3 回	教育データ分析の基礎（２）教育データの特徴
	第 4 回	教育データ分析の基礎（3）因果推論の考え方
	第 5 回	教育の成果（１）学力の規定要因と家庭環境：The Coleman Report
	第 6 回	教育の成果（２）少人数学級の効果
	第 7 回	教育の成果（３）ピア・グループの効果
	第 8 回	教員政策（１）教員の質
	第 9 回	教員政策（２）教員の意欲，教員給与
	第 10 回	学力以外の教育成果（１）非認知能力
	第 11 回	学力以外の教育成果（２）性格特性の形成と労働市場における評価
	第 12 回	少子化と就学前教育
	第 13 回	学校選択制(1)日本の制度と現状
	第 14 回	学校選択制(2)マッチング問題
	第 15 回	期末試験（授業内試験）
準備学習	前日までにC-Learningで講義スライドを配布しますので，目を通しておいてください。	
履修上の留意点等	ミクロ経済学，統計学の基礎知識があれば望ましいです。教育経済論aとセットで受講することを勧めます。履修者の理解度等によっては講義の内容を調整する可能性があります。授業中，他の受講生の迷惑となるような行為は慎んでください。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	特になし
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小塩隆士『教育の経済分析』，日本評論社，2002年. 経済協力開発機構『図表でみる教育 OECDインディケータ』，明石書店. 中室牧子『「学力」の経済学』，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2015年. 中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学―データから真実を見抜く思考法』，ダイヤモンド社，2017年. 安田洋祐『学校選択制のデザイン―ゲーム理論アプローチ』，NTT出版，2010年.
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート実施後に必要があれば授業でフィードバックします。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093901 / 環境経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	西林　勝吾（ニシバヤシ　ショウゴ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義の目的は、現在、人間社会が抱える最も大きな問題の一つである環境問題とは何かを知り、さらにそれらの環境問題を経済学的に考えることである。講義内容は大きく二つに分かれる。前半では人間社会の歴史の中で、特に19・20世紀から現代にかけてどのような環境問題が起きてきたのかを、環境史・公害史研究を紐解きながら明らかにしていく。後半では、そのような環境問題を経済学的に分析する手法・枠組みを学び、環境経済学の意義と課題について議論を深めていく。	
到達目標(ねらい)	これまでの歴史の中で様々な悲劇を生んできた種々の環境問題を知り、そして環境問題を通じて人間社会のこれまでの歩みの一端に触れる機会にしてほしい。また、環境経済学の議論を通じて、経済学的な考え方を身につけ、環境問題以外の社会問題についても経済学的に考える能力を身に着ける。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション
	第 2 回	生態学の基礎
	第 3 回	環境問題とは何か
	第 4 回	環境問題の歴史①（古代～中世）
	第 5 回	環境問題の歴史②（近代以降～20世紀前半）
	第 6 回	環境問題の歴史③（20世紀後半）
	第 7 回	日本の公害史（四大公害）
	第 8 回	ミクロ経済学の基本的な考え方
	第 9 回	外部不経済
	第 10 回	コモンズの悲劇
	第 11 回	環境政策①（直接規制、税・補助金）
	第 12 回	環境政策②（排出権取引）
	第 13 回	環境評価
	第 14 回	環境経済学の意義と課題①
	第 15 回	環境経済学の意義と課題②
準備学習	前回のレジュメに一通り目を通しておくこと。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	60 %	試験
		レポート
		小テスト
	40 %	平常点

教科書/テキスト	授業毎にレジュメを配布する。テキストは特に指定しない。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業時に適宜紹介する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業時に提出するリアクションペーパーを通じて、学生との双方向性を重視する。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	093951 / 環境経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	西林　勝吾（ニシバヤシ　ショウゴ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義の目的は、環境問題と地域経済の結びつきを考えることである。したがって、本稿では環境経済論と地域経済論が交差するテーマを扱う。前半では経済学及び環境経済学をはじめ、公共経済学、地域経済学の基本的な考え方を学ぶ。後半では、環境問題と地域経済がどのように関連し合ってきたのか、象徴的な事例を取り上げる。	
到達目標(ねらい)	環境経済学と地域経済学の考え方を学ぶこと、および環境経済学や地域経済学の考え方と現実がどのように関連し合っているのか学ぶことを目標とする。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション
	第 2 回	経済学の基礎（ミクロ・マクロ等）
	第 3 回	環境経済学の基礎（外部不経済の意義と課題）
	第 4 回	公共経済学の基礎（公共財の理論）
	第 5 回	地域経済の基礎（外来型発展と内発的発展）
	第 6 回	公害問題と地域経済①（水俣、四日市など）
	第 7 回	公害問題と地域経済②（福島など）
	第 8 回	公害問題と地域経済③（沖縄など）
	第 9 回	環境保全と地域経済①（下川町・海士町など）
	第 10 回	環境保全と地域経済②（ルール工業地帯）
	第 11 回	再生可能エネルギーと地域経済①（日本の事例）
	第 12 回	再生可能エネルギーと地域経済②（ドイツの事例）
	第 13 回	「地方創生」論再考①
	第 14 回	「地方創生」論再考②
	第 15 回	まとめ
準備学習	前回のレジュメに一通り目を通しておくこと。	
履修上の留意点等	環境経済論ａを履修しておくことが望ましい。	
成績評価の方法		試験
	60 ％	レポート
		小テスト
	40 ％	平常点
教科書/テキスト	授業毎にレジュメを配布する。テキストは特に指定しない。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業時に適宜紹介する。	

学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業時に提出するリアクションペーパーを通じて、学生との双方向性を重視する。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	094601 / アジア経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	鄭　章淵（チヨン　チヤンヨン）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	前期開講のアジア経済論aは、後期開講のアジア経済論bが「各論」であるのに対し「総論」に相当する。授業内容の概略は以下の通りである。まず、アジア経済にアプローチする際の基本的な視座と「東アジア」（北東アジア＋東南アジア）という地域的範疇の重要性について確認し、東アジアの地域的な特徴である「多様性」に注目して、経済をはじめ、政治、社会、宗教、民族など各分野の実情について解説する。そして、日本と東アジアの関係史を時系列的に捉えた後、経済発展の特徴や要因を分析することによって東アジア経済の全体的な発展像を把握できるようにする。また、東アジアの経済発展についてこれまで経済学 はどのように理解してきたのか、開発経済学の諸議論を中心にそれぞれの学派の理論的内容についても紹介する。 アジアNIEs（韓国・台湾・香港・シンガポール）の出現から本格化した東アジアの経済発展（工業化）は、表向きは輸出指向工業化戦略を採用した各国経済の連鎖的な発展という形態をとりながらも、背景には域内外の企業による海外直接投資を媒介とする国境を越えた重層的な生産ネットワーク（グローバル・サプライチェーン）の形成が存在してきた。その工業化のダイナミズムは、製造業以外の分野にも波及して東アジア各国の経済全体の底上げを可能にしたばかりか、世界有数の人口を擁する東アジアを一大消費地に変貌させた。ところが、かつて「雁行形態」と形容された東アジア諸国の秩序ある経済発展も1997年のアジア通貨危機を機に変調を来すようになり、2008年の世界金融危機を経た今日では、各国の経済状況は総じて困難に直面するに至っている。講義では、リージョナル（地域的）な視点とともに、発展と矛盾を統一的に捉えるアプローチを重視して、東アジア経済の実体に迫ってみることにしたい。
到達目標(ねらい)	この科目のねらいは、アジア経済論の総論として、受講生の皆さんが東アジアという地域概念と東アジア経済発展の全体像をイメージできるようにし、各論である後期授業に備えることである。まず、東アジアにおける経済発展の特徴や要因について歴史的に把握し、その理論的含意について理解してもらう。また、グローバリゼーションの貫徹する今日の世界経済では、各国が直面する諸問題を根本的に解決するにはすぐれて国民経済の枠組みを超えた地域的発想が求められており、日本において「東アジア」という地域概念の重要性が増している事実をあわせて認識してもらう。このような地域的視座の共有は、東アジアにおける共存共栄関係の形成と発展に大いに資するものと思われる。この科目は、経済学部の学位授与方針のDP2と特に関連が強く、DP5にも関連する。

授業スケジュール		
	第 1 回	アジア経済論の基本的視座（「東アジア」の範疇）
	第 2 回	東アジアの「多様性」１（歴史・民族・宗教・文化）
	第 3 回	東アジアの「多様性」２（経済・政治・社会）
	第 4 回	東アジアと日本の関係史１（第二次世界大戦以前：近代、植民地期）
	第 5 回	東アジアと日本の関係史２（第二次世界大戦以降）
	第 6 回	経済発展の特徴１（雁行形態的発展）
	第 7 回	経済発展の特徴２（輸出指向工業化）
	第 8 回	経済発展の特徴３（政府主導型の経済発展ほか）
	第 9 回	経済発展の要因１（分析方法と諸要因）
	第 10 回	経済発展の要因２（諸要因）
	第 11 回	東アジア経済と経済理論１（新古典派開発経済学）

	第 12 回	東アジア経済と経済理論２（その他の理論）
	第 13 回	経済発展の前提条件（農地改革ほか）
	第 14 回	東アジア経済の全体像の把握
	第 15 回	まとめ
準備学習	テキスト・参考書の該当箇所と新聞・雑誌・WEBサイト（例えば世界銀行、アジア開発銀行、ASEANのホームページ）のアジア経済に関する記事をよく読むこと。	
履修上の留意点等	・試験およびレポートの際に自筆のノートおよび配布プリントを参照条件とするので、授業を欠席せずにノート整理に努めてもらいたい。 ・アジア経済論は前期（アジア経済論a）と後期（アジア経済論b）の講義内容が体系化されたものなので、受講生の皆さんには特段の理由がない限り通年で履修してもらいたい。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点
	レポートは１回提出してもらう。	
教科書/テキスト	特に定めないが、準テキストとして次の文献を購読してもらいたい。 ・大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、ISBN 4-641-12044-7	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	・鄭章淵著『韓国財閥史の研究』日本経済評論社、2007年、ISBN 978-4-1920-7 ・和田春樹ほか編『岩波講座 東アジア近現代通史』全巻、岩波書店、2011年、ISBN 978-4-00-011281-9ほか ・末廣昭著『新興アジア経済論』岩波書店、2014年、ISBN 978-4-00-028742-5 ・上原一慶ほか著『東アジア近現代史』〔新版〕有斐閣Sシリーズ、2015年、ISBN 978-4-641-15945-7 ・宮城大蔵編著『戦後日本のアジア外交』ミネルヴァ書房、2015年、ISBN 978-4-623-07216-3 ・藤田和子ほか編著『新自由主義下のアジア』（「グローバル・サウスはいま」第2巻）ミネルヴァ書　　房、2016年、ISBN 978-4-623-07626-0 ・遠藤環ほか編『現代アジア経済論』有斐閣ブックス、2018年、ISBN 978-4-641-18442-8	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート結果は総じて好評であったが、受講生の皆さんにとってより分かりやすい授業にするために、話し方・板書・教場の静謐さに注意を払うとともに、充実した資料作りに努めることにしたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	094651 / アジア経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	鄭　章淵（チヨン　チヤンヨン）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	後期開講のアジア経済論bは、前期開講のアジア経済論aが「総論」であるのに対し「各論」に相当する。授業内容の概略は以下の通りである。まず、第二次世界大戦後日本の高度経済成長に次いで工業化に成功したアジアNIEs（韓国・台湾・香港・シンガポール）に注目 し、NIEs（新興工業経済地域）という用語説明、工業化の内容と特徴、各国経済の比較分析について解説する。次に、東南アジア経済について、主要各国の経済状況とASEAN（東南アジア諸国連合）の発展過程を中心に説明する。また、東アジア社会主義国の経済について、主に中国の改革開放政策とヴェトナムのドイモイ政策についても言及する。以上の各国経済の分析を前提にして、東アジア経済にとって一大転換点となった1997年のアジア通貨危機について論じた後に、この間注目を集めてきた東アジアにおける地域経済協力の動向について概観する。最後に、東アジア経済がさらなる発展を遂げる上で解決すべき課題（少子高齢化問題、環境問題など）について取り上げる。	
到達目標(ねらい)	この科目のねらいは、前期の総論を受けて、受講生の皆さんに東アジアの各国経済および地域経済の歴史と現状を学ぶことを通じてアジア経済論を体系的に習得してもらうことである。このような作業を通じて、東アジアで生活する者としてのアイデンティティーを養うことの大切さが喚起できるものと考えている。この科目は、経済学部の学位授与方針のDP2と特に関連が強く、DP5にも関連する。	
授業スケジュール	第 1 回	アジアNIEsの経済１（NIEs現象の意義、用語説明）
	第 2 回	アジアNIEsの経済２（経済発展の様相）
	第 3 回	アジアNIEsの経済３（経済発展の諸特徴）
	第 4 回	アジアNIEsの経済４（比較分析）
	第 5 回	東南アジアの経済１（主要各国の経済状況）
	第 6 回	東南アジアの経済２（ASEANの創設と組織）
	第 7 回	東南アジアの経済３（ASEANの発展過程）
	第 8 回	東アジア社会主義国の経済（中国、ヴェトナム）
	第 9 回	アジア通貨危機１（危機のプロセス、特徴、原因）
	第 10 回	アジア通貨危機２（対応策）
	第 11 回	東アジアにおける地域経済協力１（地域協力の意義と歩み）
	第 12 回	東アジアにおける地域経済協力２（各枠組みの状況）
	第 13 回	東アジア経済の諸問題（少子高齢化問題、環境問題など）
	第 14 回	東アジア経済の展望（東アジアと日本）
	第 15 回	まとめ
準備学習	テキスト・参考書の該当箇所と新聞・雑誌・WEBサイト（例えば世界銀行、アジア開発銀行、ASEANのホームページ）のアジア経済に関する記事をよく読むこと。	
履修上の留意点等	・試験およびレポートの際に自筆のノートおよび配布プリントを参照条件とするので、授業を欠席せずにノート整理に努めてもらいたい。	

	・アジア経済論は前期（アジア経済論a）と後期（アジア経済論b）の講義内容が体系化されたものなので、受講生の皆さんには特段の理由がない限り通年で履修してもらいたい。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点
	レポートは1回提出してもらう。	
教科書/テキスト	特に定めないが、準テキストとして次の文献を購読してもらいたい。 ・大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、ISBN 4-641-12044-7	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	・鄭章淵著『韓国財閥史の研究』日本経済評論社、2007年、ISBN 978-4-1920-7 ・和田春樹ほか編『岩波講座 東アジア近現代通史』全巻、岩波書店、2011年、ISBN 978-4-00-011281-9ほか ・末廣昭著『新興アジア経済論』岩波書店、2014年、ISBN 978-4-00-028742-5 ・大庭三枝著『重層的地域としてのアジア』有斐閣、2014年、ISBN 978-4-641-14910-6 ・藤田和子ほか編著『新自由主義下のアジア』（「グローバル・サウスはいま」第2巻）ミネルヴァ書房、2016年、ISBN 978-4-623-07626-0 ・遠藤環ほか編『現代アジア経済論』有斐閣ブックス、2018年、ISBN 978-4-641-18442-8	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケート結果は総じて好評であったが、受講生の皆さんにとってより分かりやすい授業にするために、話し方・板書・教場の静謐さに注意を払うとともに、充実した資料作りに努めることにしたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	094701 / 中国経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	王　穎琳（オウ　エイリン）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	2008年にいたる改革開放後の30年間に中国の国内総生産GDPは実質年平均約10％の成長率を達成した。貿易依存度は06年から60％前後に達した。家計の可処分所得は顕著に増加しつつあるが貯蓄性向も高い。また、2010年4－6月期の中国の実質GDPは初めて日本の１兆2883億ドルを抜き、経済規模はアメリカにつぐ世界第2位となった。 世界第２位の経済大国となった中国は、「持続可能な成長」を模索するとともに、「全球化」(グローバル化)のもとで「市場経済移行」がもたらす構造的問題への対応を迫られている。改革開放政策は、中国社会を市場経済へと本格的変容させつつあるが、同時に不均衡発展の歪みをもたらした。 本授業では、中国経済はどのような経路を経て、現在のようなシステムを形成し、そのシステムがいかに機能しているかを分かりやすく解説するとともに、統計データを丁寧に読み、マクロレベルを中心に中国経済の分析を行う。 本科目は映像資料を用いて、授業の内容について理解を深める工夫をしている。また、授業時間内で学生に質問をすると同時に、学生の意見や質問を受け付けるといった、双方向型授業を実施している。 学生は、授業内に講義に集中して、積極的に質問に答えてもらいたい。	
到達目標(ねらい)	本科目は、経済学部の学位授与の方針DP３、DP５と特に関連が強い。 学生は本授業を履修することによって、中国経済の基礎知識を身につけ、中国経済の発展経路と直面している課題を説明することができることを到達目標とする。	
授業スケジュール	第 1 回	授業ガイダンス
	第 2 回	中国経済100年の歩み
	第 3 回	計画経済の30年ー社会主義中国の経済的枠組の形成とのその特質
	第 4 回	文革経済と改革開放
	第 5 回	改革開放の40年ー漸進型移行経済と政府の役割
	第 6 回	農業改革と郷鎮企業
	第 7 回	工業化と産業構造の変化
	第 8 回	人口と労働移動
	第 9 回	直接投資ー外資導入の役割
	第 10 回	改革開放の政策評価、アジア通貨危機
	第 11 回	対外貿易ー輸出主導型成長
	第 12 回	失業・貧困と所得格差
	第 13 回	地域発展戦略と地域格差
	第 14 回	年金と社会保障
	第 15 回	まとめ
準備学習	最新の経済情報を得るため、新聞や国際ニュースを読む習慣を身につけること。 前回に配布したプリントに目を通し、授業内容を復習しておくこと。	
履修上の留意点等	授業中、私語は厳禁である。守れない者は退出してもらう。 スライドの撮影等を禁じる。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト

		平常点
教科書/テキスト	授業で配布するプリントを教材として用いる。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	参考書はその都度授業で紹介する。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度は「穴埋め方式の配布プリントによって集中して取り組める。」「中国のことが詳しく説明が教えてくれました」「担当が中国人の教授なので日本人から中国について学ぶよりもバイアスがかかってなくて良い」などの評価を得たので、さらに改善する。	
関連リンク	授業で配布したプリントや追試問題はすべてYeStudyにアップロードしますので、各自登録しておいてください。	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	094751 / 中国経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	王　穎琳（オウ　エイリン）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	改革開放政策を転じてから40年間を経った中国は、繊維、鉄鋼、家電、自動車など多様な産業で世界市場においてプレゼンスを高めている。本講義は日本の産業発展と比較しながら、「中国の産業はどのように発展してきたか」に焦点をあて、中国産業の発展プロセスの原理を探る。中国の産業発展のプロセスを明らかにすることは、発展途上国の経済発展に有益なインプリケーションをもたらすのみならず、日本や欧米の企業が中国進出にあたって、中国経済全体を理解する一助となる。 本科目は映像資料を用いて、授業の内容について理解を深める工夫をしている。また、授業時間内で学生に質問をすると同時に、学生の意見や質問を受け付けるといった、双方向型授業を実施している。 学生は、授業内に講義に集中して、積極的に質問に答えてもらいたい。	
到達目標(ねらい)	本科目は、経済学部および法学部の学位授与の方針DP３、DP５と特に関連が強い。 学生は本科目を履修することによって、中国の産業発展に関して理解を深め、経済学の視点から産業発展を分析する力を身につける。また、発展途上国のキャッチアップ工業化について理解を深め、中国の産業発展について、自分なりの見解を表明できることを目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	繊維産業
	第 3 回	風力発電設備産業
	第 4 回	石炭産業
	第 5 回	環境問題
	第 6 回	電力産業と石油産業
	第 7 回	医療問題と社会保障
	第 8 回	鉄鋼産業
	第 9 回	家電産業
	第 10 回	中国企業の海外進出
	第 11 回	自動車産業
	第 12 回	米中両国の経済関係
	第 13 回	日中両国の経済関係
	第 14 回	金融業と保険業
	第 15 回	まとめ
準備学習	最新の経済情報を得るため、新聞や国際ニュースを読む習慣を身につけること。 前回に配布したプリントに目を通し、授業内容を復習しておくこと。	
履修上の留意点等	授業中、私語は厳禁である。守れない者は退出してもらう。 スライドの撮影等を禁じる。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	授業で配布するプリントを教材として用いる。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	参考書はその都度授業で紹介する。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」において、「面白くてわかりやすい」「一つ一つに対して、説明してくれるためわかりやすい。レジュメが見やすく理解しやすい点。前期の授業アンケートで、スライドの画面が変わるのが早すぎるということを書いたが、後期ではそれが改善されている」などの評価を得たので、さらに改善する。	
関連リンク	授業で配布したプリントや追試問題はすべてYeStudyにアップロードしますので、各自登録しておいてください。	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	094801 / 現代アメリカ経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小倉　将志郎（オグラ　シヨウシロウ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、アメリカ経済の現状に焦点を当てます。現在のアメリカの経済規模、産業構造、各産業の実態、労働市場、社会保障、地域経済、経済政策といった諸側面を個別に確認し、それらを正確に理解していきます。	
到達目標(ねらい)	アメリカ経済の現状を正確に理解することがねらいです。「正確に」という意味は、事実として見えているものを表面的に捉えたり、一面的に捉えたりするのではなく、一つの現象・事実が多様な側面を持ち合わせていたり、表面からは見えない部分が隠されていたり、といったことが常であることをしっかりと認識し、そうした部分にも光を当ててそれらを把握できるようになる、そのうえで自分の意見を持ったり、評価を下せるようになることを目指す、ということです。授業自体もその手助けになるよう展開するつもりですが、こちらで行うのはあくまで素材提供であって、みなさんが主体的に学び、考えることが重要になると思います。この点はa、b共通です。併せて経済学部のディプロマポリシーも参照してください。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	マクロ統計で見るアメリカ経済の現在地－総論－
	第 3 回	製造業と生産システム、ビジネスモデルの展開：自動車産業と鉄鋼業、電機産業を中心に－主要産業①－
	第 4 回	エネルギー産業と電源構成－主要産業②－
	第 5 回	金融市場の変容と金融業：商業銀行と投資銀行を中心に－主要産業③－
	第 6 回	情報・通信業とシリコンバレー・モデル－主要産業④－
	第 7 回	輸送手段の展開と交通・運輸産業－主要産業⑤－
	第 8 回	観光・レジャー・エンターテインメント大国アメリカと関連産業－主要産業⑥－
	第 9 回	突出した強みを持つ特徴的諸産業：軍需・宇宙産業、知財ビジネス、アグリビジネス、医療・バイオテクノロジーなど－主要産業⑦－
	第 10 回	国民皆保険は可能か：医療制度と医療改革－社会保障①－
	第 11 回	年金制度と高齢者の現状－社会保障②－
	第 12 回	労働市場の諸特徴：労働統計から－労働市場①－
	第 13 回	労働者保護体制と労働運動－労働市場②－
	第 14 回	州・地域経済と中小零細企業・非営利組織などの役割－地域経済－
	第 15 回	トランプ政権の経済政策と展望－経済政策－
準備学習	一般的に、予習と復習を授業時間と同時間（予習15時間、復習15時間）行うことが求められます。授業の予習として、日常的にアメリカ経済に関心を持って新聞やニュースに目を通してください。授業の復習は期末試験前にまとめてやるだけでなく、授業終了直後にも行うのが効果的です。授業中に紹介する参考文献やwebサイトなども積極的に覗いてみてください。	
履修上の留意点等	現代アメリカ経済論bも履修することが望ましいです。	
成績評価の方法	90 ％	試験
		レポート
	10 ％	小テスト
		平常点

	基本は試験100％で評価しますが、授業内課題（新聞記事を用いた最新のトピックの検討など）を実施した場合は加点します。出席点はありません。	
教科書/テキスト	使用しない予定ですが、適当なものがあれば初回ガイダンス時に指定します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小倉将志郎『ファイナンシャリゼーション』桜井書店、3200円、ISBN978-4-905261-27-8 その他は随時指定します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	概ね平均以上の評価をいただきましたが、常に授業改善を心掛けているので、授業アンケートに限らず、折に触れて改善点をお伝えください。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	094851 / 現代アメリカ経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小倉　将志郎（オグラ　ショウシロウ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、現代アメリカ経済を歴史的文脈の中で理解します。具体的には、特に1970年代の危機の時代を経て、1980年代以降に生じた大きな変化としての、グローバル化、金融化、サービス化、情報化、それらと密接に関連する新自由主義などに着目し、そうした潮流の内容、背景、影響などを認識したうえで、それらの中でのアメリカの立ち位置を正確に理解します。	
到達目標(ねらい)	歴史的展開として見たアメリカ経済の現代的位置を正確に理解することがねらいです。「正確に」という意味は、事実として見えているものを表面的に捉えたり、一面的に捉えたりするのではなく、一つの現象・事実が多様な側面を持ち合わせていたり、表面からは見えない部分が隠されていたり、といったことが常であることをしっかりと認識し、そうした部分にも光を当ててそれらを把握できるようになる、そのうえで自分の意見を持ったり、評価を下せるようになることを目指す、ということです。授業自体もその手助けになるよう展開するつもりですが、こちらで行うのはあくまで素材提供であって、みなさんが主体的に学び、考えることが重要になると思います。この点はa、b共通です。併せて経済学部のディプロマポリシーも参照してください。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	「世界の工場」への飛躍：19世紀後半から20世紀初頭－経済の歩み①－
	第 3 回	「パクスアメリカーナ」の時代：20世紀前半から1950・60年代－経済の歩み②－
	第 4 回	日欧産業の台頭と角逐：1960・70年代－経済の歩み③－
	第 5 回	国際収支統計で読み解く世界の中のアメリカ－グローバル化①－
	第 6 回	自由貿易・WTO体制と多国籍企業－グローバル化②－
	第 7 回	新興国の台頭と製造拠点移転（グローバルバリューチェーンの構築）、労働力のアウトソース化－グローバル化③－
	第 8 回	データで見るアメリカ経済の金融化－金融化①－
	第 9 回	金融化の内実－金融化②－
	第 10 回	金融化の背景と諸影響を巡って－金融化③－
	第 11 回	産業構造の変化とサービス化、製造業再生強化政策－サービス化－
	第 12 回	情報技術革新は経済・社会をどう変えつつあるか－情報化－
	第 13 回	経済格差の拡大と「反貧困・格差」運動－現代の諸問題①－
	第 14 回	頻発する経済・金融危機と大規模救済策－現代の諸問題②－
	第 15 回	トランプ大統領誕生の背景を追って：今欧米に何が起きているのか－現代の諸問題③－
準備学習	一般的に、予習と復習を授業時間と同時間（予習15時間、復習15時間）行うことが求められます。授業の予習として、日常的にアメリカ経済に関心を持って新聞やニュースに目を通してください。授業の復習は期末試験前にまとめてやるだけでなく、授業終了直後にも行うのが効果的です。授業中に紹介する参考文献やwebサイトなども積極的に覗いてみてください。	
履修上の留意点等	現代アメリカ経済論aも履修することが望ましいです。	
成績評価の方法	90 ％	試験
		レポート
	10 ％	小テスト
		平常点

	基本は試験100％で評価しますが、授業内課題（新聞記事を用いた最新のトピックの検討など）を実施した場合は加点します。出席点はありません。	
教科書/テキスト	使用しない予定ですが、適当なものがあれば初回ガイダンス時に指定します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小倉将志郎『ファイナンシャリゼーション』桜井書店、3200円、ISBN978-4-905261-27-8 その他は随時指定します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	概ね平均以上の評価をいただきましたが、常に授業改善を心掛けているので、授業アンケートに限らず、折に触れて改善点をお伝えください。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	095001 / 現代ヨーロッパ経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	田中　綾一（タナカ　リヨウイチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	・ヨーロッパとよばれる地域の概況（地勢、人口など）および主要な地域的枠組みについて解説する。 ・ヨーロッパが直面している主要な経済的・政策的課題を挙げ、ポイントを解説する。 ・主要国・地域の概要と経済情勢、直面する課題を解説する。 ・本科目は、経済学部のディプロマポリシーDP5（専門分野の知識・技能の活用力）との関連が強いが、DP2（幅広い教養、多様性の理解と尊重）とも関連する。	
到達目標(ねらい)	・ヨーロッパの地域的・経済的な特徴を説明できる。 ・ヨーロッパには様々な地域枠組みがあることを説明できる。 ・主要国・地域の経済的課題を説明できる。	
授業スケジュール	第 1 回	シラバスに基づく概要説明
	第 2 回	ヨーロッパ経済のとらえ方
	第 3 回	ヨーロッパ経済の動向(総論)
	第 4 回	ヨーロッパ経済の動向(各論)
	第 5 回	ドイツ経済の動向(総論)
	第 6 回	ドイツ経済の動向(各論)
	第 7 回	フランス経済の動向(総論)
	第 8 回	フランス経済の動向(各論)
	第 9 回	イタリア・南欧諸国経済の動向(総論)
	第 10 回	イタリア・南欧諸国経済の動向(各論)
	第 11 回	中東欧諸国経済の動向
	第 12 回	北欧諸国経済の動向
	第 13 回	イギリス経済の動向(総論)
	第 14 回	イギリス経済の動向(各論)
	第 15 回	全体のまとめ
準備学習	ヨーロッパに関するニュースに関心を持つこと。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	使用しない。	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業の中で紹介する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	2018年度の授業内容・運営は概ね妥当との評価を得たので、2019年度についても基本的に継続していきたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	095101 / 現代ヨーロッパ経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	田中　綾一（タナカ　リヨウイチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	・ヨーロッパ統合の現状と課題についての説明を主なテーマとする。 ・ECSC（欧州石炭鉄鋼共同体）からEU（欧州連合）への流れを概説する。 ・リスボン条約体制下におけるEUの特徴を説明する。 ・EMU（経済通貨同盟）やCAP（共通農業政策）などの主要統合領域について解説する。 ・本科目は、経済学部のディプロマポリシーDP5（専門分野の知識・技能の活用力）との関連が強いが、DP2（幅広い教養、多様性の理解と尊重）とも関連する。	
到達目標(ねらい)	・ヨーロッパ統合の「起源」について説明できる。 ・統合の主体となる組織と意思決定過程を説明できる。 ・リスボン条約体制下のEUの特徴を説明できる。 ・ヨーロッパ統合の主要領域について説明できる。	
授業スケジュール	第 1 回	シラバスに基づく概要説明
	第 2 回	ヨーロッパ統合の「起源」（総論）
	第 3 回	ヨーロッパ統合の「起源」（2つの世界大戦）
	第 4 回	ECSCの設立（冷戦の勃発と国際関係の変化）
	第 5 回	ECSCの設立（欧州域内関係の変化）
	第 6 回	EECとEFTAの成立
	第 7 回	ECの成立
	第 8 回	ECの拡大
	第 9 回	ECからEUへ
	第 10 回	農業問題とヨーロッパ統合
	第 11 回	単一欧州議定書から経済通貨同盟へ
	第 12 回	欧州憲法条約の挫折とリスボン条約体制
	第 13 回	通貨統合の実現と過熱するヨーロッパ
	第 14 回	リーマンショックからBrexitへ
	第 15 回	全体のまとめ
準備学習	ヨーロッパに関するニュースに関心を持つこと。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	使用しない。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業の中で紹介する。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	2018年度の授業内容・運営については概ね妥当との評価を得たので、2019年度も基本的に維持したい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	091601 / 会計学総論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	山田　康裕（ヤマダ　ヤスヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	テキストにそって，以下の諸項目について講義する。 １．企業会計を学ぶ ２．企業会計の役割 ３．企業会計の仕組み ４．資本と利益の情報 ５．収益認識のルール	
到達目標(ねらい)	企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション，序章：企業会計を学ぶ
	第 2 回	第1章：企業会計の役割①
	第 3 回	第1章：企業会計の役割②
	第 4 回	第1章：企業会計の役割③
	第 5 回	第2章：企業会計の仕組み①
	第 6 回	第2章：企業会計の仕組み②
	第 7 回	第2章：企業会計の仕組み③
	第 8 回	第3章：資本と利益の情報①
	第 9 回	第3章：資本と利益の情報②
	第 10 回	第3章：資本と利益の情報③
	第 11 回	第4章：収益認識のルール①
	第 12 回	第4章：収益認識のルール②
	第 13 回	第4章：収益認識のルール③
	第 14 回	まとめ（１）
	第 15 回	まとめ（２）
準備学習	テキストの該当箇所を読み，事前に配布された問題を解いておく。	
履修上の留意点等	簿記３級程度の知識を前提とするので，当該科目を履修済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	斎藤静樹『企業会計入門』補訂版，有斐閣，2016年	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	斎藤静樹編著『財務会計 第6版』有斐閣，2009年 桜井久勝『財務会計講義 第20版』中央経済社，2019年
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	より財務会計よりの内容を講じていくことにします。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	091651 / 会計学総論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	山田　康裕（ヤマダ　ヤスヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	テキストにそって，以下の諸項目について講義する。 １．費用の認識と配分 ２．負債の認識と測定 ３．純資産の開示と規制 ４．企業結合の会計情報 ５．日本の会計制度改革	
到達目標(ねらい)	企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション，第5章：費用の認識と配分①
	第 2 回	第5章：費用の認識と配分②
	第 3 回	第5章：費用の認識と配分③
	第 4 回	第6章：負債の認識と測定①
	第 5 回	第6章：負債の認識と測定②
	第 6 回	第6章：負債の認識と測定③
	第 7 回	純資産の開示と規制①
	第 8 回	純資産の開示と規制②
	第 9 回	純資産の開示と規制③
	第 10 回	企業結合の会計情報①
	第 11 回	企業結合の会計情報②
	第 12 回	企業結合の会計情報③
	第 13 回	日本の会計制度改革①
	第 14 回	日本の会計制度改革②
	第 15 回	日本の会計制度改革③
準備学習	テキストの該当箇所を読み，事前に配布された問題を解いておく。	
履修上の留意点等	簿記３級程度の知識を前提とするので，当該科目を履修済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	斎藤静樹『企業会計入門』補訂版，有斐閣，2016年	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	斎藤静樹編著『財務会計 第6版』有斐閣，2009年 桜井久勝『財務会計講義 第20版』中央経済社，2019年
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	単に一方的に教員が話すのではなく，グループで取り組む課題などを通じて，理解を深められるように工夫したいと思います。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092441 / ファイナンス基礎ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	齊藤　正（サイトウ　タダシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバリゼーションの進展とIT技術の発展に伴い、「金融（業）」（ファイナンス）が経済社会に果たす役割が大きくなるとともに、日々著しく変貌を遂げつつあります。本講義では、経済学や商学を初めて学ぼうとする諸君を念頭に、ファイナンスを理解するために必須と考えられる基本的事項を取り上げ、解説しますが、毎回書いていただく「リアクションペーパー」の中からいくつか取り上げ、アクティブラーニングの一環として双方向授業を目指します。	
到達目標(ねらい)	ファイナンスには特有の「専門用語」が多く出てきますが、ニュースや新聞記事でも一般的に使用されている用語を中心にかみ砕いて説明いたします。最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、本講義を通じて、諸君がファイナンスに対する関心・興味を高めながら、経済学部の教育課程の編成方針（ディプロマポリシー）に沿って「自然なかたちで経済学や商学に馴染んでいた」状態に導くことができればと思います。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンスおよびイントロダクション～「マネー」支出の「三つの」目的の違いを通じて「金融」を知る
	第 2 回	「資金」の需給を仲介する専門機関としての「金融機関」①銀行の機能と役割
	第 3 回	「資金」の需給を仲介する専門機関としての「金融機関」②その他金融機関
	第 4 回	「資金」の需給が調整される場としての「金融市場」①短期金融市場
	第 5 回	「資金」の需給が調整される場としての「金融市場」②長期金融市場（資本市場）
	第 6 回	金融制度の頂点に位置する中央銀行の役割①「銀行券」発行（「発券銀行」）
	第 7 回	金融制度の頂点に位置する中央銀行の役割②「銀行の銀行」、「政府の銀行」
	第 8 回	中間確認テスト
	第 9 回	ゲスト講義（予定）～金融リテラシーについて（「お金」との向き合い方）
	第 10 回	個人・家計の金融活動
	第 11 回	企業金融
	第 12 回	公的金融
	第 13 回	金融にかかわる各種リスク
	第 14 回	講義のまとめ
	第 15 回	自主学習
準備学習	毎回のレジメ（必要に応じて参考新聞記事など）をYeStudyにアップしておきますので、予習をして授業に臨んで下さい。	
履修上の留意点等	新聞やニュースにはファイナンスに関連する出来事が多く取り上げられています。講義ではそれらの中からトピック的なものを取り上げながら進めますので、日常的にニュースに注目しながら授業に臨むように心がけて下さい。	
成績評価の方法	40 %	試験
		レポート
	20 %	小テスト
	40 %	平常点

	定期試験（40％）、中間確認テスト（20％）および平常点（40％）により評価します。平常点は毎回書いていただくリアクションペーパーの内容にしたがって評価します。なお、基本的にそれらの合計点により判定しますが、とくに記述内容が論理性に優れている場合や受講時の取組みに優れている場合には、合計点よりも高いランクで評価する場合があります。	
教科書/テキスト	とくに指定しません。使用しません。YeStudyにupする毎回のレジメ、資料がテキスト代わりとなります。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	授業開始時に指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	毎回、授業を通じて得られた「知見」と生じた「疑問」をリアクションペーパーとして書いていただき、次回の授業ではそれに対する回答、コメントを紹介しながら、できるかぎり「双方向」で授業を進められるようにします。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	092491 / ファイナンス基礎ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	齊藤　正（サイトウ　タダシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバリゼーションの進展とIT技術の発展に伴い、「金融（業）」（ファイナンス）が経済社会に果たす役割が大きくなるとともに、日々著しく変貌を遂げつつあります。本講義では、経済学や商学を学ぶ初年次生を念頭に、身近で問題・話題になっている「ファイナンス」関連のトピックをとりあげながら解説しますが、毎回書いていただく「リアクションペーパー」の中からいくつか取り上げ、アクティブラーニングの一環として双方向授業を目指します。	
到達目標(ねらい)	「ファイナンス基礎a」で得られた知見をベースに、ファイナンス関連の具体的問題について理解を深めることを目指します。本講義を通じて、諸君がファイナンスについての興味や関心を高めるとともに新聞やニュースに接する習慣を身につけ、経済学部の教育課程の編成方針（ディプロマポリシー）に沿った力を獲得されることを期待します。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンスおよびイントロダクション：「マネー資本主義」の時代、「経済の金融化」とはどのような事態なのか？
	第 2 回	現代における「マネー」とは？：電子マネー、仮想通貨、キャッシュレス社会、などについて
	第 3 回	金融業の変貌：「金融コングロマリット」、「持株会社」を通じた巨大金融機関の姿
	第 4 回	銀行は「衰退産業」か？：FinTech、AI、異業種の銀行業への参入、をどう考える？
	第 5 回	「株主資本主義」とは？：「機関投資家」の成長、「物言う株主」とは？
	第 6 回	証券化と証券化商品：「サブプライムローン」問題を例に
	第 7 回	企業や銀行は金融リスクへにどのように対応しているのか？：デリバテイブなど
	第 8 回	国際通貨・金融システムの在り方について①：国際通貨・金融制度の変遷
	第 9 回	国際通貨・金融システムの在り方について②：変動相場制下のドル、ユーロ導入、Brexit、など
	第 10 回	金融規制が求められる理由：「利益相反」、「規模の利益、「範囲の利益」、「シャドウバンキング」、など
	第 11 回	金融政策の新展開：「量的金融緩和政策」について
	第 12 回	「持続可能な発展」に向けた金融システムのあり方①：「公的金融」と民間金融
	第 13 回	「持続可能な発展」に向けた金融システムのあり方②：地域金融
	第 14 回	講義のまとめ
	第 15 回	自主学習
準備学習	毎回のレジメ（必要に応じて参考新聞記事など）をYeStudyにアップしておきますので、予習をして授業に臨んで下さい。	
履修上の留意点等	新聞やニュースにはファイナンスに関連する出来事が多く取り上げられています。講義ではそれらの中からトピック的なものを取り上げながら進めますので、日常的にニュースに注目しながら授業に臨むように心がけて下さい。	
成績評価の方法	50 %	試験
		レポート
		小テスト
	50 %	平常点

	定期試験（50％）、および平常点（50％）により評価します。平常点は毎回書いていただくリアクションペーパーの内容にしたがって評価します。なお、基本的にそれらの合計点により判定しますが、とくに記述内容が論理性に優れている場合や受講時の取組みに優れている場合には、合計点よりも高いランクで評価する場合があります。	
教科書/テキスト	とくに使用しません。YeStudyにupする毎回のレジメ、資料がテキスト代わりとなります。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	必要に応じて指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	毎回、授業を通じて得られた「知見」と生じた「疑問」をリアクションペーパーとして書いていただき、次回の授業ではそれに対する回答、コメントを紹介しながら、できるかぎり「双方向」で授業を進められるようにします。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	099211 / 流通経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	大野　哲明（オオノ　テツアキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	流通とは、生産と消費の間に存在するさまざまなギャップに架橋し、両者をつなぐ経済活動である。今日の社会において、私たちは市場での商品購入を通じて日々の経済生活を営んでいる。市場が存在しなければ、私たちは一日たりとも現在の生活を維持することが出来ない。市場経済のなかで、無数の商取引を社会的に集約し、生産と消費の橋渡しを効率的に実現するために形成されるのが、流通システムである。 講義では、流通や商業に関する基礎概念・理論を学びつつ、今日の流通経済の実像に接近してゆく。自動車・家電、化粧品などわが国を代表する産業部門における流通の発展、またわが国独自の発展を遂げたコンビニエンスストアの活動などに焦点を当てながら、複雑に変貌を遂げる現代の流通経済について考え理解することにしよう。講義では、課題解決型学習（PBL）や実習型学習などアクティブ・ラーニングの手法を可能な限り取り入れることにしたい。	
到達目標(ねらい)	・流通経済の基礎概念・理論を理解し、流通を通じて社会を見る眼を養う。 ・市場経済における流通の役割について理解する。自由競争市場の崩壊～寡占市場の形成に伴う流通の構造変化の歴史的意味を理解する。 ・伝統的商業から、メーカーによる流通支配、さらには今日の製販統合型、小売主導型流通システムへと多元的に発展してゆく流通経済の全体像を理解する。 ・経済学部（商学科）のディプロマ・ポリシーとして重視されている「情報分析力と問題解決力」や「専門分野の知識・技能の活用力」の向上を目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：流通とは何か、流通の基本的役割（生産と消費の架橋）について学ぶ。
	第 2 回	市場経済の発展（1）：市場経済とは何か、価格機構の役割について理解する。
	第 3 回	市場経済の発展（2）：自由競争から寡占へという市場の変化について学ぶ。
	第 4 回	市場経済の発展（3）：寡占体制の成立とマーケティングの関係を理解する。
	第 5 回	流通経済の基礎（1）：生産財と消費財の流通、物財とサービスの流通の違いと特徴について学ぶ。
	第 6 回	流通経済の基礎（2）：伝統的流通システムの形成－商業の社会的存在根拠、卸売業と小売業の段階分化について学ぶ。
	第 7 回	現代流通の発展（1）：伝統的流通システムから垂直的マーケティングシステムの展開という構造変化について学ぶ。
	第 8 回	現代流通の発展（2）：メーカーによる流通支配、流通系列化の具体的内容を自動車・家電、化粧品業界を事例に学ぶ。
	第 9 回	現代流通の発展（3）：流通系列化・メーカー主導の価格体系の崩壊、対抗力としての量販店の成長について学ぶ。
	第 10 回	メーカー主導型流通の展開（1）：自動車産業を事例に、今日の流通革新とマス・カスタマイゼーションの現状について理解する。
	第 11 回	メーカー主導型流通の展開（2）：投機的流通から延期的流通へという需給調整メカニズムの高度化について理解する。
	第 12 回	日本型コンビニエンスストアの革新性（1）：わが国におけるCVSの発展史を、VTR教材を活用しながら理解する。
	第 13 回	日本型コンビニエンスストアの革新性（2）：CVSの日米比較を通じ、現代流通において最も構造適合的な組織形態とは何か考える。
	第 14 回	日本型コンビニエンスストアの革新性（3）：CVSの情報システムやPB開発について理解する。
	第 15 回	講義の総括とまとめ
準備学習	講義前後にテキストの該当箇所を読み、講義内容の大枠をつかむとともに、重要キーワードを理解しておくこと。また講義中に使用したプリント、板書したノートの整理に努め、紹介した文献に直接あたってみること。	
履修上の留意点等	流通政策やマーケティングなど関連する他の講義を併せて受講することが望ましい。ま	

	た受講中、私語など講義の妨げとなる行為は慎んでください。	
成績評価の方法	80 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	20 %	講義中に数回実施する演習・レポート
教科書/テキスト	加藤義忠・斎藤雅通・佐々木保幸編『現代流通入門』有斐閣、2007年（2400円税別）ISBN 978-4-641-18351-３	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	阿部真也・江上哲・吉村純一・大野哲明編『インターネットは流通と社会をどう変えたか』中央経済社、2016年（2800円税別）ISBN978-4-502-19581-5 大野哲明・佐々木保幸・番場博之編『格差社会と現代流通』同文館出版、2015年（2600円税別）ISBN978-4-495-64771-1 番場博之編『基礎から学ぶ流通の理論と政策』八千代出版、2016年（2400円税別）ISBN978-4-8429-1666-8	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	本学講義初年度のため、前年度はシラバス内容の若干の変更やOA機器操作にもたつくなど、改善すべき点が若干見受けられた。本年度はより効率的な充実した講義展開に務めたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	099251 / 流通経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	大野　哲明（オオノ　テツアキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	経済社会における流通やマーケティングの基本的役割は、生産と消費の架橋＝需給整合にある。講義では、流通経済論a（前期）で学んだ知識を基礎に、わが国の小売業態、小売商業集積をめぐる政策的諸問題、さらには流通情報化の内実などに多面的に照射してゆく。 講義では、まず日本の流通構造の特徴や固有の取引慣行について理解する。次にわが国における小売業発展の足跡を追い、都市の成長とともに登場した百貨店やスーパー、CVSやディスカウントストア、ショッピングセンターや商店街など小売業態・商業集積の発展について理解する。また、小売業の発展に大きなインパクトを与える大型店規制やまちづくりをめぐる政策的議論にも注目する。さらにインターネットやSNS の普及に象徴される流通情報化の進展とその内実についても言及しよう。講義のまとめとして、最後に現代の流通経済における調整メカニズムの変質問題に注目する。これらの議論を通じ、多元化した現代流通の姿を総合的に理解することが講義の最終的な目標となる。講義では、課題解決型学習（PBL）や実習型学習などアクティブ・ラーニングの手法を可能な限り取り入れることにしたい。	
到達目標(ねらい)	・日本型流通の構造的特徴の理解を通じ、私たちの消費生活を相対化する目を養う。 ・小売業態や商業集積の発展、大型店問題の理解を通じて、地域社会の衰退という問題に関心をもつとともに、現代の都市・社会を批判的に見る眼を養う。 ・情報化の進展により流通経済はどう変わり、そしてどこに向かうのか考える。 ・市場→組織→ネットワークという需給調整メカニズムの歴史的発展を理解する。 ・経済学部(商学科）のディプロマ・ポリシーとして重視されている「情報分析力と問題解決力」や「専門分野の知識・技能の活用力」の向上を目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：流通経済論aとの連続性を意識しながら、流通経済の基本論点を再確認しつつ、導入講義を行う。
	第 2 回	日本型流通の特徴：わが国の卸・小売構造の特徴や特殊性、および日本型商慣行とよばれる固有の取引慣行について理解する。
	第 3 回	小売業の構造と動態（1）：小売経営の基本となるチェーンストア原理、および小売業の業種と業態という概念について理解する。
	第 4 回	小売業の構造と動態（2）：百貨店やスーパーからコンビニエンスストアやディスカウントストア、さらにはSPAなどに至る、小売業態の発展について学ぶ。
	第 5 回	小売業の構造と動態（３） ショッピングセンターと商店街という2つの商業集積の形成・発展と現状について学ぶ。
	第 6 回	小売業の国際化（１）「標準化」と「適応化」というキー概念の理解を通じ、小売業のグローバル化の本質を理解する。
	第 7 回	小売業の国際化（２）小売企業のグローバル化の諸事例を通して、小売業の国際化の課題や問題点を明らかにする。
	第 8 回	大型店規制と流通・まちづくり（1）：流通調整政策としての大型店規制の歴史を学ぶ。
	第 9 回	大型店規制と流通・まちづくり（2）：大店法と大店立地法の内容を理解する。
	第 10 回	大型店規制と流通・まちづくり（3）：NPOを中心とした流通・まちづくりの先進事例から学ぶ。
	第 11 回	情報化社会の流通（1） 流通における情報化の進展、それに伴うメーカー主導型流通システムの後退と小売主導型流通システムの成長について理解を深める。
	第 12 回	情報化社会の流通（2）：インターネットやSNSの発展に伴う消費者参加型流通の成長を理解する。
	第 13 回	情報化社会の流通（3）：「ネット・コミュニティ」や「IoT」など、情報化に関する最近の議論を理解する。
	第 14 回	現代流通の調整原理：市場・組織（政府）・ネットワークという流通の3つの調整メカニズムについて理解する。

	第 15 回	講義の総括とまとめ
準備学習	講講義前後にテキストの該当箇所を読み、講義内容の大枠をつかむとともに、重要キーワードを理解しておくこと。また講義中に使用したプリント、板書したノートの整理に努め、紹介した文献に直接あたってみること。	
履修上の留意点等	流通政策やマーケティングなど関連する他の講義を併せて受講することが望ましい。また受講中、私語など講義の妨げとなる行為は慎んでください。	
成績評価の方法	80 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	20 %	講義中に実施する演習及びレポート
教科書/テキスト	加藤義忠・斎藤雅通・佐々木保幸編『現代流通入門』有斐閣、2007年（2400円税別）ISBN 978-4-641-18351-３	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	阿部真也・江上哲・吉村純一・大野哲明編『インターネットは流通と社会をどう変えたか』中央経済社、2016年（2800円税別）ISBN978-4-502-19581-5 大野哲明・佐々木保幸・番場博之編『格差社会と現代流通』同文館出版、2015年（2600円税別）ISBN978-4-495-64771-1 番場博之編『基礎から学ぶ流通の理論と政策』八千代出版、2016年（2400円税別)ISBN978-4-8429-1666-8	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	本学講義初年度のため、前年度はシラバス進行の若干の変更やOA機器操作のもたつきなど改善すべき点が若干見受けられた。本年度はこれらの点を踏まえより効率的で充実した講義展開に努めたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	099961 / 企業経営学ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	岩波　文孝（イワナミ　フミタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、企業経営についての基本的な考え方を理解するために、経営学の基礎的な概念や理論を学びます。経営学の諸理論を概説する中で、具体的な事例についても出来るかぎり数多く紹介する予定ですが、この講義の主眼は、あくまでも経営学の「基礎理論」の修得にあり、経営学の領域にあるさまざまな専門科目への入門として位置づけられます。 本科目は、【講義】形態の授業であるが、授業内容の理解を深めるため、適宜、グループワークを実施します。	
到達目標(ねらい)	前述のように、この講義はa/bを通じて経営学の領域にあるさまざまな専門科目への入門としての「基礎理論」を修得し、学問的基礎の構築を図ることを目標としています。本科目は、経済学部の学位授与方針DP5に特に関連性が強い科目であり、DP2にも関連する科目です。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：経営学の学び方
	第 2 回	経済社会と企業：ビジネス経済と企業【市場経済と企業経営】
	第 3 回	企業と経営：経営資源と事業活動【資本調達、雇用・人的資源管理、投資決定・資金配分・財務管理、会計・財務、流通・マーケティング・販売管理、情報管理・情報処理】
	第 4 回	企業形態論（1）：現代企業の特徴と課題【企業形態と経営組織】
	第 5 回	企業形態論（2）：会社法を踏まえて【経済活動と法】
	第 6 回	コーポレート・ガバナンス(1)：国際的動向【ビジネス活動、企業責任、情報公開、資本調達、会社法】
	第 7 回	コーポレート・ガバナンス（2）：今日的課題【利害関係者と会計情報・情報公開】
	第 8 回	多国籍企業論(1)：グローバリゼーションの動向【経済の国際化と現代の企業経営】
	第 9 回	多国籍企業論(2)：サプライチェーン・マネジメントと多国籍企業【商品開発・生産・流通システムの今日的動向】
	第 10 回	中小企業論（1）：その歴史、現状、発展方向【地域経済・産業と中小企業】
	第 11 回	第 11 回 中小企業論（2）：中小企業の実態と可能性【地域産業（金融・製造・流通・販売業等）の担い手としての中小企業と経済振興】
	第 12 回	ベンチャー論・起業論：その理論と実態・日本的モデルの検討【起業による新ビジネス・地域ビジネスの創出】
	第 13 回	非営利組織論：ソーシャルビジネスの現状と課題【社会的課題に対応した新ビジネスの展開】
	第 14 回	経営学の現代的課題【世界経済・金融市場・資本市場と企業経営】
	第 15 回	企業経営学a まとめ
準備学習	企業経営とそれを取り巻く経済社会との相互関連の理解を深めるためには、社会の動向を把握しておく必要があります。それだけに留まらず、様々な媒体の政治・経済・経営関連記事にも目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。上記を踏まえ、企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。	
履修上の留意点等	専門用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手して下さい。YeSutydyに掲載する資料に基づいて、授業を進めます。必ず、事前にYeStudyより資料をダウンロード・印刷し、授業時に持参すること。　※授業時間中にスライドを撮影することは、他の受講生に迷惑となるため、および学習効果を高めるために、一切禁止しています。	

成績評価の方法		試験
	100 %	レポート
		小テスト
		平常点
	備考：レポートは複数回実施します。複数回のレポートにより総合的に評価します。	
教科書/テキスト	百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2013年、2,800円+税、INBN978-4-502-69860-6。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時紹介します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度、本科目を担当していないため「学生による授業アンケート」結果は無い。学生の自主的な学習意欲を高める工夫を予定している。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	099971 / 企業経営学ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	月曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	岩波　文孝（イワナミ　フミタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	「企業経営学a」と同様、本講義は、企業経営についての基本的な考え方を理解するために、経営学の基礎的な概念や理論を学びます。経営学の諸理論を概説する中で、具体的な事例についても出来るかぎり数多く紹介する予定ですが、この講義の主眼は、あくまでも経営学の「基礎理論」の修得にあり、経営学の領域にあるさまざまな専門科目への入門として位置づけられます。 　本科目は、【講義】形態の授業であるが、授業内容の理解を深めるため、適宜、グループワークを実施します。	
到達目標(ねらい)	「企業経営学a」からの続きとして、この講義も経営学の「基礎理論」の修得にあります。とりわけ商学・経営学系のゼミに進む予定の受講生にとって、さまざまな専門科目への入門としての経営学分野の基礎的理解を目指します。本科目は、経済学部の学位授与方針DP5に特に関連性が強い科目であり、DP2にも関連する科目です。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：企業経営学b【ビジネス社会と経営】
	第 2 回	経営学説史(1)：経営学（説）の生成【ビジネス・コミュニケーション・マネジメントの連関】
	第 3 回	経営学説史(2)：経営学（説）の展開【経営思想・経営規範と学説の展開】
	第 4 回	経営戦略論(1)：経営戦略の考え方【企業経営と外部環境・・・社会的環境・市場環境・自然環境と経営戦略】
	第 5 回	経営戦略論(2)：企業の成長と競争【情報技術を活用した戦略展開、グローバル金融市場・国際資本移動と戦略展開】
	第 6 回	財務管理論：巨大株式会社の資本調達と運用・配分【会計情報の活用と資金配分・ポートフォリオの決定】
	第 7 回	マーケティング論：売れる仕組みをつくる【電子商取引と研究開発・商品開発・広告・販売促進】
	第 8 回	生産管理論(1)：生産システムの展開【マーケティング、商品開発、生産システムの構築】
	第 9 回	生産管理論(2)：製造企業の国際競争力の源泉【雇用のグローバル化と生産システムの展開】
	第 10 回	人的資源管理論：人事・労務管理の動向【雇用・人材育成・労務管理・雇用をめぐる法的環境】
	第 11 回	日本的経営論：その特徴と変容【日本的経営・雇用慣行・労働法の変遷と世界の動向】
	第 12 回	情報技術革新と企業経営【情報処理とビジネス情報管理】
	第 13 回	環境経営論：サスティナビリティと循環型社会に向けて【環境問題と企業責任】
	第 14 回	CSR論：CSRの現代的展開【企業責任・企業倫理・経営規範と社会的貢献】
	第 15 回	企業経営学bまとめ
準備学習	企業経営とそれを取り巻く経済社会との相互関連の理解を深めるためには、社会の動向を把握しておく必要があります。それだけに留まらず、様々な媒体の政治・経済・経営関連記事にも目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。上記を踏まえ、企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。	
履修上の留意点等	専門用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手して下さい。YeSutydyに掲載する資料に基づいて、授業を進めます。必ず、事前にYeStudyより資料をダウンロード・印刷し、授業時に持参すること。　　※授業時間中にスライドを撮影することは、他の受講生に迷惑となるため、および学習効果を高めるために、一切禁止しています。	
成績評価の方法	100 %	試験

		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2013年、2,800円+税、INBN978-4-502-69860-6。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	随時紹介します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度、本授業を担当していないため、「学生による授業アンケート」結果はありません。学生の自主的な学習意欲を高める工夫を予定している。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	091701 / 流通政策ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	野木村　忠度（ノギムラ　タダノリ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	流通政策とは、流通経済の中で企業が行うことのできる行為を規定し、流通のあるべき姿を作ろうとするルールである。この市場のルールでともいえる流通政策を知ることで流通経済の仕組み、及びマーケティングの活動についてより深く考察することができる。	
到達目標(ねらい)	ビジネスの基本的なルールとなる流通政策についての基礎知識を習得することを目的とする。 また、本科目は、駒澤大学学位授与方針DP5に関連します。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス ：本講義の進め方と流通政策の内容について
	第 2 回	流通経済と流通政策 ：流通とはどのような経済活動か、またその流通経済と流通政策の関係について検討する。
	第 3 回	流通経済の成立 ：流通経済の成立について検討し、製造業者、流通業者の志向について学ぶ。
	第 4 回	流通機構 ：流通経済を構成する流通機関について、その特性について流通政策の観点から検討する。
	第 5 回	流通業者 ：流通機構を構成する流通業者について、その特性について流通政策の観点から検討する。
	第 6 回	マーケティング・チャネル ：製造業者のチャネル戦略について流通政策の観点から検討する。
	第 7 回	垂直的マーケティング・システム（VMS)と流通系列化 ：製造業者は自身のマーケティングの有効性を高めるために垂直的マーケティング・システムを構築する。我が国においてもその活動は流通系列化という形で展開された。これらの活動を流通政策の観点から検討する。
	第 8 回	流通政策の体系 ：流通政策がどのような体系で構成されているかを概観する。
	第 9 回	独占禁止法の基礎① ：流通政策の基礎を提供する独占禁止法とはどのような法律か、を流通政策の観点から検討していく。
	第 10 回	独占禁止法の基礎② ：競争政策としての独占禁止法とはどのようなものかを、流通政策の観点から検討していく。
	第 11 回	独占禁止法の基礎③ ：独占禁止法の運用官庁である公正取引委員会とはどのような組織であり、どのような活動を行っているか、を検討する。
	第 12 回	独占禁止法の基礎④ ：まちづくりの基礎を提供する流通振興政策について検討していく。
	第 13 回	eコマースと流通政策について ：発展目覚ましいeコマースと流通政策について、検討していく。
	第 14 回	海外の流通と流通政策について ：海外における流通活動と、流通政策について検討していく。
	第 15 回	まとめ ：流通政策aの内容についてまとめを行う。
準備学習	本講義では、流通と独占禁止法の学際的な領域を学んでいくことから、流通の基礎知識と独占禁止法の構造について理解を進めていく必要がある。毎回、講義時に事前学習・事後学習について指示をします。	
履修上の留意点等	・講義を受けるに適した受講態度で臨んでください。	

	・講義を３分の１以上欠席した場合には、テストを受ける権利を失うことに注意してください。	
成績評価の方法	80 ％	試験
	20 ％	レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	野木村忠度著　『流通と法』　尚学社　１９００円	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適宜指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	未実施	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	091751 / 流通政策ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	野木村　忠度（ノギムラ　タダノリ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	流通政策とは、流通経済の中で企業が行うことのできる行為を規定し、流通のあるべき姿を作ろうとするルールである。この市場のルールでともいえる流通政策を知ることで流通経済の仕組み、及びマーケティングの活動についてより深く考察することができる。流通政策bでは、流通政策aで学んだ内容を基礎に、今日の流通政策をめぐる課題について検討していく。	
到達目標(ねらい)	流通政策についての基礎知識を習得することを目的とする。 また、本科目は、駒澤大学学位授与方針DP5に関連します。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス ：本講義の進め方と流通政策の内容について
	第 2 回	我が国の流通構造と流通政策 ：我が国の流通構造と流通政策について概観していく。
	第 3 回	チャネル・コンフリクト ：製造業者と流通業者の関係が対立する場合がある。なぜこのような対立（コンフリクト）が生じるのか、を検討していく。
	第 4 回	流通政策の体系 ：流通政策は戦後どのような形で整備されてきたかを検討していく。
	第 5 回	流通政策の重要課題：再販売価格維持行為① ：再販売価格維持行為とはどのような行為か、を検討していく。
	第 6 回	流通政策の重要課題：再販売価格維持行為② ：再販売価格維持行為を推進していくための垂直的制限について、検討していく。
	第 7 回	流通政策の重要課題：再販売価格維持行為③ ：再販売価格維持行為をめぐる是非について、日本・米国の理論、判例から検討していく。
	第 8 回	流通政策の重要課題：再販売価格維持行為④ ：流通・取引慣行ガイドラインについて、その内容について検討していく。
	第 9 回	流通政策の現代的課題：フランチャイズ・システムと流通政策① ：コンビニをはじめとしたフランチャイズ・ビジネスは発展したが、今日において流通問題が多く発生している。この流通政策をめぐる課題の１つであるフランチャイズ・システムと流通政策について検討していく。
	第 10 回	流通政策の現代的課題：フランチャイズ・システムと流通政策② ：フランチャイズ・システムをめぐる問題の所在について、検討していく。
	第 11 回	流通政策の現代的課題：フランチャイズ・システムと流通政策③ :フランチャイズ・システムをめぐる問題について、海外の流通政策を基礎にどのように対応していくべきかを検討する。
	第 12 回	流通政策とまちづくり① ：我が国の商店街を現状を検討したうえで、まちづくりへの流通政策の必要性について検討していく。
	第 13 回	流通政策とまちづくり② ：流通振興政策について検討していく。
	第 14 回	流通政策とまちづくり③ ：川越市のまちづくりについて、流通政策の観点から検討していく。
	第 15 回	まとめ ：流通政策bの内容についてまとめを行う。
準備学習	本講義では、流通と独占禁止法の学際的な領域を学んでいくことから、流通の基礎知識と独占禁止法の構造について理解を進めていく必要がある。毎回、講義時に事前学習・事後学習について指示をします。	
履修上の留意点等	・流通政策aを履修していることが望ましい。 ・講義を受けるに適した受講態度で臨んでください。	

	・講義を３分の１以上欠席した場合には、テストを受ける権利を失うことに注意してください。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	野木村忠度著　『流通と法』　尚学社　１９００円	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適宜指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	未実施	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	096601 / 消費経済論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	姉歯　暁（アネハ　アキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	「消費」とは、私たちが毎日生活する上で避けて通ることのできない経済活動である。とりわけ、私たちが日々行う「消費」は最終消費と呼ばれ、生産と流通の最終目的である価値の実現が行われる場所である。だからこそ、経済活動の各段階で生みだされた利害（厳密にいえば、経済的な意味合いではなく日常用語として の）が累積されながら、商品の出口である最終消費に流れ着き、私たちが消費する商品（最終消費財・サービス）や消費行動そのものに反映されることになるのである。 日常生活にあまり関係がなさそうに見える政策や難解な経済理論も、実際には、私たちに身近な消費行動に大きな影響を与えている。ということは、経済活動でも、特に最も日常生活に身近な窓口からさかのぼっていけば分かりやすい。この消費経済論aでは、消費経済論bで集中的に扱う現実問題を理解するための基礎作り（理論と歴史理解）を主として行う。したがって、「消費の経済史」から消費構造の変化とその歴史的背景を中心に講義をすすめていくことになるが、用語の説明ばかりになったり、抽象的な解説だけで講義を行うことはない。	
到達目標(ねらい)	この講義の最終目標は他の講義と同様、現代社会で起こっているさまざまな問題を分析す る力を身につけてもらうことにある。この最終目標に向けて、「消費」にかかわる問題を通して、理論と現実の問題の両方をつなげる勉強をしていこう。	
授業スケジュール	第 1 回	第１週はイントロダクション 講義の説明、テキストの紹介、消費という側面から経済を観察する意味について、そして消費者とは誰のことか？考えていこう。
	第 2 回	第１テーマ：家計と消費の現状 まず、今、私たちが生活する日本の消費の現状を確認することから始めよう。 収入は？資産は？そして借金は？ 各種官庁統計や意識調査などを使って日本の消費の現状を確認してみよう。
	第 3 回	世帯類型別の家計構造 世帯の特徴別に家計を見ると、貧困の原因の一端が見えてくる。 若者は消費しなくなっているって本当？
	第 4 回	第２テーマ：経済学は消費をどう見てきたか？ 現代の消費が抱える課題の「存在」を認識できたところで、これらの問題を解くための経済理論を勉強しよう。 経済学説の代表的なものを読み解きながら、消費という経済活動が経済全体の中でどう位置付けられてきたのかを学ぶ。消費（消費する主体：消費者）、生活（生活する主体：生活者）とは何か？この言葉の違いは何か？ ２回にわたって、経済学、社会学、消費社会論の論者の主張を紹介する。
	第 5 回	経済学は消費をどう見てきたか？ ２週目は「みせびらかしの消費」という議論を展開し消費経済論の画期を作ったヴェブレン、「記号としての消費」をめぐるボードリアールの研究など、消費経済論の理論展開の画期となった議論に言及する。みんなはこれらの意見にどのような感想を持つだろうか？
	第 6 回	第３テーマ：戦後の社会関係の変容と労働・生活・消費行動ー「近代」「合理化」「計画的」消費の導入 １、大量生産・大量消費構造を成立させていく戦後日本の歩みを通して、今では当然のことだと受け止められている消費様式の成立の様子とその原動力となったものを見ていこう。
	第 7 回	２、日本における資本制生産と消費、生活の変化 ここからは日本に目を転じて日本における資本制生産の確立、戦争を経験して変化する生活を見ていこう。かつて、といってもそれほど昔ではない頃、醤油も酒も瓶を持って買いに行っていた。八百屋さんでは新聞紙に野菜をつつんで渡していた。子どもたちは米を買いにコメ屋に行ったついでに親にジュースをねだって買ってもらっていた。こういった消費のあり方が大きく変化したのはいつだろうか？昭和の香りが漂う映像資料と共に見ていこう。
	第 8 回	３、高度経済成長と消費ー①高度経済成長期の消費-概説

		高度経済成長は経済構造だけではなく、当然働くものの生活を大きく変化させていった。家族関係や、都市と農村の関係も大きく変化させたこの時期の日本を２週にわたって見ていこう。
	第 9 回	４、高度経済成長と消費ー②高度経済成長と公害・消費者被害の発生
	第 10 回	５、オイルショック後の低成長時代における消費 1973年の石油危機を機に低成長期の日本の姿を生活と消費の視点で見ていこう。
	第 11 回	第４テーマ：「バブルとバースト」～現在の経済と消費を考える １、バブル発生の原因とバブルのもとで消費がどのような影響を受けたのかを見ていこう。
	第 12 回	２、バブル崩壊後～現在までの日本経済と消費 バブル崩壊以降、長期のデフレに苦悩する日本、そこではいったい何が起こっていたのか、家計と消費を取り巻く経済環境の変化を２回に分けてみていこう。
	第 13 回	３、バブル崩壊後～現在までの日本経済と消費 バブル崩壊以降、長期のデフレに苦悩する日本、そこではいったい何が起こっていたのか、家計と消費を取り巻く経済環境の変化を２回に分けてみていこう。第１３週はその二回目となる。
	第 14 回	４、消費者問題：情報の偏差と消費者の権利 ここまで見てきた消費と生活を巡る様々な問題とそこでの消費者という存在の特性から、消費者の権利をなぜ守る必要があるのか、考えていこう。
	第 15 回	理解度の確認
準備学習	① 経済学の理解のために必要なことは、身の回りで起こることに「疑問」を持つこと、新聞 を読むことである。ネットのニュースは、関心のある情報をピンポイント で収集するには役に立つが、実は、関心のあることを理解するために、その脇にある、何気なく目に入る 情報が役に立つこともある。そういう発見を もたらしてくれるのは、やはり新聞である。是 非新聞を読んでほしい。 ②経済理論に関する講義を履修してほしい。日本史、世界史に関する講義や事前学習も役 に立つ。高校時代に使った年表を講義の際に持参することも講義の理解を助ける。 ③経済史、学説史、哲学に関する講義を併せて履修してほしい。	
履修上の留意点等	①毎回、講義のはじめで前週までの講義の質問を受け付ける。その時間を活用して欲しい。 ②講義の途中でわからないこと、聞き逃したことがあれば、講義を遮ってもかまわないので、恥ずかしがらずにその場でただちに質問すること。 ③教室のドアが閉まって以降の入室・中途退室は、基本的に講義の妨げになるので認めない。 ④携帯電話は電源をOFFにしておくこと。周囲の学生の集中力を妨害するのでメールも禁止する。 ⑤私語は絶対禁止。声が教壇まで届かなくとも、私語に類する行為が確認された段階で退室を命じる。 ⑥繰り返すが、授業中に質問をするのは、「集中力を途切れさせる迷惑行為」ではないので、むしろ、他の参加者の目を気にすることなく、自分と一対一のつもりで一歩一歩自分の理解度を確かめながら進めるためにも、是非、質問を推奨したい。 隣にたずねるのではなく私に質問すること。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	評価方法は以下の通り。 試験で評価を行うが、理解度をはかるために抜き打ちで小テストを行う場合もある。その場合、一度の小テストにつき最大で１０点まで加点を行う。なお、小テストを受けない場合でも減点は行わない。また、試験で１００点を取り、小テストも１０点満点を取った場合でも最大の素点合計は１００点となる。そのほかの成績評価を加える場合には最初の講義もしくは講義の中であらかじめ説明を行う。なおその場合でも加点は行うが	

	減点は行わない。
教科書/テキスト	プリントとパワーポイント等を使いながら行う。資料は印刷し、配布するほか、一定期間Yestudyにて公開する。ただし、一定期間を過ぎると削除される。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	講義の最初で配布する週ごとの参考文献一覧で紹介する。そのほか、講義の中で随時紹介を行う。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	私語がない事への評価が極めて高い。この講義では私語や携帯の操作等一切禁止している。本年も当然この原則は貫かれている。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	096651 / 消費経済論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	姉歯　暁（アネハ　アキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	「消費」とは、私たちが毎日生活する上で避けて通ることのできない経済活動である。とりわけ、私たちが日々行う「消費」は最終消費と呼ばれ、生産と流通の最終目的である価値の実現が行われる場所である。経済活動の各段階で生みだされた利害（厳密にいえば、経済的な意味合いではなく日常用語としての）が累積されながら、商品の出口である最終消費に流れ着き、私たちが消費する商品（最終消費財・サービス）や消費行動そのものに反映される。 日常生活にあまり関係がなさそうに見える政策や難解な経済理論も、実際には消費生活に大きな影響を与えている。 この講義では、現代の消費とくらしにかかわるさまざまな問題を解明する。キーワードは「消費社会」分析である。	
到達目標(ねらい)	この講義の最終目標は、現代社会で起こっているさまざまな問題を分析する力を身につけてもらうことにある。経済は「動」の学問である。常にコア(核）となるメガマーケットが、周辺の隙間に展開する領域を包み込み、家庭生活を飲み込み、あるいは吐き出しながら、一時も静止することのない生き物が経済である。その「動的」存在としての経済が私たちの暮らしにどのような影響を与えているのか、そのつながりを実感を持って理解できるようになる・・・それがこの講義がめざすものである。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション この講義の狙い、参考文献、各テーマについての詳細な説明を行う。
	第 2 回	第１テーマ：「消費社会」論を読み解く マーケティングの対象としての消費者を集団としてどう捉えるのか、その試みの一つがいわゆる「消費社会論」です。そこで語られる姿ははたして現実を反映しているのか。経済学の立場から読み解いていこう。 まず、「消費社会論」の系譜を見ていく。J.B.セイ、リカード、J.ミル、ケインズ、ヴェブレン等、「消費者」をどうとらえていたのかを、経済学の先人たちに学ぶ。
	第 3 回	ヴェブレンに焦点をあて、アメリカの当時の歴史的背景にも言及しながら、ヴェブレンの消費論を解説する。
	第 4 回	1970年代から80年代にかけて、日本でも独特な「消費社会論」が展開された。どうしてこの時期だったのか、それらの主張を紹介しながら、当時、日本でブームとなった消費社会論を検証していく。
	第 5 回	3.11以降、強調されているのが「絆消費」と言われるものである。言葉は異なるが、70年代から80年代にブームとなった主張と共通する。実際に、代表的な論者の主張を紹介しながら、検証を加えていく。
	第 6 回	第２テーマ：豊かな消費社会論と消費社会の内実 統計資料をふんだんに利用しながら、日本の消費構造を規定しているものが何かを見ていこう。 まずは、ダニエル・ベルの脱工業社会論をもとに展開される「サービス化」論の問題点を検証する。
	第 7 回	「サービス消費」関連の品目を取り出し、それぞれの費目への支出をもたらしている経済構造の変化を見ていこう。これら一連の作業を通じて、家計調査をはじめとする各種官庁統計、統計用語関連の知識の基本を同時に身につけていく。
	第 8 回	第３テーマ：生活の社会化の進展と現代の貧困 ２回を使って、格差はどのようにして私たちの日々の生活に表れてくるのか、格差という問題をどのように捉えるべきなのか、こういった問題を、統計で示される現状を見ながら考えていこう。 まず最初に「生活の社会化」という概念の紹介と、こういった概念がなぜ生まれてきたのかを考える。
	第 9 回	社会資本、所得の再分配の理想と現実 この二つの概念も「生活の社会化」と関連している。まずはこれらの語句の説明から入り、現状をみていこう。
	第 10 回	貧困問題を考える 貧困家庭のこどもがゲーム機をもっていたらおかしいのか？貧困の問題を私たちはどのように考えるべきだろうか。

	第 11 回	第４テーマ：家計と金融-家計の債務と消費者問題 家計に関わる債務の問題を考える基礎理論を確認しよう。
	第 12 回	日本の家計債務の現状と、その背景にある問題を見ていこう。多重多額債務者の問題を含め、消費者政策の現状もともに学んでいこう。消費者信用（クレジットカードや学資ローンなど）に住宅ローン、さまざまな借金を抱える私たちの現在、皆さんに将来起こりうる問題を考える基礎を提供したいと思っている。
	第 13 回	第５テーマ：グローバリゼーションと消費生活 「グローバリゼーション」とはきわめて大雑把な概念である。講義では、２回にわたって、グローバリゼーションを歴史段階ごとに整理して説明するつもりである。さらに、国際貿易関係のもとで私たちの生活がどのような影響を受けているのかを、TPPやFTAなどにも触れながら見ていく。
	第 14 回	２回目は具体的に日本の「食と農」を考えていこう。
	第 15 回	消費と経済 これまでの勉強の理解度を確認する。
準備学習	① 経済学の理解のために必要なことは、身の回りで起こることに「疑問」を持つこと、新聞 を読むことである。ネットのニュースは、関心のある情報をピンポイント で収集するには役に 立つが、実は、関心のあることを理解するために、その脇にある、何気なく目に入る 情報が役に立つこともある。そういう発見を もたらしてくれるのは、やはり新聞である。是 非新聞を読んでほしい。 ②経済理論に関する講義を履修してほしい。日本史、世界史に関する講義や事前学習も役 に立つ。高校時代に使った年表を講義の際に持参することも講義の理解を助ける。 ③消費経済論aを履修してほしい。	
履修上の留意点等	①毎回、講義のはじめで前週までの講義の質問を受け付ける。その時間を活用して欲しい。 ②講義の途中でわからないこと、聞き逃したことがあれば、講義を遮ってもかまわないので、恥ずかしがらずにその場でただちに質問すること。 ③教室のドアが閉まって以降の入室・中途退室は、基本的に講義の妨げになるので認めない。 ④携帯電話は電源をOFFにしておくこと。周囲の学生の集中力を妨害するのでメールも禁止する。 ⑤私語は絶対禁止。声が教壇まで届かなくとも、私語に類する行為が確認された段階で退室を命じる。 ⑥繰り返すが、授業中に質問をするのは、「集中力を途切れさせる迷惑行為」ではないので、むしろ、他の参加者の目を気にすることなく、自分と一対一のつもりで一歩一歩自分の理解度を確かめながら進めるためにも、是非、質問を推奨したい。 隣にたずねるのではなく私に質問すること。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	評価方法は以下の通り。 試験で評価を行うが、理解度をはかるために抜き打ちで小テストを行う場合もある。その場合、一度の小テストにつき最大で１０点まで加点を行う。なお、小テストを受けない場合でも減点は行わない。また、試験で１００点を取り、小テストも１０点満点を取った場合でも最大の素点合計は１００点となる。そのほかの成績評価を加える場合には最初の講義もしくは講義の中であらかじめ説明を行う。なおその場合でも加点は行うが減点は行わない。	
教科書/テキスト	プリントとパワーポイント等を使いながら行う。資料は印刷し、配布するほか、一定期間Yestudyにて公開する。ただし、一定期間を過ぎると削除される。	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	姉歯 暁『豊かさという幻想 「消費社会」批判』、桜井書店、2013年（3200円＋税） このほか、各テーマに適した参考資料や著書、論文や映像などについては、講義の中で随時紹介していく。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	例年寄せられる感想としては、「静かな環境で講義を受けることができる」ことへの評価が極めて高い。内容充実度が高いが、簡単に単位が取れる科目ではないとの評価を受けている。その通りでありたいと思う。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097801 / 銀行システム論		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	齊藤　正（サイトウ　タダシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	銀行が一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは良く知られています。しかし、銀行は貸出に際して「預金通貨」というマネーを供給するとともに、決済機構の中心に位置している点で、他の金融機関にはない独自の重要な役割を担っていることは意外に知られていません。 グローバル化、IT化の進展に伴い、世界的に金融業務、とりわけ、銀行業務は大きな変貌を遂げるとともに、各種金融リスクも高まり、それが銀行部門に及んで、1990年代初頭の日本におけるバブル破綻、97年のアジア通貨危機、2008年秋のリーマンショック、さらには直近におけるユーロ危機、などに見られるように、金融システム危機を招いていますが、その理由を解くカギは、まさに銀行の、一般企業とだけでなく、他の金融機関とも異なる独自的役割を理解することにあります。 さらに、世界的な「低金利」の長期化とFintechの急速な進展の下で、預貸業務中心の「商業銀行」の経営が厳しさを増すなか、銀行が「衰退産業」であるとの見方もありますが、その当否を検討することも求められています。 多人数授業となることが予想されるため、毎回書いていただく「リアクションペーパー」の中からいくつか取り上げ、アクティブラーニングの一環として双方向授業を目指します。	
到達目標(ねらい)	本講義では、経済活動における銀行の役割を理論的に整理し、あるべき銀行の姿を考えながら、経済学部の教育課程の編成方針（ディプロマポリシー）に沿って、現代の銀行が社会的にどのような存在であるのかを理解することを目標とします。	
授業スケジュール	第 1 回	金融業としての銀行：「マネー」を入手・支出する目的の違いを理解することを通じて「金融」の意味を考えます。
	第 2 回	銀行業の特殊性：財務諸表（ B/SやP/L）でみる、他の金融業や一般企業との違い
	第 3 回	銀行の二つの起源：①貨幣の保管→預かり証（銀行券）の発行、②為替取引
	第 4 回	資本主義社会と近代的銀行の成立①：企業間信用と「手形」の流通
	第 5 回	資本主義社会と近代的銀行の成立②：「信用創造」と預金通貨の供給
	第 6 回	近代的銀行（制度）の発展①：「金融市場」と銀行
	第 7 回	近代的銀行（制度）の発展②：中央銀行の成立a)；発券銀行と預金銀行への分化
	第 8 回	近代的銀行（制度）の発展③：中央銀行の成立b)；「最後の貸し手」機能
	第 9 回	金融政策：金融政策の目的、手段、波及経路
	第 10 回	中央銀行の「独立性」問題：政府との関係
	第 11 回	資本主義社会の発展と銀行業の変貌①：商業銀行と投資銀行
	第 12 回	資本主義社会の発展と銀行業の変貌②：金融コングロマリット
	第 13 回	現代の銀行が抱えるリスク①：リスクの種類
	第 14 回	現代の銀行が抱えるリスク②：リスクの管理
	第 15 回	講義のまとめ ：望ましい銀行制度とは？
準備学習	毎回のレジメおよびテーマに即した事前学習課題（小レポート課題）をYeStudyにアップしておきますので、予習をして授業に臨んで下さい。 新聞やニュースには銀行に関連する出来事が数多く取り上げられています。講義ではそれらの中からトピック的なものを取り上げながら進めますので、日常的にニュースに注目しながら授業に臨むように心がけて下さい。	
履修上の留意点等	日々刻々と世界の金融情勢が変化しています。これらの動きをニュース、新聞等で絶えずフォローし、問題を共有したうえで積極的に議論に参加することを望みます。	
成績評価の方法	40 %	試験

		レポート
	20 %	小テスト
	40 %	平常点
	定期試験（40%）、小テスト（20%）および平常点（40%）により評価します。なお，評価は，基本的にそれらの合計点により判定しますが，記述内容が論理性に優れている場合や受講時の取組みに優れている場合には，合計点よりも高いランクで評価する場合があります。 なお、毎回の授業で得られた「知見」、「疑問点」を「リアクションペーパー」として提出してもらい、「平常点」とします（出席しただけでは「平常点」はゼロとなります）。	
教科書/テキスト	川波洋一・上川孝夫編著『現代金融論［新版］』有斐閣ブックス、2016年。ISBN 978-4-641-18433-6	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適宜、指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	履修者数にもよりますが、前回授業で出された「知見」、「疑問」とそれに対する回答を一覧にして示し、可能な限り、双方向での授業に努めます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	097901 / 現代銀行事情		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	齊藤　正（サイトウ　タダシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	グローバリゼーションの進展とIT技術の発展に伴い、「金融業」は大きな変貌を遂げつつありますが、それは同時に既存の「金融制度」の不断の見直しを迫っています。本講義では金融制度の中心に位置する銀行のあり方を経済発展とのかかわりで眺めながら、経済活動にとってのインフラストラクチャーの一つともいうべき望ましい金融（銀行）制度とはどのような存在であるのかを考えます。 多人数授業となることが予想されるため、毎回書いていただく「リアクションペーパー」の中からいくつか取り上げ、アクティブラーニングの一環として双方向授業を目指します。	
到達目標(ねらい)	本講義を履修することによって、銀行に関連する事象を通じて、世界及び国内の経済問題をより深く理解できること、具体的には、経済学部の教育課程の編成方針（ディプロマポリシー）に沿った、将来ビジネスマンとして活躍する上で不可欠な『日本経済新聞』を「読みこなす」力、をつけることが目標です。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンスおよびイントロダクション：グローバル金融危機の諸相
	第 2 回	戦後日本の金融・銀行制度の特殊性①：「専門的金融機関制度」
	第 3 回	戦後日本の金融・銀行制度の特殊性②：欧米との比較
	第 4 回	高度成長に果たした銀行の役割①：「人為的低金利政策」と金融制度
	第 5 回	高度成長に果たした銀行の役割②：「融資集中機構」と金融制度
	第 6 回	低成長経済への移行と金融制度：金融の自由化・国際化の促迫
	第 7 回	バブル経済と銀行経営：投機的経営への傾斜
	第 8 回	バブル崩壊後の銀行経営：グローバル化の進展と不良債権の重圧
	第 9 回	金融ビッグバン：「フリー・フェア・グローバル」な金融制度とは？
	第 10 回	小泉「構造改革」：「郵政民営化」の意図とは？
	第 11 回	公的金融と民間金融：政策金融改革をめぐって
	第 12 回	日本経済の持続的発展と中小企業金融：信用補完制度を中心に　（信用組合業態からゲスト講師を招く予定）
	第 13 回	金融のグローバル化とリスクの高まり：リスクの種類と管理
	第 14 回	金融業の変貌と銀行制度：Fintechの進展、グローバル・スタンダード（BIS規制、会計基準）
	第 15 回	講義のまとめ：銀行の再規制をめぐって
準備学習	毎回のレジメおよびテーマに即した事前学習課題（小テスト課題）をYeStudyにアップしておきますので、予習をして授業に臨んで下さい。	
履修上の留意点等	新聞やニュースには銀行に関連する出来事が多く取り上げられています。講義ではそれらの中からトピック的なものを取り上げながら進めますので、日常的にニュースに注目しながら授業に臨むように心がけて下さい。	
成績評価の方法	40 %	試験
		レポート
	20 %	小テスト
	40 %	平常点

	定期試験（40％）、小テスト（20％）および平常点（40％）により評価します。なお、評価は，基本的にそれらの合計点により判定しますが、記述内容が論理性に優れている場合や受講時の取組みに優れている場合には、合計点よりも高いランクで評価する場合があります。 なお、毎回の授業で得られた「知見」、「疑問点」を「リアクションペーパー」として提出してもらい、「平常点」とします（出席しただけでは「平常点」はゼロとなります）。
教科書/テキスト	川波洋一・上川孝夫編著『現代金融論［新版］』有斐閣ブックス、2016年。ISBN 978-4-641-18433-6
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	・齊藤　正『戦後日本の中小企業金融』ミネルヴァ書房、2003年。ISBN978-4623037711 ・齊藤　正/自治体問題研究所編『地域経済を支える地域・中小企業金融 ―持続可能な社会に向けた地域金融システムづくり』、自治体研究社、2009年。ISBN978-4880375427 ・渡辺努　植杉威一郎編著『検証　中小企業金融―「根拠なき通説」の実証分析』日本経済新聞出版社、2008年。ISBN978-4532133603
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	履修者数にもよりますが、前回の授業で得られた「知見」、「疑問点」とそれに対する回答を一覧にして示し、可能な限り双方向での授業に努めます。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	092391 / 財務会計論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小栗　崇資（オグリ　タカシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業活動の実態を外部の利害関係者や投資家に報告・開示することを目的とするのが財務会計です。財務会計は会社法や金融商品取引法のような制度（法律や規則）によって社会的に規制されています。そのような日本の企業会計制度はこの間、会計ビッグバンと呼ばれる大きな変化の過程をたどり、現在はさらにグローバルスタンダードである国際会計基準との統合の最中にあります。制度変化による経済やビジネスへの影響は大きく、日本の財務会計がどのような変化をとげていくかが、今問われているところです。授業では、企業会計制度の全体像と財務諸表の仕組みを理解することを到達目標に、授業スケジュールに沿って進めます。	
到達目標(ねらい)	講義の内容としては、会計制度の変化を理解するのに必要な、経済社会と会計との関係や会計に関する規制の仕組みについて理解を深めた上で、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、連結財務諸表）の構成や内容について学習を進めます。学部の教育課程の編成方針にもとづく重要な科目として受講生が十分な理解を得られるよう図ります。	
授業スケジュール	第 1 回	会計とは何か
	第 2 回	複式簿記と会計
	第 3 回	経済社会と企業会計制度
	第 4 回	日本の企業会計制度の歴史
	第 5 回	日本とアメリカの会計制度
	第 6 回	財務諸表の概要
	第 7 回	貸借対照表の仕組み（流動資産）
	第 8 回	貸借対照表の仕組み（固定資産）
	第 9 回	貸借対照表の仕組み（負債）
	第 10 回	貸借対照表の仕組み（純資産）
	第 11 回	損益計算書の仕組み
	第 12 回	キャッシュフロー計算書の仕組み
	第 13 回	株主資本等変動計算書の仕組み
	第 14 回	連結財務諸表の仕組み
	第 15 回	会計ビッグバンと会計のグローバル化
準備学習	指定するテキストの部分を事前に読んできてください。	
履修上の留意点等	会計学は専門知識を積み重ねていく学習スタイルが重要です。テキストを中心に講義をするので、必ず購入してください。プリントも適時、配布しますので休まずに受講してください。私語は厳禁とします。a（前期）とb（後期）を一括履修するようにしてください。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	小栗崇資『コンパクト財務会計―クイズでつける読む力』中央経済社、ISBN978-4-502-18561-8 試験ではテキストのみ持ち込み可としますので、必ず購入し講義に持ってきてください。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小栗崇資『株式会社会計の基本構造』中央経済社、ISBN978-4-502-08620-5 小栗・熊谷・陣内・村井編著『国際会計基準を考える―変わる会計と経済』大月書店、ISBN4-272-16017-6	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケートで、黒板の字が読みにくく、すぐに消されてしまうとの指摘を受けたので、なるべく大きく読みやすい文字で書き、十分ノートを取れるような時間を保障したいと思います。クイズは好評だったので19年度も適時行う予定です。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	092401 / 財務会計論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小栗　崇資（オグリ　タカシ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業活動の実態を外部の利害関係者や投資家に報告・開示することを目的とするのが財務会計です。財務会計は会社法や金融商品取引法のような制度（法律や規則）によって社会的に規制されています。そのような日本の企業会計制度はこの間、会計ビッグバンと呼ばれる大きな変化の過程をたどり、現在はさらにグローバルスタンダードである国際会計基準との統合の最中にあります。制度変化による経済やビジネスへの影響は大きく、日本の財務会計がどのような変化をとげていくかが、今問われているところです。授業では、企業会計の新たな変化と、グローバル化の中で導入される新しい会計基準について理解することを到達目標に、授業スケジュールに沿って進めます。	
到達目標(ねらい)	講義の内容としては、新たに導入された様々な会計基準を取り上げ、その習得をめざします。特に国際会計基準の内容をできるかぎり紹介して検討する予定です。また最後に経営分析の基礎についても学び、財務諸表を読みこなす力を付けるようにします。学部の教育課程の編成方針にもとづく重要な科目として受講生が十分な理解を得られるよう図ります。	
授業スケジュール	第 1 回	財務諸表の構成と内容
	第 2 回	国際会計基準の歴史と概要
	第 3 回	新しい会計基準の特徴
	第 4 回	金融商品会計
	第 5 回	減損会計
	第 6 回	リース会計
	第 7 回	退職給付会計
	第 8 回	資産除去債務会計
	第 9 回	自己株式会計
	第 10 回	有価証券報告書の見方
	第 11 回	経営分析の応用(安全性分析)
	第 12 回	経営分析の基礎（収益性分析）
	第 13 回	内部留保の経営分析
	第 14 回	主要企業の有価証券報告書の検討
	第 15 回	財務諸表の活用
準備学習	指定するテキストの部分を事前に読んできてください。	
履修上の留意点等	会計学は専門知識を積み重ねていく学習スタイルが重要です。テキストを中心に講義するので、必ず購入してください。プリントも適時、配布しますので休まずに受講してください。私語は厳禁とします。a（前期）とb（後期）を一括履修するようにしてください。	
成績評価の方法	80 %	試験
	20 %	レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	小栗崇資『コンパクト財務会計―クイズでつける読む力』中央経済社、ISBN978-4-502-18561-8 試験ではテキストのみ持ち込み可としますので、必ず購入し講義に持ってきてください。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	小栗崇資『株式会社会計の基本構造』中央経済社、ISBN978-4-502-08620-5 小栗・熊谷・陣内・村井編著『国際会計基準を考える―変わる会計と経済』大月書店、ISBN4-272-16017-6	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業アンケートで、黒板の字が読みにくく、すぐに消されてしまうとの指摘を受けたので、なるべく大きく読みやすい文字で書き、十分ノートを取れるような時間を保障したいと思います。クイズは好評だったので19年度も適時行う予定です。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	096991 / 会計監査論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	森田　佳宏（モリタ　ヨシヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	監査はその分類のしかたによっていくつかの種類に分けられますが、この授業では、会計監査であるところの財務諸表監査について学びます。会計監査とは、企業における会計記録および会計行為の全部または一部につき、それに関与しない独立の第三者が分析的に検討を加え、その適否または正否に関する批判的意見を表明することをいいます。さらに、財務諸表監査とは、企業が作成する財務諸表の適否について、監査人が公正不偏の立場から検討を加えて専門家としての意見を表明し、もって財務諸表に対する社会の信頼を高めるために行われている制度で、主として投資家、債権者その他の利害関係者の利益擁護を目的とする監査のことです。授業は講義形式で行います。本講義では、主として職業的監査人である公認会計士による財務諸表監査の歴史やしくみ、考え方について解説します。	
到達目標(ねらい)	この授業の到達目標は、監査の歴史的発展過程を理解するとともに、近年のわが国における監査の国際化に伴う監査思考の進化に関する知識を習得することです。経済学部の学位授与方針の5「体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。」に関連しています。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	商法、証券取引法および商法特例法と監査
	第 3 回	会社法と会社の種類
	第 4 回	株式会社の機関設計と監査
	第 5 回	会計監査と業務監査、貸借対照表監査と財務諸表監査、精密監査と試査監査
	第 6 回	イギリスにおける監査の生成と発展
	第 7 回	アメリカにおける監査の生成と発展
	第 8 回	特定項目抽出による試査
	第 9 回	サンプリングによる試査
	第 10 回	外部監査と内部監査、法定監査と任意監査
	第 11 回	監査リスク
	第 12 回	平成30年監査基準改訂（監査上の主要な検討事項）
	第 13 回	平成26年監査基準改訂（財務諸表の種類と監査意見）
	第 14 回	平成25年監査基準改訂（不正リスク）
	第 15 回	平成22年監査基準改訂（監査報告書、除外事項）
準備学習	財務諸表の監査に関する講義が中心となるので、この授業の履修にあたっては、財務諸表を作成するための基本的技術を学ぶ「簿記論」ならびに会計処理の考え方を学ぶ「会計学基礎」、「財務会計論」などの会計科目を履修していることが望ましい。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	95 %	試験
		レポート
		小テスト
	5 %	平常点

教科書/テキスト	使用しません。授業の中でプリントおよび資料を配付します。なお、授業で使用する「監査基準」をYeStudyにアップロードしてあるので、各自で事前にプリントアウトして授業に持参してください。持参の時期については授業の中で指示します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	長吉眞一、伊藤龍峰、北山久恵、井上善弘、異島須賀子『監査論入門（第3版）』中央経済社、3,024円、ISBN：978-4-502-18571-7 盛田良久、蟹江章、長吉眞一編著『スタンダードテキスト監査論（第4版）』中央経済社、4,968円、ISBN：978-4-502-19701-7 中央経済社編『監査法規集（第4版）』中央経済社、2,376円、ISBN：978-4-502-14391-5	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の「学生による授業アンケート」において、監査は難しい印象があったが説明がわかりやすいとの評価を受けました。今後も引き続き授業方法の改善を心がけます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	097001 / 会計監査論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	森田　佳宏（モリタ　ヨシヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	経済社会において実際に行われている監査は、法的な枠組みにもとづいて実施されているものです。法律によって行われる社会的に認められた監査のしくみを監査制度といいます。ここにいう法律には種々のものがありますが、具体的にはまず金融商品取引法と会社法があげられます。いずれも財務諸表の適正性に関する意見を表明することを目的とする監査の実施を規定する法律ですが、それぞれの法律の歴史的起源や公認会計士による監査の位置づけの違いから、制度としての監査のあり方に対する考え方にも違いがみられます。また、公認会計士の義務や責任等について規定する公認会計士法もこうした法的枠組みを構成する法律の1つです。授業は講義形式で行います。本講義では、監査基準の内容をふまえつつ、金融商品取引法と会社法にもとづいて実施されている監査について解説します。	
到達目標(ねらい)	この授業の到達目標は、わが国の監査基準の内容についての理解を深めるとともに、財務諸表の適正性の立証の考え方や監査の基本的なプロセス、監査の制度的なしくみについての知識を習得することです。経済学部の学位授与方針の5「体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。」に関連しています。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	平成21年監査基準改訂（継続企業の前提）
	第 3 回	平成17年監査基準改訂（リスク・アプローチ）
	第 4 回	適正性の立証と監査要点
	第 5 回	平成14年監査基準改訂（監査基準の体系、監査の目的）
	第 6 回	四半期レビュー
	第 7 回	精神的独立性と外観的独立性
	第 8 回	正当な注意と職業的懐疑心
	第 9 回	監査の基本的なプロセス
	第 10 回	リスク評価手続とリスク対応手続
	第 11 回	監査の手法としての監査手続
	第 12 回	不正と誤謬
	第 13 回	監査に関する品質管理基準
	第 14 回	会社法監査と金融商品取引法監査のしくみ
	第 15 回	トライアングル体制と会計・監査の国際化
準備学習	この授業は、前期に開講される「会計監査論ａ」で取り上げた内容を前提として進行するため、監査論の初学者は、前期の「会計監査論ａ」から履修することが望ましい。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	95 ％	試験
		レポート
		小テスト
	5 ％	平常点

教科書/テキスト	使用しません。授業の中でプリントおよび資料を配付します。なお、授業で使用する「監査基準」をYeStudyにアップロードしてあるので、各自で事前にプリントアウトして授業に持参してください。持参の時期については授業の中で指示します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	長吉眞一、伊藤龍峰、北山久恵、井上善弘、異島須賀子『監査論入門（第3版）』中央経済社、3,024円、ISBN：978-4-502-18571-7 盛田良久、蟹江章、長吉眞一編著『スタンダードテキスト監査論（第4版）』中央経済社、4,968円、ISBN：978-4-502-19701-7 中央経済社編『監査法規集（第4版）』中央経済社、2,376円、ISBN：978-4-502-14391-5	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の「学生による授業アンケート」において、監査は難しい印象があったが説明がわかりやすいとの評価を受けました。今後も引き続き授業方法の改善を心がけます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	097111 / 管理会計論ａ　097112 / 企業会計の実務		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	石川　祐二（イシカワ　ユウジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では、伝統的に管理会計研究の領域において取り扱われてきた諸問題について検討を加える。とりわけ、企業業績の測定・管理に関わる範囲を中心として、そのために用いられる会計情報について学ぶことになる。それを通じて、会計情報の経営管理的意味を明らかかする。	
到達目標(ねらい)	管理会計論は、実際に企業が直面する管理上の課題について、会計情報との関係から考察する学問であり、経済学部の学位授与方針の5「専門分野の知識・技能の活用力」と深く関連している。本講義では、そうした活用力を養う上で必要な、伝統的な管理会計論に関わる基礎的知識の獲得、および、思考様式の理解を目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス　会計学における管理会計論の位置づけ
	第 2 回	管理会計論の捉え方①　管理会計論の対象
	第 3 回	管理会計論の捉え方②　管理会計論の方法
	第 4 回	管理会計論の成立と発展
	第 5 回	管理会計における情報の性質
	第 6 回	コスト概念
	第 7 回	利益概念
	第 8 回	CVP分析
	第 9 回	利益計画と予算編成
	第 10 回	予算実績差異分析①　材料費差異・労務費差異
	第 11 回	予算実績差異分析②　間接費差異・その他の差異
	第 12 回	セグメント別業績評価
	第 13 回	活動基準原価計算
	第 14 回	活動基準管理
	第 15 回	まとめ　業績管理と会計
準備学習	簿記を中心として、会計の基本的な「用語」について学んでおくことを推奨する。	
履修上の留意点等	会計学基礎および簿記論を履修済みであることが好ましい。 また、電卓を用いることがあるので、その際は持参すること。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	定期試験（前期末）により評価する。	
教科書/テキスト	毎回配布するプリントが教科書代わりである。	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	石川祐二著 『現代ドイツ管理会計制度論』 森山書店 3675円（税込） ISBN：4-8394-2031-9
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	例年、アンケートでは授業内容に関して十分に理解できたとの評価を受けている。その一方で、科目自体への興味があまり持てないとの評価もある。そこで、実際の企業の例を用いた説明を増やしたいと考える。また、授業内で計算問題を解く時間を増やすことで、アクティブな学習の機会を増やしたいと考える。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097121 / 管理会計論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	石川　祐二（イシカワ　ユウジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義においては、意思決定に関わる会計上の問題、および、現代において特に注目されている新たな管理会計研究の領域について取り上げることにする。具体的には、業績評価に関わる新たな手法に検討を加えることや、企業の「経営管理」と「会計」との関係をとらえ直すことが中心的な課題となる。このことを通じて、伝統的な管理会計研究では捕捉しきれなかった会計現象の意味を明らかにしたい。	
到達目標(ねらい)	管理会計論は、実際に企業が直面する管理上の課題について、会計情報との関係から考察する学問であり、経済学部の学位授与方針の5「専門分野の知識・技能の活用力」と深く関連している。本講義では、そうした活用力を現代社会において発揮するために必要な管理会計の社会的機能の理解を促し、分析する能力を身につけることを目指す。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス　企業管理と会計との関係性
	第 2 回	価格決定と原価企画
	第 3 回	製品に関する意思決定と会計①　差額原価収益分析
	第 4 回	製品に関する意思決定と会計②　プロダクト・ミックス
	第 5 回	設備投資に関する意思決定と会計①　原価比較法・回収期間法
	第 6 回	設備投資に関する意思決定と会計②　内部利益率法・割引現在価値法
	第 7 回	リスク・マネジメントと会計①　リスク・マネジメント会計制度の基盤
	第 8 回	リスク・マネジメントと会計②　リスク・マネジメント会計制度の機能
	第 9 回	バランスト・スコアカード
	第 10 回	報酬の管理と会計　ストック・オプションを中心に
	第 11 回	無形資産の管理と会計①　無形資産とは何か
	第 12 回	無形資産の管理と会計②　無形資産管理の機能と現代性
	第 13 回	企業の管理システムと会計監査の関係
	第 14 回	銀行の管理に関する規制と会計
	第 15 回	まとめ　管理会計の社会的意味
準備学習	前回までの講義プリントを復習した上で講義に臨むこと。	
履修上の留意点等	会計学基礎および簿記論、管理会計論aを履修済みであることが好ましい。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	特に指定しない	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	石川祐二著 『現代ドイツ管理会計制度論』 森山書店 3675円（税込） ISBN：4-8394-2031-9
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	意思決定に関わる管理会計の手法に関しては、その計算の理解が十分に出来なかったと、アンケートで指摘されることが多い。そこで、講義内で学生に計算に取り組んでもらう時間を増やし、また、自宅学習のための例題を用意したいと考える。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097401 / 税務会計論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	柳　綾子（ヤナギ　アヤコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。 本講義では、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて学習します。まず税務会計の基礎的な概念や考え方などについて学んだ上で、個別具体的な税務会計処理について学んでいきます。	
到達目標(ねらい)	税務計算技術の習得や課税所得計算構造への理解を深めることを目的とします。本講義をきっかけに、なぜ課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるのか、公平な課税はどのようにしたら実現できるのかということについて考えてほしいと思います。なお、本科目は、駒澤大学学位授与方針DP5に関連します。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	税務会計の制度的基礎（１）－税務会計と企業会計制度
	第 3 回	税務会計の制度的基礎（２）－税務会計と企業会計制度の相互関係
	第 4 回	税務会計の制度的基礎（３）－申告納税制度、青色申告制度
	第 5 回	法人税の基礎（１）－法人税の意義・沿革、法人税の性格
	第 6 回	法人税の基礎（２）－法人税の納税義務者、法人税の種類と課税所得等の範囲
	第 7 回	法人税の基礎（３）－同族会社、実質所得者課税の原則
	第 8 回	課税所得計算の基礎（１）－課税所得金額、益金の概念
	第 9 回	課税所得計算の基礎（２）－損金の概念、資本等取引
	第 10 回	課税所得計算の基礎（３）－公正会計処理基準、確定決算主義
	第 11 回	益金の会計（１）－販売収益、売上収益の修正等
	第 12 回	益金の会計（２）－有価証券の譲渡損益と期末評価、固定資産の譲渡益
	第 13 回	益金の会計（３）－受取配当等の益金不算入、その他
	第 14 回	授業内終了テスト
	第 15 回	テスト等解説
準備学習	会計学の基礎的知識（簿記3級程度）が必要	
履修上の留意点等	税務会計論aだけでは完結しないため、税務会計論bも合わせて受講することが望ましい。 ※授業スケジュールは、進行状況により変更することもあります。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	柳裕治他『税務会計論』（創世社、2019年）
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	受講者の状況を確認しながら、進行のスピードを調整したいと思います。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097451 / 税務会計論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	柳　綾子（ヤナギ　アヤコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。 本講義では、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて学習します。まず税務会計の基礎的な概念や考え方などについて学んだ上で、個別具体的な税務会計処理について学んでいきます。	
到達目標(ねらい)	税務計算技術の習得や課税所得計算構造への理解を深めることを目的とします。本講義をきっかけに、なぜ課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるのか、公平な課税はどのようにしたら実現できるのかということについて考えてほしいと思います。なお、本科目は、駒澤大学学位授与方針DP5に関連します。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	損金の会計（１）－売上原価
	第 3 回	損金の会計（２）－固定資産の減価償却
	第 4 回	損金の会計（３）－固定資産の減価償却、資本的支出と修繕費
	第 5 回	損金の会計（4）－繰延資産の償却、給与
	第 6 回	損金の会計（５）－寄付金
	第 7 回	損金の会計（６）－交際費等
	第 8 回	損金の会計（７）－租税公課、引当金、準備金、圧縮記帳
	第 9 回	損金の会計（８）－資産の評価損、貸倒損失、リース取引、その他
	第 10 回	課税所得・税額の計算（１）－課税所得計算、欠損金
	第 11 回	課税所得・税額の計算（２）－法人税率・税額
	第 12 回	課税所得・税額の計算（３）－確定申告書の作成
	第 13 回	申告・納付等
	第 14 回	授業内終了テスト
	第 15 回	テスト等解説
準備学習	会計学の基礎的知識（簿記3級程度）が必要。	
履修上の留意点等	税務会計論aを履修した上で履修してください。 ※授業スケジュールは、進行状況により変更することもあります。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	柳裕治他『税務会計論』（創世社、2019年）
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度未担当のためアンケート実績がありません。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097191 / 原価計算論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	髙野　学（タカノ　マナブ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	＜授業全体の趣旨及び概要＞ この授業では、まず原価計算の意義と目的、原価の要件といった原価計算の基礎的事項についてみていきます。次に原価の構成要素である材料費、労務費、経費について解説を行い、最終的にオーダーメイドの製品（受注製品）の原価集計方法である個別原価計算についてみていきます。また、紳士服量販店、LCCの事例といった身近な企業のビジネス・モデルについても原価計算の視点から考えていきます。 ＜授業形態＞ 授業は講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。 ＜学生への要求＞ 単に計算ができればよいと考えず、なぜこのような計算を行うのかその理論面についても理解しながら問題に取り組んでください。	
到達目標(ねらい)	＜学位授与の方針との関連性＞ この科目は、経済学部の学位授与の方針の３「情報分析力と問題解決力」、５「専門分野の知識・技能の活用力」に関連します。 ＜学生の到達目標＞ この授業は、原価の構成要素を知り、オーダーメイドの製品の原価の集計方法を理解することを目標とします。また、この授業を通じて、原価の構成要素である材料費、労務費、経費の内容を学習することにより、身近にみられる企業のビジネス・モデルを分析できる力も身に付けます。	
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクション：原価計算とは
	第 2 回	原価計算の意義と目的（１）：原価計算の必要性、原価計算が対象とする業種
	第 3 回	原価計算の意義と目的（２）：原価計算の5つの目的、「原価計算基準」の制定
	第 4 回	原価の要件と基礎概念：原価の4つの要件、原価の分類
	第 5 回	材料費の計算方法（１）：材料費の分類、材料消費量の計算
	第 6 回	材料費の計算方法（２）：材料消費単価の計算、予定価格法
	第 7 回	労務費の計算方法：労務費の分類、労務費の計算
	第 8 回	経費の計算方法：経費の分類、経費の計算
	第 9 回	原価計算の視点から考える（１）：紳士服量販店の事例
	第 10 回	原価計算の視点から考える（２）：LCCの事例
	第 11 回	単純個別原価計算：単純個別原価計算の計算手続き、製造間接費の配賦計算
	第 12 回	部門別個別原価計算（１）：原価部門とは、製造間接費の第1次集計
	第 13 回	部門別個別原価計算（２）：製造間接費の第2次集計
	第 14 回	部門別個別原価計算（３）：製造部門費の実際配賦、予定配賦
	第 15 回	活動基準原価計算（ABC）：ABCが登場した背景、ABCの計算方法
準備学習	授業内容が一続きとなっている場合が多いため、前回の内容を必ず復習した上で授業に臨んでください。授業で扱った練習問題で理解できない箇所は、授業後やオフィスアワーで対応します。	
履修上の留意点等	毎回、必ず電卓を持参してください（スマートフォンの電卓機能は不可）。原価計算論bも併せて履修することにより、原価計算論を体系的に学習することができます。	
成績評価の方法	100 ％	試験
		レポート

		小テスト
		平常点
	前期末の試験によって評価を行います。	
教科書/テキスト	各回、授業で配布するプリントを教材として用います。また、各回の演習問題・解答のプリントも配布します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	西村明・小野博則・大下丈平『ベーシック原価計算』中央経済社、2,600円（税抜）、ISBN978-4-502-22790-5 清水孝『原価計算』税務経理協会、2,500円、ISBN978-4-419-05833-3	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の内容は、概ねわかりやすいとの評価を得ました。各回のプリントについて両面印刷の希望がありましたが、両面印刷では練習問題が解きにくいため、片面で印刷します。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	097201 / 原価計算論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	髙野　学（タカノ　マナブ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	＜授業全体の趣旨及び概要＞ この授業では、まず大量生産製品の原価を集計する総合原価計算について取り上げます。続いて、原価低減を実現するための標準原価計算、利益計画に役立つ直接原価計算・CVP分析について学習します。また、マクドナルドや航空運賃の事例といった身近にみられる企業のビジネス・モデルについても、原価計算の視点から考えていきます。 ＜授業形態＞ 授業は講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。 ＜学生への要求＞ 単に計算ができればよいと考えず、なぜこのような計算を行うのかその理論面についても理解しながら問題に取り組んでください。	
到達目標(ねらい)	＜学位授与の方針との関連性＞ この科目は、経済学部の学位授与方針の３「情報分析力と問題解決力」、５「専門分野の知識・技能の活用力」と関連します。 ＜学生の到達目標＞ この授業は、大量生産を行う企業における製品原価の計算、そして原価管理、利益管理に役立てるための理論・技法を理解することを目標とします。また、原価の構成要素を変動費、固定費に分類することを学習することにより、身近にみられる企業のビジネス・モデルを分析できる力も身に付けます。	
授業スケジュール	第 1 回	総合原価計算（１）：総合原価計算とは、単純総合原価計算の計算手続き
	第 2 回	総合原価計算（２）：月初仕掛品がある場合の計算方法（先入先出法、平均法）
	第 3 回	総合原価計算（３）：仕損・減損が生じる総合原価計算
	第 4 回	総合原価計算（４）：組別総合原価計算
	第 5 回	総合原価計算（５）：等級別総合原価計算、工程別総合原価計算
	第 6 回	標準原価計算（１）：標準原価計算とは、原価標準の設定、標準原価の計算
	第 7 回	標準原価計算（２）：直接材料費、直接労務費の差異分析
	第 8 回	標準原価計算（３）：製造間接費の差異分析
	第 9 回	直接原価計算（１）：直接原価計算とは、短期利益計画と直接原価計算
	第 10 回	直接原価計算（２）：直接原価計算による損益計算書の作成、固定費調整
	第 11 回	原価計算の視点から考える（１）：マクドナルドの事例
	第 12 回	原価計算の視点から考える（２）：航空運賃の事例
	第 13 回	CVP分析（１）：CVP分析とは、損益分岐点売上高の求め方
	第 14 回	CVP分析（２）：安全余裕率、原価の固変分解
	第 15 回	原価計算における価格決定：総原価法、加工費法、目標投資利益率法
準備学習	授業内容が一続きとなっている場合が多いため、前回の内容を必ず復習した上で授業に臨んでください。授業で扱った練習問題で理解できない箇所は、授業後やオフィスアワーで対応します。	
履修上の留意点等	毎回、必ず電卓を持参してください（スマートフォンの電卓機能は不可）。原価計算論aの内容を前提として授業を進めるため、原価計算論aを履修していることが望ましいです。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート

		小テスト
		平常点
	後期末の試験によって評価を行います。	
教科書/テキスト	各回、授業で配布するプリントを教材として用います。また、各回の演習問題・解答のプリントも配布します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	西村明・小野博則・大下丈平『ベーシック原価計算』中央経済社、2,600円（税抜）、ISBN978-4-502-22790-5 清水孝『原価計算』税務経理協会、2,500円、ISBN978-4-419-05833-3	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の内容は、概ねわかりやすいとの評価を得ました。各回のプリントについて両面印刷の希望がありましたが、両面印刷では練習問題が解きにくいため、片面で印刷します。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	098011 / グローバル・ファイナンスａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小西　宏美（コニシ　ヒロミ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では、多国籍企業のコーポレート・ファイナンスについて、その内容と問題点を学習します。コーポレート・ファイナンスとは、企業がいかに株主のために企業価値を高めるかを考察する学問です。株主の求める期待収益率とは何か、企業が期待収益率を上回る利益を達成できないときは、どうすべきか、といった問題です。 同時に、コーポレート・ファイナンスの前提となる株主や企業価値についてはさまざまな問題点が指摘されています。たとえば、株主を重視した経営は企業の投資やイノベーションを阻害しているのではないか、一部の株主のみが不当な利益を得ているのではないか、といった問題です。本講義ではこうした問題について、実際の企業の事例を取り上げながら、考察します。 講義形式で行いますが、授業内では皆さんに質問に答えてもらい、それを評価に加点するというシステムを取っています。	
到達目標(ねらい)	企業価値について理解し、その問題点を、具体例をあげながら議論できるようになることを目標とします。 本科目は、経済学部の学位授与の方針ＤＰ３「情報分析力と問題解決力」とＤＰ５「専門分野の知識・技能の活用力」に関連しています。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	キャッシュフローと利益 黒字倒産
	第 3 回	割引現在価値１（Time is money.）
	第 4 回	割引現在価値２（投資の判断）
	第 5 回	割引現在価値３（ソロモンの債券ディーリングとマーケット・メイク）
	第 6 回	リスクとリターン
	第 7 回	資本コスト（ホリエモンとコカコーラ）
	第 8 回	まとめと練習問題
	第 9 回	株主と株式会社の歴史
	第 10 回	グーグル、フェイスブックにみる株式公開と創業者利得
	第 11 回	成長企業の配当政策（アマゾン、アップル）
	第 12 回	自社株買い（マイクロソフト、IBM）
	第 13 回	多様化する株主
	第 14 回	投資家民主主義の幻想
	第 15 回	グローバル・ファイナンスのゆくえ
準備学習	毎回のテキストの該当箇所を読んでから、授業に臨んでください。	
履修上の留意点等	ファイナンス基礎a,bを履修済みであることが望ましいです。	
成績評価の方法	60 ％	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	10 ％	授業内での発言
	30 ％	課題

	授業内での積極的な発言を歓迎します。発言した人にはカードを渡し、成績として評価します。	
教科書/テキスト	山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』東洋経済新報社、2004年、2200円、978-4-492-65340-1	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	奥田宏司・代田純・櫻井公人『現代国際金融（第３版）構図と解明』法律文化社、2016年、2600円、978-4-589-03763-3 小西宏美『グローバル資金管理と直接投資』日本経済評論社、2017年、4200円、978-4-8188-2453-9	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	講義の難易度が高いという意見が何件かあったので、できる限り具体例を使いながら、分かりやすい説明に努めます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	098051 / グローバル・ファイナンスｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	小西　宏美（コニシ　ヒロミ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では、グローバル・ファイナンス市場におけるさまざまな金融技術革新（FinTech）の詳細とその問題点を考察します。 近年、FinTech（Financial Technology）として金融市場における技術革新が注目されています。しかし金融（Finance）とIT技術とのかかわりの歴史は意外と古く、たとえば1960年代にはシカゴ市場でデリバティブ取引の一種である先物取引がスタートしています。デリバティブ取引や債券市場での取引では、コンピューターによる計算が必要不可欠です。21世紀に入るとビットコインをはじめとする仮想通貨、コンピュータープログラムを使った高速取引などの登場により、より一層金融市場における技術革新が進みました。 FinTechのような技術革新は、利用者に高度なリスク管理、多様な投資先、効率的なサービスを提供しますが、他方で問題点も指摘されています。本講義では、グローバル・ファイナンス市場で見られる様々な技術革新を紹介すると同時に、その問題点を明らかにします。 講義形式で行いますが、授業内では皆さんに質問に答えてもらい、それを評価に加点するというシステムを取っています。	
到達目標(ねらい)	デリバティブやヘッジファンド、高速取引などグローバル・ファイナンス市場における金融技術革新について理解し、その問題点を、具体例をあげながら議論できるようになることを目標とします。 本科目は、経済学部の学位授与の方針ＤＰ３「情報分析力と問題解決力」とＤＰ５「専門分野の知識・技能の活用力」に関連しています。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	先物・先渡し　リスクヘッジ
	第 3 回	先物・先渡し　投機
	第 4 回	先物ゲーム
	第 5 回	オプション　リスクヘッジ
	第 6 回	オプション　投機
	第 7 回	スワップ
	第 8 回	まとめと練習問題（電卓持参）
	第 9 回	ヘッジファンドとカジノ資本主義
	第 10 回	高速取引
	第 11 回	グローバル資金管理と直接投資　概要
	第 12 回	グローバル資金管理と直接投資　多国籍企業の支配
	第 13 回	金融の民主化　クラウド・ファンディング
	第 14 回	金融の民主化　ソーシャル・ファンディング
	第 15 回	カジノ資本主義と金融の民主化
準備学習	毎回のテキストの該当箇所を読んでから、授業に臨んでください。	
履修上の留意点等	ファイナンス基礎a,bを履修済みであることが望ましいです。	
成績評価の方法	60 ％	試験
		レポート
		小テスト

		平常点
	10 %	授業内での発言
	30 %	課題
	授業内での積極的な発言を歓迎します。発言した人にはカードを渡し、成績として評価します。課題は授業内で説明する先物ゲームです。	
教科書/テキスト	山澤光太郎『ビジネスマンのためのファイナンス入門』東洋経済新報社、2004年、2200円、978-4-492-65340-1	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	スーザン・ストレンジ『カジノ資本主義』岩波現代文庫、2007年、1260円、978-4-00-600172-8 小西宏美『グローバル資金管理と直接投資』日本経済評論社、2017年、4200円、978-4-8188-2453-9	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	講義の難易度が高いという意見が何件かあったので、できる限り具体例を使いながら、分かりやすい説明に努めます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	096811 / ファイナンス論ａ　096812 / 財務管理ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	土井　一人（ドイ　カズト）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業だけではなく、個人や政府も経済活動に従事しています。こうした経済活動には、必ずおカネの動きをともなっています。ファイナンス（金融）論は、様々な主体の行う経済活動の背後にある、おカネに関する理論の体系です。 本講義（ファイナンス論a）では、銀行預金、投資信託、株式、債券など身近な金融商品に対する理解を深めつつ、ファイナンスの基本的な考え方を学びます。ごく初歩的な数学を使います。 授業は講義形式を基本的としますが、皆でクイズを考えながら進めますので、積極的な授業参加を期待します。	
到達目標(ねらい)	ファイナンスの問題を考える際に必要なリテラシーを習得する。 本科目は、経済学部の学位授与方針DP5に特に関連性が強い科目であり、DP2にも関連する科目です。	
授業スケジュール	第 1 回	ファイナンスとは何か
	第 2 回	金融市場と参加者
	第 3 回	財務諸表分析
	第 4 回	時間的価値の考慮
	第 5 回	家計の貯蓄・投資判断
	第 6 回	投資プロジェクト分析
	第 7 回	資産評価の考え方
	第 8 回	確定キャッシュフロー（債券）の評価
	第 9 回	株式の評価
	第 10 回	リスク管理の考え方
	第 11 回	ヘッジ、保険、分散
	第 12 回	ポートフォリオ選択
	第 13 回	資本資産評価モデル（CAPM）
	第 14 回	先渡・先物市場
	第 15 回	オプション市場
準備学習	YeStudyより資料を事前学習すること。毎日、日本経済新聞（1面、総合１、2、経済、金融経済、投資情報、マーケット総合１、２＋できれば経済教室）を読むこと。	
履修上の留意点等	必ず事前にYeStudyより資料をダウンロード・印刷し、授業に持参すること。	
成績評価の方法	50 %	試験
		レポート
	30 %	小テスト
	20 %	平常点

教科書/テキスト	YeStudyに掲載する資料に使います。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	ツヴィ・ボディ、ロバートC、マートン等「 現代ファイナンス論 改訂版 ― 意思決定のための理論と実践」ピアソン桐原; 第2版
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	該当なし
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	当科目はファイナンス・インベストメント分野の実務経験を有する教員による授業科目です。

履修コード/科目名称	096821 / ファイナンス論ｂ　096822 / 財務管理ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	金曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	土井　一人（ドイ　カズト）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義（ファイナンス論b）では、現代投資理論の基礎を通じて、不確実性がある時の意思決定の考え方を学びます。ファイナンス論aより、やや理論的に高度な内容を議論します。 授業は講義形式を基本的としますが、皆でクイズを考えながら進めますので、積極的な授業参加を期待します。	
到達目標(ねらい)	将来的に向け、不確実性のある状況での意思決定の考え方の基礎を習得する。 本科目は、経済学部の学位授与方針DP5に特に関連性が強い科目であり、DP2にも関連する科目です。	
授業スケジュール	第 1 回	投資を巡る環境
	第 2 回	資産クラスと投資手段
	第 3 回	証券はどう取引されるか
	第 4 回	投資信託
	第 5 回	リスク・リターン・過去の実績
	第 6 回	リスク資産への資産配分(1)
	第 7 回	リスク資産への資産配分(2)
	第 8 回	リスク資産からなる最適ポートフォリオ
	第 9 回	インデックス・モデル
	第 10 回	資本資産評価モデル（CAPM）(1)
	第 11 回	資本資産評価モデル（CAPM）(2)
	第 12 回	裁定価格理論(APT)とマルチファクター・モデル(1)
	第 13 回	裁定価格理論(APT)とマルチファクター・モデル(2)
	第 14 回	リスク・ニュートラル・プライシング
	第 15 回	効率的市場仮説
準備学習	YeStudyより資料を事前学習すること。毎日、日本経済新聞（1面、総合１、2、経済、金融経済、投資情報、マーケット総合１、２＋できれば経済教室）を読むこと。	
履修上の留意点等	必ず事前にYeStudyより資料をダウンロード・印刷し、授業に持参すること。	
成績評価の方法	50 %	試験
		レポート
	30 %	小テスト
	20 %	平常点
教科書/テキスト	YeStudyに掲載する資料に使います。	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	ツヴィ・ボディなど　「インベストメント８版」上・下　日本経済新聞出版社 小林 孝雄、芹田敏夫　「新・証券投資論１」　日本経済新聞出版社
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	該当なし
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	当科目はファイナンス・インベストメント分野の実務経験を有する教員による授業科目です。

履修コード/科目名称	097991 / 証券市場論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	深見　泰孝（フカミ　ヤスタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	2000年代初頭に「貯蓄から投資へ」のスローガンのもと、日本の金融システムは市場型金融システムへと変貌を遂げており、証券市場は、益々国民の経済活動を支える役割の重要性が増しています。この講義では、証券市場の基礎的な事項を説明し、証券市場をめぐる近年の変化と証券市場が果たす役割、位置づけについて理解したいと思います。なお、毎回の授業終了後、Yestudyを用いて復習テストを行います。	
到達目標(ねらい)	証券市場に関する基本的な知識を身につけるとともに、証券市場が果たす機能について理解できる。本科目は経済学部のディプローマポリシー5と関連が強い。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション
	第 2 回	直接金融と間接金融
	第 3 回	有価証券とは
	第 4 回	株式会社（１）－企業形態の発展－
	第 5 回	株式会社（２）－株式会社の特徴－
	第 6 回	株式発行市場（１）－企業の資金調達と株式発行市場－
	第 7 回	株式発行市場（２）－株式上場－
	第 8 回	株式流通市場（１）－株式流通市場の役割と証券流通を円滑にする仕組み－
	第 9 回	株式流通市場（２）－証券取引システムとその変化－
	第 10 回	公社債発行市場
	第 11 回	公社債流通市場
	第 12 回	証券価格の形成（１）－利潤証券としての価格形成－
	第 13 回	証券価格の形成（２）－支配証券としての価格形成－
	第 14 回	証券価格の形成（３）－投機証券としての価格形成－
	第 15 回	最終まとめ
準備学習	「日本経済新聞」を読んでおくこと。	
履修上の留意点等	金融論や財政学、日本経済論を履修しておくことが望ましい。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
		小テスト
	30 ％	平常点
	Yestudyを用いた小テストの結果により、平常点を評価する。	
教科書/テキスト	二上季代司・代田純編『証券市場論』有斐閣ブックス、2011年　ISBN978-4641183933	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	日本証券経済研究所編『図説 日本の証券市場2018年度版』2018年　ISBN978-4890325405
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の進度が早いとの指摘を受けたので、心がけて講義したい。
関連リンク	証券統計ポータルサイト　http://www.shouken-toukei.jp
実務経験がある教員による授業科目	本科目は証券分野の実務経験を有する教員による授業科目である。

履修コード/科目名称	098001 / 証券市場論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	深見　泰孝（フカミ　ヤスタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	2000年代初頭に「貯蓄から投資へ」のスローガンのもと、日本の金融システムは市場型金融システムへと変貌を遂げており、証券市場は、益々国民の経済活動を支える役割の重要性が増しています。この講義では、証券市場論aで得た知見をもとに、証券会社の果たす役割とそのビジネスモデル、投資信託の仕組みや課題、証券化市場、デリバティブ、監督当局の果たす役割、機能などを説明する。これらの説明を通じて、現在の証券市場の課題や今後の展望に関する知識を深めたい。なお、毎回の授業終了後、Yestudyを用いて復習テストを行います。	
到達目標(ねらい)	金融仲介者としての銀行、証券会社の役割、機能ならびに新たに登場した商品の概要、さらにはそれに伴って重要となっている投資家保護の問題と証券規制に関する基礎的な知識を修得できる。本科目は経済学部のディプローマポリシー5と関連が強い。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション
	第 2 回	証券業と証券会社（１）－証券会社の機能と四つの業務－
	第 3 回	証券業と証券会社（２）－証券会社の情報生産－
	第 4 回	証券業と証券会社（３）－日本の証券会社経営－
	第 5 回	投資信託（１）－投資信託の商品特性－
	第 6 回	投資信託（２）－投資信託に関わる課題－
	第 7 回	証券化市場
	第 8 回	機関投資家と金融資産の累積
	第 9 回	株式所有構造の変化
	第 10 回	デリバディブ（1）－先渡取引と先物取引－
	第 11 回	デリバディブ（２）－オプション取引－
	第 12 回	証券行政と証券政策
	第 13 回	投資家保護とディスクロージャー
	第 14 回	証券市場が抱える課題
	第 15 回	最終まとめ
準備学習	「日本経済新聞」を読んでおくこと。	
履修上の留意点等	証券市場論ａや、金融論、財政学、日本経済論を履修しておくことが望ましい。 また、周りの迷惑になるので、私語は厳に慎むこと。また、プリント等の配付はYeStudyを使って行うため、事前にコース登録をしておくこと。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
		小テスト
	30 ％	平常点

	Yestudyを用いた小テストの結果により、平常点を評価する。
教科書/テキスト	二上季代司・代田純編『証券市場論』有斐閣ブックス、2011年　ISBN978-4641183933
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	日本証券経済研究所編『図説 日本の証券市場2018年度版』2018年 ISBN978-4890325405
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の進度が早いとの指摘を受けたので、心がけて講義したい。
関連リンク	証券統計ポータルサイト　http://www.shouken-toukei.jp
実務経験がある教員による授業科目	本科目は証券分野の実務経験を有する教員による授業科目である。

履修コード/科目名称	098101 / 保険論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	深見　泰孝（フカミ　ヤスタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	私たちの身の回りには様々なリスクが存在する。そのリスクを移転する手段の一つが保険であり、私たちの暮らしにおいて必要不可欠なものである。この講義では、保険の基本的な仕組み、生命保険、損害保険などを概括的な説明を通じて、保険に関する基礎的な知識を修得することを目指す。なお、毎回の授業終了後、Yestudyを用いて復習テストを行う。	
到達目標(ねらい)	保険の基礎的な仕組みを理解し、保険の果たす機能について説明できる。本科目は経済学部のディプローマポリシー5と関連が強い。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション
	第 2 回	保険の役割とその必要性
	第 3 回	保険の意義とその種類
	第 4 回	保険の歴史
	第 5 回	保険とリスクマネジメント
	第 6 回	保険料
	第 7 回	保険料計算
	第 8 回	保険に対する規制
	第 9 回	保険の販売チャネル
	第 10 回	損害保険とは（１）－被保険利益と利得禁止を実現する仕組み－
	第 11 回	損害保険とは（２）－損害保険商品－
	第 12 回	生命保険とは
	第 13 回	共済とは
	第 14 回	社会保険とは
	第 15 回	最終まとめ
準備学習	「日本経済新聞」を毎日読んでおくこと	
履修上の留意点等	私語は周りの受講者の迷惑になるため、厳に禁ずる。また、出席の確認や資料配付はYeStudayで行うので、事前にグループ登録しておくこと。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
		小テスト
	30 ％	平常点
	Yestudyを用いた小テストの結果により、平常点を評価する。	
教科書/テキスト	特にありません	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	大谷孝一編著『保険論』第3版、成美堂、2012年　ISBN978-4792342401 水島一也『現代保険経済』第8版、千倉書房、2006年　ISBN978-4805108574
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の進度が早いとの指摘を受けたので、その点を留意して授業を行いたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	098151 / 保険論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	深見　泰孝（フカミ　ヤスタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	保険論Aでは、保険の仕組み、および生命保険、損害保険などの概括的な説明を通じて、基礎的な知識の修得を目指した。保険論Bでは生命保険を中心に取り上げ、生命保険商品、生保経営、生保業界の課題などの説明を通じて、生命保険および生保経営に対する知識を深めたい。なお、毎回の授業終了後、Yestudyを用いて復習テストを行う。	
到達目標(ねらい)	生命保険の機能や仕組みを知り、自分自身が生命保険に加入する際に必要な知識の習得するとともに、生保経営や生保業界が抱える課題が説明できる。なお、本科目は経済学部のディプローマポリシー5と関連が強い。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション
	第 2 回	保険の意義、役割、必要性
	第 3 回	生命保険の歴史
	第 4 回	生命保険の仕組み（１）－仕組みと保険料－
	第 5 回	生命保険の仕組み（２）－責任準備金とその積立方法－
	第 6 回	生命保険会社の資産運用
	第 7 回	生命保険の事業分野、商品
	第 8 回	生命保険の販売チャネル
	第 9 回	生命保険会社のガバナンス
	第 10 回	生命保険と規制
	第 11 回	生命保険と税金
	第 12 回	生命保険会社経営
	第 13 回	生保業界が抱える課題
	第 14 回	フィンテックと生命保険業界
	第 15 回	最終まとめ
準備学習	「日本経済新聞」を毎日読んでおくこと。	
履修上の留意点等	私語は周りの人の迷惑になるので厳に禁じる。また、出席の確認や資料配付はYeStudayで行うので、事前にグループ登録しておくこと。	
成績評価の方法	70 ％	試験
		レポート
		小テスト
	30 ％	平常点
	Yestudyを用いた小テストの結果により、平常点を評価する。	
教科書/テキスト	特にありません。	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	水島一也『現代保険経済』第8版、千倉書房、2006年　ISBN978-4805108574 出口治明『生命保険入門 新版』岩波書店、2009年　ISBN978-4000236874 ニッセイ基礎研究所『概説・日本の生命保険』日本経済新聞出版社、2011年　ISBN978-4532134044
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の進度が早いとの指摘を受けたので、その点を留意して授業を行いたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097611 / 貿易史ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉田　真広（ヨシダ　マサヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	資本主義以前の貿易について学びます。 その際、貿易史を現在と無関係な単なる過去の出来事として捉えるのではなく、 ①貿易が国家・社会・文化・宗教などの諸要素と結びついており、 ②貿易の変遷が現代につながっており、 ③過去が様々な要素・形態として現代に残っており、 アクティブ・ラーニングとして、私たちが現代経済をより深く考えるためにこそ歴史（貿易史）を学ぶことが大切です。	
到達目標(ねらい)	資本主義の貿易に繋がる萌芽的な貿易を学ぶことを目的としています。また、ディプロマ・ポリシーに基づいて、現代を考えるためのより広い見識を得ることも大切です。	
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション、貿易史の概要
	第 2 回	古代の貿易構造
	第 3 回	古代の貿易1（シュメールとフェニキア）
	第 4 回	古代の貿易2（ギリシア）
	第 5 回	古代の貿易3（ローマ）
	第 6 回	古代の貿易4（地中海）
	第 7 回	古代の貿易5（大陸ヨーロッパ）
	第 8 回	イスラム貿易1（イスラム貿易原理）
	第 9 回	イスラム貿易2（イスラム帝国）
	第 10 回	モンゴル貿易1（モンゴル貿易原理）
	第 11 回	モンゴル貿易1（モンゴル帝国）
	第 12 回	大航海時代の貿易1（大航海時代前）
	第 13 回	大航海時代の貿易2（大航海時代後）
	第 14 回	東インド会社
	第 15 回	まとめ
準備学習	特になし	
履修上の留意点等	貿易史ｂも履修することが望ましい	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	特になし	

参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	分かり易く説明していきます。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097621 / 貿易史ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉田　真広（ヨシダ　マサヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	貿易史ａの知識を前提に、近代と資本主義における貿易を学びます。 その際、貿易史を現在と無関係な単なる過去の出来事として捉えるのではなく、 ①貿易が国家・社会・文化・宗教などの諸要素と結びついており、 ②貿易の変遷が現代につながっており、 ③過去が様々な要素・形態として現代に残っており、 アクティブ・ラーニングとして、私たちが現代経済をより深く考えるためにこそ歴史（貿易史）を学ぶことが大切です。	
到達目標(ねらい)	資本主義に至る近代の貿易構造を理解することをめざします。また、ディプロマ・ポリシーに基づいて、現代を考えるためのより広い見識を得ることも大切です。	
授業スケジュール	第 1 回	近代と現代、オリエンテーション
	第 2 回	大航海時代以前の貿易　1
	第 3 回	大航海時代以前の貿易　2
	第 4 回	大航海時代　スペイン・ポルトガル　東回り
	第 5 回	大航海時代　スペイン・ポルトガル　西回り
	第 6 回	大航海時代　オランダ・イギリス
	第 7 回	大航海時代　イギリス
	第 8 回	東インド会社　貿易と株式制度
	第 9 回	東インド会社　東インド会社の限界
	第 10 回	産業革命と貿易　重商主義と資本主義
	第 11 回	産業革命と貿易　パクスブリタニカ
	第 12 回	資本主義と貿易　アフリカと西欧
	第 13 回	資本主義と貿易　アジアと西欧
	第 14 回	第２次大戦後の貿易体制
	第 15 回	まとめ
準備学習	貿易史ａの内容の復習をしておいて下さい。	
履修上の留意点等	貿易史ａの講義内容の知識を持っていることを前提に講義していきます。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	分かり易く説明していきます。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	091911 / 企業管理論ａ　091912 / 経営管理論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	岩波　文孝（イワナミ　フミタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業管理の構造変化および企業管理のあり方が社会から問われている。巨大企業のトップ・マネジメントをめぐって、所有と経営の分離にともなう会社支配の問題、グローバリゼーションの進展・企業間競争の激化・資本調達にともない企業の透明性と効率性が求められている。「企業と社会」とを関連づけながら、現代の企業におけるトップマネジメント機能をめぐる現状と課題を考察したい。 本科目は、【講義】形態の授業であるが、授業内容の理解を深めるため、適宜、グループワークを実施します。	
到達目標(ねらい)	グローバル化および各国・地域における企業管理（経営管理）メカニズムの差異性について理解を深め、現代の巨大企業におけるトップ・マネジメント機構の特性の理解を目指します。本科目は、経済学部の学位授与方針DP5に特に関連性が強い科目であり、DP2にも関連する科目です。	
授業スケジュール	第 1 回	授業の概要：ガイダンス【ビジネス社会と経営管理】
	第 2 回	企業と社会の関係【外部環境（社会的環境・市場環境・自然環境と経営管理】
	第 3 回	企業と社会をめぐる諸問題【市場経済・企業経営・会社法改正】
	第 4 回	会社支配論とトップ・マネジメント（１）【企業形態・株式会社制度と資本調達・資本市場】
	第 5 回	会社支配論とトップ・マネジメント（２）【所有と経営の分：株式市場構造と経営者の経営行動（会計情報を含む情報公開・法令遵守・効率的経営】
	第 6 回	トップ・マネジメントとコーポレート・ガバナンス【【資本調達、雇用・人的資源管理、投資決定・資金配分・財務管理、会計・財務、流通・マーケティング・販売管理、情報管理・情報処理・情報公開と経営実績の評価】
	第 7 回	トップ・マネジメントの構造と機能【法・組織構造、経営戦略・マーケティング・資本調達・投資決定の国際比較】
	第 8 回	企業責任とトップ・マネジメント機能【社会的責任・企業責任・企業倫理・経営規範・経営思想と社会的貢献】
	第 9 回	Creating Shared Valueとトップ・マネジメント機能（１）【法、市場、経営者の行動】
	第 10 回	Creating Shared Valueとトップ・マネジメント機能（２）【資本調達・投資決定と経営戦略】
	第 11 回	Corporate Social Responsibility、Creating Shared Valueとトップ・マネジメント機能（１）【社会貢献と経営戦略】
	第 12 回	Corporate Social Responsibility、Creating Shared Valueとトップ・マネジメント機能（２）【社会貢献と経営実績の評価】
	第 13 回	グローバル企業の構造と機能（１）【資本市場のグローバル化と資本調達・戦略的意思決定】
	第 14 回	グローバル企業の構造と機能（２）【情報技術・情報管理を活用したグローバルな生産戦略・マーケティング戦略の展開】
	第 15 回	まとめ：企業管理の現状と展望
準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。	
履修上の留意点等	必ず、事前にYeStudyより資料をダウンロード・印刷し、授業時に持参すること。 ※授業時間中にスライドを撮影することは、他の受講生に迷惑となるため、および学習効果を高めるために、一切禁止しています。	

成績評価の方法		試験
	100 %	レポート
		小テスト
		平常点
	備考：レポートは複数回実施します。複数回のレポートにより総合的に評価します。	
教科書/テキスト	百田義治監訳『CSRの終焉』中央経済社、2019年4月刊行予定。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索		
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	受講生による授業への予習・復習にあてた時間が少なかったことから、本年度は適時学習課題を提示し、学生の自主的な学習意欲を高める工夫を予定している。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	091921 / 企業管理論ｂ　091922 / 経営管理論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	岩波　文孝（イワナミ　フミタカ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業経営をめぐる経済的・社会的環境が急激に変化している状況において、企業は事業の存続、グローバルなレベルでの競争激化、環境破壊、雇用削減といった多様な問題に直面しています。本講義では、「企業と社会」のアプローチに基づきCSR（Corporate Social Responsibility：企業社会的責任）論議の紹介を通じて、企業管理（経営管理）の現代的特質を明らかにするとともに、企業管理（経営管理）の諸課題を考察したい。 本科目は、【講義】形態の授業であるが、授業内容の理解を深めるため、適宜、グループワークを実施します。	
到達目標(ねらい)	企業管理（経営管理）とCSR（Corporate Social Responsibility：企業社会的責任）の関連性を理解し、巨大企業トップ・マネジメント機能の現代的特質の理解を目指します。本科目は、経済学部の学位授与方針DP5に特に関連性が強い科目であり、DP2にも関連する科目です。	
授業スケジュール	第 1 回	授業の概要：ガイダンス【ビジネス社会と経営管理】
	第 2 回	企業と社会【ビジネス経済、市場経済と経営管理】
	第 3 回	法と企業経営【企業経営をめぐる法規制（経営組織、資金調達、雇用）】
	第 4 回	グローバル資本主義の展開と企業市民論の展開【経営規範・企業倫理】
	第 5 回	グローバル資本主義と多国籍企業の途上国への進出【社会政策の市場経済化とビジネス活動】
	第 6 回	ステークホルダー論とマネジメント【ビジネス・マネジメントとステークホルダーとのコミュニケーションの連関】
	第 7 回	グローバル市場経済における経営規範・企業論理と資本調達
	第 8 回	グローバル企業の説明責任【情報公開：会計情報、経営情報、製品情報、商取引情報】
	第 9 回	グローバル企業のCMS戦略【商品開発、原価管理・原価会計、生産システム・物流システム・マーケティングの構築を通じた効率的生産】
	第 10 回	情報技術革新とオフショアアウトソーシング【情報技術の進展とバックオフィス事務労働のグローバル展開：中核業務と周辺業務の分離と経営組織の構築】
	第 11 回	グローバル企業と従業員（１）【個別企業レベルでの雇用政策と国際展開】
	第 12 回	グローバル企業と従業員（２）【各国法規制と「働かせ方」・「働き方」】
	第 13 回	グローバル企業の租税対策と世界戦略
	第 14 回	ビジネスと社会の持続的発展
	第 15 回	まとめ：企業管理の現状と展望
準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。	
履修上の留意点等	必ず、事前にYeStudyより資料をダウンロード・印刷し、授業時に持参すること。 ※授業時間中にスライドを撮影することは、他の受講生に迷惑となるため、および学習効果を高めるために、一切禁止しています。	
成績評価の方法	100 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点

教科書/テキスト	百田義治監訳『CSRの終焉』中央経済社、2019年4月刊行予定。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索		
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	授業の改善について 受講生による授業への予習・復習にあてた時間が少なかったことから、本年度は適時学習課題を提示し、学生の自主的な学習意欲を高める工夫を予定している。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	092011 / 人的資源管理論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	堀　龍二（ホリ　リユウジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、日本企業の人的資源管理を中心にその動向・特徴・課題、そして社会に及ぼす影響を考察します。人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的にいえば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのような方法で人材として育てるのか、といった企業の経営課題を扱います。また、こうした課題への企業の取り組みがどのような問題を引き起こし、社会にいかなる影響を及ぼしているのかといった視点からも人的資源管理論として考察します。 セメスター制の前期にあたるこの授業では、とりわけ雇用問題と労働時間問題を中心に取り上げます。企業に雇われて働く労働者（雇用者）にとって、雇用の質やあり方、労働時間は生活にかかわる極めて重大な問題です。 授業は基本的に講義形式で行いますが、アクティブ・ラーニングも重視しますので、授業で配布する課題・資料に目を通し次回授業時の議論に備えてください。人的資源管理の最近の動向や傾向にふれることも重要ですから、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の雇用や労働時間の情報にも目配りしておくことが望ましい。
到達目標(ねらい)	人的資源管理論は、営利企業、非営利企業を問わず、複数の人間（管理者も労働者も含めて）による集団や組織を通じて事業を行う場合には、避けて通れない課題、つまり、他人と協力していかに目的を達するかという課題を扱うものです。したがって、経済学部の教育理念や学位授与方針が重視している、「社会や歴史に関する知識」、「主体的かつ協調的なコミュニケーション能力」、「他者と協働する力」などが極めて重要であることを認識できる科目です。この科目の履修を通じて、どのような組織においても大切な人材の育成・管理に関する専門分野の知識・技能・技術を学ぶことができます。

授業スケジュール		
	第 1 回	ガイダンス：人的資源管理の対象と体系
	第 2 回	人事労務管理論から人的資源管理論への変化
	第 3 回	20世紀の日本型雇用システム（１）人材募集・採用方法
	第 4 回	20世紀の日本型雇用システム（２）全体システム
	第 5 回	雇用ポートフォリオと雇用形態の多様化
	第 6 回	パートタイム労働（１）身分としてのパート
	第 7 回	パートタイム労働（２）不本意パートと就労調整
	第 8 回	パートタイム労働法と労働契約法の改正
	第 9 回	間接雇用システムと派遣労働
	第 10 回	労働者派遣法の制定と改正
	第 11 回	女性と高齢者の雇用問題
	第 12 回	外国人労働者の雇用問題
	第 13 回	長時間労働と残業規制
	第 14 回	労働時間の弾力化：変形労働時間制と裁量労働制
	第 15 回	現代雇用問題の趨勢

準備学習	準備学習として望ましいのは、「授業概要」欄でも触れたように、授業で配布する課題・資料プリント、さらに新聞、雑誌、ネットなどで雇用や労働時間の問題について目を通しておくことです。また、授業内容や学習に関する質問は、毎回の講義直後に教場で、又はオフィスアワーでお受けします。質問内容によっては回答が後日になることもありますが、ご了解ください。

履修上の留意点等	「企業経営学」や「経営学基礎」などを履修済みであることが望ましい。人的資源管理論ｂとセットで履修する必要はありません。	
成績評価の方法	80 ％	試験
	20 ％	レポート
		小テスト
		平常点
	試験では授業で述べた内容の理解度を重視します。レポートでは、事実を的確・客観的に把握しているかどうかを重視します。	
教科書/テキスト	授業で配布するプリントを教材や資料として用います。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	伊藤健市・斎藤毅憲・渡辺峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント』文眞堂、1994円、ISBN 978-4-8309-4688-2。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の学生による授業アンケートの結果において、「配布プリントに関する説明が不十分である」と指摘されたので、本年度は配布プリントとレジュメとの関係を明確にして十分な説明をする努力をしたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	092021 / 人的資源管理論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	堀　龍二（ホリ　リユウジ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	この授業では、日本企業の人的資源管理を中心にその動向・特徴・課題、そして社会に及ぼす影響を考察します。人的資源管理とは、企業が従業員を人的資源とみなして、その有効活用を図る施策のことです。端的にいえば、どのような人をどのような形態で雇い、どのように動機づけて働いてもらうのか、その働きに対してどのように処遇するのか、そして、どのような方法で人材として育てるのか、といった企業の経営課題を扱います。また、こうした課題への企業の取り組みがどのような問題を引き起こし、社会にいかなる影響を及ぼしているのかといった視点からも人的資源管理論として考察します。 セメスター制の後期にあたるこの授業では、重要な人事評価（人事考課）、賃金問題、労働組合対策を中心に取り上げます。企業に雇われて働く労働者（雇用者）にとって、職業生活のあり方を左右する人事評価や生活レベルを決定する賃金の問題は、重大な関心事です。また、雇用者は従業員であると同時に企業から独立した組織である労働組合の組合員でもあります。企業経営者は、賃金をはじめ人的資源管理の諸領域で独立した労働者集団である労働組合と交渉する義務があり、労働組合との良好な集団的労使関係を築くことも経営の重要課題です。 授業は基本的に講義形式で行いますが、アクティブ・ラーニングも重視しますので、授業で配布する課題・資料に目を通し次回授業時の議論に備えてください。人的資源管理の最近の動向や傾向にふれることも重要ですから、新聞や雑誌等で人事労務管理関連の記事を点検しておくことが有益であろう。また、インターネットや統計資料でわが国の賃金動向や労働組合活動の情報にも目配りしておくことが望ましい。
到達目標(ねらい)	人的資源管理論は、営利企業、非営利企業を問わず、複数の人間（管理者も労働者も含めて）による集団や組織を通じて事業を行う場合には、避けて通れない課題、つまり、他人と協力していかに目的を達するかという課題を扱うものです。したがって、経済学部の教育理念や学位授与方針が重視している、「社会や歴史に関する知識」、「主体的かつ協調的なコミュニケーション能力」、「他者と協働する力」などが極めて重要であることを認識できる科目です。この科目の履修を通じて、どのような組織においても大切な人材の育成・管理に関する専門分野の知識・技能・技術を学ぶことができます。

授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：人的資源管理の二重体系
	第 2 回	求められる人材像の変化
	第 3 回	職業能力の開発と近年の傾向
	第 4 回	人事評価の方法と日本的特徴
	第 5 回	年功主義と人事評価
	第 6 回	能力主義と人事評価
	第 7 回	成果主義と人事評価
	第 8 回	賃金と労働費用
	第 9 回	賃金（基本給）の類型
	第 10 回	成果主義と賃金
	第 11 回	賞与と退職金と企業福祉の傾向
	第 12 回	労使関係と労働組合
	第 13 回	団体交渉と労使協議制
	第 14 回	近年の労使関係管理の変化
	第 15 回	人的資源管理と労働組合規制
準備学習	準備学習として望ましいのは、「授業概要」でも触れたように、授業で配布する課	

	題・資料プリント、さらに新聞、雑誌、ネットなどで**賃金や労使関係の問題**について目を通しておくことです。また、授業内容や学習に関する質問は、毎回の講義直後に教場ないし研究室でお受けします。質問内容によっては回答が後日になることもありますが、ご了解ください。
履修上の留意点等	「企業経営学」や「経営学基礎」などを履修済みであることが望ましい。人的資源管理論ａとセットで履修する必要はありません。
成績評価の方法	80 ％ 試験
	20 ％ レポート
	小テスト
	平常点
	試験では授業で述べた内容の理解度を重視します。レポートでは、事実を的確・客観的に把握しているかどうかを重視します。
教科書/テキスト	授業で配布するプリントを教材や資料として用います。
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	伊藤健市・斎藤毅憲・渡辺峻著『はじめて学ぶ人のための人材マネジメント』文眞堂、1994円、ISBN 978-4-8309-4688-2。
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の学生による授業アンケートの結果において、「配布プリントに関する説明が不十分である」と指摘されたので、本年度は配布プリントとレジュメとの関係を明確にして十分な説明をする努力をしたい。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	097071 / 非営利組織論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	火曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	松本　典子（マツモト　ノリコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	＜授業全体の趣旨及び概要＞ この授業では、非営利組織とは何かについて学びます。 非営利組織とは、行政（第１セクター）、営利企業（第２セクター）とは異なる第3のセクターを形成する組織群であり、他のセクターとの相違や独自の機能から定義されるものです。現代の日本社会において、非営利組織は、営利を追求しないことによって可能となる活動や中立性を求められる行政にはできない活動を担う主体としての特徴を生かすことで、コミュニティ分野、まちづくり分野、医療・福祉分野、国際協力分野など、多くの分野において活躍の場を広げています。さらに、非営利組織が企業や行政と協働（コラボレーション）を行うことによって、社会にもたらす影響力は高まってきています。一方で、非営利組織にも、経営マインドを高め、効率的、かつ継続的な運営を行うことが従来以上に求めらるようになってきました。そこでこの授業では、このような背景を踏まえ、非営利組織の存在意義および役割と、求められる責任やマネジメントについて学習します。 前期の非営利組織論aでは、非営利組織とは何かを明らかにすることを中心に、その存在を事例を交えて概括します。 ＜授業形態＞ 授業は講義形式で行います。 ＜授業の特徴＞ 映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進めます。
到達目標(ねらい)	＜ディプロマ・ポリシーとの関連性＞ この授業では、非営利組織とは何かを事例を交えて学ぶため、経済学部のディプロマ・ポリシー５「体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる」ことに深く関連します。 ＜学生の到達目標＞ この授業では、非営利組織の特徴、法制度上の位置づけ、具体的な活動などを学ぶことによって、他のセクターと非営利組織の相違、および非営利組織の存在意義や抱える課題についての理解を深めることができます。さらに、非営利組織の概要を包括的に理解することによって、非営利組織とは何かという認識を構築することができます。

授業スケジュール		
	第 1 回	ガイダンス、非営利組織論aの概要
	第 2 回	非営利組織とは何か１　非営利組織の範囲（狭義）
	第 3 回	非営利組織とは何か２　非営利組織の範囲（広義）
	第 4 回	非営利組織とは何か３　非営利組織の存在意義
	第 5 回	非営利組織の法制度
	第 6 回	非営利組織の税制度
	第 7 回	非営利組織の活動１　福祉（高齢者介護）の非営利組織
	第 8 回	非営利組織の活動２　福祉（子育て・障害者支援）の非営利組織
	第 9 回	非営利組織の活動３　環境の非営利組織
	第 10 回	非営利組織の活動４　まちづくりの非営利組織
	第 11 回	非営利組織の活動５　国際協力・貧困を解決する非営利組織
	第 12 回	非営利組織の国際比較１　アメリカとイギリス
	第 13 回	非営利組織の国際比較２　フランス、イタリア、スペインなど
	第 14 回	非営利組織の国際比較３　アジア

	第 15 回	非営利組織論aのまとめ
準備学習	＜事前事後の学習について＞ 授業の3日前に、YeStudy（e-learningシステム）に配布レジュメをアップロードするので、適宜印刷して目を通してください。また、印刷したレジュメは授業に持参してください。 授業終了後に、レジュメの内容を復習し、授業で紹介した事例をインターネットなどで調べるようにしてください。 ＜質問への対応方法・フィードバック＞ 授業時間はもちろん、メール等で受講生からの質問にいつでも対応できるようにします。	
履修上の留意点等	初回の授業でYeStudy（e-learningシステム）に登録するようにしてください。レジュメや資料の配布、レポート提出や小テストの実施時に利用します。	
成績評価の方法	70 %	試験
	30 %	レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	YeStudy（e-learningシステム）で配布するレジュメを教材として使用します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	非営利組織の基礎を理解するにあたって、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年、1800円＋税、ISBN：9784641123892、および、雨森孝悦『テキストブックNPO（第2版）』東洋経済新報社、2012年、2600円＋税、ISBN：9784492100264、が参考になります。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の学生による授業アンケートの結果においても、「うるさい人がいる」という意見がありましたので、引き続き「静粛な授業環境づくり」に努めます。「遅刻をしてくる人には適切な評価をしてほしい」という意見に関しては、時間通りに来た人と遅刻をした人との評価に差をつけることで、適切な評価を心掛けます。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	097081 / 非営利組織論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 1時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	松本　典子（マツモト　ノリコ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	＜授業全体の趣旨及び概要＞ この授業では、非営利組織とは何かについて学びます。 非営利組織とは、行政（第１セクター）、営利企業（第２セクター）とは異なる第3のセクターを形成する組織群であり、他のセクターとの相違や独自の機能から定義されるものです。現代の日本社会において、非営利組織は、営利を追求しないことによって可能となる活動や中立性を求められる行政にはできない活動を担う主体としての特徴を生かすことで、コミュニティ分野、まちづくり分野、医療・福祉分野、国際協力分野など、多くの分野において活躍の場を広げています。さらに、非営利組織が企業や行政と協働（コラボレーション）を行うことによって、社会にもたらす影響力は高まってきています。一方で、非営利組織にも、経営マインドを高め、効率的、かつ継続的な運営を行うことが従来以上に求めらるようになってきました。そこでこの授業では、このような背景を踏まえ、非営利組織の存在意義および役割と、求められる責任やマネジメントについて学習します。 後期の非営利組織論bは、非営利組織と他のセクターとの協働、およびマネジメントについて学習します。 ＜授業形態＞ 授業は講義形式で行います。 ＜授業の特徴＞ 映像等の利用や現場で活動する人の講演なども交えることによって、できるだけ非営利組織の現実を実感できるように講義を進めます。
到達目標(ねらい)	＜ディプロマ・ポリシーとの関連性＞ この授業では、非営利組織とは何かを事例を交えて学ぶため、経済学部のディプロマ・ポリシー５「体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる」ことに深く関連します。 ＜学生の到達目標＞ この授業では、非営利組織論aで学習した内容に基づき、「営利／非営利」、「社会的企業」、「社会起業家」、「コミュニティ・ビジネス」、「ソーシャル・キャピタル」等をキーワードに、非営利組織の経営学について理解を深めることができます。さらに、NPO法人の設立プランを作成し、実際に起こりうる経営課題を分析することによって、非営利組織を設立する知識・技術を身につけ、適切にそれを説明することができます。

授業スケジュール		
	第 1 回	ガイダンス、非営利組織論bの概要
	第 2 回	非営利組織の存在理由１　市場の失敗、政府の失敗
	第 3 回	非営利組織の存在理由２　社会的ニーズの多様化
	第 4 回	非営利組織の設立プランづくり
	第 5 回	社会起業家について
	第 6 回	社会起業家による活動事例紹介
	第 7 回	非営利組織の設立・運営方法、ガバナンス
	第 8 回	非営利組織のマネジメントの基本的特徴
	第 9 回	非営利組織の資金調達について
	第 10 回	非営利組織の資金調達に関する事例紹介　NPOバンク、コミュニティファンド、クラウドファンディング、ソーシャルインパクト投資、遺贈など
	第 11 回	非営利組織のネットワーク１　行政との協働
	第 12 回	非営利組織のネットワーク２　企業との協働
	第 13 回	協同労働について
	第 14 回	非営利組織の評価

	第 15 回	非営利組織論bのまとめ
準備学習	＜事前事後の学習について＞ 授業の3日前に、YeStudy（e-learningシステム）に配布レジュメをアップロードするので、適宜印刷して目を通してください。また、印刷したレジュメは授業に持参してください。授業終了後に、レジュメの内容を復習し、授業で紹介した事例をインターネットなどで調べるようにしてください。 ＜質問への対応方法・フィードバック＞ 授業時間はもちろん、メール等で受講生からの質問にいつでも対応できるようにします。	
履修上の留意点等	非営利組織論ａを履修していることが望ましいです。 初回の授業でYeStudy（e-learningシステム）に登録するようにしてください。レジュメや資料の配布、レポート提出や小テストの実施時に利用します。	
成績評価の方法	70 %	試験
	30 %	レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	YeStudy（e-learningシステム）で配布するレジュメを教材として使用します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	非営利組織の基礎を理解するにあたって、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年、1800円＋税、ISBN：9784641123892、および、雨森孝悦『テキストブックNPO（第2版）』東洋経済新報社、2012年、2600円＋税、ISBN：9784492100264、が参考になります。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	昨年度の学生による授業アンケートの結果において、「コメント用紙を学生が印刷して持参することになっているが、忘れた人のために先生にもコメント用紙をもってきてほしい」という意見がありました。できる限り学生に持参してほしいと思いますが、教員も予備を持参するようにします。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	096711 / 企業戦略論ａ　096712 / 経営戦略論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	田淵　泰男（タブチ　ヤスオ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業戦略論a・経営戦略論a（前期開講）は、経営戦略論のうち「企業戦略論」の領域を対象とします。企業戦略は、企業全体の将来のあり方に関する戦略であり、企業の中の諸事業を全体としてどのようにバランスないし統合するか、新しくどのような事業に進出するか、将来にわたってどのような企業を形成していくか等をその内容としています。主要な項目は、ドメインの定義（将来の事業領域を選択・決定）、多角化戦略、事業ポートフォリオ戦略です。この授業は、これらの主要な項目について順次解説し、それらの体系的理解と実際の現象に即した理論の理解を狙いとしています。	
到達目標(ねらい)	到達目標は以下のとおりです。 ①経営戦略、企業戦略、競争戦略（事業戦略）について、それぞれの定義と相違点が説明できる。 ②企業戦略においてドメインを定義することの意義・役割とその効果が説明できる。 ③優れたドメインを設定するための考え方としてどのような理論があり、どうしてそれが重要であるかを説明できる。 ④企業が多角化戦略を選択する根拠が説明できる。 ⑤多角化戦略を類型化し、それらの選択の相違が経営成果におよぼす影響について説明でき る。 ⑥事業ポートフォリオ戦略の前提をなす考え方と理論が説明でき、それに基づきポートフォリオ・マトリックスが作成できる。 ⑦「金のなる木」「花形製品」「問題児」「負け犬」について、各々の特徴および戦略指針が説明できる。 ⑧事業ポートフォリオ戦略における成功と失敗パターンが説明でき、ポートフォリオを利用した戦 略事業展開の課題と目標が説明できる。	
授業スケジュール	第 1 回	経営戦略の概念、経営戦略の体系とは何か
	第 2 回	企業戦略とは何か、その重要課題を整理する
	第 3 回	企業戦略におけるドメインの定義①　ドメインの定義とは何か
	第 4 回	企業戦略におけるドメインの定義②　事例研究および日米比較
	第 5 回	企業戦略におけるドメインの定義③　優れたドメイン定義の考え方
	第 6 回	企業戦略におけるドメインの定義④　3次元によるドメインの定義
	第 7 回	多角化戦略①　拡大化戦略の類型化、拡大化戦略と多角化戦略の異同、多角化戦略の概念と定義
	第 8 回	多角化戦略②　なぜ企業は多角化するのか、多角化戦略の採用根拠
	第 9 回	多角化戦略③　多角化戦略の類型化とそれが経営成果（収益性・成長性）に及ぼす影響
	第 10 回	事業ポートフォリオ戦略①　前提をなす理論として、経験曲線効果、製品ライフサイクルと資金需給の関係を理解する
	第 11 回	事業ポートフォリオ戦略②　市場成長率－シェア・マトリックスの作成
	第 12 回	事業ポートフォリオ戦略③　戦略指針と戦略代替案
	第 13 回	事業ポートフォリオ戦略④　戦略上の成功パターンと失敗パターン
	第 14 回	事業ポートフォリオ戦略⑤　競合企業のポートフォリオ分析
	第 15 回	事業ポートフォリオ戦略⑥　企業戦略と事業ポートフォリオの変容、事業ポートフォリオ戦略の実際
準備学習	経営学の入門的あるいは基礎的な科目を履修しておくことが望ましい。または、それに相応するテキストを利用して自習しておくことが望ましい。	
履修上の留意点等	経営学の入門的ないし基礎的な科目を履修していることが、当科目の効果的な学習およ	

	び適切な理解を得るために望ましい。前期に企業戦略論a・経営戦略論aを履修し、後期に引き続き企業戦略論b・経営戦略論bを履修することによって、経営戦略論の全般的な事項が学習できるため、それら科目の連続履修を推奨します。	
成績評価の方法		試験
		レポート
	100 %	小テスト
		平常点
	授業の進捗状況と内容に対応させて、中間試験を３回程度実施します。中間試験（２週間以上前に予告、範囲指定、授業内の一部時間で実施）の合計点によって評価します。	
教科書/テキスト	毎回、パワーポイント、プロジェクターを利用します。図表を多用するときや、詳細な説明を要するときはプリントを配布します。したがって、教科書を購入する必要はありません。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	田淵泰男『日本の主要産業における企業のシェア変動-長期時系列調査』税務経理協会（→駒澤大学図書館の指定図書コーナーに配架） その他、適宜紹介します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」において、「授業内容に興味が持てた」という意見が多かったので、本年度も引き続き、授業内容に興味を持ってもらえるようにさらに改善と工夫をしていきたい。「板書やスクリーンの文字・図表等は見やすかったか」という項目については意見が分かれたため、改善していきたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	096721 / 企業戦略論ｂ　096722 / 経営戦略論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	田淵　泰男（タブチ　ヤスオ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業戦略論ｂ・経営戦略論ｂ（後期開講）は、経営戦略論のうち「競争戦略論」の領域を対象とします。競争戦略論は、1980年代から台頭し、国内外における企業間競争の激化とともに発展しました。競争戦略は、競合企業に対して持続的な競争優位性を確立するための戦略です。競争力の優劣が企業の盛衰の決定的要因となる現在、競争力の分析、競争戦略の策定・実行は、最も重要な経営課題です。この授業では、競争戦略の基礎理論から実際の企業間競争における戦略の分析までを解説し、それらの体系的な理解と実際の現象に即した理論の理解を狙いとしています。	
到達目標(ねらい)	到達目標は以下のとおりです。 ①経営戦略論の発展史を踏まえて、競争戦略論の位置づけと課題が説明できる。 ②業界の競争構造分析がどうして必要なのか、それが何を目的としているのかを説明できる。 ③「５つの競争要因」のそれぞれについて、何を分析するのかが説明できる。 ④競争の基本戦略を選択するときの考え方、各戦略の選択に関する必要条件が説明できる。 ⑤資源ベース戦略論(RBV；リソース・ベースト・ビュー)について、ポジショニング・アプローチと対比して説明できる。 ⑥ダイナミック・ケイパビリティ論の生成と考え方について説明できる。 ⑦競争地位を類型化し、競争地位に応じた競争対抗戦略とは何かが説明できる。 ⑧先発企業の競争優位性の発生源泉は何か、後発企業の逆転の戦略は何かが説明できる。 ⑨デファクト・スタンダード獲得の競争戦略が重要視される理由および通常の戦略との相違点が何かを説明できる。	
授業スケジュール	第 1 回	経営戦略論の発展史および競争戦略論の位置付けと意義
	第 2 回	ポジショニング・アプローチとポーター戦略論の体系
	第 3 回	業界の競争構造分析（５つの競争要因）のフレームワークとその適用例
	第 4 回	「5つの競争要因」分析①　買い手の交渉力と売り手の交渉力
	第 5 回	「5つの競争要因」分析②　新規参入の脅威と代替品の脅威
	第 6 回	「5つの競争要因」分析③　既存企業間の敵対関係の強さを決める諸要因
	第 7 回	業界内部の構造分析　　戦略グループと移動障壁
	第 8 回	競争の基本戦略①　　3つの基本戦略
	第 9 回	競争の基本戦略②　基本戦略の選択と適用条件、価値連鎖（バリューチェーン）意義と分析方法
	第 10 回	資源ベースの戦略論（RBV）　　ポジショニング論との対比、VRIOフレームワーク
	第 11 回	ダイナミック・ケイパビリティ論
	第 12 回	競争地位の類型化と競争対抗戦略　リーダー・チャレンジャー・フォロワー・ニッチャーの戦略
	第 13 回	先発企業の競争優位性、後発企業の利点と逆転の戦略
	第 14 回	デファクト・スタンダードと競争戦略
	第 15 回	日本市場の競争構造および日本企業の競争戦略
準備学習	経営学の入門的あるいは基礎的な科目を履修していることが望ましい。または、それに相応するテキストを利用して自習しておくことが望ましい。	
履修上の留意点等	経営学の入門的ないし基礎的な科目を履修していることが、当科目の効果的な学習および適切な理解を得るために望ましい。前期に企業戦略論ａ・経営戦略論ａを履修し、後期に引き続き当科目を履修することを推奨します。	

成績評価の方法		試験
		レポート
	100 %	小テスト
		平常点
	授業の進捗状況と内容に対応させて、中間試験を３回程度実施します。中間試験（２週間以上前に予告、範囲指定、授業内の一部時間で実施）の合計点によって評価します。	
教科書/テキスト	毎回、パワーポイント、プロジェクターを利用します。図表を多用するときや、詳細な説明を要するときはプリントを配布します。したがって、教科書を購入する必要はありません。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	田淵泰男『日本の主要産業における企業のシェア変動-長期時系列調査』税務経理協会（→駒澤大学図書館の指定図書コーナーに配架） その他、適宜紹介します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	前年度「学生による授業アンケート」において、「授業内容に興味が持てた」という意見が多かったので、本年度も引き続き、授業内容に興味を持ってもらえるようにさらに改善と工夫をしていきたい。「板書やスクリーンの文字・図表等は見やすかったか」という項目については意見が分かれたため、改善していきたい。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	099181 / 企業統治論ａ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	木曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	水村　典弘（ミズムラ　ノリヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業統治論ａは、現代の株式会社制度や公開会社の統治（＝企業統治：コーポレート・ガバナンス）について、経営学の観点から事例を交えて詳しく説明します。本講義を受講することによって、上場会社の経営企画部や総務部で働く際に必要な基本的な知識やガバナンスの現状に係る最新の知識や情報を知ることができるはずです。※本年度の講義については、テキストを併用するので、本講義を履修登録する学生は第1回講義からテキストを持参してください。	
到達目標(ねらい)	講義内容に関わるテキストの該当箇所と毎回の小テスト（※所要時間10-15分：PPTX使用）を積み重ねることで、現代の株式会社制度とコーポレートガバナンスの現状を理解できます。具体的には、（１）株式会社制度の基本、（２）企業統治（コーポレート・ガバナンス）を取り巻く現状と課題、（３）ＥＳＧ投資における統治（ガバナンス）要因と各種行動規範（＝①「責任ある機関投資家」の諸原則〈日本版スチュワードシップ・コード〉、②コーポレートガバナンス・コード）について詳しく理解できるはずです。	
授業スケジュール	第 1 回	**企業統治論ａ（前期）の視点と論点** ①受講に際しての小テスト ②企業統治（コーポレート・ガバナンス）の論点 ③テキストと授業全体の進め方 ④小テスト（理解度の確認）
	第 2 回	**テキスト（Ｉ）株式会社とは何か** ①企業形態と法律形態 ②株式会社の歴史 ③株式会社の特徴 ④株式会社の区分 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 3 回	**テキスト（Ⅱ）株式会社と会社機関（概論）** ①日本の巨大株式会社と会社機関 ②監査役会設置会社 ③委員会設置会社 ④米国の巨大株式会社と会社機関 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 4 回	**テキスト（Ⅱ）株式会社と会社機関（詳説）** ①日本の巨大株式会社と会社機関 ②監査役会設置会社 ③委員会設置会社 ④米国の巨大株式会社と会社機関 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 5 回	**テキスト（Ⅲ）株式会社と経営者支配** ①株式所有構造の変容と専門経営者 ②経営者支配論の展開 ③経営者支配論とコーポレート・コントロール論争 ④経営者支配論からの理論的展開 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 6 回	**テキスト（ＸＸ）Ｍ＆Ａ(合併･買収)とコーポレート・ガバナンス** ①Ｍ＆Ａの概念と類型 ②Ｍ＆Ａの目的 ③敵対的企業買収と買収防衛策

		④米国・欧州・日本のM&Aの動向比較 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 7 回	**テキスト（ＸＸＩ）機関投資家とコーポレート・ガバナンス** ①株式所有構造の変化 ②機関投資家の運用手法 ③コーポレート・ガバナンス原則と機関投資家 ④ＳＲＩ投資とＥＳＧ投資 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 8 回	**テキスト（ＸＸⅢ）コーポレート・ガバナンスとＥＳＧ投資** ①企業情報：ＵＮ－ＰＲＩ（国連投資責任原則）とＥＳＧ投資の潮流 ②ＥＳＧ投資のアプローチ ③ＥＳＧ投資におけるガバナンス要因 ④ＥＳＧ投資のインパクトと長期的な企業価値の向上 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 9 回	**グループワーク：スチュワードシップ・コード（１）** ①公開会社と機関投資家 ②日本版スチュワードシップ・コード ③具体的事例 ④小テスト（理解度の確認）
	第 10 回	**グループワーク：スチュワードシップ・コード（２）** ①公開会社と機関投資家 ②日本版スチュワードシップ・コード ③具体的事例 ④小テスト（理解度の確認）
	第 11 回	**グループワーク：コーポレートガバナンス・コード（１）** ①公開会社と会社機関 ②取締役会の構造 ③取締役と社外取締役 ④コーポレートガバナンス・コード ⑤具体的事例 ⑥小テスト（理解度の確認）
	第 12 回	**グループワーク：コーポレートガバナンス・コード（２）** ①公開会社と会社機関 ②取締役会の構造 ③取締役と社外取締役 ④コーポレートガバナンス・コード ⑤具体的事例 ⑥小テスト（理解度の確認）
	第 13 回	**テキスト（ＸⅨ）コーポレート・ガバナンスと資本政策** ①資本政策と株式発行 ②新たな種類株の台頭 ③自社株買いと株主還元 ④小テスト（理解度の確認）
	第 14 回	**現代の公開会社と統治：論点の整理** ①企業統治の現代的課題 ②小テスト（理解度の確認）
	第 15 回	**期末試験** ※記述式
準備学習	講義内容に関わる報道（新聞・雑誌、インターネット、ＴＶの特集番組）を各自でチェックするようにしてください。報道の一部については、授業内小テスト（理解度の確認）で出題します。	
履修上の留意点等		

	講義の内容について理解できないことがあれば、講義終了後に必ず質問して下さい。
成績評価の方法	30 ％ 試験 20 ％ レポート 30 ％ 小テスト 20 ％ 平常点
教科書/テキスト	よくわかるコーポレート・ガバナンス 出版社：ミネルヴァ書房 出版年月日 2019年01月25日 ISBN 9784623083992 http://www.minervashobo.co.jp/book/b413712.html
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	
関連リンク	**※下記資料のハードコピー（＝プリントアウトして紙媒体に出力したもの）持参が当該講義の際の出席要件となります。** 資料：金融庁「「責任ある機関投資家」の諸原則（日本版スチュワード シップ・コード）」 資料：日本取引所「コーポレートガバナンス・コード」
実務経験がある教員による授業科目	

履修コード/科目名称	099191 / 企業統治論ｂ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	木曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	水村　典弘（ミズムラ　ノリヒロ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	企業統治論 ｂ では、前期科目（企業統治論ａ）で学んだ制度の運用だけでは必ずしも捕捉できない「職場内の倫理課題（職場不正）」や「ビジネス上の倫理課題（業務上の不正）」について、具体的な事例とケースワーク（事例に基づくディスカッション）で学びます。具体的には、「企業統治との関連で今、何が企業に求められているのか」「課題の本質は何か？」「課題の根本的な原因は何か？＝なぜなぜ分析（なぜを複数回にわたって繰り返して課題の根本的な原因を掘り下げて考える思考法）」「どのような解決策があるのか？」について考えます。	
到達目標(ねらい)	この講義を受講すれば、「自分たちで考える」「自分たちで時間内にメンバーの意見を整理してまとめる」「自分たちでプレゼン資料を作成し発表する」ことができるようになるはずです。なお、グループワークのメンバーは毎回の講義で任意に決めます。こうすることで、学部内の異なる学年の人とも話すこととなり、いわゆるコミュニケーション能力の重要性も理解できるはずです。	
授業スケジュール	第 1 回	**企業統治論ｂ（後期）の視点と論点** ①受講に際しての小テスト ②コンプライアンス（倫理・法令等遵守）の論点 ③テキストと授業全体の進め方 ④小テスト（理解度の確認）
	第 2 回	**テキスト（Ⅶ）企業不祥事とコーポレート・ガバナンス** ①1970年代までの状況 ②1990年代の状況 ③2000年前後の状況 ④問われる「企業は誰のものか」 ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 3 回	**テキスト（Ⅷ）外部監視とコーポレート・ガバナンス** ①外部監視と内部統制 ②外部監視の制度的展開 ③外部監視の多様化 ④小テスト（理解度の確認）
	第 4 回	**テキスト（ＸＸＶ）コーポレート・ガバナンスと企業倫理** ①経営トップと会社機関 ②コンプライアンスの実際と不正 ③不正の芽を摘む ④なぜ人は不正に走るのか ⑤小テスト（理解度の確認）
	第 5 回	**グループワーク：意思決定と価値判断** ①何が正しくて...何が正しくないのか... ②個人の意思決定モデル ③ケース：商人と屏風は直ぐには立たぬ ④小テスト（理解度の確認）
	第 6 回	**グループワーク：経営意思決定と行動科学** ①組織人の意思決定モデル ②ケース：悪しき業界慣行 ③小テスト（理解度の確認）

	第 7 回	**グループワーク：功利主義** ①功利主義とは ②ケース：フォード・ピント ③小テスト（理解度の確認）
	第 8 回	**グループワーク：義務論** ①義務論とは ②ケース：残業・地獄の特訓 ③小テスト（理解度の確認）
	第 9 回	**グループワーク：コンプライアンスの実務** ①コンプライアンスの制度化 ②仏作って魂入れず...？ ③小テスト（理解度の確認）
	第 10 回	**グループワーク：社内・職場の不正・不適切事案** ①課題抽出 ②重要課題のマトリクス ③根本原因分析 ④小テスト（理解度の確認）
	第 11 回	**グループワーク：社内・職場の不正・不適切事案（事例：残業）** ①根本原因分析 ②具体的な打ち手の検討 ③課題解決策 ④小テスト（理解度の確認）
	第 12 回	**グループワーク：社内・職場の不正・不適切事案（事例：ダイバーシティ）** ①根本原因分析 ②具体的な打ち手の検討 ③課題解決策 ④小テスト（理解度の確認）
	第 13 回	**グループワーク：社内・職場の不正・不適切事案（事例：不正の深層）** ①根本原因分析 ②具体的な打ち手の検討 ③課題解決策 ④小テスト（理解度の確認）
	第 14 回	**現代の公開会社と統治：論点の整理** ①統治（ガバナンス）とコンプライアンスの実務 ②仏作って魂入れず... ③小テスト（理解度の確認）
	第 15 回	**期末試験：記述式**
準備学習	企業報道（新聞・雑誌、インターネット、ＴＶの特集番組）などに日頃から接するように心掛けて下さい。日本国外の変化や日本国外の変化をフォローしていれば、講義の内容を深く理解できると思います。	
履修上の留意点等	毎回の講義でグループのメンバーを任意で決めます。発表者については、アプリを使用して、誰が発表するのか、事前に分からない状態でグループワークを進めます。このように、企業統治論　ｂ　は、グループワークで講義（初回以外の全14回）を進めます。	
成績評価の方法	40 ％	試験
		レポート
	30 ％	小テスト
	30 ％	平常点

教科書/テキスト	よくわかるコーポレート・ガバナンス 出版社：ミネルヴァ書房 出版年月日 2019年01月25日 ISBN 9784623083992 http://www.minervashobo.co.jp/book/b413712.html	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	講義の際に口頭で紹介します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について		
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	100601 / 現代経済事情Ｉ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	水曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予・〔経済と経済学の今〕		
主担当教員氏名(カナ)	宮田　惟史（ミヤタ　コレフミ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	現代世界においてはグローバリゼーションの進行の下で格差が拡大し，また地球環境も許容限界に近づいている．テロと戦争，難民問題，そして米国トランプ政権の誕生や英国のＥＵ脱退など，現代世界は大きな転機を迎えている。こうした状況下で、国内と世界の政治経済の動きをどのように考えたらよいのであろうか．また，こうした事態に経済学はどう取り組むのであろうか．この講義では，上記のような問題意識に立って，経済学部の専任教員が各自の専門分野における現状と展望を語るものである．毎回異なる教員が話すので、現代の経済と経済学について幅広く学ぶとともに，各教員の問題意識を知る機会ともなろう． なお，本講義ではアクティヴ・ラーニングを重視している．	
到達目標(ねらい)	現在、日本と世界の経済が直面しているさまざまな課題とそれに対する経済学の取り組みについて知るとともに，個別専門分野を超えた現代経済・経済学全体について考える力を養う．なお，本講義は経済学部のディプロマ・ポリシーにおいて，おもにDP2，DP3，DP5の力の育成に相当している．	
授業スケジュール	初回の授業で説明するので、必ず出席して確認してください．	
準備学習	新聞，テレビ，インターネットなどのメディアのニュースをよく読み，社会的な問題に関する関心を高めること．また，全学共通科目や経済学部専門科目の社会・経済に関する科目の受講に際し，この科目で語られるテーマと関連しないか，注意しながら 学習すること．	
履修上の留意点等	毎回、各テーマにかかわるレポートが課され，評価される．話を聞きながらメモを取る，メモを整理して文章にまとめる，といった作業が必要になる．これは必ず皆さんの学習力を高めるので，積極的・意欲的に取り組むようにしてほしい．	
成績評価の方法		試験
	100 %	レポート
		小テスト
		平常点
	毎回，各教員が講義内容にかかわるレポート課題を授業時間内に出し，そのレポートの点数を集計して成績評価を行う．したがって当然、毎回出席することが必要になる．	
教科書/テキスト	特に指定しない．	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	適宜紹介する．	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	リレー形式なので，各教員の授業スタイルにはある程度の幅があることを予め了解して頂きたい．	
関連リンク	なし	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	100701 / 現代経済事情Ⅱ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	水曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予・〔現代の日本における労働問題〕		
主担当教員氏名(カナ)	小幡　道昭（オバタ　ミチアキ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	本講義では、コンピュータの発達やインターネットの普及といった情報通信技術の急速な発展が、資本主義の経済システムに及ぼす影響について考えてゆきます。主として対象とする領域は、(1)人間労働の基本的なあり方への影響 (2)インターネットと商業の関連 (3)仮想通貨と信用システムの三つです。 授業は講義形式でおこないますが、毎回ホームページ上で質問をだし受講者に回答を送ってもらう質疑形式を取り入れてゆきます。	
到達目標(ねらい)	本科目は経済学部および経営学部の学位授与方針DP2とDP3に強く関連しています。 情報通信技術の発展をただ解説するのではなく、基本的な技術の内容にふみこんで内側から理解する方法をとります。コンピュータの構造やプログラミングの手法、LAN とインターネットの関係、暗号理論やブロックチェーンなど、可能な範囲で体験しながらその本質を考えてゆきます。 プログラム言語やネットワークのしくみなど、予備知識はゼロでかまいませんが、ゼロからわかるように説明しますので、ついてくる覚悟はしてください。Web上に散乱する「専門用語」やアルファベットの略語など、雑多な知識は必要ありません。	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：情報通信技術の歴史
	第 2 回	コンピュータと労働：バベッジの分業論
	第 3 回	コンピュータと労働：道具・機械・コンピュータ
	第 4 回	コンピュータと労働：目的意識と「関数」
	第 5 回	コンピュータと労働：職種と「オブジェクト」
	第 6 回	コンピュータと労働：単純頭脳労働と「人工知能」
	第 7 回	コンピュータと労働：労働の未来
	第 8 回	インターネットと労働：インターネットのしくみ
	第 9 回	インターネットと労働：通信とコミュニケーション
	第 10 回	インターネットと労働：メディアとコンテンツ
	第 11 回	インターネットと労働：知識の私有と共有
	第 12 回	情報通信技術と市場：商業へのインパクト
	第 13 回	情報通信技術と市場：金属貨幣の匿名性
	第 14 回	情報通信技術と市場：信用貨幣の限界
	第 15 回	情報通信技術と市場：仮想通貨の可能性
準備学習	授業の前日までに「関連リンク」の講義用ホームページに講義の概要をアップロードします。	
履修上の留意点等		
成績評価の方法	70 %	試験
		レポート
		小テスト
		平常点
	30 %	ホームページ上の質問への回答

教科書/テキスト		
参考書 ▸ 図書館蔵書検索		
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	本年度から担当のためアンケートは未実施です。	
関連リンク	本講義用ホームページ https://kuj.gken.jp	
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	101001 / 現代産業事情Ⅰ		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	土曜日 2時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	吉岡　路（ヨシオカ　ミチ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	誰にとっても身近でありかつ重要なテーマである教育を一つの題材としつ（※１）、大学での学び、就職時、そして社会人で活躍する上でも必要となる、「文章を読み解く力」、「論証力」、そして基礎的な「アカデミック・ライティング」の力を育成することを目的とする。 基礎的な文章作成の技術の指導には、15回の授業を通して複数回のレポートを課す。提出されたレポートはルーブリック評価（※２）を付して返却され（※３）、受講生はルーブリックの評価を見て文章を見直し、更に文章を作成する（リライトする）。これにより「アカデミック・ライティング」の基礎力を養う。 また、講義と演習を通して、読解の方法や思考の型や文章作成の技法等を段階的・体系的に学びつつ、大学教育の課程を通じて必要となるレポートや学術的な論文の構造の理解、「文章を読み解く力」を身につける。さらに、自らが書き手となるために必要となる「思考力」を養うために「問い」の基本的な枠組みと方法を理解する。また、文章作成に必要なパラグラフ・ライティング（※４）の基礎を育成する。 最終的には、教育を題材に、自ら「問い」を立てたテーマについて、経済学の視点を加えつつ、講義と演習を通して得た読解の方法や思考の型、文章作成の技法等を活かし一篇のレポートを完成させる。 ※１　講義の中で文部科学省職員を講師に招き、国の教育政策についての講義を複数回行う予定である。 ※２　学習の到達度を示す評価基準を観点と尺度で示したもの。 ※３　受講者が多い場合には方法を変更する場合がある。 ※４　論理的に物事を伝えるための文章術。	
到達目標(ねらい)	①教育が正の外部性を持つことについて理解し、それを用いて議論することができる。（知識・理解） ②基本的な議論（論証）とパラグラフ・ライティングの知識について理解し、それを用いて議論（論証）とパラグラフの構造を論理的に把握することができる。（知識・理解） ③基本的な日本語と論文のルールについて理解し、論文の構造やアウトラインを論理的に把握することができる。（知識・理解） ④議論（論証）とパラグラフ・ライティングについての知識を活用して、ものごとを論理的に説明することができる。（思考・判断） ⑤学問的・研究的な興味関心を持ち、自ら調べ、意欲的に考える（疑問を抱き、問い立てようとする）態度をもつ。（関心・意欲） ⑥トゥールミンの議論モデルを踏まえて論文のアウトラインが設計でき、1600字の論文を書くことができる。（技能・表現）	
授業スケジュール	第 1 回	大学における「学び」　論文とは何か ◆キーワード：学問の作法／問題提起・仮説（主張）・論証
	第 2 回	文をつくる ◆キーワード：文（名詞文・形容詞文・動詞文）、句、節、主文、埋め込み文、単文、重文、複文、一文一義
	第 3 回	引用する ◆キーワード：引用と剽窃／引用の仕方／参考文献／資料収集の方法
	第 4 回	日本の教育政策に関する講義①
	第 5 回	説明する ◆キーワード：文種（記録タイプ・説明タイプ・論証タイプ）、説明の方法（手順・換言・定義・比喩・分類・例示・比較/対照・理由/原因）
	第 6 回	接続語をつかう ◆キーワード：論理、言い換え（換言）、理由/原因、付加、対比/転換
	第 7 回	パラグラフをつくる（ミクロ構成） ◆キーワード：パラグラフ、トピック・センテンス、サポーティング・センテンス、コンクルーディング・センテンス、一貫性、結束性（接続語・指示語）、抽象、具体

	第 8 回	日本の教育政策に関する講義②
	第 9 回	パラグラフをつなぐ ◆キーワード：直列型（串刺し型）、並列型（フォーク型）、結束性（メタ言語・指示語）
	第 10 回	文章を構造化する（マクロ構成） ◆キーワード：三部構造（序論部・本論部・結論部）、「問い」と「答え」、一貫性、メタ言語、論証
	第 11 回	「問い」をつくる ◆キーワード：実態を問う、理由を問う、適切な「問い」、「問い」のブレイクダウン
	第 12 回	論証する ◆キーワード：仮説、根拠（データ・証拠）、主観性と客観性（経験的事実）、推論（帰納・演繹・類比）
	第 13 回	議論する ◆キーワード：論拠（隠れた前提）、思いやりの原則、観察語、理論語、内包、外延、合意形成
	第 14 回	批判的に思考する ◆キーワード：根拠の検証、論拠の見定め、推論の妥当性、反論/反駁、反証可能性
	第 15 回	論文の技法（4）　論文の自己点検 ◆キーワード：論文のルーブリック／評価の観点
準備学習	授業中に指示	
履修上の留意点等	・授業スケジュール及び内容については、外部講師招聘に応じて調整を行います。 ・本授業では、講義中に行う演習を通じて必要な理解をより深めていきます。やむを得ず欠席をした場合にはその部分を自主学習で演習部分を含め補う必要があります。また、授業進度に応じた４回程度の課題レポートの全てにしっかりと取組み、最終レポートを仕上げることで授業概要に示しす能力を育成することから、授業時間外の課題が相当量あります。授業選択に際しては、これらのことを予め理解した上で選択してください。	
成績評価の方法		試験
	40 ％	レポート
		小テスト
		平常点
	60 ％	授業期間中の課題レポート等により、授業の理解度や修得度を評価
	※2/3以上の出席をもって評価の対象とする。	
教科書/テキスト	授業でテキストを配布	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	『「学力」の経済学』（中室牧子）（ディスカバー・トゥエンティワン） 『「原因と結果」の経済学』（中室牧子／津川友介）（ダイヤモンド社） 『マンキュー経済学（ミクロ編）』（グレゴリー・マンキュー） 『新版 論文の教室』（戸田山和久）（日本放送出版協会）［説明］論文のアウトラインの作り方が丁寧に紹介されている。 『議論のレッスン』（福澤一吉）（日本放送出版協会）［説明］トゥールミンの議論モデルに基づいた「議論のルールブック」。議論・論証の構造が分かる実践的な本。 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（二通信子他）（東京大学出版会）［説明］レポート・論文作成のための辞書と参考書の役割を果たす本。実例も豊富で、レポート・論文を書くときの「座右の書」。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	今年度より新規担当のため、前年度アンケート未実施	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		

履修コード/科目名称	101201 / 現代産業事情Ⅲ　101202 / 現代企業論　101203 / 現代マネジメントⅡ		
開講年度・期	2019年 後期	開講曜日・時限	火曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	柳井　香織（ヤナイ　カオリ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	自分が歩みたい人生の実現や人生100年にも迫り長期化する老後をお金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める（貯蓄）」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす（投資）」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。 早ければ入社後すぐに、自分で自分の年金（確定拠出年金）の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか…決められますか？経済的に自立し、将来安定した生活を送るためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択、実践するスキルや判断力（＝金融リテラシー）を若いうちから身につけておくことが必要です。	
到達目標(ねらい)	正規の経済学の授業で学んでいる知識をバックボーンに、金融リテラシーを養成することを目指します。 ・経済と金融・証券市場の関係や実態を理解する。 ・ライフ・プランニングの基本を理解し、自身の将来を見据えたプラン作成と資金計画策定ができる。 ・金融投資の基礎知識と、それを実生活で活用する基礎的スキルを身につける。	
授業スケジュール	第 1 回	金融リテラシーの必要性
	第 2 回	金融・経済の基礎知識① ～ 金融の役割
	第 3 回	株式投資の基礎知識① ～ 株式会社と株式市場
	第 4 回	株式投資の基礎知識② ～ 取引のしくみ
	第 5 回	金融・経済の基礎知識② ～ 実体経済と金融市場
	第 6 回	金融・経済の基礎知識③ ～ 金利のしくみ、金利計算
	第 7 回	ライフ・プランニング① ～ 生涯資金の出入り、年金のしくみ
	第 8 回	ライフ・プランニング② ～ ライフ・プランの作成
	第 9 回	金融取引のリターンとリスク
	第 10 回	資産運用とリスク管理
	第 11 回	金融商品を知る：株式
	第 12 回	金融商品を知る：投資信託① ～ 投資信託のしくみと特性
	第 13 回	金融商品を知る：投資信託② ～ 投資信託の種類
	第 14 回	金融商品を知る：債券、その他商品
	第 15 回	金融消費者の保護と自己責任、まとめ
準備学習	・講義資料や関連する新聞記事、参考文献等を参照し、前回の講義内容について復習しておくこと。 ・テーマに関連するトピックをとり上げることも多いので、日頃から、金融・経済に関する記事や報道等に関心を持ち、内容には目を通しておいて下さい。	
履修上の留意点等	・必須ではありませんが、より理解を深めてもらうためにも、経済・金融の基礎科目を履修（履修中も含む）している人が望ましい。 ・講義形式で解説しますが、受講者自身で配布資料の空欄部分への書き込みをしてもらいます。重要と思われるところを積極的に聴き取り、自ら考える姿勢を望みます。 ・経済や市場動向との関わりを実感し理解を深められるよう、講義と並行して株式売買の仮想ゲームに全員参加してもらいます。	
成績評価の方法	55 ％	試験

	20 %	レポート
		小テスト
		平常点
	10 %	株式ゲームへの参加・取り組み
	15 %	理解度確認、その他課題
	課題等の提出物は必ず提出、かつ提出期限を守って下さい。	
教科書/テキスト	毎回講義資料を配布します。	
参考書 ▸ 図書館蔵書検索	日本経済新聞 金融知力普及協会『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』金融知力普及協会、1,400円、ISBN:9784907341008 その他、適宜教室で指示します。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	今期が初年度のため、前年度の実績はありません。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目	当科目はSMBC日興証券グループの寄付講座であり、金融・証券分野の実務経験を有する教員による授業科目です。	

シラバス参照

授業科目名	微分積分学(1)
科目英名	Calculus (1)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	1年生
学期	前期
担当者	中井　洋史
単位数	2

科目概要	微分積分学は2つの量の関係、いわゆる関数の性質を調べる科目であり、数学のみならず自然科学や工学等の様々な分野を支える重要な役割を担っている。微分積分学（1）では一変数関数の微分法と積分法の基本的な事項について講義を行う。数列や関数の極限、初等関数、テイラーの定理、極値問題、区分求積法による定積分の定義、不定積分の計算、広義積分などが主な内容である。微分積分学（1）の内容は微分積分学（2）に引き継がれる。
達成目標	微分法・積分法の諸定理や公式の意味を理解し、計算方法を身につける。
成績評価	試験、レポート等の提出物、毎回の講義の出席状況などを考慮して成績を付ける. 例年は試験の得点：講義中における評価点＝7:3のように配分しているが、その年の状況に応じて初回の講義で決める。
予習復習時間	講義後に講義ノートの復習など、自宅における予習復習（1講義あたり4時間超）をおこなうこと。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	高等学校の数学を理解していること。
授業計画	

第1回	微分積分について（ガイダンス）
第2回	数列の極限, 関数の極限
第3回	連続関数
第4回	初等関数と逆関数
第5回	1変数関数の微分法
第6回	平均値の定理, ロピタルの定理
第7回	高次の導関数, ニュートン近似
第8回	テイラー展開と近似値, ランダウの記号
第9回	関数のグラフと増減表
第10回	1変数関数の定積分
第11回	1変数関数の部分積分法
第12回	1変数関数の置換積分法
第13回	広義積分の定義
第14回	曲線の長さ

オフィスアワー	火曜の昼休み
授業形態	講義と演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	
授業に持参するもの	
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『入門微分積分』	三宅 敏恒	培風館	1992	9784563002213	

参考書	
学生へのメッセージ	微積分は理工系科目の基礎です。真摯かつ誠実な学習態度で毎回の講義に臨み、自学自習を欠かさずに精進してくれることを望みます.
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	微分積分学(2)
科目英名	Calculus (2)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	1年生
学期	後期
担当者	中井　洋史
単位数	2

科目概要	微分積分学は2つの量の関係、いわゆる関数の性質を調べる科目であり、数学のみならず自然科学や工学等の様々な分野を支える重要な役割を担っている。微分積分学（2）では多変数（主に2変数）関数の微分法と積分法について講義を行う。これらは微分積分学（1）から引き続くものである。偏微分では偏微分の定義から始めて合成関数の微分法、説平面の方程式、陰関数定理、極値問題、重積分では重積分の定義と累次積分、重積分の変数変換などが主な内容となる。
達成目標	微分法・積分法の諸定理や公式の意味を理解し、計算方法を身につける。
成績評価	試験、レポート等の提出物、毎回の講義の出席状況などを考慮して成績を付ける. 例年は試験の得点：講義中における評価点＝7：3のように配分しているが、その年の状況に応じて初回の講義で決める。
予習復習時間	講義後に講義ノートの復習など、自宅における予習復習（1講義あたり4時間超）をおこなうこと。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	微分積分学（2）を履修していることが望ましい。
授業計画	

第1回	多変数関数
第2回	全微分可能性と合成関数の微分
第3回	ヤコビ行列, 極座標
第4回	高次の偏導関数とテイラーの定理
第5回	2変数関数のヘッセ行列
第6回	2変数関数の極値の判定
第7回	陰関数の定理
第8回	条件付き極値
第9回	重積分の定義
第10回	重積分の変数変換
第11回	重積分の応用（体積）
第12回	重積分の応用（曲面積）
第13回	線積分の定義
第14回	グリーンの定理

オフィスアワー	火曜の昼休み
授業形態	講義と演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	
授業に持参するもの	
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『入門微分積分』	三宅 敏恒	培風館	1992	9784563002213	

参考書	
学生へのメッセージ	微積分は理工系科目の基礎です。真摯かつ誠実な学習態度で毎回の講義に臨み、自学自習を欠かさずに精進してくれることを望みます.
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	線形代数学(1)
科目英名	Linear Algebra (1)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	1年生
学期	前期
担当者	井上　浩一
単位数	2

科目概要	線形代数学は線形空間（ベクトル空間）とその上の線形写像の性質を調べる科目であり、数学のみならず自然科学や工学等の様々な分野を支える重要な役割を担っている。線形代数学(1)では行列と行列式の理論を中心に、その演算と計算および連立一次方程式の解法への応用について、また数ベクトルに関する基本的な事項について講義を行う。線形代数学(1)の内容は線形代数学(2)に引き継がれる。
達成目標	概念の理解とともに、連立1次方程式の解法や行列・行列式の計算に習熟する。（専門教育に対応できる基礎的能力の育成）
成績評価	中間試験とその再提出レポート50%および期末試験50%に自主レポートを加味する。（ただし、知識工学部配当科目の期末試験比率は60%以上と規定されているためそれに従う。）
予習復習時間	教科書を読む予習と教科書の演習問題を用いた復習 を合わせて1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	高等学校の数学を理解していること。
授業計画	

第1回	平面・ 空間のベクトル
第2回	ベクトルの内積と外積
第3回	直線、平面の方程式
第4回	行列の定義
第5回	行列の演算
第6回	行列の基本変形
第7回	連立1次方程式の解法(掃き出し法による解法)
第8回	行列の階数
第9回	逆行列
第10回	行列式の定義
第11回	行列式の性質(平行六面体の体積)
第12回	行列式の計算
第13回	余因子展開
第14回	クラメルの公式

オフィスアワー	火曜4限としますが、随時質問に来てください。 数学質問箱：http://www.ns.tcu.ac.jp/NS/QandA_BBS/
授業形態	

	講義形式
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義および演習を行う。
関連科目	線形代数学（2）
授業に持参するもの	教科書に指定した書籍
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『東京都市大学数学シリーズ(2)線形代数演習(学術図書出版社)』				9784780600827	

参考書	
学生へのメッセージ	線型代数はいろいろなところに応用されています。専門的な知識を身につけるためには線型代数の知識が欠かせません。楽しみながら勉強してください。
その他・自由記述欄	理解できないとき、読みにくいときは質問をどしどししてください。
参考URL	

1.	数学質問箱	数学の質問はここに

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	線形代数学(2)
科目英名	Linear Algebra (2)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	1年生
学期	後期
担当者	井上　浩一
単位数	2

科目概要	線形代数学は線形空間(ベクトル空間)とその上の 線形写像の性質を調べる科目であり、数学のみなら ず自然科学や工学等の様々な分野を支える重要な役 割を担っている。線形代数学(2)では線形代数学 (1)で得られた知識を用いつつ、数ベクトル空間を 中心とした線形空間と線形写像の基本的な事項につ いて講義を行う。主な内容として線形空間の基底と 次元、線形写像とその表現行列、内積空間、固有値 と行列の対角化などを扱う。
達成目標	具体的な計算を通して、ベクトル空間や線形写像の 諸概念を理解する。(専門教育に対応できる基礎的能 力の育成)
成績評価	中間試験とその再提出レポート50%および期末試験50%に自主レポートを加味する。(ただし、知識工学部配当科目の期末試験比率は60%以上と規定されているためそれに従う。)
予習復習時間	教科書を読む予習と教科書の演習問題を用いた復習 を合わせて1時限分の授業に対して4時間超の自学 自習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	線形代数学(1)を履修していることが望ましい。
授業計画	

第1回	数ベクトル空間
第2回	部分空間(部分空間とその例)
第3回	ベクトルの1次従属と1次独立
第4回	ベクトル空間の基底と次元
第5回	ベクトル空間の基底と次元の例(連立一次方程 式の解空間、ベクトルで生成される部分空間)
第6回	線形写像(線形写像の例、線形写像の像と核)
第7回	線形写像の表現行列
第8回	基底の変換(基底の変換と変換行列)
第9回	内積と正規直交基底
第10回	グラム=シュミットの正規直交化法
第11回	直交変換と直交行列
第12回	固有値と固有ベクトル
第13回	正方行列の対角化
第14回	対称行列の対角化

オフィスアワー	火曜4限としますが、随時質問に来てください。 数学質問箱：http://www.ns.tcu.ac.jp/NS/QandA_BBS/

授業形態	講義形式
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義および演習を行う。
関連科目	線形代数学（1）
授業に持参するもの	教科書
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『東京都市大学数学シリーズ（2）線形代数演習』				9784780600827	

参考書	
学生へのメッセージ	線形代数学に限らず数学的な事実を理解するには、具他的な例を実際に自分の手で計算し確かめることが必要です。授業時間以外の努力を期待します。
その他・自由記述欄	理解できないとき、読みにくいときは質問をどしどししてください。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	

1.	数学質問箱	数学の質問はここに

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	基礎確率統計
科目英名	Basic Probability Theory and Statistics
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	1年生
学期	前期
担当者	兼子　毅
単位数	2

科目概要	工学、医学、経済学などあらゆる分野で必要とされている統計学について、データの集め方、整理の仕方、情報の読み取り方などに関する基礎的な、かつ広範囲に利用できる手法を講義するとともに、演習を通じて習得する。
達成目標	工学分野でもっとも重要な「正規分布」「二項分布」及び「ポアソン分布」について、その概要を理解すること。それらの分布に従うと仮定できるデータに対する基本的な検定、推定手法を理解し、使えるようになること。
成績評価	レポート（20点）と期末試験（80点）
予習復習時間	学習支援システムに事前にテキストをアップロードするので、授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。積み上げていく講義なので、復習を怠らないこと。どこかで分からなくなると、それ以降まったく分からなくなってしまうので、授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	高校程度の数学
授業計画	

第1回	サンプルと母集団
第2回	一変数のデータ
第3回	二変数のデータ
第4回	計数値の分布
第5回	計量値の分布
第6回	計量値分布の推定
第7回	計数値分布の推定
第8回	計量値分布の母数に関する検定（その1）
第9回	計量値分布の母数に関する検定（その2）
第10回	計数値分布の母数に関する検定
第11回	ノンパラメトリック検定
第12回	総合演習（1）データの縮約と記述
第13回	総合演習（2）データの分布
第14回	総合演習（3）検定と推定

オフィスアワー	火曜日　15:10～16:50
授業形態	

	講義＋演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	基本的な手法や概念の講義を中心とする。各章ごとに時間内演習を用意しているが、講義の進行の関係で時間内演習を行う余裕が無い場合は、章末問題を各自で解き、理解を深めていただく。
関連科目	特になし。
授業に持参するもの	電卓またはパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『自作テキスト』					受講生にWebClassにて公開

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ゼロから始めるR』	兼子　毅	日科技連出版社	2015	9784817195661	

学生へのメッセージ	講義だけではなく、予習･復習を通じてしっかりマスターしていただきたい。
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	微分方程式論
科目英名	Applied Differential Equations
開講年度	2019
開講学科	2018年度 医用工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	前期前半
担当者	畑上　到
単位数	2

科目概要	微分方程式はさまざまな物理現象を記述するものとして広く研究されている。方程式の解が得られたならば、その現象がある意味理解できたことになる。一般に微分方程式を解くのは困難なことであるが、ある種の微分方程式については、解法が十分に調べられている。この講義では常微分方程式を考察の対象として、求積法によって解ける1階正規形微分方程式の解法を述べる。さらに2階微分方程式について、応用上重要な線形方程式を中心にその解法を述べる。
達成目標	常微分方程式の基本事項を理解し、解法を身につける。
成績評価	演習10%＋期末試験90%
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	講義ノートや講義での演習を用いた復習をあわせて1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
授業計画	

第1回	常微分方程式の例
第2回	変数分離形微分方程式
第3回	変数分離形に帰着される微分方程式
第4回	1階線形微分方程式
第5回	完全形微分方程式
第6回	積分因子
第7回	2階線形微分方程式
第8回	定数係数同次微分方程式
第9回	高階の線形微分方程式
第10回	定数係数非同次微分方程式の解法（定数変化法）
第11回	定数係数非同次微分方程式の解法（記号解法）
第12回	定数係数非同次微分方程式の解法（未定係数法）
第13回	変数係数線形微分方程式
第14回	演習とまとめ

オフィスアワー	毎週金曜日12:30ー13:20
授業形態	

	講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義を中心に行うが，必要に応じて演習を行う。
関連科目	
授業に持参するもの	教科書
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『『初回講義の時に提示する。』』					

参考書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『『初回講義の時に提示する。』』					

学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	ベクトル解析学
科目英名	Vector Analysis
開講年度	2019
開講学科	2018年度 自然科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	服部　新
単位数	2

科目概要	ベクトル解析はベクトル関数の微分積分である。物理現象がしばしばスカラー場やベクトル場によって記述されることから、数学はもとより流体力学や電磁気学等の物理学・工学の諸分野に幅広い応用をもつ。講義では線形代数学・微分積分学の復習から始めて、スカラー場とベクトル場の線積分・面積分を経て、微分積分学の基本定理の高次元化であるストークスの定理やガウスの発散定理等の積分定理について解説する。
達成目標	積分定理の理解を到達目標とする。
成績評価	期末試験60%、小テスト・宿題40%
予習復習時間	講義ノートや講義での演習を用いた復習を合わせて1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	微分積分学(1)(2)、線形代数学(1)(2)
授業計画	

第1回	偏微分の復習
第2回	多重積分の復習
第3回	ベクトルとベクトル値関数
第4回	曲線と線積分
第5回	曲面と面積分
第6回	ベクトル場とスカラー場の微分演算(勾配, 回転, 発散)
第7回	ベクトル場の線積分
第8回	グリーンの定理
第9回	ガウスの定理(二次元)
第10回	ガウスの定理(三次元)
第11回	ストークスの定理
第12回	ポテンシャル
第13回	電磁気学への応用
第14回	まとめ

オフィスアワー	火曜3限
授業形態	講義と演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	
授業に持参するもの	教科書とノート，筆記用具
教科書	
参考書	
学生へのメッセージ	教科書・参考書の演習問題をなるべく沢山解きましょう.
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ベクトル解析入門』	小林亮・高橋大輔	東京大学出版会		9784130629119	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『基礎と応用　ベクトル解析』	清水勇二	サイエンス社		4781911331	

シラバス参照

授業科目名	フーリエ解析学
科目英名	Fourier Analysis and its Application
開講年度	2019
開講学科	2018年度 医用工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	畑上　到
単位数	2

科目概要	フーリエ解析はフーリエが熱伝導の研究に導入して以来、数学のみならず物理や工学の諸分野に幅広く応用されている。この講義ではフーリエの理論の基礎的事項を解説する。フーリエ級数では周期関数を三角関数の無限和で表示することによって、また、フーリエ変換では非周期的な関数を三角関数の連続的な和（積分）で表示することによって関数の性質を調べる。さらにフーリエ変換に関連するものとして、ラプラス変換について解説する。微分方程式への応用についても述べる。
達成目標	諸定理の意味を理解し、計算方法を身につける。
成績評価	演習１０％＋期末試験９０％
予習復習時間	配布プリントやプリントの演習問題を用いた復習をあわせて1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	微分積分学（1）（2）
授業計画	

第1回	ガイダンス・三角関数の直交性（三角関数の積分計算の復習）
第2回	フーリエ級数の定義
第3回	フーリエ係数の求め方
第4回	フーリエ正弦級数・余弦級数，一般的な周期をもつフーリエ級数
第5回	一般的な基本区間でのフーリエ級数，複素フーリエ級数
第6回	フーリエ変換の性質
第7回	フーリエ積分，フーリエ変換
第8回	フーリエ正弦変換と余弦変換
第9回	フーリエ変換の性質
第10回	ラプラス変換の定義と具体的な関数のラプラス変換
第11回	ラプラス変換の性質
第12回	ラプラス逆変換
第13回	常微分方程式への応用
第14回	演習とまとめ

オフィスアワー	毎週金曜日12：30ー13：20
授業形態	講義と演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	講義を中心に行うが，必要に応じて演習を行う。
関連科目	微分方程式、関数論
授業に持参するもの	教科書
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『初回講義時に指示する。』					

参考書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『初回講義の時に提示する。』					

学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	アンケートで「ときどき字が小さくて読みづらいことがあった」とのコメントがありました。なるべく字は読みやすく書く努力をしますが、なるべく前の方に着席願います。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	関数論
科目英名	Function Theory of One Complex Variable
開講年度	2019
開講学科	2018年度 機械システム工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	野原　勉
単位数	2

科目概要	工学を学ぶ上で必要となる数学の基礎知識を習得させ、 1変数解析関数理論について学習する。とくに、工学部で必要となる関数論がいかに応用されるかについて学ぶ。
達成目標	関数論と流体力学や熱力学との関係について理解する。 コーシー・リーマンの関係が、非圧縮渦なし流体でのポテンシャルと流線との関係に等価であることを理解し、関数論がどのように工学に応用されるかを学ぶ。また、関数論として基礎的なコーシーの積分定理と留数定理を理解する。
成績評価	講義での演習(20%) 中間試験(30%) 期末試験(50%)
予習復習時間	教科書を読む予習と教科書の演習問題を用いた復習 を合わせて1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	微積分学(1)(2)
授業計画	

第1回	複素数と複素平面
第2回	三角不等式、極形式における積と商、ド・モアブルの定理
第3回	導関数、解析関数
第4回	コーシーリーマンの方程式、ラプラス方程式
第5回	ベクトル解析（grad,div,rotなどの計算）
第6回	グリーンの定理、周回積分、面積分
第7回	非圧縮渦なし流体の理論
第8回	ポテンシャル関数と流線関数
第9回	コーシーの積分定理
第10回	コーシーの積分公式
第11回	テーラー展開
第12回	ローラン展開
第13回	留数定理
第14回	まとめ

オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。
授業形態	講義と演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	
授業に持参するもの	野原、古田:「機械系のための関数論入門」コロナ社、2019.

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『機械系のための関数論入門』	野原勉、古田公司	コロナ社	2019		

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『応用微分方程式講義』	野原勉	東大出版会	2013	9784130629171	
2.	『理系のための数学リテラシー』	野原勉	日新出版	2015	9784817302526	

学生へのメッセージ	関数論は偏狭な数学理論ではなく、応用上極めて大切な道具です。流体工学や電気工学で表れるラプラス方程式の物理的成り立ちと関数論との関係について分かり易く解説します。数学きらいな学生諸君には、できるだけ物理的な側面から説明するよう努めています。
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	代数学(1)
科目英名	Algebra (1)
開講年度	2019
開講学科	2015年度 自然科学科
分野系列	■教職科目・卒業単位加算■
学年	2年生
学期	前期
担当者	古田　公司
単位数	2

科目概要	数学の授業を行うにあたって，教師の数学に関する素養は欠かせない． 本科目では，代数学における基礎的事項を解説する． 具体的には，合同式・互除法・素数・有限体・原始根などの整数に関する基礎的事項について述べる． 高校までの数学において整数・素数・互除法などを学ぶが、それが可換環や有限体の理論と深く関連していることを理解することは教師の素養としては重要である。 小学校以来あたりまえに使ってきた計算法則が成立するかどうか、成立するとしても通常のものとは異なることを理解していく過程で、どのようなところにつまづくのかを再体験することができるであろうし、体の拡大についても触れるので、実数から複素数への拡大を理解する上で感じたかも知れない困難を再体験することにもなろう。学習指導要領と中学・高等学校の教科書についても触れ，現代数学と数学教育の関わりについても考える．
達成目標	合同式や不定方程式・互除法・素数・有限体などの概念を理解し、原始根などの概念によって有限体の拡大について理解することを目標とする。
成績評価	期末試験100％
予習復習時間	配布資料を読む予習と配布資料の演習問題を用いた復習を行うこと。学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	微分積分学（1）（2）線形代数学（1）（2）を履修していることが望ましい
授業計画	

第1回	本講義の内容と中等教育における代数の関連性
第2回	最大公約数と互除法
第3回	有限環Zn
第4回	1次不定方程式
第5回	1次合同式
第6回	素数
第7回	フェルマーの定理
第8回	多項式
第9回	方程式
第10回	原始根
第11回	指数
第12回	2項方程式
第13回	有限体Fq
第14回	まとめ（本講義の内容を中等教育での教育に如何に活用するか）

オフィスアワー	火曜日15時30分ー16時30分
授業形態	講義形式
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義の後、演習を行う
関連科目	
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『資料を配布する』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『中学校学習指導要領解説　数学編』		教育出版		9784316300139	
2.	『高等学校学習指導要領解説　数学編、理数編』		実教出版		9784407319255	

学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	代数学(2)
科目英名	Algebra (2)
開講年度	2019
開講学科	2018年度 機械工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	後期
担当者	井上　浩一
単位数	2

科目概要	数学の授業を行うにあたって，教師の数学に関する素養は欠かせない． 本科目では，代数学における基礎的事項を解説する． 代数学とは、そもそも、数に関する計算法および条件を満たす値を求める理論を意味するが、この、数や計算という概念の基礎となっているのが集合論であり、その上で定義される演算を持つ集合としての群論である。 この科目では、集合・写像・同値類などの集合論の基礎および群・置換群・剰余群・準同型定理などの群論の基礎を学ぶことで、小学校以来あたりまえに使ってきた数とは何か、演算とは何かを再確認することができるであろう。 また、理論展開する上で証明を多用するので、数学における証明の意味およびその重要性についても再確認することになるであろう。 学習指導要領と中学・高等学校の教科書についても触れ，現代数学と数学教育の関わりについても考える．
達成目標	同値関係や群の定義を理解し、集合論や群論に関する様々な事項が証明できるようになることを目標とする。
成績評価	中間試験およびその再提出レポート50% 期末試験50%に自主レポートを加味する。
予習復習時間	教科書を読む予習と教科書の演習問題を用いた復習 を合わせて1時限分の授業に対して4時間超の自学 自習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	微分積分学（1）（2）線形代数学（1）（2）を既修のこと。
授業計画	

第1回	本講義の内容と中等教育における代数の関連性
第2回	同値関係と類別
第3回	演算
第4回	群の定義
第5回	置換群
第6回	巡回群
第7回	加法群
第8回	部分群
第9回	正規部分群
第10回	部分群を法とする同値関係
第11回	剰余群
第12回	同型と準同型
第13回	準同型定理
第14回	まとめ（本講義の内容を中等教育での教育に如何に活用するか）

オフィスアワー	木曜4限としますが、随時質問に来てください。 すうがく質問箱：https://www.ns.tcu.ac.jp/NS/QandA_BBS/

授業形態	講義形式
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義および演習を行う
関連科目	
授業に持参するもの	教科書

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『すぐわかる代数』	石村園子	東京図書		4489005873	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『中学校学習指導要領解説　数学編』		教育出版		9784316300139	
2.	『高等学校学習指導要領解説　数学編、理数編』		実教出版		9784407319255	

学生へのメッセージ	ほとんどの人にとって全く知らない数学の世界でしょうから、毎日の予復習を心がけて下さい。
その他・自由記述欄	理解できないとき、読みにくいときは質問をどしどししてください。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。

参考URL

1.	すうがく質問箱	数学の質問はここに

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	代数学(3)
科目英名	Algebra (3)
開講年度	2019
開講学科	2018年度 機械工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	後期
担当者	畑上　到
単位数	2

科目概要	数学の授業を行うにあたって，教師の数学に関する素養は欠かせない． 本科目では，代数学における基礎的事項を解説する． 具体的には，単因子と行列のジョルダン標準形について述べる． 高校までの数学において，代数学の基本概念である整数あるいは多項式（整式）の整除について学ぶが,単因子の理論はこれらを包括する代数学の基礎的な理論である． 一方，行列のジョルダン標準形は線形代数学において一つの頂点をなす重要な事項である． この講義では最初に多項式や行列の基本事項から出発して単因子論を解説し，次に単因子を利用して行列のジョルダン標準形を求める方法を考えていく． さらにジョルダン標準形の応用として，行列を用いた線形常微分方程式の解法について解説し,解析学とのつながりを見ていく． 学習指導要領と中学・高等学校の教科書についても触れ，現代数学と数学教育の関わりについても考える．
達成目標	多項式の扱いに慣れること．行列や行列式の計算に習熟すること．行列のジョルダン標準形の求め方を修得すること．
成績評価	演習１０％＋期末試験９０％
予習復習時間	配布資料を読む予習と配布資料の演習問題を用いた復習をあわせて1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	線形代数学（1）（2）
授業計画	

第1回	本講義の内容と中等教育における代数の関連性
第2回	多項式と除法定理
第3回	公約数とユークリッドの互除法
第4回	多項式行列
第5回	最小多項式
第6回	多項式行列の標準形，基本変形
第7回	特性行列，単因子
第8回	行列式因子
第9回	可逆行列，対等な行列，相似な行列
第10回	ジョルダン行列
第11回	ジョルダン標準形
第12回	固有多項式と固有値，固有ベクトルとジョルダンの標準形
第13回	定数係数線形常微分方程式への応用
第14回	演習とまとめ（本講義の内容を中等教育での教育に如何に活用するか）

オフィスアワー	毎週金曜日12:30ー13:20

授業形態	講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義を中心に行うが，必要に応じて演習を行う。
関連科目	代数学（1）（2）
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『初回講義時に説明する。』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『初回講義の時に説明する。』					
2.	『中学校学習指導要領解説　数学編』		教育出版		9784316300139	
3.	『高等学校学習指導要領解説　数学編、理数編』		実教出版		9784407319255	

学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	特になし 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	物理学(1)
科目英名	Physics (1)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・選択必修1■
学年	1年生
学期	前期前半
担当者	馬場　一晴
単位数	2

科目概要	力学の基本概念を正確に理解し，自然科学や諸工学の基盤となる運動方程式や諸保存則を正しく運用する能力を習得する。
達成目標	1) 速度，加速度，運動量，力などの基本的概念を正確に理解する。 2) 質点及び剛体に対して運動方程式を正しく立てることができ，それから運動を論じることができる。 3) エネルギーなどの保存則を正しく用いて，質点や剛体の運動を論じることができる。
成績評価	中間試験など（30%）＋期末試験（70%）
予習復習時間	授業前に教科書を読んでおくことと授業後に関連する例題に取り組むことを合わせて、1回(100分)の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	高校で学ぶベクトルと微分積分の知識があることが望ましい。
授業計画	

第1回	変位，速度，加速度
第2回	力と慣性 放物運動
第3回	単振動 単振り子
第4回	仕事と運動エネルギー 束縛運動
第5回	保存力とポテンシャル 位置のエネルギー
第6回	平面運動の極座標表示 万有引力と惑星の運動
第7回	ガリレイ変換と回転座標系
第8回	二体問題 重心とその運動
第9回	運動量と角運動量 運動量保存則と衝突
第10回	重心運動と相対運動 質点系の角運動量
第11回	剛体とそのつり合い
第12回	固定軸の周りの剛体の運動
第13回	慣性モーメントの計算
第14回	剛体の平面運動

オフィスアワー	オフィスアワーは物理部門ホームページ上で公開している。 以下のホームページを参照すること https://www.ns.tcu.ac.jp/NS/PH/
授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	重要な力学の概念を説明しながら，教科書の中の問題を取り上げて丁寧に詳しく解説します。
関連科目	物理学(1)演習，物理学実験，物理学(2)，電磁気学，相対論入門
授業に持参するもの	関数電卓

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『物理学(三訂版)』	小出昭一郎	裳華房	1997年	9784785320744	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『基礎演習シリーズ物理学』	小出昭一郎　編著	裳華房	1988年	9784785381097	

学生へのメッセージ	講義中のわからないことや理解できない点があれば，積極的に質問すること。授業で学習した内容は，必ず復習してから次回の授業に参加する姿勢が重要です。 授業評価アンケートで教科書がわかりにくいという意見があったので、より丁寧な解説を心掛けます。
その他・自由記述欄	分からないところの質問に関しては、授業後やオフィイスアワーの時に気軽に聞いて下さい。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	物理学(2)
科目英名	Physics (2)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 自然科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択必修■
学年	1年生
学期	後期前半
担当者	飯島　正徳
単位数	2

科目概要	振動・波動・熱をテーマとして，様々な自然現象の普遍的な原理を理解し数学的に抽象化するという物理学の思考法を習得する。
達成目標	1)物理学の公式がどのような原理から導かれたものか理解する。 2)現実の現象に物理学の公式を応用し，物理量の大きさを把握できる。 3)現実の物理現象の解釈や，物理量の測定方法を物理学の原理から考案できる。
成績評価	授業中の小テスト，演習課題およびレポート（30%）＋中間試験（35%）＋期末試験（35%）
予習復習時間	授業前に教科書を読んでおくことと授業後に関連する例題に取り組むことを合わせて、1回(100分)の授業に対して4時間超の自学自習が必要です。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	＜キーワード＞振動・波動、熱 ＜前提とする知識＞ ・物理学(1)の知識が要求される。 ・演習課題を中心にその日に学習した内容は必ず復習すること。 ・身の回りの現象や器具の仕組みを考えるくせをつけること。
授業計画	

第1回	単振動とその合成
第2回	減衰振動
第3回	強制振動と共鳴
第4回	連成振動
第5回	弦の振動，棒を伝わる縦波
第6回	波動方程式とその解
第7回	光の波，幾何光学
第8回	光の回折・干渉と偏光
第9回	温度と熱、状態方程式
第10回	熱力学第1法則
第11回	熱容量と比熱
第12回	理想気体の断熱変化
第13回	カルノーサイクル，熱力学第2法則
第14回	エントロピー，不可逆変化、気体分子運動論

オフィスアワー	オフィスアワーは物理部門ホームページ上で公開している。 以下のホームページを参照すること https://www.ns.tcu.ac.jp/NS/PH/

授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	教科書をベースに説明し，必要に応じてその場での演習を行う。演習の問題は担当者が作成した問題の場合も，参考書に上げられている演習書の問題の場合もある。各自，常に電卓とともに持参すること。さらに，教科書は内容が豊富で，授業中には時間的制約で触れられない箇所もある。その時は、指示するので必ず読んでおくこと。
関連科目	物理学（1），物理学（1）演習，物理学実験，化学（2）及び 熱、光、振動・波動、通信、信号処理、制御関連の専門科目
授業に持参するもの	関数電卓

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『物理学（三訂版）』	小出昭一郎	裳華房	1997/11	9784785320744	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『物理学(基礎演習シリーズ)』	小出昭一郎　編著	裳華房	1988/04	4785381094	
2.	『振動・波動(裳華房テキストシリーズ−物理学)』	小形正男	裳華房	1999/11	9784785320881	
3.	『熱力学 (裳華房テキストシリーズ−物理学)』	小野 嘉之	裳華房	1998/10	9784785320829	

学生へのメッセージ	講義中のわからないことや理解できない点があれば，積極的に質問すること。授業で学習した内容は，必ず復習してから次回の授業に参加する姿勢が重要です。 授業評価アンケートで教科書がわかりにくいという意見があったので、より丁寧な解説を心掛けます。
その他・自由記述欄	分からないところの質問に関しては、授業後やオフィイスアワーの時に気軽に聞いて下さい。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	化学(1)
科目英名	Chemistry (1)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択必修1■
学年	1年生
学期	前期後半
担当者	吉田　真史
単位数	2

科目概要	理系大学生の最低限の素養として、物質の構造や性質に関する基礎知識を初歩から解説する。講義では、身近な物質の構造や性質について、量子力学の考え方なども取り入れて解説する。
達成目標	物質の構造や性質について、原子や分子の視点から考えられるようになること。
成績評価	期末試験100%により評価する。
予習復習時間	1回（1時限）の授業あたり合計4時間：事前に指示する参考資料をもとに予習を2時間おこなうこと。その回の授業終了時に指示する課題により復習を2時間行うこと。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	高校の「化学基礎」と同程度の予備知識のあることが望ましい。
授業計画	

第1回	序論
第2回	原子の構造
第3回	波動性と粒子性
第4回	原子軌道
第5回	周期律
第6回	共有結合
第7回	分子の極性
第8回	有機化合物（分子の形）
第9回	有機化合物（分子間力）
第10回	無機化合物（金属結合）
第11回	無機化合物（イオン結合）
第12回	物質の三態
第13回	理想気体
第14回	実在気体

オフィスアワー	月曜　昼休み
授業形態	講義および演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	化学実験、化学（2）
授業に持参するもの	
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『物理化学の基礎』	柴田　茂雄	共立出版	1999	9784320043510	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』	数研出版	数研出版	2017	9784410273834	

学生へのメッセージ	化学（1）、化学（2）では、高校で学んだ化学の内容をさらに掘り下げて理解することを目標に、量子力学、熱力学・統計力学を扱います。授業では、高校化学を履修していない学生でも理解できるレベルから解説します。
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	化学(2)
科目英名	Chemistry (2)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 機械工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	1年生
学期	後期後半
担当者	吉田　真史
単位数	2

科目概要	理系大学生の最低限の素養として、物質の変化に関する基礎知識を初歩から解説する。講義では、熱力学や統計力学の考え方について説明する。
達成目標	自然現象や科学技術について、物質が変化するという視点で考えられるようになること。
成績評価	期末試験100%により評価する。
予習復習時間	1回（1時限）の授業あたり合計4時間：事前に指示する参考資料をもとに予習を2時間おこなうこと。その回の授業終了時に指示する課題により復習を2時間行うこと。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	高校の「化学基礎」と同程度の予備知識のあることが望ましい。
授業計画	

第1回	序論
第2回	熱力学第一法則
第3回	熱化学方程式
第4回	エントロピー
第5回	熱力学第二法則
第6回	自由エネルギー
第7回	相平衡
第8回	化学平衡
第9回	反応速度論
第10回	希薄溶液の性質
第11回	電解質水溶液
第12回	酸と塩基
第13回	酸化と還元
第14回	電気分解

オフィスアワー	月曜　昼休み
授業形態	講義および演習

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	化学実験、化学（1）
授業に持参するもの	
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『物理化学の基礎』	柴田　茂雄	共立出版	1999	9784320043510	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』	数研出版	数研出版	2017	9784410273834	

学生へのメッセージ	化学（1）、化学（2）では、高校で学んだ化学の内容をさらに掘り下げて理解することを目標に、量子力学、熱力学・統計力学を扱います。授業では、高校化学を履修していない学生でも理解できるレベルから解説します。
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士で議論するなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	生物学(1)
科目英名	Biology (1)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択必修1■
学年	1年生
学期	前期前半
担当者	宮崎　正峰
単位数	2

科目概要	科学技術者に求められる素養として、科学技術が生物界に与える影響をミクロな視点から検討する能力をやしなう。講義では、生命の誕生から現在に至るまでの進化や生命の維持機能(同化や異化)、生命の連続性等の事柄について解説する。また、生態系や生物の相互作用など環境と生物とのかかわりについても考えさせ、生物学に対する見識と判断力の醸成へ導く。
達成目標	(1)生物の進化を理解する。 (2)細胞という単位から生物の体のはたらきを理解する。 (3)遺伝子やDNAについての基本的事項を理解する。 (4)生物間の相互作用、生態系について考える。 以上から、生物学を一通り身に着け、生物学に対する見識と判断力をやしなう。
成績評価	期末試験60%　課題40%
予習復習時間	レポートの作成や講義ノートの復習など、講義1コマに対して予習復習に4時間を要する。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特に指定しない。高校で生物学を履修していなくても問題なく受講できます。 生物学（2）とは、学習内容が異なります。生物学（1）と合わせて生物学（2)も 履修すれば、生物学に関する理解をさらに深めることができます。
授業計画	

第1回	はじめに:　生命とは？　生命の最小単位細胞
第2回	生命の誕生と進化（1）ー 化学進化と生命の誕生、原核生物から真核生物へ
第3回	生命の誕生と進化（2）ー 多細胞化及び多核化
第4回	生命の誕生と進化（3）ー　乾燥への適応
第5回	細胞の構造とエネルギー代謝（1）ー 発酵［異化］
第6回	細胞の構造とエネルギー代謝（2）ー 呼吸［異化］
第7回	細胞の構造とエネルギー代謝(3)ー 光合成［同化］
第8回	遺伝（1）ー 遺伝子の本体を探る(DNAとRNA)
第9回	遺伝（2）ー 遺伝情報の発現（転写）
第10回	遺伝（3）ー 遺伝情報の発現（翻訳）［タンパク質合成］
第11回	生態学（1）ー 個体群と生物群集
第12回	生態学（2）ー 生物の相互作用
第13回	生態学（3）ー生産者、消費者、分解者
第14回	まとめ

オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	毎回の講義において、板書、写真、映像等を用いて解説する。課題は授業中に課す。
関連科目	生物学（2）、進化論、植物学、微生物学
授業に持参するもの	指定された教科書、配布されたプリント、筆記用具

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『やさしい基礎生物学』	南雲保	羊土社	2014	978-4758120517	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『コア講義生物学』	田村隆明	裳華房	2008	9784785352189	

学生へのメッセージ	高校で生物を履修していないことを前提として、基礎から解説していきます。この授業を受けることで自分という生物が生きて行くなかで必要な知識が身につけられるはずです。
その他・自由記述欄	現在、我々の日々の生活は生命科学に基づく技術に深く依存するようになっています。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	2019/04/12 11:18

シラバス参照

授業科目名	生物学(2)
科目英名	Biology (2)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択必修1■
学年	1年生
学期	後期後半
担当者	宮崎　正峰
単位数	2

科目概要	科学技術者に求められる素養として、科学技術が生物界に与える影響をマクロな視点から検討する能力をやしなわせる。講義では、生物学の基礎知識（細胞分裂、遺伝、恒常性等）から動・植物の生存戦略、生物に関する諸問題等を解説し、生物学に対する見識と判断力のさらなる醸成へ導く。
達成目標	（1）生物の発生や遺伝について理解する。 （2）植物の生活について詳しく見ていく。 （3）動物行動の不思議さ、おもしろさを知る。 （4）生物多様性の維持の重要性を考える。 生物学に対する見識と判断力をより発展的にやしなう。
成績評価	期末試験60%　課題40%
予習復習時間	レポートの作成や講義ノートの復習など、講義1コマに対して予習復習に4時間を要する。当該授業の復習項目と次回講義の予習項目に関しては、各授業時の最後に明示する。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	生物学（1）とは取り扱う分野が異なるため、生物学（1）を受講していなくても受講可能でですが、併せて受講することが望ましい。併せて履修することで、生物学全般の内容をより発展的に身につけることができます。高校で生物学を履修していなくても問題なく受講可能です。
授業計画	

第1回	はじめに：　細胞とは
第2回	生殖・発生・遺伝（1）－細胞分裂
第3回	生殖・発生・遺伝（2）－生殖（無性生殖と有性生殖）と発生
第4回	生殖・発生・遺伝（3）－遺伝の法則
第5回	恒常性 － ホルモンのはたらきと分泌調節
第6回	生物体の機能　－ 刺激の受容と反応
第7回	植物の生存戦略（1）－ 屈性、傾性、走性
第8回	植物の生存戦略（2）－ 反応と調節　I. 光周性、内生リズム等　（主に種子発芽と開花の観点から）
第9回	植物の生存戦略（3）－ 反応と調節　II. 成長調節物質（植物ホルモン）等
第10回	動物の生存戦略（1）－ 動物の行動と生態
第11回	動物の生存戦略（2）－ 生物間のコミュニケーション（フェロモンを含む）行動に伴う利益とコスト、性選択
第12回	生物の多様性と環境適応（共進化、擬態、保護色、警戒色など）の生存戦略
第13回	生物学から見た環境問題
第14回	まとめ

オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける

授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	毎回の講義において、指定された教科書、配布資料、板書、映像教材等を用いて解説する。
関連科目	生物学（1）、植物学、進化論、微生物学
授業に持参するもの	指定された教科書、配布資料、筆記用具

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『やさしい基礎生物学』	南雲保	羊土社	2014	978-4758120517	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『コア講義生物学』	田村隆明	裳華房	2008	9784785352189	

学生へのメッセージ	高校で生物を履修していないことを前提として、基礎から解説していきます。生物学 (1) を履修しておくことが望ましく、生物学の学習をより発展的に進めることが可能になります。課題に関しては、授業中に印刷媒体で配布して連絡します。
その他・自由記述欄	現在の我々の生活は、生物学の発展に支えらえている部分が多々存在します。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	地学(1)
科目英名	Earth and Planetary Sciences (1)
開講年度	2019
開講学科	2018年度 医用工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	清家　一馬
単位数	2

科目概要	われわれをとりまく地球や宇宙のなりたちを理解し、人間生活に関わる自然環境のしくみについて、基礎的なことがらを学ぶ。また、自然災害や、産業活動の基盤となる資源の利用に関わるさまざまな問題について、判断する能力を身につける。
達成目標	地球科学の基礎として、地球史と、現在の地球システムの理解を目指す。
成績評価	毎回の課題＋レポートで約50%、期末試験を約50%とする。授業中の質問についても成績評価の対象とする。
予習復習時間	レポートの作成や講義ノートの復習など、講義1回に対し、予習復習で4時間を標準とする。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし。
授業計画	

第1回	われわれはどこからきたのか…宇宙の構造、太陽系の起源
第2回	地球の年齢を測る…地球の層構造、地球型惑星の形成
第3回	酸素のない地球…大気に酸素がたまるまでの長い歴史
第4回	陸上生物の出現…せきつい動物の進化と上陸
第5回	石炭と石油のできかた…森林の形成とプランクトンの役割
第6回	恐竜の世界…生物の進化と絶滅
第7回	氷期の気候変動…21世紀は温暖化？寒冷化？
第8回	火山と地震の国・日本…自然がもたらす災害と恵み
第9回	地球の層構造…地下深くのようすをさぐる
第10回	気象のしくみ…大気と海洋が運ぶ熱
第11回	変化する地表…河川、海岸の科学
第12回	石と砂が語るもの…石材、砂の履歴
第13回	地殻は宝の山…濃集のしくみ、資源の利用とその影響
第14回	都市化がもたらすもの…都市型災害

オフィスアワー	授業終了後に教室にて質問を受け付ける。授業日は14時ごろまで非常勤講師控室に在室予定である。
授業形態	講義形式とする。
コース区分	

授業の具体的な進め方	前半は現在の地球の姿ができあがるまでの、地球の歴史を取り扱う。後半では、自然災害の多い日本の特質を理解するために、現在の地球システムをさまざまなスケールで見ていく。地震・火山などの自然災害の多い日本の特質を理解し、地学の知識を将来活用して欲しい。 講義はVTRと画像を使いながら進行する。講義内容の要旨や参考資料はwebにアップする。毎回、課題を配布し、質問に対しては、学期内にできるだけ回答する。
関連科目	環境概論、生物学(1)、地学(2)、地学実験
授業に持参するもの	筆記用具
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『地球惑星システム科学入門』	鹿園　直建	東大出版会	2009	4130627147	

参考書	
学生へのメッセージ	主体的な学びを期待する。
その他・自由記述欄	参考書は各回毎に紹介する。
参考URL	

1.	東京都市大学・地学2019	授業用webサイト（萩谷）

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	地学(1)
科目英名	Earth and Planetary Sciences (1)
開講年度	2019
開講学科	2018年度 医用工学科
分野系列	■工学基礎・選択■
学年	2年生
学期	前期前半
担当者	小田島　庸浩
単位数	2

科目概要	われわれをとりまく地球や宇宙のなりたちを理解し、人間生活に関わる自然環境のしくみについて、基礎的なことがらを学ぶ。また、自然災害や、産業活動の基盤となる資源の利用に関わるさまざまな問題について、判断する能力を身につける。
達成目標	地球科学の基礎として、地球史と、現在の地球システムの理解を目指す。
成績評価	毎回の課題＋レポートで約50%、期末試験を約50%とする。授業中の質問についても成績評価の対象とする。
予習復習時間	レポートの作成や講義ノートの復習など、講義1コマに対して予習復習に4時間を要する。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし。
授業計画	

第1回	われわれはどこからきたのか…宇宙の構造、太陽系の起源
第2回	地球の年齢を測る…地球の層構造、地球型惑星の形成
第3回	酸素のない地球…大気に酸素がたまるまでの長い歴史
第4回	陸上生物の出現…せきつい動物の進化と上陸
第5回	石炭と石油のできかた…森林の形成とプランクトンの役割
第6回	恐竜の世界…生物の進化と絶滅
第7回	氷期の気候変動…21世紀は温暖化？寒冷化？
第8回	火山と地震の国・日本…自然がもたらす災害と恵み
第9回	地球の層構造…地下深くのようすをさぐる
第10回	気象のしくみ…大気と海洋が運ぶ熱
第11回	変化する地表…河川、海岸の科学
第12回	石と砂が語るもの…石材、砂の履歴
第13回	地殻は宝の山…濃集のしくみ、資源の利用とその影響
第14回	都市化がもたらすもの…都市型災害

オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。(課題の解説や本質を突いた質問への回答は、授業の冒頭で行い学生へフィードバックする。)
授業形態	講義形式とする。
コース区分	

授業の具体的な進め方	前半は現在の地球の姿ができあがるまでの、地球の歴史を取り扱う。後半では、自然災害の多い日本の特質を理解するために、現在の地球システムをさまざまなスケールで見ていく。地震・火山などの自然災害の多い日本の特質を理解し、地学の知識を将来活用して欲しい。 講義はVTRと画像を使いながら進行する。講義内容の要旨や参考資料はwebにアップする。毎回、課題を配布し、質問に対しては、学期内にできるだけ回答する。
関連科目	環境概論、生物学(1)、地学(2)、地学実験
授業に持参するもの	筆記用具
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『地球惑星システム科学入門』	鹿園　直建	東大出版	2009	9784130627146	

参考書	
学生へのメッセージ	主体的な学びを期待する。
その他・自由記述欄	参考書は各回毎に紹介する。
参考URL	

1.	東京都市大学・地学2016	授業用webサイト（萩谷）

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	地学(2)
科目英名	Earth and Planetary Sciences (2)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	1年生
学期	後期後半
担当者	小田島　庸浩
単位数	2

科目概要	多様な自然環境についての学習を深め、人間生活に関わる自然環境のしくみについて、より深く理解する。また、自然と人間との関わりで生じるさまざまな問題について学び、合理的に対応する能力を身につける。
達成目標	宇宙・地球から地殻・岩石・鉱物といった様々なスケールの世界に生起する現象を学び、現代の社会問題にも関わる基本的な地球のしくみを理解する。
成績評価	毎回の課題を約50%、期末のレポートを約50%とする。課題の不足分は小レポートで10%まで補うことができる。期末試験は行わない。
予習復習時間	レポートの作成や講義ノートの復習など、講義1コマに対して予習復習に4時間を要する。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	地学(1)を履修済みであることが望ましい。未受講の場合は、webに掲載した資料で地学(1)の内容を把握しておくこと。
授業計画	

第1回	I. さまざまなスケールの地学現象 お日さまの科学　…太陽という恒星
第2回	宇宙の大構造　…銀河とブラックホール
第3回	太陽系の初期史　…隕石の情報と月面探査
第4回	生きている地球　…活動的な惑星の姿、地震・火山
第5回	大陸と変動帯　…山脈形成とその後の変化
第6回	石灰岩と炭素循環　…生物がつくる地球環境
第7回	宝石はなぜ美しい　…鉱物の科学
第8回	II. 地球の物質循環システムと生態系保全の意味 海のめぐみ　…地球環境と安定化と海洋生態系のしくみ
第9回	砂漠と森林　…陸上のさまざまな環境と生態系
第10回	島・小さな地球　…島の一生と独自の生物相のなりたち
第11回	後氷期の人類　…文明の成立と自然システム
第12回	大地の恵み　…資源の利用と環境破壊　日本の鉱業史。
第13回	第四紀の地質　…海面変動と地形、関東ロームの起源。
第14回	大地の変動　…プレート境界と関東平野のなりたち、都市化と自然環境

オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。(課題の解説や本質を突いた質問への回答は、授業の冒頭で行い学生へフィードバックする。)
授業形態	講義形式とする。

コース区分	
授業の具体的な進め方	期末レポートのテーマは、上記の講義内容と合わせる必要はない。調べ方、まとめ方についての簡単な指導を行う。映像及び画像の使用、各回の出席カード課題、質問に対する回答の方法など、講義の進め方については地学(1)と同様である。
関連科目	地学(1)、地学実験、環境と社会
授業に持参するもの	筆記用具
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『地球惑星システム科学入門』	鹿園　直建	東大出版	2009	4784130627147	

参考書	
学生へのメッセージ	レポートのテーマは自由。講義で扱った内容をヒントに、自分なりの問題意識を持って主体的に学習を進め、レポートをまとめて欲しい。
その他・自由記述欄	参考書は各回毎に紹介する。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	

1.	地学(1)(2)	授業用webサイト

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	コンピュータ概論
科目英名	Introduction to Computer Systems
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	1年生
学期	後期後半
担当者	田村　慶信
単位数	2

科目概要	コンピュータの動作原理の基礎について講義する．また，課題に取り組みながら，自分で学んでもらう．なお，この科目は，カリキュラムポリシー2，ディプロマポリシー2に該当する．
達成目標	コンピュータの動作や利用についての基礎的知識を習得する．
成績評価	筆記試験100%
予習復習時間	授業1回について予習2時間，復習2時間．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	高等学校における「情報」に関する学習内容
授業計画	

第1回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：コンピュータとは何か，動作原理，プログラム内蔵式コンピュータ 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第2回	予習：第2回資料を予習しておく(2時間) 内容：コンピュータの歴史，コンピュータ及び情報機器の操作 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第3回	予習：第3回資料を予習しておく(2時間) 内容：デジタルデータの表現，情報量，情報圧縮 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第4回	予習：第4回資料を予習しておく(2時間) 内容：情報通信，インターネット 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第5回	予習：第5回資料を予習しておく(2時間) 内容：プログラム作成，2次曲線の描画，高級言語 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第6回	予習：第6回資料を予習しておく(2時間) 内容：新しいプログラム言語，アルゴリズム 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第7回	予習：第7回資料を予習しておく(2時間) 内容：論理代数，組み合わせ回路 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第8回	予習：第8回資料を予習しておく(2時間) 内容：順序回路 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第9回	予習：第9回資料を予習しておく(2時間) 内容：コンピュータを活用した問題解決，データ分析，表計算ソフトウェア 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第10回	予習：第10回資料を予習しておく(2時間) 内容：システムとしてのコンピュータ，オペレーティングシステム 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）

第11回	予習：第11回資料を予習しておく(2時間) 内容：データベース，グラフィックス 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第12回	予習：第12回資料を予習しておく(2時間) 内容：知的情報処理，人工知能 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第13回	予習：第13回資料を予習しておく(2時間) 内容：人間社会とコンピュータ，経済とコンピュータ 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第14回	予習：第14回資料を予習しておく(2時間) 内容：コンピュータ科学の展望と今後の課題，まとめと期末試験 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義と演習を組み合わせながら進める．予習で教科書の該当する部分を読んで，分からないところは自分で調べて，ある程度内容を理解して授業に臨んで欲しい．
関連科目	情報リテラシー，プログラミング，アルゴリズム設計，この科目は，カリキュラムポリシー2，ディプロマポリシー2に該当する．
授業に持参するもの	教科書，ノート，筆記用具，ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『理工系のコンピュータ基礎学』	稲垣耕作	コロナ社	2006	9784339024135	

参考書	
学生へのメッセージ	事前に予習をしっかりしておいてください．分からない点は自分でWebや他の書籍などで調べておいてください．授業は予習内容の理解を前提に，課題を出します．各課題等に対しては，レポート等提出後に口頭によりフィードバックします．
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	数値解析 / 再・数値解析
科目英名	Numerical Analysis
開講年度	2019
開講学科	2019年度 自然科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	1年生
学期	後期
担当者	呂　建明
単位数	2

科目概要	コンピュータを利用して、数学・自然科学の諸問題を解くための基本的なアルゴリズムを学習する。各種アルゴリズムの特徴や種々の問題に適用する上での留意点などを演習を通して習得する。また、演習では、プログラム作成のフローチャートを通して誤差の伝播やプログラミング技法の実際を知るとともに、アルゴリズムの分析や評価などに対するコンピュータ活用技術の向上を図る。
達成目標	主に以下の1)～5)を実践的に習得することを目標とする。 1) 誤差解析の基礎 2) 非線形方程式の解法 3) 補間法の活用法 4) 数値微分・数値積分の活用法 5) 常微分方程式の数値解法 本科目の学修により学修要覧記載の[数学と自然科学の知識と応用]を身につけることができる。
成績評価	出席・演習・レポート・期末試験を総合的に評価する （概ね出席・演習30点、レポート20点、期末試験50点）
予習復習時間	1回の授業に対して4時間の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	微分積分と線形代数の初歩的な知識、プログラム作成の初歩的な知識
授業計画	

第1回	数値計算法の基礎(逐次近似)
第2回	数値計算法の基礎(誤差の伝播)
第3回	連立1次方程式の解法と逆行列
第4回	非線形代数方程式と超越方程式の解法(基礎)
第5回	非線形代数方程式と超越方程式の解法(応用)
第6回	補間法(縦座標型)
第7回	補間法(差分型)
第8回	前半のまとめ、演習
第9回	最小2乗法による線形パラメータの推定
第10回	最小2乗法による非線形パラメータの推定
第11回	数値微分・数値積分(基礎)
第12回	数値微分・数値積分(応用)
第13回	常微分方程式の数値解法(Euler法)
第14回	常微分方程式の数値解法(Runge-Kutta法)

オフィスアワー	火曜日4時限．メール（mezon301@hotmail.co.jp）でも質問と相談を受ける
授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	授業冒頭で前回講義の復習を行う。適宜、簡単な問題演習を行うことが多い。 数回目の講義で小テストを行う。
関連科目	通信信頼性工学、トラヒック基礎理論、プログラミング技法
授業に持参するもの	教科書
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『数値解析』	E.クライツィグ	培風館	2014年	9784563011192	

参考書	
学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	情報社会と倫理
科目英名	Information-oriented Society and Ethics
開講年度	2019
開講学科	2018年度 自然科学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	2年生
学期	前期
担当者	山本　史華
単位数	2

科目概要	技術者として、あるいは教職希望者として、現代の情報化社会で最低限知っておくべき倫理を具体例を交えながら幅広く講義する。
達成目標	社会には多様な価値観が存在することを理解し、自らの価値観・利益だけでなく、社会全体の観点から物事を考えられるようになること。
成績評価	試験を行い、その内容で評価する(試験100%)。 ただし、出席者の確認のため、予告なしに数回出席をとる。
予習復習時間	学則第18条に基づく。1時限分の講義に対して4時間の自学自習が必要。 講義ノートおよび参考書を参照しながら予習・復習をし、解らないところがあれば質問すること。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし
授業計画	

第1回	講義概要、履修する上での注意点やルール、単位取得についての説明
第2回	倫理学とは何か　道徳的判断とは何か
第3回	知識と情報の違い
第4回	嘘をつくことは許されるのか
第5回	現代版トリアージの思考実験
第6回	義務論と功利主義　（フォード社ピント事件）
第7回	功利主義と格差是正
第8回	正義をめぐる考察
第9回	リベラリズム、リバタリアニズム、コミュニタリアニズム、そしてケアの倫理
第10回	サバイバル・ロッタリーの提起する問題点
第11回	自由主義社会の倫理原則
第12回	研究不正行為の事例検討（ヤン・ヘンドリック・シェーン事件）ビデオ上映と討論
第13回	研究不正行為はなぜ起こるのか　利益相反、integrity、予防原則について
第14回	試験および解説

オフィスアワー	金曜日2時限目
授業形態	板書による講義

コース区分	
授業の具体的な進め方	適宜、資料を配付する。 学生に質問を投げかけながら進めるので、積極的に参加すること。
関連科目	倫理学(1)、倫理学(2)
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『特になし』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『これからの正義の話をしよう』	マイケル・サンデル	早川書房	2010	9784152091314	
2.	『現代倫理学入門』	加藤尚武	講談社学術文庫	1997	406159267X	

学生へのメッセージ	社会における紛争、争いごとなどの背景には価値観・倫理観の違いがあります。 自分がどのような倫理観・価値観の持ち主なのかを判断できるようになってください。 と同時に、自分とは反対の価値観・倫理観を持つ人の意見にもきちんと耳を傾け、何故そのように考えるのかを理解できるようになってください。
その他・自由記述欄	授業評価アンケートの結果によれば、受講生の予復習の時間が十分でない。特に復習は十分にすること。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどして，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	情報社会と職業
科目英名	Information-oriented Society and Vocation
開講年度	2019
開講学科	2017年度 自然科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	3年生
学期	前期
担当者	橋本　明彦
単位数	2

科目概要	働くことの意味からはじめ、情報社会と言われる現在の産業や職業について概観し、そこにある現代的問題点をも考える。さらに、この科目は高等学校教科「情報」教員免許状取得のための必修科目であることから、高等学校教育における職業指導や高等学校教科「情報」の指導内容の現状と今後のあり方を考察する。
達成目標	(1)「情報社会」とはどのような社会か、情報社会における産業・職種にはどのようなものがあるか、情報化が産業・職種にどのように影響しているかを説明できる。 (2)今後も発展する情報通信技術が社会に与える影響について考察できる。 (3)高等学校における職業指導・高等学校教科「情報」の教育内容について説明でき、授業の組み立てもできる。
成績評価	授業ごとの課題(レポート、ディスカッションなど)50%、最終レポートを50%とする。
予習復習時間	各授業回テーマに沿った下調べと授業後のレポート作成合わせて、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし
授業計画	

第1回	情報社会と職業について、どのようなことを学び、どのように考えていくのか
第2回	職業観の移り変わりと情報社会での職業観
第3回	企業におけるIT化の現状と今後の方向性
第4回	業種から見た情報サービス業・情報産業の業務
第5回	職種としてのIT職種・IT技術者の位置づけと職務内容
第6回	IT関連の労働環境と労働観
第7回	情報関連の法制度と情報倫理
第8回	高等学校教科「情報」の学習指導要領にみる教育内容
第9回	高等学校教科「情報」の指導内容の実際例
第10回	アクティブラーニング型授業を考える1(記数法・音のディジタル化)
第11回	アクティブラーニング型授業を考える2(データベースとは・暗号とは)
第12回	高校での職業教育
第13回	大学での情報教育
第14回	本講義「情報社会と職業」で学んだことの確認と、今後の発展的な学習のためのポイントの整理

オフィスアワー	授業の前後に受けます。それ以外はメールにて受けます。
授業形態	

	講義とレポート、ディスカッション。
コース区分	
授業の具体的な進め方	パワーポイント・配布資料主体の講義と、講義内容・配布資料に基づくレポートやディスカッション。
関連科目	情報社会と倫理
授業に持参するもの	高等学校教科「情報」の実習体験時時間には、ノートPCが有るとなおよい。持参する授業時間については授業内で連絡する。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『特に指定しない』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015/09	4827815410	
2.	『高等学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東山書房	2009/11	4827814805	
3.	『高等学校学習指導要領解説 情報編』	文部科学省	開隆館出版販売	2010/05	4304041657	

学生へのメッセージ	授業時間内に記述のレポート内容は、次の授業の関連部分で活用します。 目玉として、次の3つを予定しています。1. 高校現場にて職業指導の実際を知る機会を設けます。2. 高等学校教科「情報」の実習の実際を体験します。3. 企業で面接を担当した方をお招きして質疑応答の機会を設けます。今年度は、ネットセキュリティ分野で活躍している専門家の方もお招きできればと考えています。
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	情報と特許
科目英名	Information Technology and Intellectual Property
開講年度	2019
開講学科	2017年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・必修■
学年	3年生
学期	後期後半
担当者	坂本　聡生
単位数	2

科目概要	技術的な発明や考案、商品のデザインやロゴ・サービスマーク、また著作物などを法的に保護する制度である知的財産制度の基礎的知識について学ぶ。特に特許制度をメインとして、情報技術系の学生に密接に関連するトピックスを交えながら平易に解説する。 [深く関連(◎)あるいは関連(○)する学習・教育到達目標] ○(A), ◎(B)
達成目標	(1)特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権及び不正競争防止法といった知的財産権の概要を理解する。 (2)特許出願の手続きの流れを理解する。 (3)特許権が成立するための要件、情報技術分野における特許の基本を理解する。 (4)特許権の権利行使、権利活用の知識を身に付ける。 (5)特許情報へのアクセス方法、特許出願の書き方の知識を身に付ける。
成績評価	通常講義において行う小レポート、及び、冬期休校期間前の講義において課す冬期レポートにより評価する。
予習復習時間	授業後には、取り扱った内容について学生同士でディスカッションするなどにより、理解を深めること。各講義に対して各自4時間程度の復習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	知的財産制度に関する前提の知識は不要。
授業計画	

第1回	序論－知的財産権とは 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第2回	特許制度(1)特許制度概要 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第3回	特許制度(2)特許出願の書き方 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第4回	特許制度(3)特許要件と審査 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第5回	特許制度(4)審判制度 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第6回	特許制度(5)権利行使・権利活用 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第7回	実用新案制度、意匠制度、商標制度 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第8回	特許情報の検索 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第9回	外国での権利取得・権利活用 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第10回	特許調査 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第11回	ソフトウェアの法的保護 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション

第12回	ビジネス方法特許 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第13回	不正競争防止法 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション
第14回	著作権制度 【授業時間外課題】授業内容について調査し、学生同士でディスカッション

オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。
授業形態	プロジェクターによる講義。
コース区分	
授業の具体的な進め方	毎回の講義時間の最後において、その日の講義のポイントであった内容を小レポートで提出（小テスト形式）。
関連科目	情報社会と倫理、情報社会と職業
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『授業時に指示する』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『知的財産法入門』	茶園成樹	有斐閣	2013年	9784641144446	
2.	『知的財産法』	角田正芳	有斐閣	2012年	9784641124622	

学生へのメッセージ	知的財産に興味のある学生の受講を歓迎する。理解しやすい内容となるように心掛けたい。小テスト等を実施した場合には、次の講義の際に解説を行う。
その他・自由記述欄	①「この授業科目は、実務経験を有した教員が担当する。」 ②特許関係の業務に従事。 ③特許出願の手続等について実務に沿った説明を行う。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	キャリアデザイン
科目英名	Career Design
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	川北　節子
単位数	1

科目概要	「100年ライフ」が現実のものになりつつある現代において、キャリアライフを充実していくことがますます重要になっていく。一つの会社に30～40年勤め上げ、定年退職後は余生を送るという人生設計はもはや過去のものになりつつある。また、「働きかた改革」が今多くの企業で取り組まれており、これまで以上に働くことの意味や働きかたを企業も働く人も考え、模索する必要性が高まっている。本講座では、キャリアの前提となる生き方（ライフデザイン）、企業を取り巻く環境変化がもたらす働き方の変化、仕事選び・会社選びに必要な知識と自己理解を講義やグループ討議を通じて学びます。テーマに合わせて社会人のゲスト・スピーカーを招待し意見交換の場も設定予定
達成目標	①キャリアの意味と意義を理解し、自己理解に基づくキャリアイメージを確立する②企業を取り巻く環境変化を理解し、キャリアの武器となる学びのテーマを見出す
成績評価	授業におけるディスカッションへの参加度（30%）、提出レポートの品質（40%）、筆記試験の結果（30%）
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	特になし
授業計画	

第1回	予習：参考書を1冊は事前に読んでおく。内容：講義（100分）：キャリアの意味と意義：歴史と現代の課題、キャリア理論
第2回	（第1回と連続）内容：グループ討議（100分）テーマ：なんのために働くのか？復習：社会人ヒアリングを行いレポートを作成し復習
第3回	予習：前回授業の指示に基づき予習する　内容：講義：シゴト探求①様々な業種とビジネスモデルの理解（100分）
第4回	（第3回と連続）内容：グループ討議（100分）：「100万円を投資する」 復習：興味のある業種（会社）に関するレポートを作成し復習
第5回	予習：前回授業の指示に基づき予習する　内容：講義：シゴト探求②様々な仕事とスキルの理解（100分）
第6回	（第5回と連続）内容：グループ討議（100分）予定テーマ：「チームで商売を始める」 復習：自分の得意分野に関するレポートを作成し復習
第7回	予習：参考図書「ライフシフト」の購読　内容：ワーク・ライフバランスと100年人生（100分）
第8回	（第7回と連続）内容：グループ討議（100分）：「ドリームマップ」または「ライフシフト」関連のテーマ　復習：10年ビジョンを作成し復習
第9回	予習：前回授業の指示に基づき予習する　内容：講義：グローバル化時代のキャリア戦略（100分）
第10回	（第9回と連続）内容：グループ討議（100分）：「外国で働く」 復習：グローバルキャリアにおける日本人の強みと弱みについてレポートを作成し復習
第11回	予習：前回授業の指示に基づき予習する　内容：①講義：適性と適職を見極める（80分）②アセスメントツールを使って簡易診断の実施（20分）
第12回	（第11回と連続）内容：グループ討議（100分）：診断結果の共有と適性と強みについて相互フィードバック　復習：自己PR分を作成し復習
第13回	予習：前回授業の指示に基づき予習する　内容：①試験：これまでの講義内容を確認するための筆記試験（100分）
第14回	（第13回と連続）内容：自己PRの発表（100分）　復習：達成度の自己評価及び授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	授業の終了後に質問、コメントなどを受け付ける
授業形態	講義、グループ討議
コース区分	
授業の具体的な進め方	授業は、前半は講師による講義、ゲストスピーカーによる体験談やレクチャーを講義時間として行い、後半はグループ形式で討議、グループワーク（ネットなどを使ったリサーチなど）を行い、学生自身が自ら考え、理解を深めていきます。
関連科目	履習後：専門キャリアデザイン
授業に持参するもの	筆記用具、ノート、ネット検索ができるツール（PC、スマホなど）

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ライフ・シフト』	リンダ・グラットン	東洋経済新報社	2016	978-4492533871	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『働くひとのためのキャリア・デザイン』	金井　壽宏	PHP新書	2002	978-4569619415	
2.	『自分らしいキャリアのつくり方』	高橋　俊介	PHP新書	2009	978-4569709017	

学生へのメッセージ	キャリアデザインは、単なる就活のために付け焼刃で行う対策学習ではなく、自分の人生そのもののデザインとほぼ同義です。一連の講義を通じて、働くことや仕事への理解を高め、同時に自己理解を深めることで、卒業後からスタートするキャリアライフをより充実させてください
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	専門キャリアデザイン
科目英名	Career Design for Professionals
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	3年生
学期	前期後半
担当者	松崎　吉衛
単位数	1

科目概要	専門家としての目指す姿を明確にすることと、その実現に向けた方法を実践的に教育する。各自が将来何をしたいかの志をベースに、その実現に向けたキャリアデザインを、講義での説明と各自の検討を組み合わせたアクティブラーニングにより実施する。/ICTの社会浸透やサービス産業の拡大により、業種／職種の内容が多様化して実態を把握し難くなっているので、主要な就職分野を対象として業種／職種選択の考え方を示すと共に、会社理解の基本となる業績・戦略・企業文化の見方を示す。/また、社会人として望まれる能力をブレークダウンして示し、各自の能力向上計画の作成をガイドする。/経営システム工学の学習・教育到達目標における、「社会の動向に鋭敏な感覚を養い、課題を自主的に探究し、専門知識、技術を総合し、協同して解決するエンジニアリングデザイン能力を習得する」他に対応する。（学習・教育到達目標(F)、カリキュラムポリシー5、ディプロマポリシー5に該当する）
達成目標	(1)専門家としての目指す姿を具体的に示し、その理由を説明することができる。 (2)興味ある業種／職種の内容を、ビジネスプロセスや求められる能力・価値観などの観点から把握する。 (3)自らのキャリアデザインを示すプレゼンテーション資料を作成し、納得感のある発表ができる。
成績評価	試験成績を40%、毎回のレポート成績および授業中の発表・討議への参画度を含む日常成績を60%で評価する。
予習復習時間	講義資料をWebClassに登録するので、授業前に事前学修して質問事項等をまとめておくこと。授業後には毎週レポート課題を与えるのでレポート作成を通して事後学修をすること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「キャリアデザイン」を履修していることが望ましいが、未履修でも自分の将来を考えようとする意識があれば可。
授業計画	

第1回	専門キャリアデザインへの取り組み方（基本理論と事例）
第2回	キャリアデザインのベースライン作成（興味ある業種・職種、想定企業、調査事項）
第3回	業種と職種の見方（多様性と類似性、マッチングの考え方）
第4回	興味ある業種・職種の調査（業務の中身と重要能力の理解）
第5回	会社の組織と管理の仕組み
第6回	就職先としての会社の見方（“企業評価”の応用）
第7回	就職先検討の留意点
第8回	就職先検討のための会社の調べ方
第9回	社会人として望まれる能力1（コミュニケーション力の高め方）
第10回	社会人として望まれる能力2（課題解決力・チームワーク力・ストレス対応力）
第11回	社会人として望まれる能力3（プレゼンテーションの方法）
第12回	社会人として望まれる能力4（英語とキャリアの広がり）
第13回	キャリアデザイン事例発表と討議
第14回	キャリアデザインの纏めと試験

オフィスアワー	木曜日10:00～12:00の間とする。
授業形態	講義説明をしたうえで、学修課題に対してグループワークを行い発表するアクティブ・ラーニングを実施する。
コース区分	
授業の具体的な進め方	毎回、パワーポイント資料での講義の中で、グループで課題検討及び討議を行う。第13回は各自のキャリアデザインをパワーポイントで発表し、14回でそれに対する纏めをする。
関連科目	キャリアデザイン。
授業に持参するもの	パソコンが必須である。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『WebClassに講義資料登録』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『『合う・合わないで仕事は決めなさい』』	長谷真吾	技術評論社	2012	9784774151571	
2.	『『キャリアデザイン入門［Ⅰ］』』	大久保幸夫	日本経済新聞出版社	2006	9784532110963	
3.	『『キャリアデザイン入門［Ⅱ］』』	大久保幸夫	日本経済新聞出版社	2006	9784532110970	

学生へのメッセージ	各課題等に対しては，レポート等提出後にWebClassおよび翌週の授業でフィードバックする。また，発表については，その場で口頭によりフィードバックする。 キャリアデザインをきちんと考えて、志望する業種・職種の姿を自分で描いておくことは、就職活動の前提である。一連の講義を受けて自分の考えをレポートとして纏めることにより、大学時代に力を入れることを再認識して社会人となる準備をして欲しい。 面談希望に対してはオフィスアワー以外の時間帯も可能な限り対応するので希望日時をメールで連絡してください。
その他・自由記述欄	本科目は、メーカーで37年間研究開発および技術経営を担当した実務家教員が経験に基づき、専門家を目指すためのキャリアデザインの考え方を示す。 前年度の授業改善アンケートの結果を示し、それを反映した授業とすることを学生に説明する。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	技術日本語表現技法
科目英名	Technical Japanese Description Technique
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	2年生
学期	前期前半
担当者	田村　慶信
単位数	2

科目概要	知的活動の基盤となる技術と日本語表現を学ぶ．世にいうスタディ・スキルズを中心として，日本語リテラシー，メディアリテラシー，科学技術文章作成法などにも触れる．なお，この科目は，カリキュラムポリシー2，ディプロマポリシー4に該当する．
達成目標	大学で学ぶのに欠かせない知的活動の基盤となる技術と日本語力を身に付け，論理的に思考し，レポートやプレゼンテーションが組み立てられるようになる．
成績評価	レポートを60点（60%），プレゼンテーションの評価を40点（40%）とし，総合60点以上で合格とする．
予習復習時間	授業1回について予習2時間，復習2時間．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	パーソナルコンピュータの基本的操作，ワードプロセッサ（MS Word），およびプレゼンテーションソフトウェア（MS PowerPoint）による資料作成ができる．
授業計画	

第1回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：ガイダンス-技術日本語表現技法とは何か 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第2回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：世の中にある様々な情報を客観的に捉える 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第3回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：自分で調査する 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第4回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：文章を理解し，論理的に思考する 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第5回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：科学技術文章の作成方法を習得する 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第6回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：科学技術文章を意識したレポートを作成する 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第7回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：データ分析結果を含むレポートを作成する 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第8回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：科学技術文章を意識したプレゼンテーションの準備 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第9回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：データ分析結果を含むプレゼンテーションの準備 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第10回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：調査対象に関するプレゼンテーション演習（グループ1） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）

第11回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：調査対象に関するプレゼンテーション演習（グループ2） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第12回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：調査結果に基づくプレゼンテーション演習 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第13回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：調査結果全般と考察に関するプレゼンテーション演習 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第14回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：まとめ（総合演習と最終レポートの提出） 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	配布資料等に基づく講義および演習と学生によるプレゼンテーション
コース区分	
授業の具体的な進め方	前半は配布資料等に基づいて説明していくが，パワーポイント資料によって説明する回もある．後半は，学生によるプレゼンテーション演習を中心に進める．
関連科目	情報リテラシー，知識工学汎論，この科目は，カリキュラムポリシー2，ディプロマポリシー4に該当する．
授業に持参するもの	ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布資料 適宜紹介』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『アカデミック・スキルズ第2版』	佐藤望，湯川武，横山千晶，近藤明彦	慶應義塾大学出版会	2012	9784766419603	
2.	『新版 論理トレーニング』	野矢 茂樹	産業図書	2006	9784782802113	
3.	『大学生のための読む・書く・プレゼン・ディベートの方法』	松本 茂・河野 哲也	玉川大学出版部	2007	9784472405136	
4.	『日本語の歴史』	山口仲美	岩波書店	2006	4004310180	

学生へのメッセージ	この科目で身に付けたものを学生生活の中で使っていくことを望みます．各課題等に対しては，レポート等提出後に口頭によりフィードバックします．また，発表については，その場で口頭によりフィードバックします．
その他・自由記述欄	

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	知能情報工学概論
科目英名	
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	1年生
学期	後期前半
担当者	田村　慶信
単位数	1

科目概要	知能情報工学の歴史的展望，用語の定義と概念，観察と実験・調査のアプローチ，問題解決の手法，システム工学，人間工学，生産管理工学，情報工学，情報化への取り組み，環境・資源・エネルギーへの取り組み，国際化への取り組みなどについて講義する．なお，この科目は，カリキュラムポリシー2，ディプロマポリシー2に該当する．
達成目標	知能情報工学の基本的概念と知識を理解する．知能情報工学における種々の専門科目を学ぶための基礎として，企業経営の活動，現代社会の課題，工学的アプローチに関する基礎知識を理解する．
成績評価	出題される課題20%，演習レポート20%，期末試験60%
予習復習時間	次回の授業内容の予習（2時間），当日の授業内容の復習（2時間）．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	知能情報工学に興味がもてること．プログラミングを履修済みであること．
授業計画	

第1回	予習：知能情報工学の対象問題について調査し，理解する．（2時間） 内容：知能情報工学の対象問題 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第2回	予習：知能情報工学の歴史的展望について調査し，理解する．（2時間） 内容：知能情報工学の歴史的展望 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第3回	予習：知能情報工学の概念と定義について調査し，理解する．（2時間） 内容：知能情報工学の概念と定義 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第4回	予習：科学的管理の方法について調査し，理解する．（2時間） 内容：観察と実験・調査のアプローチ 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第5回	予習：システムの設計について調査し，理解する．（2時間） 内容：システムの設計 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第6回	予習：問題解決のモデルと手法について調査し，理解する．（2時間） 内容：問題解決のモデルと手法 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第7回	予習：システムと人間に関する工学的アプローチについて調査し，理解する．（2時間） 内容：システムと人間に関する工学的アプローチ 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第8回	予習：情報化社会に対する工学的アプローチについて調査し，理解する．（2時間） 内容：情報化社会に対する工学的アプローチ 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第9回	予習：IoT時代に対する工学的アプローチについて調査し，理解する．（2時間） 内容：IoT時代に対する工学的アプローチ 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第10回	予習：ICTと情報化に関する知能情報工学について調査し，理解する．（2時間） 内容：ICTと情報化に関する知能情報工学 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）

第11回	予習：環境・資源・エネルギー，国際化，最適化に関する知能情報工学について調査し，理解する．（2時間） 内容：環境・資源・エネルギー，国際化，最適化に関する知能情報工学 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第12回	予習：オープンガバメントデータについて調査し，理解する．（2時間） 内容：オープンガバメントデータを利用した知能情報工学的アプローチに基づく演習（1） 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第13回	予習：オープンガバメントデータについて調査し，理解する．（2時間） 内容：オープンガバメントデータを利用した知能情報工学的アプローチに基づく演習（2） 復習：重要事項，理解できなかった点のまとめ（2時間）
第14回	予習：これまでの内容と重要事項の理解（2時間） 内容：知能情報工学の展望と今後の課題，まとめと期末試験 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	講義と課題演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	配付資料に基づく講義・演習を主体とする．また，現代社会で生じる種々の課題に基づいた問題に取り組む．
関連科目	履修前：知識工学汎論，情報リテラシー，履修後：時系列解析，経営情報システム，ビジネスデータ分析演習，大規模データ解析応用事例，製品企画，人間工学，知的情報処理，コンピュータネットワーク，この科目は，カリキュラムポリシー2，ディプロマポリシー2に該当する．
授業に持参するもの	ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布資料 適宜紹介』					

参考書	
学生へのメッセージ	知能情報工学は，現代社会の様々な問題，複雑・大規模な問題・不確実な問題などに対して，データに基づき，効果的な解決策を提供する学問です．しっかりと予習・復習を行い，授業内容を理解してください．各課題等に対しては，レポート等提出後に口頭によりフィードバックします．
その他・自由記述欄	情報を科学することにより，様々な人間活動を合理的かつ効果的に遂行できる能力を習得する．授業前には，授業計画に合わせて配布資料等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	デジタル信号処理
科目英名	Digital Signal Processing
開講年度	2019
開講学科	2019年度 情報科学科
分野系列	■専門・必修■
学年	1年生
学期	後期後半
担当者	荒井　秀一
単位数	2

科目概要	本科目はディプロマポリシーの「科学と工学を体系的に理解する」に基づき策定されたカリキュラムポリシー中の第3，第5項目に対応するべく設置された科目であり，本項目最後に示す学習・教育到達目標を満たすように構成されている. 本科目では，現在のマルチメディア技術の根本を担っている.さまざまなディジタル信号処理技術を習得するために必要となる音声・画像・音響信号処理の基礎技術を詳説していく. [深く関連(◎)あるいは関連(〇)する学習・教育到達目標] ◎(D), 〇(E)
達成目標	(1)ディジタル信号の特徴とその取り扱い方を理解する. (2)周波数次元でのディジタル信号解析法をアナログ信号の解析法と対比しつつ理解する. (3)ディジタルフィルタの設計法を理解し，基本的なフィルタの設計ができるようになる.
成績評価	第2章，第3章に関するQuizの点数を40%,期末試験の点数を60%考慮し,6割以上の正答を合格とする.
予習復習時間	1時限分の授業に対して4時間の自学自習が必要（学則第18条に基づく）
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし
授業計画	

第1回	信号処理とは（ディジタル信号，信号処理システム，時不変システム，因果的システム） 【授業時間外課題】講義テキストで指定した課題を解き次回授業で提出．授業テキスト2.0節「信号についての基礎知識」を予習する.
第2回	信号の表現（サンプリング定理，ナイキスト周波数，エイリアジング，量子化，S/N比） 【授業時間外課題】MiniTeamProject#1, #2を実施しレポートを次回授業で提出．サンプリング，量子化の具体的例題を復習し，次回のQuiz #1に備える．講義テキスト3.0節「時間域信号と周波数スペクトル」を予習する.
第3回	第1～3回講義内容(第2章)に関するQuiz, フーリエ級数（周期的時間域信号と周波数域の離散化） 【授業時間外課題】MiniTeamProject#3を実施し，信号処理におけるフーリエ級数の意味を理解し，レポートを次回授業で提出.
第4回	複素フーリエ級数（オイラーの公式，複素正弦波） 【授業時間外課題】 MiniTeamProject#4を実施し，複素フーリエ級数についての理解を深め，レポートを次回授業で提出.
第5回	フーリエ変換（フーリエ級数からフーリエ変換へ，デルタ関数のフーリエ積分表示，パーセバルの等式） 【授業時間外課題】 フーリエ級数と，フーリエ変換の違いを明確にし，時間域が離散化されることで何が生じるのかを理解するために，MiniTeamProject#5を実施し，レポートを次回授業で提出.
第6回	離散フーリエ級数と離散フーリエ変換（離散フーリエ変換の特徴，時間－周波数分解能，窓関数） 【授業時間外課題】MiniTeamProject#6, #7を実施し，レポートを次回授業で提出.
第7回	高速フーリエ変換（離散フーリエ変換の高速演算アルゴリズム） 【授業時間外課題】 教科書3, 4章の復習を行い，次回のQuizに備える．MiniTeamProject#8を実施しFFTアルゴリズムの理解を深め，レポートを次回授業で提出.
第8回	第3～7回講義内容(第3章)に関するQuiz, フィルタの概念 【授業時間外課題】 フィルタの概念を復習しておく.
第9回	

	ディジタルフィルタ（フィルタの種類[FIR, IIR]，インパルス応答） 【授業時間外課題】 インパルス応答を用いたフィルタの設計法を復習しておく．WebClassからsample programをdownloadし，指示されている課題を実行することでフィルタへの理解を深める．
第10回	LPFの設計法（FIRフィルタによるLPFの設計法） 【授業時間外課題】 LPFの設計法を復習する．
第11回	HPF,BPFの設計法（FIRフィルタによる設計法） 【授業時間外課題】 フィルタの設計法全般に関する理解を確かなものにするために，MiniTeamProject#9を実施し，レポートを次回授業で提出．
第12回	相関関数(自己相関関数，相互相関関数の定義・特徴) 【授業時間外課題】 相関関数の具体的な利用法について理解するために，MiniTeamProject#10を実施し，レポートを次回授業で提出．
第13回	窓関数がスペクトルに及ぼす影響 【授業時間外課題】 窓関数が引き起こす問題点を復習し理解する．
第14回	まとめと理解度の確認 【授業時間外課題】 理解度を確認し，理解度が低い項目は復習しておく．

オフィスアワー	金曜3時限に質問に答える．他の時間についてはe-mailで予約すること．
授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	音声，画像，音響信号の基本的取り扱い方と分析方法の基礎を講義形式で進めるが，理解を深めるために講義内容の区切り目でまとめと理解度の確認を行う． これに加え実際の信号に対する分析を行える各章の内容に対応したサンプルプログラムと簡単な課題を提供するので，それらを積極的に利用して講義内容の深い理解を目指して欲しい． さらに，ほぼ毎回，授業内容の理解を深めるために，こちらが指定する少人数のチームで授業テキストに載せた課題に取り組んでもらう．その結果得られた知見をレポートとして毎回提出してもらうが，目的は何人かのチームで課題に取り組むことで，あやふやな知識を確固たるものにすることにある．積極的にチーム活動に参加してほしい．
関連科目	「音声情報処理」,「画像処理」,「フーリエ解析学」
授業に持参するもの	講義開始時に指定する

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布テキスト』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ディジタル信号処理入門』	城戸 健一	丸善	1985	9784621030066	
2.	『ディジタルフーリエ解析 1 基礎編(1)』	城戸 健一	コロナ社	2007	9784339013054	
3.	『ディジタルフーリエ解析 2 上級編』	城戸 健一	コロナ社	2007	9784339013061	
4.	『フーリエの冒険』	トランスナショナル・カレッジ	言語交流研究所	2013	9784906519149	

学生へのメッセージ	本講義は音声・画像メディアを取り扱うための基礎となるので,理解できない部分に関しては積極的に質問して欲しい． 昨年のアンケート結果や授業中の受講者の様子から判断し，今年は実信号を用いた例題や演習を加えることにした．理解の助けにして欲しい． また，重要な質問をまとめて，講義でも解説するようにするので，有効に利用して欲しい．さらに，昨年から少人数チームでのミニプロジェクトを毎回の授業内容の復習として実施することにした．積極的に参加して欲しい．
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは毎回指定するチームメンバ同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	情報理論
科目英名	Information Theory
開講年度	2019
開講学科	2018年度 情報科学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	前期前半
担当者	新家　稔央
単位数	2

科目概要	情報がどのように定量的に捕えられるのかを理解する. まず, 効率的に情報を伝送する情報源符号化の概要を学ぶ. また, 信頼性の高い伝送を行うための通信路符号化の概要を学ぶ. さらに, 共通鍵暗号, 公開鍵暗号, ディジタル署名についても触れる. 本科目はディプロマポリシーに記載されている「専門知識と応用能力を兼ね備え、問題解決能力」を身に付けるために策定されている「コンピュータ全般にわたる基礎」というカリキュラムポリシーに基づいて設置されている科目である. [深く関連(◎)あるいは関連(○)する学習・教育目標] ◎(D), ○(E)
達成目標	学習・教育到達目標 ＊確率の基本的な計算ができるとともに, 平均情報量(エントロピー), 相互情報量の概念を理解する. ＊情報記号の出現確率に基づく情報源符号化のアルゴリズムを理解し, 符号の設計ができる. ＊事後確率, 尤度など, 通信路符号化に必要な計算ができるとともに, 基本的な通信路符号化法のしくみを理解する. さらに, 通信路容量の概念を理解する. ＊共通鍵暗号, 公開鍵暗号, ディジタル署名の有効性について理解する.
成績評価	期末試験に対し, 6割以上の正答を合格とする.
予習復習時間	1回(100分)の授業に対して4時間の自学自習が必要(学則第18条に基づく)
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし
授業計画	

第1回	情報理論概要 【授業時間外課題】第1回講義資料の演習問題および講義資料の復習. 第2回講義資料の予習
第2回	確率変数, 確率分布, 期待値, 確率変数の独立性, 条件付き確率, 無記憶情報源, 自己情報量, 平均情報量(エントロピー) 【授業時間外課題】第2回講義資料の演習問題および講義資料の復習. 第3回講義資料の予習
第3回	歪みのない情報源符号化に必要な条件-クラフトの不等式 【授業時間外課題】第3回講義資料の演習問題および復習. 第4回講義資料の予習
第4回	ハフマン符号 【授業時間外課題】第4回講義資料の演習問題および復習. 第5回講義資料の予習
第5回	拡大情報源, 情報源符号化定理 【授業時間外課題】第5回講義資料の演習問題および復習. 第6回講義資料の予習
第6回	ランレングス符号, ランレングス・ハフマン符号 【授業時間外課題】第6回講義資料の演習問題および復習. 第7回講義資料の予習
第7回	離散的無記憶通信路, 最尤復号法, 最大事後確率復号法 【授業時間外課題】第7回講義資料の演習問題および復習. 第8回講義資料の予習
第8回	線形ブロック符号, 誤り訂正と誤り検出 【授業時間外課題】第8回講義資料の演習問題および復習. 第9回講義資料の予習
第9回	ハミング符号とシンドローム復号法 【授業時間外課題】第9回講義資料の演習問題および復習. 第10回講義資料の予習
第10回	相互情報量, 通信路容量, 通信路符号化定理の概要 【授業時間外課題】第10回講義資料の演習問題および復習. 第11回講義資料の予習
第11回	共通鍵暗号, 公開鍵暗号, ディジタル署名 【授業時間外課題】第11回講義資料の演習問題および復習. 第12回講義資料の予習

第12回	公開鍵暗号の鍵生成と拡張されたユークリッド互除法 【授業時間外課題】第12回講義資料の演習問題および復習．第2回講義資料の予習
第13回	mod演算，一次合同式，フェルマーの小定理 【授業時間外課題】第13回講義資料の演習問題および講義資料の復習．
第14回	まとめ--理解度の確認と学生自身による達成度評価

オフィスアワー	水曜昼休み
授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	情報数学，符号理論
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『情報理論』	今井秀樹	オーム社	2014	9784274216015	昭晃堂より出版していた書目をオーム社より再発行

参考書	
学生へのメッセージ	授業評価アンケートに基づき，授業改善を行う．毎回の演習問題を確実に解けるようにして試験に臨むこと．参考書は授業の中で，適宜，紹介します．
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	企業会計基礎
科目英名	Fundamentals of Accounting for Business Enterprises
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	海老沼　利光
単位数	1

科目概要	本科目では、経営システム工学専攻の学生として習得すべき「企業会計に関する知識」を機軸に講義する。 ①「企業組織・運営・業務内容」の事例を提示し、「企業」を解説する。 ②企業活動を「数字で評価する企業会計」について解説する。当科目は、当学科のカリキュラムポリシーの3と4、ディプロマポリシーの2と6に関連している。
達成目標	経営システム工学専攻の学生として、必要な範囲の「企業会計：専門用語・知識」が理解できている。さらには、学んだことや理解したことが「自分のことば」で説明できている。
成績評価	期末授業内試験50%、演習課題・受講中記録カード・レポート提出：50%
予習復習時間	予習時間100分・復習時間100分を使って自習すること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「経営工学概論」で学習した内容を理解し、自分のことばで説明できる。
授業計画	

第1回	講師プロフィール紹介と本科目の取り組み方を説明する。 企業の経営活動と企業会計の役割と機能を理解する。
第2回	「企業の経営活動」について講義し演習に取り組む。
第3回	「良い会社とは：企業会計／CSR観点の両面から考える」を講義する。演習：企業内容を考察する。
第4回	「企業会計・企業統治・企業評価」について講義する。 「投資」について、投資の種類・投資分析・採算計算などについて講義する。
第5回	「原価管理と原価低減」について講義する。
第6回	「原価計算」について講義する。実企業の計算書を基に考察する。
第7回	「原価と売値」について講義する。トヨタ生産方式の「原価の考え方」を演習で取り組む。参考書：トヨタ生産方式を精読のこと。
第8回	「固定費と変動費」について講義する。具体的な会計資料を基に演習を行う。
第9回	「損益分岐点図表」について講義する。演習では、具体的な会計数字を使って損益分岐点図表を作成する。
第10回	「貸借対照表分析」について講義する。実企業の貸借対照表を使って演習を行い考察・ディスカッション及び発表する。
第11回	「損益計算書」について講義する。実企業の損益計算書を使って演習を行い考察・ディスカッション及び発表する。
第12回	「財務諸表の結びつき」について講義する。
第13回	会計帳票に現れない「機会損出」「機会利益」「機会原価」について講義する。 機会利益について演習を行う。
第14回	授業内試験及び解説を行う。本講座の総まとめを行う。

オフィスアワー	月曜日12時30分～13時20分

授業形態	講義・演習・発表
コース区分	
授業の具体的な進め方	パワーポイントを用いた講義を行い、聴講しながら質問・解答を求める。これらは「受講記録カード」に記載する。この受講記録カードは成績評価にも用いる。また、宿題レポートを提示し、回収する。
関連科目	履修前：経営工学概論、履修後：企業評価、経営管理、経営情報システム、金融工学、投資分析、生産システム工学、経営管理演習、経営管理演習、経営シミュレーション演習
授業に持参するもの	webクラスに提示したパワーポイント資料を机上で確認するため及び演習課題に取り組むためにパソコンを持参する。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『経営分析の基本』	林　總	日本実業出版社	2015年	9784382055230	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『経営分析の進め方・活用の仕方』	山下福男	産業能率大学	2006年	9784534052735	
2.	『利益を食いつぶす工場現場のムダを駆除する法』	古越　敦	創英社・三省堂	2012年	9784863670846	
3.	『トヨタ生産方式の原点』	大野耐一	日本能率協会	2014年	9784820748724	
4.	『企業会計の基礎』	山下壽文	中央経済社	2009年	9784502299001	

学生へのメッセージ	経営システム工学専攻の学生として、必須な「知識と技術」を習得する。また、企業での具体的な展開場面を提示し、実践的な演習を交えて、「モデル企業の事例」を紹介し理解を深める。聴講し自分で考え、自分のことばで説明できることを期待します。
その他・自由記述欄	①この授業科目は、実務経験を有した教員が担当する。 ②実務経験の概要：横浜ゴム㈱の生産管理部、生産技術部及び企画部にて長年にわたり、原価企画・原価管理・原価低減の実務経験を有す。 ③上記の企画職・新商品開発職等を通じて経験した「具体的かつ実務的な事例」を提示した講義を行う。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	データサイエンス基礎
科目英名	Fundamentals of Data Science
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	兼子　毅
単位数	2

科目概要	世の中の現象は非常に複雑で、多面的な観測が必要となる。そのような多変量データから、さまざまな情報を取り出し、分析する一連の方法が「多変量データ解析」手法である。本講義では、一般的に「多変量データ解析」と呼ばれているさまざまな手法を一通り網羅的に説明する。同時にサンプルデータの解析演習を通じて、手法の意味、適用の場、解析結果の解釈などを理解し、実際に多変量解析手法が使えるようになることを目指す。
達成目標	産業分野で広く利用されている基本的な多変量解析手法に関する知識を持ち、実際のデータを分析することができる。
成績評価	レポート(2回)を評価して採点する。採点に用いるルーブリックは、講義開始時にWebClassに公開する。
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	コンピュータの基本的な使い方を習得していることが強く望まれる。基礎確率統計、数学(2)(線形代数)を履修していることが望ましい。
授業計画	

第1回	多変量データの分類:クラスター分析
第2回	多変量データのマッピング(1):主成分分析
第3回	多変量データのマッピング(2):因子分析
第4回	多変量データのマッピング(3):数量化第3類
第5回	多変量データの関係の強さ:正準相関分析
第6回	多変量データのモデル化(1):重回帰分析(1)
第7回	多変量データのモデル化(2):重回帰分析(2)
第8回	多変量データのモデル化(3):重回帰分析(3)
第9回	多変量データのモデル化(4):重回帰分析(4)
第10回	多変量データのモデル化(5):重回帰分析(5)
第11回	多変量データによる判別:判別分析
第12回	コンピュータを利用した総合演習(1)(クラスター分析)
第13回	コンピュータを利用した総合演習(2)(主成分分析と因子分析)
第14回	コンピュータを利用した総合演習(3)(重回帰分析)

オフィスアワー	火曜日　15:10～16:50

授業形態	講義メイン（一部演習）
コース区分	
授業の具体的な進め方	代表的な多変量解析手法について、その理論や概念を説明するとともに、実際にパソコンを利用して解析する方法についても解説する。サンプルデータを用意するので、実際に自分で演習することができる。
関連科目	履修前：基礎確率統計，数理統計，履修後：データマイニング，事例研究
授業に持参するもの	パソコン
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Rで学ぶ多変量解析』	兼子毅	日科技連出版社	2011	4817193891	

参考書	
学生へのメッセージ	データ解析の世界は奥深い。それを実感し、垣間見るためにも積極的に演習に取り組んでもらいたい。
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(B)、カリキュラムポリシー2、ディプロマポリシー1に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	品質管理
科目英名	Quality Management
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	3年生
学期	前期前半
担当者	細野　泰彦
単位数	1

科目概要	1年、2年の統計学および生産システムに関する知識を基礎として、経営における品質管理の講義を行う。企業が経営を継続していくためには、品質、原価、納期、数量、環境の4つの価値を向上させる活動が重要である。そのうちでも、品質管理は、他の価値を向上させる際の駆動力となる場合が多い。品質管理活動の国際規格を理解し，主要な手法を学ぶことが学習の目標である。本講義は，カリキュラムポリシーの3と4に，ディプロマポリシーの2と4にそれぞれ相当している.
達成目標	品質管理の基礎概念、基本的手法、管理図法、抜取検査およびISO9000、品質マネジメントの基礎知識と技法について、演習を通じて修得する. この科目は学習・教育到達目標(C)に該当し，これらの内容は，カリキュラムポリシーに沿った内容である.
成績評価	期末試験(70%)、出席状況を含むレポートおよび小テスト(30%)に基づいて評価する. この成績評価の基準は，上記の達成目標に整合したものである.
予習復習時間	次回の授業内容の予習（100分），当日の授業内容の復習（100分）. 予習・復習の内容は，下記の授業計画に明記されている.
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	経営システム工学の対象分野および対象とする問題に関する基礎的な知識.「経営工学概論」,「基礎確率統計」を履修済みであること
授業計画	

第1回	予習：テキスト第1章1・1～1・4の内容と専門用語の理解（100分） 内容：品質・品質管理・品質優先の考え方・改善とQCストーリー 復習：学修内容，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第2回	予習：テキスト第1章1・5～1・9の内容と専門用語の理解（100分） 内容：重点指向の考え方とパレート分析，標準化の考え方，QC七つ道具，新QC七つ道具 復習：学修内容，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第3回	予習：テキスト第2章2・1～2・3の内容と専門用語の理解（100分） 内容：品質のばらつき，管理図，ばらつきの状態 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第4回	予習：テキスト第2章2・4～2・7の内容と専門用語の理解（100分） 内容：管理限界線と規格，管理図の種類，層別，統計的方法の基礎 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第5回	予習：テキスト第3章の内容と専門用語の理解（100分） 内容：ヒストグラムとその活用 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第6回	予習：テキスト第4章4・1～4・4の内容と専門用語の理解（100分） 内容：計量値の管理図 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第7回	予習：テキスト第1章～第4章の内容と専門用語の理解（100分） 内容：品質管理の概念と基本手法，計量値の管理図に関する第1回理解度確認試験とまとめ 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第8回	予習：テキスト第5章5・1～5・4の内容と専門用語の理解（100分） 内容：計数値の管理図 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第9回	

	予習:テキスト第6章6・1～6・5の内容と専門用語の理解(100分) 内容:管理図の見方と使い方 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第10回	予習:テキスト第7章7・1～7・8の内容と専門用語の理解(100分) 内容:工程の解析, 2組のデータの分析, ヒストグラム・管理図による比較, 不適合品率の検定と信頼限界, 散布図による相関分析 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第11回	予習:テキスト第8章8・1～8・5の内容と専門用語の理解(100分) 内容:品質保証, 検査, 全数検査, 抜取検査 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第12回	予習:テキスト第8章8・6～8・8の内容と専門用語の理解(100分) 内容:OC曲線, 計数規準型1回抜取検査 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第13回	予習:テキスト第9章9・1～9・3の内容と専門用語の理解(100分) 内容:品質マネジメントの国際規格 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第14回	予習:テキスト第5章～第9章の内容と専門用語の理解(100分) 内容:計数値の管理図, 管理図の見方と使い方, 工程の解析, 品質の保証, 品質マネジメントの国際規格に関する第2回理解度確認試験とまとめ 復習:達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り(100分)

オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける.
授業形態	講義を中心に, 適宜演習, 学習課題による宿題, 予習および復習の課題による学習をおこなう.
コース区分	
授業の具体的な進め方	教科書, 問題集および配付資料に基づく講義tを主体とする. 受講者は演習問題を解いて, 具体的な各種の解法を実践的に学ぶ. 現代社会で生じる品質管理の実際と課題について, 調査し分析する問題に取り組むことがある.
関連科目	履修前:生産システム, 基礎確率統計, 数理統計, 金融工学, 履修後:知的財産マネジメント, 事例研究
授業に持参するもの	教科書, 問題集および配布資料を原則とし, その他の持参物は講義において適宜指示する.

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『わかりやすい品質管理[第4版]』	稲本稔, 細野泰彦	オーム社	2016	9784274219788	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『クオリティマネジメント用語辞典』	吉澤正編集委員長	日本規格協会	2004	4542203034	
2.	『【新レベル表対応版】QC検定受検テキスト3級』	細谷克也編	日科技連	2015	9784817195616	
3.	『【新レベル表対応版】QC検定受検テキスト2級』	細谷克也編	日科技連	2015	9784817195609	
4.	『過去問題で学ぶQC検定3級2016年版』	仁科健	日本規格協会	2015	9784542505018	
5.	『過去問題で学ぶQC検定2級2016年版』	仁科健	日本規格協会	2015	9784542505001	

学生へのメッセージ	日常のニュースなどから品質管理の実例に注目して、どのように考えるべきかの意識をもって、現実社会での問題への理解を深めるよう期待している. 分からないことは, 積極的に質問をしてください. 特に, これまでの授業評価アンケートの結果, この講義の分野は社会でどのように役立つかの説明を補強し, また予習・復習に資する課題を強化するので, しっかりと学んで欲しい.
その他・自由記述欄	経営を科学することにより、企業活動を合理的で、効果的に遂行できる能力を習得する.
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	プロジェクトマネジメント
科目英名	Project Management
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	3年生
学期	前期前半
担当者	田村　慶信
単位数	1

科目概要	近年，企業では様々な場面でプロジェクトマネジメントの形態が多く用いられている．この授業ではプロジェクトマネジメントとは何かといった基本的事項から始まり，プロジェクトマネージャとして必要な知識を具体的な事例を交えながら講義していく．なお，この科目は，カリキュラムポリシー5，ディプロマポリシー5に該当する．
達成目標	(1)情報システムやソフトウェア開発の問題点を理解し，その解決方法を説明することができる． (2)プロジェクトマネジメントの適用で解決できる問題は何かを説明することができる． (3)PMBOK等のプロジェクトマネジメント標準類を説明できる． (4)プロジェクトマネジメントに必要となる基本的な方法・技術を扱うことができる．
成績評価	授業内演習20%，課題20%，期末試験60%．
予習復習時間	予習2時間，復習2時間．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	プロジェクトあるいはプロジェクトマネジメントに興味がもてること．知識工学汎論および経営工学概論を履修済みであること．
授業計画	

第1回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：プロジェクトマネジメントとは何か 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第2回	予習：第2回資料を予習しておく(2時間) 内容：プロジェクトマネジメントの概念と歴史 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第3回	予習：第3回資料を予習しておく(2時間) 内容：マネジメントシステムとしてのPM 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第4回	予習：第4回資料を予習しておく(2時間) 内容：プロジェクトの立上げと統合マネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第5回	予習：第5回資料を予習しておく（2時間） 内容：要件定義 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第6回	予習：第6回資料を予習しておく(2時間) 内容：スコープ・マネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第7回	予習：第7回資料を予習しておく(2時間) 内容：タイム・マネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第8回	予習：第8回資料を予習しておく(2時間) 内容：コスト・マネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第9回	

	予習：第9回資料を予習しておく(2時間) 内容：品質マネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第10回	予習：第10回資料を予習しておく(2時間) 内容：人的資源・マネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第11回	予習：第11回資料を予習しておく(2時間) 内容：ソフトウェア開発工程とPM 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第12回	予習：第12回資料を予習しておく(2時間) 内容：EVM 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第13回	予習：第13回資料を予習しておく(2時間) 内容：ITシステムにおけるプロジェクトマネジメント 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第14回	予習：第14回資料を予習しておく(2時間) 内容：まとめ 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	事例を交えてプロジェクトマネジメントに必要な手法および考え方を理解してもらう.
関連科目	履修前：知識工学汎論，経営工学概論，企業会計基礎，経営管理，履修後：事例研究，この科目は，カリキュラムポリシー5，ディプロマポリシー5に該当する.
授業に持参するもの	ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布資料 適宜紹介』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『プロジェクトマネジメント入門』	プロジェクトマネジメント学会編	プロジェクトマネジメント学会	2013	9784902378283	

学生へのメッセージ	その日の講義時間内に理解することが大切です．要望に沿って事例を増やします．各課題等に対しては，レポート等提出後に口頭によりフィードバックします.
その他・自由記述欄	社会の動向に鋭敏な感覚を養い，課題を自主的に探究し，専門知識・技術を総合し，協同して解決するエンジニアリングデザイン能力を習得する.

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	データマイニング
科目英名	Data Mining
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	前期後半
担当者	田村　慶信
単位数	2

科目概要	マネジメントの基本はデータの分析である．大量なデータから，意味のある情報を抽出することをデータマイニングという．そのデータマイニングの基礎となる数理を身に付ける．さらに，コンピュータを利用した演習により，データマイニングに関する代表的な手法を習得する．なお，この科目は，カリキュラムポリシー3，ディプロマポリシー3に該当する．
達成目標	代表的な手法の数理的な意味を理解することができる．
成績評価	出題される課題20%，演習レポート20%，期末試験60%．
予習復習時間	予習2時間，復習2時間．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	情報化社会におけるデータを様々な視点から理解するとともに分析できること．また実際のデータを用いて演習を行う場合には，問題解決を行うことを意識して演習することが大切である．
授業計画	

第1回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：データマイニングと数理 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第2回	予習：第2回資料を予習しておく(2時間) 内容：目的志向型と探索型データマイニング 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第3回	予習：第3回資料を予習しておく(2時間) 内容：予測を目的とした解析 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第4回	予習：第4回資料を予習しておく(2時間) 内容：推定を目的とした解析 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第5回	予習：第5回資料を予習しておく(2時間) 内容：分類を目的とした解析 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第6回	予習：第6回資料を予習しておく(2時間) 内容：ルール抽出 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第7回	予習：第7回資料を予習しておく(2時間) 内容：パターン認識 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第8回	予習：第8回資料を予習しておく(2時間) 内容：第１回チーム演習 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第9回	予習：第9回資料を予習しておく(2時間) 内容：探索を目的とした解析 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）

第10回	予習：第10回資料を予習しておく(2時間) 内容：クラスタリング 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第11回	予習：第11回資料を予習しておく(2時間) 内容：分類されたサンプルの解釈 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第12回	予習：第12回資料を予習しておく(2時間) 内容：活用事例の紹介と解説 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第13回	予習：第13回資料を予習しておく(2時間) 内容：第2回チーム総合演習 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第14回	予習：第14回資料を予習しておく(2時間) 内容：チーム総合演習発表 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	演習と講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	事例を交えて必要な手法および考え方を理解してもらう.
関連科目	履修前：数理統計，多変量解析，履修後：実験計画法，事例研究，この科目は，カリキュラムポリシー3，ディプロマポリシー3に該当する.
授業に持参するもの	ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『基礎と実践 数理統計学入門』	横山真一郎　他	コロナ社	2016	9784339061109	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Rによるデータサイエンス』	金　明哲	森喜多出版	2010	9784627096011	

学生へのメッセージ	授業内で理解することが大切です．各課題等に対しては，レポート等提出後に口頭によりフィードバックします．また，発表については，その場で口頭によりフィードバックします.
その他・自由記述欄	経営システム工学における問題解決を図るために必要なマネジメントの基礎能力だけでなく，数理的・統計的解析技術を習得する.

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	実験計画法
科目英名	Design of Experiments
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	後期前半
担当者	兼子　毅
単位数	2

科目概要	因果関係を明らかにし、適格な予測や制御を行うために広く用いられている方法が「実験」である。実際に「実験」してみると分かるが、可能な限り多くの情報を獲得するためには、事前に実験の方法を十分吟味する必要がある。本講義では、生産現場などで広く用いられている「バランスの取れた実験」の計画方法、分析方法を説明する。また、実際のデータを用いた演習を通じて、各種手法の使い方や結果の解釈の仕方などを習得する。後半では、あえて「バランスを欠いた」実験を行うことによって、分析自体は非常に煩雑になるが、実験自体の分量を小さくすることができる各種手法についても概観する。
達成目標	産業分野で用いられている実験計画手法を一通り学習し、さまざまな状況で実験を計画、実施、分析できるようになること。
成績評価	中間レポート（40点）及び最終レポート（60点）
予習復習時間	授業前には，必要により授業計画に合わせて資料等の該当する部分を熟読すること。授業後には，実験結果等について学生同士でディスカッションするなど協働することや，授業計画に沿って自身でレポート等をまとめることにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して1時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	高校程度の数学。検定・推定などの基本的な統計の知識。
授業計画	

第1回	一元配置実験（1）：分散分析の基礎
第2回	一元配置実験（2）：要因効果推定の基礎
第3回	二元配置実験：交互作用
第4回	乱塊法：ブロック因子の活用
第5回	直交配列実験（1）：2水準系直交配列実験の割付
第6回	直交配列実験（2）：2水準系直交配列実験の解析
第7回	分割実験（1）：分割実験の割付
第8回	分割実験（2）：分割実験の解析
第9回	3水準系直交配列実験
第10回	多水準作成法
第11回	擬因子法
第12回	一部追加法
第13回	直和法
第14回	総合演習（直交配列実験の応用）

オフィスアワー	火曜日　13:20～15:00
授業形態	講義中心
コース区分	
授業の具体的な進め方	実験計画に必要な概念及び分析手法を、基礎から説明する。理解するためには実際に自分で演習を行ってみることがもっとも有効である。
関連科目	履修前:基礎確率統計・製品企画・データマイニング，履修後:事例研究
授業に持参するもの	電卓またはパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『自作テキスト』					受講生にWebClassにて公開

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『実験計画法（上）』	田口玄一	丸善	1976	4621041096	

学生へのメッセージ	アイデアの評価という意味で、実験は非常に重要である。ぜひマスターしてもらいたい。
その他・自由記述欄	毎回少しずつ新しい内容が加わっていく。どこかで躓くと、以降全くついてこれなくなるので、着実に復習してマスターして欲しい。 この科目は、学習・教育到達目標(E)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー5に該当する 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	時系列解析
科目英名	Time Series Analysis
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	後期前半
担当者	穴田　一
単位数	2

科目概要	株，為替，売上，天気など，世の中には予測したいことが多くある. この講義では，金融データを用いて，データの扱い方や予測の基本的な方法を学ぶ.
達成目標	時系列データの基本的な扱い方，予測の方法とその限界の理解
成績評価	輪講の際のプレゼンテーションの内容や質疑応答100%
予習復習時間	4時間
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	基礎的なプログラミングと統計の知識
授業計画	

第1回	ガイダンス
第2回	予習：テキストの第1章から第3章の内容をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：増減率の計算 復習：講義内容の再確認（100分）
第3回	予習：テキストの第4章4．1，4．2をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：直線トレンドの抽出 復習：講義内容の再確認（（100分）
第4回	予習：テキストの第4章4．3，4．4をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：指数トレンドの抽出 復習：講義内容の再確認（（100分）
第5回	予習：テキストの第5章5．1，5．2をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：成長曲線（ロジスティック曲線） 復習：講義内容の再確認（（100分）
第6回	予習：テキストの第5章5．3，練習問題をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：成長曲線（ゴンペルツ曲線），成長曲線の練習問題 復習：講義内容の再確認（（100分）
第7回	予習：テキストの第6章6．1をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：季節変動の抽出（移動平均によるデータの平滑化） 復習：講義内容の再確認（（100分）
第8回	予習：テキストの第6章6．2，練習問題をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：季節変動の抽出（季節調整法） 復習：講義内容の再確認（（100分）
第9回	予習：テキストの第7章7．1をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：指数平滑法による予測（指数平滑法） 復習：講義内容の再確認（（100分）
第10回	予習：テキストの第7章7．2をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：指数平滑法による予測（ホルト・ウインタース法） 復習：講義内容の再確認（（100分）

第11回	予習：テキストの第8章8．1，8．2をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：景気循環（景気循環と周期変動，日本の景気循環） 復習：講義内容の再確認（（100分）
第12回	予習：テキストの第8章8．3，8．4をRで実際に計算しながら理解する（100分） 内容：景気循環（景気変動をとらえる指標を作る，不規則変動） 復習：講義内容の再確認（（100分）
第13回	予習：苦手な部分を重点的に復習し，理解する（100分） 内容：総合演習（1） 復習：演習問題を全て行う（100分）
第14回	予習：苦手な部分を重点的に復習し，理解する（100分） 内容：総合演習（2） 復習：演習問題を全て行う（100分）

オフィスアワー	月曜日5限，水曜日5限
授業形態	輪講
コース区分	
授業の具体的な進め方	各学生の担当範囲を決め，そのプレゼンテーションをもとに議論することによって，理解を確認しながら進める
関連科目	履修前：プログラミング，基礎確率統計，シミュレーション基礎，コンピューテーショナルモデリング 履修後：事例研究
授業に持参するもの	教科書，コンピュータ

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Rによる時系列分析入門』	田中孝文	シーエーピー出版	2008	9784916092915	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『講義中に提示』					

学生へのメッセージ	理解することを意識して勉強して下さい． ただ計算してグラフ化するのではなく，グラフをの振る舞いについて考察することが重要です． 課題を毎週着実にこなし，翌週に持ち越さないようにして下さい．
その他・自由記述欄	経営システム工学における問題解決を図るために必要なマネジメントの基礎能力だけでなく，数理的・統計的解析技術を習得する． この科目は、学習・教育到達目標(D)、カリキュラムポリシー3、ディプロマポリシー3に該当する 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	特別講義(IS-1)(経営システム工学におけるデザインの領域)
科目英名	Special Lecture (1)-(3)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■専門・特別講義(IS-1～3)■
学年	1年生
学期	前期
担当者	竹井　弘幸
単位数	2

科目概要	誰もが自発的な情報の発信者となり得る今日において、内容を的確に伝えるためのデザイン表現を、構成主要素である文字情報の扱い方を中心に学んでもらいます。
達成目標	ビジュアルデザインにおいてその表現の核となるのは文字情報の扱い方です。デザインと言うほど大げさでもなく、単にテキストだけの情報でも的確な文字(フォント)の選択とレイアウト処理をしなければ受け手は読むことさえ嫌になります。短い期間ですがこの機会に自分の論文くらいはきれいに整理して提出する基本を身につけておきましょう。
成績評価	期間中、出席を前提として計3回の課題提出による総合評価とします。
予習復習時間	次回の授業内容の予習(100分), 当日の授業内容の復習(100分).
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	WEBを始めテレビ、新聞、雑誌等あらゆるビジュアル媒体に溢れるデザイン化された情報が的確に表現されているかを考えてみる訓練をしてみましょう。
授業計画	

第1回	予習:デザインの考え方について調査し理解する. (100分) 内容:講義の内容と目的(オリエンテーション) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第2回	予習:タイポグラフィーデザインの考え方について調査し理解する. (100分) 内容:ポスター等におけるタイポグラフィーデザインの名作鑑賞 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第3回	予習:タイポグラフィーデザインの考え方について調査し理解する. (100分) 内容:百花繚乱、タイプフェイス(フォント)の歴史と現在 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第4回	予習:フォントと組版について調査し理解する. (100分) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分) 内容:フォントの構造及び組版の知識(字間、語間、行間等)について　課題1出題
第5回	予習:組版の方法について調査し理解する. (100分) 内容:テキストの内容に合わせた組版の基礎実践講座 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第6回	予習:第5回までの講義についてまとめ, 課題1を作製する. (100分) 内容:課題1の提出／作品講評 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第7回	予習:マークとピクトグラムについて調査し, 理解する. (100分) 内容:マークとピクトグラム(絵文字)　課題2出題 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第8回	予習:ロゴタイプとCI(コーポレートアイデンティティについて調査し, 理解する. (100分) 内容:ロゴタイプとCI(コーポレートアイデンティティ) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第9回	予習:第8回までの講義についてまとめ, 課題2を作製する. (100分) 内容:課題2提出／作品講評 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)

第10回	予習：タイポグラフィの実際について調査し，理解する．（100分） 内容：広告の中のタイポグラフィの実際 復習：重要事項，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第11回	予習：広告コピーと文字情報について調査し，理解する．（100分） 内容：広告コピーと文字情報としての表現　課題3出題 復習：重要事項，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第12回	予習：色彩と表現について調査し，理解する．（100分） 内容：色彩と表現シュミレーション 復習：重要事項，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第13回	予習：デザインにおけるイラストレーションと写真に違いについて調査し，理解する．（100分） 内容：イラストレーションと写真の流れ 復習：重要事項，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第14回	予習：第13回までの講義についてまとめ，課題2を作製する．（100分） 内容：課題3の提出／作品講評／講義総括 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り（100分）

オフィスアワー	質問は講義終了後受け付けます。相応の時間を要する相談の場合は事前に連絡を下さい。調整します。
授業形態	必要に応じて資料を配布、スクリーン等を見ながらの視覚的な講義が主体となります。
コース区分	
授業の具体的な進め方	できるだけ具体的な例をスクリーンで示しながら解説していくことがに主になりますが、試験は行わないので講義への出席を前提の上、計3回の課題に真剣に取り組み提出してください。
関連科目	履修前：知識工学汎論，経営工学概論，情報リテラシー，履修後：プログラミング，基礎確率統計，企業会計基礎，経営管理，起業計画，人間工学，生産システム工学
授業に持参するもの	白紙ノート、黒のサインペン（中細ぐらい）を常備するとよい。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『特に必要としない』					

参考書	
学生へのメッセージ	今日ではパソコンの出現によって、直筆を他人に示すことの必要性が少なくなりました。しかしながらフォントの選択や文章のレイアウト如何によっては、発信者の知性や情報の信憑性に疑問符をつけられてしまうこともあるのが現実です。この機会に恥をかかない文字情報の扱い方を習得しておくことはとても役に立つと思います。是非一度その世界に触れてみてください。
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(C)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー2に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	グローバル社会における経営
科目英名	Special Lecture (1)-(3)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■専門・特別講義(IS-1～3)■
学年	1年生
学期	集中（後期）
担当者	松崎　吉衛
単位数	2

科目概要	グローバルに活躍できる人材教育の一貫として、企業のグローバル活動の具体例を本学先輩経営者から講義して頂き、自分の目指す姿やそれに向けた能力アップへの具体策を考察する。学生が企業のグローバル活動や経営の実際を知る機会は非常に少ないので、本科目によりグローバルに活躍するための考え方と取り組み姿勢のイメージを持てるようにする。また本科目は講師が本学先輩なので、講義内容を身近に感じながら率直な討議をすることができる。全8回の集中講義である。 経営システム工学の学習・教育到達目標における、「社会の動向に鋭敏な感覚を養い、課題を自主的に探究し、専門知識、技術を総合し、協同して解決するエンジニアリングデザイン能力を習得する」他に対応する。（学習・教育到達目標(F)、カリキュラムポリシー5、ディプロマポリシー5に該当する）
達成目標	(1) グローバルに活躍するために必要な能力を、先輩の実例から具体的に想定することができる。 (2) 業種・会社毎にどのようなグローバル化がどれだけ進んでいるかを知ることができる。 (3) 現実のビジネス活動の生々しい話を聞くことで、経営者の仕事に関する知見を得ることができる。
成績評価	各回のレポート60%、試験40%。
予習復習時間	講義資料をWebClassに登録するので、授業前に事前学修して質問事項等をまとめておくこと。授業後には毎週レポート課題を与えるのでレポート作成を通して事後学修をすること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	履修の前提とする科目はない。
授業計画	

第1回	オリエンテーション…講義分野の前提知識と受講への考え方
第2回	経営者講義（1）…グローバル社会でのリーダーシップ
第3回	グループワーク（1）…社会で必要とされるリーダシップ
第4回	経営者講義（2）…ICT事業の潮流とサービスエンジニアリング
第5回	グループワーク（2）…システムエンジニアリングの将来形
第6回	経営者講義（3）…セキュリティーサービス事業の経営
第7回	グループワーク（3）…サービスビジネスモデルの創生
第8回	経営者講義（4）…グローバル社会における起業
第9回	グループワーク（4）…起業に求められる要件
第10回	経営者講義（5）…グローバル企業での働き方
第11回	グループワーク（5）…グローバル人材に向けた自己啓発
第12回	経営者講義（6）…米国の特許裁判制度の特徴
第13回	グループワーク（6）…日米の特許制度の違い

	第14回 テーマ検討と試験
オフィスアワー	木曜日14:00～16:00の間とする。
授業形態	2回目～13回目は経営者を招き夢キャンパスで講義とグループワークを行う。1回目は各講義の前提知識と受講を有意義にするための方法を説明し、14回目は講義により得られた知見のまとめをアクティブラーニングで行う。
コース区分	
授業の具体的な進め方	第1回のオリエンテーションで各講師の講義に関わる資料を提供するのでこれを参考にして各回の予習をする。経営者講義では、講師と学生の双方向の討議に時間をとる。各回の講義に関するレポートを作成すると共に、最終回に一連の講義で学んだ考え方を用いた課題討議を実施する。
関連科目	グローバル経営、専門キャリアデザイン
授業に持参するもの	パソコンが必須である。
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『『WebClassに講義資料登録』』					

参考書	
学生へのメッセージ	提出したレポートに対してWebClassおよび翌週の授業でフィードバックする。また，発表については，その場で口頭によりフィードバックする。
その他・自由記述欄	本科目は、メーカーで技術経営を担当した実務家教員が学外経営者を講師に招き、経営の実際を示す。 社会人講師の業務都合により授業計画が変更になることがある。 前年度の授業改善アンケートの結果を示し、それを反映した授業とすることを学生に説明する。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	特別講義(IS-3)(メディア戦略概論)
科目英名	Special Lecture (1)-(3)
開講年度	2019
開講学科	2019年度 知能情報工学科
分野系列	■専門・特別講義(IS-1～3)■
学年	1年生
学期	後期後半
担当者	葉村　真樹
単位数	2

科目概要	メディアの歴史と社会経済に与えてきたインパクトを理解した上で、企業におけるメディア・情報戦略の概要について、具体的なケーススタディなどを通じて理解するとともに、ソーシャルメディアに代表される新しいメディアがもたらす社会経済的課題について概観する。講義は14回を通じて、大きく4つのパートに分かれる:①メディアが人類史で果たした役割とその変遷(第1～4回)、②破壊的イノベーションとデザイン思考(第5～8回)、③メディア戦略立案の実践(9～12回)、④新しいメディアがもたらす社会経済的課題(13～14回) なお、この科目は、ディプロマポリシーのうち、特に2)、3)、4)及び6)に該当する。また、カリキュラムポリシーのうち、特に4)、6)及び7)に該当する。
達成目標	メディアとは何かを人類史や科学史の流れを踏まえて理解した上で、現在のメディア環境ゆえにもたらされた破壊的イノベーションとその考え方について理解をする。また、実際のケースを通じて、企業におけるマーケティング担当者など事業戦略における具体的なメディア戦略の方法論について習得しつつ、今後さらに変化が予想されるメディアがもたらし得る課題について考察するだけの基礎知識を得ることを目標とする。
成績評価	出席(20%)＋授業におけるディスカッションの参加度合い(30%)＋試験結果(50%)
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	特になし
授業計画	

第1回	メディアとは？- 人類にとってメディアの意味すること
第2回	テクノロジーとメディアの進化
第3回	人類史においてメディアが果たした社会経済的な役割
第4回	企業のメディア活用＝マーケティングコミュニケーションの歴史
第5回	イノベーションとは？- 科学史におけるイノベーションとそのインパクト
第6回	破壊的イノベーションとその成立要件
第7回	経営学におけるイノベーションの考え方
第8回	デザインシンキングとその実践
第9回	企業のメディア戦略 - ブランディングとマーケティングに関する基本的な考え方
第10回	マーケティング戦略立案の基礎と実践
第11回	ブランド戦略立案の基礎と実践
第12回	インターネット広告の基礎
第13回	ソーシャルメディアがもたらした世界

	第14回　ポストソーシャルメディアの時代
オフィスアワー	月曜2限および木曜3限　SC1号館4F 葉村研究室
授業形態	キーノートによる講義60分＋質疑応答・ディスカション40分
コース区分	とくになし
授業の具体的な進め方	授業の前半60分は、後半40分のディスカッションの基本的な知識を得るための座学がメイン。講義はキーノートによるスライドや動画などをメインとし、エンタテイメント的に楽しめる内容とする。後半40分は、前半の講義の内容を踏まえた質問を学生に投げかけ、質疑応答の形でディスカッションをするスタイルを取る。
関連科目	特になし
授業に持参するもの	指定教科書
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『破壊―新旧激突時代を生き抜く生存戦略』	葉村真樹	ダイヤモンド社	2018年	4478105588	

参考書	
学生へのメッセージ	講師は博報堂でマーケティング戦略立案の実務（自動車、アパレル、銀行等）を経験したのち、Google日本法人、ソフトバンク、Twitter日本法人で経営企画や事業戦略の責任者を歴任、直近までLINE株式会社の執行役員を務めていました。これらの経験なども踏まえ、将来的な実務につながる知識や考え方を幅広く、学生の皆さんにはお伝えしたいと考えています。楽しい講義を心がけたいと思っていますので、興味のある方を心からお待ちしています。
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	特別講義(KE-1)(グローバルビジネス入門)
科目英名	Special Lecture(KE-1)
開講年度	2019
開講学科	2018年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	キャリル　シャーリーン　ヒメネス
単位数	2

科目概要	英語で開講されます。 この講座ではグローバルマネジメント、及び、企業文化における重要な問題や概念、理論の理解を通じ、学生がグローバル戦略の成功を設計、実施する手助けを目的としています。学生はこれらの学習により、グローバル組織における実践的な文化的差異、ビジネス戦略、リーダーシップを理解できるようになります。グローバルプレゼンスと統制を維持しながら、企業の競争優位性をさらに強化し維持していくために必要な創造性、革新性、倫理観、道徳性、持続可能性、企業の社会的責任に関するトピックスも追加されます。 このコースは、大学の建学精神に沿って、持続可能な社会や世界経済の中で、学生の未来を切り開く能力を最大限発揮できるような教育を提供することを目標としています。 This course aims to help students design and implement a successful global strategy through understanding key issues, concepts and theories in global management and corporate culture. These will also enable students to understand the cultural variations, business strategies and leadership styles practiced by global organizations. These are supplemented with topics on creativity, innovation, ethics and morality, sustainability, and corporate social responsibility that assists firms to further build and sustain the firm's competitive advantage by maintaining its global presence and control. This course is in line with the vision and spirit of the university and responds to its goals to provide the best value in education and research while developing the full capabilities of students to be future generators of sustainable value in society and in the global economy.
達成目標	このクラスの主な学習成果は、学生が次のことができることです。 ・戦略的マネジメントの概要にかんする基礎知識の理解を深め、それをグローバルな状況に適用する ・内的外的双方の環境問題がどのように事業に影響を与えているかを理解する ・問題解決力や判断力を得て、批判的、分析的思考能力を身に着ける ・口頭、記述でのコミュニケーション能力を伸ばす ・チームで協力する力を養う ・グローバルビジネスにおけるグローバルで倫理的視点への理解し今後のキャリア判断へ実践する ・グループ単位でグローバルマネジメントにおける特定の組織を調査し、その特有の問題点を表し、評価と推薦の調査報告書、及び、プレゼンテーションを行う The main learning outcomes of this class are for students to: ・Develop an understanding on the basic knowledge and concepts of strategic management and its applications in global context. ・Understand how both external and internal environmental issues can have an influence on firm businesses. ・Develop critical and analytical thinking abilities through problem-solving and decision-making skills. ・Develop oral and written communication skills. ・Develop and enhance teamwork skills. ・Provide students an appreciation of global and ethical perspectives in global business and operations that would affect the student's future career decisions. ・Write and present a research paper written by the group with their selected organization's approach to global management by identifying its problem and then providing their assessment and recommendations.
成績評価	Participation (seatwork, group exercises and recitation) : 20% Homework/assignments (reflection papers, case analysis) : 15% Quizzes : 15% Group Project - final research paper : 20% Group Project - oral presentation of final research paper : 15% Student Assessments (individual within groups) : 15% TOTAL 100% 授業内課題やグループワークへの参加 20% 宿題(復習、事例分析)　　15% 小テスト 15% グループ課題(最終研究レポート) 20% グループ課題(プレゼンテーション)　15% 各学生の個人評価　　15% 計　　100%
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	国際的なビジネスやグローバル化に関心のある学生は誰でも参加可能です。 学生はインターネットに繋がるコンピューターにアクセスできること、宿題やレポートはMicrosoft Office(Word, Powerpoint推奨)で行い、電子ファイルで提出できること。

This class is open to students who wants to gain knowledge and understand global management practices, strategies and leadership styles. Students are required to have computer access (with internet) and library resources for research purposes. Assignments and exercises will be submitted electronically unless advised otherwise so access to and familiarity with Microsoft Office applications such as MS Word and PowerPoint is recommended.

授業計画

第1回	コース紹介 Introduction Syllabus, Course requirements, Grading system, Goals and expectations, Self-Introduction Overview of Global Management
第2回	戦略的マネジメント、及び、戦略的競争 Strategic Management and Strategic Competitiveness
第3回	国際ビジネスの革命　外的環境 The External Environment: Opportunities, Threats, Industry Competition, Competitor Analysis
第4回	内部組織 The Internal Organization: Resources, Capabilities, Core Competencies and Competitive Advantages
第5回	第１回クイズ First Long Quiz
第6回	ビジネスレベル戦略 Business-Level Strategies
第7回	競争的敵対と競争的ダイナミクス Competitive Rivalry and Competitive Dynamics
第8回	企業レベル戦略 Corporate-Level Strategy
第9回	国際戦略 International Strategy
第10回	第二回クイズ Second Long Quiz
第11回	戦略的リーダーシップ Strategic Leadership
第12回	戦略的企業 Strategic Entrepreneurship
第13回	第三回クイズ Third Long Quiz
第14回	口頭発表、課題提出第 Oral Presentations and submission of research paper

オフィスアワー

授業の後一時間 One hour after a class

授業形態

講義及びコラボレーション活動 Lecture and crlaboration activity style

コース区分

授業の具体的な進め方

教室では、学生同士の交流を促進するために、コラボレーション(協働)活動が採用されます。ケーススタディ(事例研究)とリフレクションペーパー(振り返り)は、クリティカルで創造的な考え方を強化し、発展させるために課題として与えられます。グループの口頭発表を含む最終的なグループの研究レポートがコースの最後に必要です。
Collaborative activities will be employed in the classroom to foster camaraderie and interaction among students. Case studies will be assigned to enhance and develop both their critical and creative thinking. While a final group research paper including a group oral presentation is required at the end of the course.

関連科目

授業に持参するもの

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Strategic Management: Concepts and Cases: Competitiveness and Globalization, 12th Edition.』	Hitt, M. A., Ireland, R. D. & Hoskisson, R. E.		2017	ISBN-10: 1305627660	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Strategic Management: Concepts and Cases: Competitiveness and Globalization, 12th Edition.』	Hitt, M. A., Ireland, R. D. & Hoskisson, R. E.		2017	ISBN-10: 1305627660	

2.	『International Management Behavior: Global and Sustainable Leadership, 7th Edition』	Lane, Henry W. & Maznevski, Martha L.		2014	ISBN: 978-1-118-52737-5	

学生への メッセージ	将来グローバルに活躍しようとするみなさんに最適な講義です。英語で開講されますが大変わかりやすいので、積極的に参加して下さい。 This lecture is the ideal class for students aiming to take a global leadership role in the future. Please join this class as the lecture would be conducted in easy and simple English.
その他・ 自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	特別講義(KE-1)(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽ入門)
科目英名	Special Lecture(KE-1)
開講年度	2019
開講学科	2018年度 情報科学科
分野系列	■知識工学基盤・選択■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	マリア　ビクトリア　P. テイボン
単位数	2

科目概要	このコースは、学生がグローバルビジネスと企業文化の中における重要な問題や概念と理論を理解をすることを目的としてる。また、このコースでは学生が文化の多様性、事業戦略および組織のリーダーシップのあり方を認識できるような教育を提供することを目標としている。 This course aims to help students understand key issues, concepts and theories in global management and corporate culture. These will also enable students to recognize cultural variations, business strategies and leadership styles of organizations.
達成目標	このクラスの主な達成目標は、学生が次のことをできるようになることである。 1.戦略的ビジネスの基本的な知識と概念、およびグローバル社会におけるその運用に関する理解を深める。 2.口頭、記述によるコミュニケーションスキルの向上。 3.チームワークスキルの向上。 The main learning outcomes of this class are for students to: 1. Develop an understanding on the basic knowledge and concepts of strategic management and its applications in global context. 2. Develop oral and written communication skills. 3. Develop and enhance teamwork skills.
成績評価	授業内課題やグループワークへの参加: 20% 宿題(復習、事例分析)　: 15% 小テスト : 20% シートワーク　: 15% 最終試験　: 30% 計　100% Participation : 20% Homework/assignments : 15% Quizzes : 20% Seatwork : 15% Final Examination : 30% TOTAL 100%
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要 Four hours self study required per one lecture.
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	学生は常に準備の上授業に臨むこと。授業前に、配布資料等を読んでおくこと。 Students should come to class prepared and attend classes regularly. They should read the handouts and/or reading materials provided to them before attending the class.
授業計画	

第1回	グローバルビジネス社会において不可欠な点 The Global Imperative in Management
第2回	運営と組織 Management and Organization
第3回	戦略的経営と競争力 Strategic Management and Competitiveness
第4回	国際環境 The International Environment
第5回	第一回小テスト First Quiz
第6回	

	国際的経営手腕、多様性、文化 International Management, Diversity and Culture
第7回	事業戦略 Strategies in Action
第8回	戦略的分析と選択 Strategic Analysis and Choice
第9回	戦略的リーダーシップとその実行 Strategic Leadership and Implementation
第10回	第二回小テスト Second Quiz
第11回	ビジネス倫理および社会的責任 Ethics and Social Responsibility
第12回	企業統治 Corporate Governance
第13回	第3回小テスト Third Quiz
第14回	サステナブル起業家精神 Sustainable Entrepreneurship

オフィスアワー	授業後の一時間 One hour after the class
授業形態	講義形式 Lecture style
コース区分	
授業の具体的な進め方	ケーススタディ（事例研究）やその他の活動は、学生の批判的思考力と創造的思考力の両方を強化し、発展させるために課題として与えられる。 Case studies and other activities will be assigned to enhance and develop both critical and creative thinking abilities of students.
関連科目	
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Strategic Management: Concepts and Cases, 13th Edition.』	David, Fred R.		2011	ISBN-13: 612098-8	
2.	『International Management Behavior: Global and Sustainable Leadership, 7th Edition』	Lane, Henry W. & Maznevski, Martha L.		2014	ISBN: 978-1-118-52737-5	

参考書	
学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	企業マネジメント
科目英名	Enterprise Management
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	渡部　和雄
単位数	2

科目概要	〔科目区分　専門科目〕 〔対応する学習・教育到達目標(C), カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー2に該当する〕 経営学の専門科目を学習する基礎的な知識を身につけるため, 経営管理の基礎的事項を順を追って講義していく. また, 学生をグループ分けして, 各グループにテーマを与え, 調査, 発表をしてもらう.
達成目標	(1)経営学に関する専門科目を学ぶ上での基礎知識を得る. (2)経営学の基礎的なテーマについて, 調査し, 発表する能力を養う.
成績評価	試験60% グループ発表40%(グループ発表自体の評価に加えて, 個人のグループへの貢献度相互評価を考慮することがある)
予習復習時間	1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要. 授業前には, 授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には, 取り扱った内容について課題に取り組み, あるいは学生同士でディスカッションするなどにより, 理解を深めること。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	やる気と大学生としての常識, 本学科1年生配当科目の知識
授業計画	

第1回	経営学とは何か, マーケティング
第2回	(グループワーク)1　グループ分け, テーマ決定, 調査開始
第3回	経営戦略, 経営組織
第4回	(グループワーク)2　テーマについて調査, 議論を進める 中間レポート提出
第5回	会計, 財務管理
第6回	生産管理
第7回	人的資源管理, 営業管理
第8回	意思決定
第9回	サプライチェーン・マネジメント, 経営情報システム
第10回	(グループワーク)3　グループ発表会のためのスライド資料作成, 発表練習 スライドファイルの提出
第11回	グループ発表会(前半のグループ)
第12回	グループ発表会2, (後半のグループ), 発表会総評
第13回	その他トピックス
第14回	まとめ, 試験

オフィスアワー	授業前，2コマ続きの授業の中間休み時間，授業後など
授業形態	講義と，課題について調査・発表するグループワーク
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義では自作のパワーポイント資料の説明，質疑応答など．理解を深めるための演習問題を出すことがあるので，学生は自分のノートに解答を書き，後で復習すること． グループワークではグループで課題を調査して，議論し，まとめて，皆の前で発表してもらう．グループワークの第2回終了時に中間レポートを提出してもらい，添削する．添削結果に応じてパワーポイントファイルを修正してもらう．
関連科目	本科目は経営システム分野の基本的な科目である．本科目履修後は，ビジネスモデル，企業会計基礎，企業評価，経営情報システム，グローバル企業マネジメント，ビジネスデータ分析演習などを履修することが望ましい．
授業に持参するもの	WebClassにて配布される資料，指定教科書，ノート，筆記用具，ノートパソコン（グループワークで使用）
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『プレステップ　経営学』	北中英明	弘文堂	2009年	9784335000775	

参考書	
学生へのメッセージ	授業で使う自作パワーポイント資料はWebClassにて配布する．内容は適宜アップデートするので，授業前にその回の部分をダウンロードすること．
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	企業評価
科目英名	Corporate Valuation
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	岡田　公治
単位数	2

科目概要	企業活動は、株主や銀行、最終顧客や顧客企業、サプライヤ企業等、様々な利害関係者との協力関係の上に成り立っており、それぞれの利害関係者から信頼を得られなければ企業経営は成功し得ない。利害関係者は、どのような観点で、どのような指標により、企業を評価しているのかを解説する。また、実企業の財務諸表を用い様々な企業評価指標を算出する演習を通じて理解を深める。（経営を科学することにより、企業活動を合理的・効果的に遂行できる能力を持つ人材の育成を目指す）
達成目標	各種の企業評価指標の意味を理解すると共に、財務諸表等の公開情報から各種の指標を算出し評価できるようになる。更には、企業経営を行う側の視点に立ち、様々な利害関係者がどのような観点で自社を評価しているのかを理解し、それに応えるためにはどのような施策を講じなければならないのかを考察できるようになることを目指す。
成績評価	授業時間内に行う不定期の小テストや、レポート課題を30%、授業時間中の積極的な発言を10%、試験を60%として評価する。また、全授業回数の60%以上の出席を前提条件とする。
予習復習時間	毎回出題するレポート課題には、その授業の復習と次の授業の予習が含まれているので、必ず実施し、理解を深めること。学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「企業会計基礎」を履修していることが望ましい。
授業計画	

第1回	企業評価とは：様々な利害関係者、立場の違いによる評価観点の違い
第2回	会計の基礎（1）：企業会計の考え方、財務諸表の概要
第3回	会計の基礎（2）：損益計算書
第4回	会計の基礎（3）：貸借対照表
第5回	会計の基礎（4）：キャッシュフロー計算書
第6回	財務諸表に基づく企業評価(1)：収益性の視点（利益率等）
第7回	財務諸表に基づく企業評価(2)：安全性の視点（自己資本比率、流動比率、固定比率等）
第8回	財務諸表に基づく企業評価(3)：効率性の視点（回転率、回転期間等）
第9回	財務諸表に基づく企業評価(4)：成長性の視点（成長率等）
第10回	中間まとめと復習課題
第11回	財務諸表に基づく企業評価(5)：総合力の視点（ROA、ROE等）
第12回	取組みに基づく企業評価（1）：経営品質、品質マネジメントの視点
第13回	取組みに基づく企業評価（2）：継続的業務改善の視点
第14回	試験および解説

オフィスアワー	火曜日・木曜日の12:30-13:20。ただし、念のため事前にメールで確認すること。
授業形態	講義および演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	講義（オリジナル資料を配布）による解説、および、実企業の財務諸表を用いた企業評価指標を算出する演習と演習結果に対する討論を行う。
関連科目	履修前：企業会計基礎、経営管理、履修後：経営情報システム、投資分析、グローバル経営、経営管理演習
授業に持参するもの	Microsoft Office のインストールされた Windows PC

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『オリジナル資料』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『グロービスMBAアカウンティング【改訂3版】』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2008	9784478006320	

学生へのメッセージ	自発的に学ぶ姿勢で臨んで欲しい。
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	経営情報システム
科目英名	Management Information System
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	渡部　和雄
単位数	2

科目概要	〔科目区分　専門科目〕 〔対応する学習・教育到達目標(E)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー5に該当する〕 インターネットを活用した電子商取引（eビジネス）の現状や課題を解説する．また，企業などの組織で情報システムがどのように利用され，役立っているかを解説する．具体的には，ネットでの販売戦略，インターネットオークション，モバイルコマース，インターネット広告，キャッシュレス決済などについて学ぶ．
達成目標	(1)経営情報システムの概略を理解する (2)経営情報システムの最新状況を理解する
成績評価	試験60% グループ発表40%（グループ発表の評価と，個人のグループへの貢献度を考慮することがある）
予習復習時間	1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「企業マネジメント」を履修していること．他に情報システムの基礎を理解していること．
授業計画	

第1回	eビジネス（1）　電子商取引概要，企業消費者間取引B2C(Business to Consumer)
第2回	グループワーク（1）　グループ分け，テーマ割り当て，調査開始
第3回	eビジネス（2）　ネット販売戦略　O2O(Online to Offline)，ロングテール
第4回	グループワーク（2）　テーマについての調査，グループ討議 中間レポート提出
第5回	eビジネス（3）　ネットオークション，ネット詐欺
第6回	eビジネス（4）　インターネット広告
第7回	eビジネス（5）　電子マネー，キャッシュレス決済
第8回	eビジネス（6）　スマートフォンとモバイルコマース
第9回	eビジネス（7）　BtoB(Business to Business)の分類と事例
第10回	グループワーク（3）　発表資料作成，発表準備，発表資料提出 スライドファイルの提出
第11回	発表会1（前半のグループ），質疑応答
第12回	発表会2（後半のグループ），質疑応答
第13回	その他の話題（デジタルディバイド，Web2.0，SNSなど）

	第14回　まとめ，試験
オフィスアワー	授業時間の前後．事前予約なしで訪問できる．
授業形態	講義，演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	パワーポイントによるスライドと指定教科書をもとに講義を進める．スライドのファイルはWebClassに掲載する． グループワークでは与えられたテーマについて，調査，グループ内議論，発表資料作成，発表を行ってもらう．グループワークの第2回終了時に中間レポートを提出してもらい，添削する．添削結果に応じてパワーポイントファイルを修正してもらう．
関連科目	履修前：企業マネジメント，履修後：企業評価，グローバル企業マネジメント，ビジネスデータ分析演習
授業に持参するもの	WebClassにて配布される資料，指定教科書，ノート，筆記用具，ノートパソコン（グループワークで使用）
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『eビジネスの教科書』	幡鎌　博	創成社		9784794423801	

参考書	
学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	投資分析
科目英名	Investment Analysis
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	後期後半
担当者	海老沼　利光
単位数	2

科目概要	企業が経営活動を営むには、勘や経験だけでは十分ではない。企業活動に伴う「投資課題」を目的に適した分析手法を紹介し、あわせてOR・IE・QC・VEなどの関連分野との関係も取り上げる。企業の生産管理、生産技術スタッフや管理者・経営者が日常的に当面する「投資課題と投資分析方法」を企業モデルの事例を通じて解説する。
達成目標	経営システム工学専攻の学生として、「投資分析の専門用語・知識」が習得できている。さらに、就職面接試験などの際には、カリキュラムポリシーにおけるマネジメント系基礎としての投資分析の基本事項について、学んだことや理解したことが「自分のことば」で説明できている。また、この投資分野の文献やデータを収集し、考察し、問題解決ができる。
成績評価	講義聴講中の回答・質問・発表実績を「受講中の記録カード」に記載し、講義聴講中の成績評価とする。また、演習の取り組み内容、レポート提出なども成績評価に加える。これらの評価を50%とする。一方、授業内試験は、50%の成績評価に加える。
予習復習時間	授業前には授業計画に合わせて教科書等の該当する部分を熟読すること。授業後には、取り扱った内容について課題に取り組みあるいは学生同士でディスカッションするなどにより理解を深めること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「経営工学概論」及び「企業会計基礎」で学んだ知識・技術が自分のことばで説明できる。
授業計画	

第1回	講師プロフィール紹介、本科目の進め方を解説する。 企業における「投資課題と分析」を講義する。
第2回	「生産性向上策と設備投資」を講義し演習課題に取り組む。
第3回	「生産性分析の基本と分析」を講義する。
第4回	「会社が抱える問題・課題と経営改善」について事例紹介する。
第5回	「経営管理と経済性分析」を講義し演習課題に取り組む。
第6回	「付加価値の意味と求め方」を講義し、演習問題を解く。
第7回	「経済性分析のねらい」を講義し、演習課題についてグループ討議・発表する。
第8回	採算計算と意思決定」を講義し、演習問題を解く。
第9回	「投資」の重要事項に関する理解度の確認＆中間まとめ
第10回	「経済性評価のための比較の原則」を講義し演習問題に取り組む。
第11回	「設備投資の採算計算」を講義し、演習問題に取り組む。
第12回	設備投資プロセスを実務的に説明する：立案⇒申請書作成⇒審査⇒意思決定のプロセスを企業事例を基に解説する。
第13回	「投資有利案の選択問題」を講義し、演習問題に取り組む。
第14回	授業内試験及びその解説＆「投資分析の重要事項」の最終まとめ

オフィスアワー	月曜日12時30分～13時20分
授業形態	講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	パワーポイントを用いた講義形式をとりつつ、演習を頻繁に取り入れる。また、聴講しながら、質問・グループ討議・発表のチャンスを設けて理解度を高める。
関連科目	履修前：経営管理、企業評価、経営情報システム、 履修後：事例研究
授業に持参するもの	webクラスに提示した説明用パワーポイントを机上でも各自が確認するためにパソコンを持参する。 また、演習課題を発表する際にもパソコンを使用する。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『経営分析の進め方・活用の仕方』	山下福男	産業能率大学	2006年	9784382055230	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『トヨタ生産方式の原点』	大野耐一	日本マネジメントセンター	2014年	9784820748724	
2.	『利益を食いつぶす工場現場のムダを駆除する法』	古越　敦	創英社/三省堂	2012年	9784863670846	
3.	『経済性分析』	千住鎮雄	日本規格協会	1996年	9784542801288	

学生へのメッセージ	経営システム工学専攻の学生として、必須な「知識と技術」を習得する。経営学部・商学部・経済学部などの学習内容とは異なる、経営システム工学専攻の学生向けの講義内容を取り上げる。 また、企業での具体的な実践的な場面を提示し、実践的な演習を行う。また、「モデル企業」の事例紹介をする。
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 ①この授業科目は、実務経験を有した教員が担当する。②実務経験の概要：横浜ゴム㈱生産管理部、企画部等にて投資企画立案、分析、調査及び原価企画等の実務経験を有す。③上記の企画職・新商品開発職にて長年に渡る職務を通じて経験した「具体的かつ実務的な事例」を提示した講義を行う。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	グローバル経営
科目英名	Global Management
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	3年生
学期	後期前半
担当者	松崎　吉衛 岡田　公治
単位数	2

科目概要	企業のグローバル展開の流れに沿って（戦略策定⇒事業設計⇒拠点構築⇒ビジネスプロセス設計⇒改善）、各展開ステップで用いる基本手法（経営管理からIndustrial Engineeringまで）と企業での実施例を示し、グローバル展開の考え方を教育する。 それと共に、グローバル社会で働くために必要な人間力と、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの基盤能力の中身と高め方を教育する。 アクティブラーニングとして、各自が興味ある業種・職種をケースに取り上げて、グローバル化の姿と必要な能力を考察させる。 経営システム工学の学習・教育到達目標における、「社会の動向に鋭敏な感覚を養い、課題を自主的に探究し、専門知識、技術を総合し、協同して解決するエンジニアリングデザイン能力を習得する」他に対応する。（学習・教育到達目標(F)、カリキュラムポリシー5、ディプロマポリシー5に該当する）
達成目標	1. 企業のグローバル展開に用いられる手法を理解し、現実の課題を知ること。 2. グローバル社会で働くために必要な能力を掘り下げて理解すること。 3. ケースとして取り上げた業種・職種のグローバル化が進展する姿と必要な能力を想定できること。
成績評価	試験成績を60%、毎回のレポート成績および授業中の発表・討議への参画度を含む日常成績を40%で評価する。
予習復習時間	講義資料をWebClassに登録するので、授業前に事前学修して質問事項等をまとめておくこと。授業後には毎週レポート課題を与えるのでレポート作成を通して事後学修をすること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	広範な専門科目の内容をベースとするので、企業評価、経営管理、プロジェクトマネジメント、生産システムなどに関わる科目の授業内容を再確認しておくこと。
授業計画	

第1回	グローバル経営と学習方法…グローバル化の潮流と対応方法
第2回	グローバル人材の目指し方
第3回	グローバル展開戦略…展開形態（生産／販売／事業）と経営形態（集権／分権）の戦略
第4回	グローバル事業設計…事業構造／コスト構造／組織構造の設計
第5回	海外拠点構築…拠点構築プロジェクトマネジメントの手順と課題
第6回	ビジネスプロセス設計（経営管理）
第7回	ビジネスプロセス設計（製品開発）
第8回	ビジネスプロセス設計（生産・販売）
第9回	製造オペレーションの改善…IE・QC手法のグローバル推進方法
第10回	先端ロジスティックスの事例と実現技術
第11回	グローバルキャリアデザインの事例発表（1）
第12回	グローバルキャリアデザインの事例発表（2）
第13回	グローバル人材に向けた研鑽方法

	第14回　まとめと試験
オフィスアワー	木曜日12:00～14:00の間とする。
授業形態	講義説明をしたうえで、学修課題に対してグループワークを行い発表するアクティブ・ラーニングを実施する。
コース区分	
授業の具体的な進め方	授業の冒頭で前週レポートのフィードバックを行う。講義での質問を重視し日常成績として評価する。
関連科目	企業会計、品質管理、経営管理、プロジェクトマネジメント、マーケティング、作業設計と管理、生産マネジメント、サプライチェーンマネジメント、企業評価に関わる科目
授業に持参するもの	パソコンが必須である。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『WebClassに講義資料登録』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『『グローバル経営入門』』	淺川和宏	日本経済新聞出版社	2003	9784532132606	
2.	『『アジアでも成功する生産革新の手引き』』	早川雄之助	日刊工業新聞社	2012	9784526068959	
3.	『『独創はひらめかない』』	金出武雄	日本経済新聞出版社	2012	9784532318413	
4.	『『IPD革命』』	廣瀬貞夫(監修)	工業調査会	2003	9784769361505	

学生へのメッセージ	グローバル業務の重要性が多くの企業で増加しており、“企業での活躍”＝“グローバルでの活躍”と言われている。毎回の授業に出て能動的に思索してレポート作成することを継続すれば、自ずと企業のグローバル活動に関する知見が深まり、グローバルに仕事をすることに興味が増すと思う。自分を鍛えるために授業を活用して欲しい。 面談希望に対してはオフィスアワー以外の時間帯も可能な限り対応するので希望日時をメールで連絡してください。 各課題等に対しては，レポート等提出後にWebClassおよび翌週の授業でフィードバックする。また，発表については，その場で口頭によりフィードバックする。
その他・自由記述欄	本科目は、メーカーで技術経営を担当した実務家教員が経験に基づき、グローバルビジネス展開の手法と事例を示す。 前年度の授業改善アンケートの結果を示し、それを反映した授業とすることを学生に説明する。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	大規模データ解析応用事例
科目英名	Large-scale Data Analyses and Utilization
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	前期
担当者	田村　慶信
単位数	2

科目概要	近年，クラウドやモバイル機器の普及により，身の回りのありとあらゆるものがインターネットに接続され，日々の生活から膨大なデータが生成・収集されている．こうしたビッグデータには，複雑化した問題や科学的課題の解決に有効なデータが含まれている．ビッグデータを分析・有効活用するためのデータ解析技術を身に付けるとともに，ビッグデータの定義や問題点，データ構造等の詳細について学習する．なお，この科目は，カリキュラムポリシー4，ディプロマポリシー5に該当する．
達成目標	ビッグデータの定義や利用上の問題点について理解するとともに，大規模データを処理・解析できる能力を身に付ける．
成績評価	出題される課題20%，演習レポート20%，期末試験60%
予習復習時間	予習2時間，復習2時間．授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること．授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること．
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	ビッグデータを様々な視点から理解できること．また実際のデータを用いて演習を行う場合には，問題解決を行うことを意識して演習することが大切である．
授業計画	

第1回	予習：第1回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの定義と種類 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第2回	予習：第2回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの問題点 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第3回	予習：第3回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの種類（数値データ） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第4回	予習：第4回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの種類（テキストデータ） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第5回	予習：第5回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの種類（画像データ） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第6回	予習：第6回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの入出力における問題点と解析 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第7回	予習：第7回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの可視化 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第8回	予習：第8回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの解析（古典的統計分析） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第9回	予習：第9回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの解析（古典的統計分析）に基づく実験結果のまとめ 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）

第10回	予習：第10回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの解析（AIによる分析プログラムの理解） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第11回	予習：第11回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの解析（AIに基づく数値データとテキストデータの分析） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第12回	予習：第12回資料を予習しておく(2時間) 内容：ビッグデータの解析（AIに基づく画像データの分析） 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第13回	予習：第13回資料を予習しておく(2時間) 内容：総合演習 復習：授業で出てきたキーワード（専門用語）を整理し提出（2時間）
第14回	予習：第14回資料を予習しておく(2時間) 内容：総合演習と最終レポートの提出 復習：達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	演習と講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	事例を交えて必要な手法および考え方を理解してもらう.
関連科目	履修前：数理統計，データサイエンス基礎，アルゴリズム設計，プログラミング演習，履修後：シミュレーション基礎，データ解析演習，データサイエンス応用，事例研究，この科目は，カリキュラムポリシー4，ディプロマポリシー5に該当する.
授業に持参するもの	ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布資料 適宜紹介』					

参考書	
学生へのメッセージ	授業内で理解し，課題等全て提出することが大切です．各課題等に対しては，レポート等提出後に口頭によりフィードバックします.
その他・自由記述欄	経営システム工学における問題解決を図るために必要なマネジメントの応用能力だけでなく，数理的・統計的解析技術を習得する.

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	マーケティング･サイエンス
科目英名	Marketing Science
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門･必修■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	田村　慶信
単位数	2

科目概要	マーケティングは消費者の購買意欲と企業活動の哲学でありノウハウである. この授業では, 消費者の行動を理解するための基本的分析技術と販売活動の紹介事例を基にして数学モデルを交えてマーケティング活動を議論する. なお, この科目は, カリキュラムポリシー3, ディプロマポリシー3に該当する.
達成目標	各自がマーケティング手法の意味を理解して, 実際のデータを扱うことが可能となる.
成績評価	出題される課題20%, 期末試験80%
予習復習時間	次回の授業内容の予習(2時間), 当日の授業内容の復習(2時間). 授業前には, 授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること. 授業後には, 取り扱った内容について課題に取り組み, あるいは学生同士でディスカッションするなどにより, 理解を深めること.
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	統計手法を理解していることが望ましい.
授業計画	

第1回	予習:マーケティング･サイエンスについて調査し理解する(2時間) 内容:マーケティング･サイエンスとは 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第2回	予習:消費者の心理と行動について調査し理解する(2時間) 内容:消費者の心理と行動の理解 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第3回	予習:コンジョイント分析に基づく消費者分析について理解する(2時間) 内容:コンジョイント分析に基づく消費者分析 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第4回	予習:コンジョイント分析について復習する(2時間) 内容:コンジョイント分析の復習 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第5回	予習:SWOT分析について調査し理解する(2時間) 内容:SWOT分析 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第6回	予習:ポジショニングマッピングについて調査し理解する(2時間) 内容:ポジショニングマッピング 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第7回	予習:消費者データに基づく因子分析について理解する(2時間) 内容:消費者データに基づく因子分析 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第8回	予習:回帰分析に基づく消費者分析について理解する(2時間) 内容:回帰分析に基づく消費者分析 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第9回	予習:実データを用いた復習と演習を通した分析手法を身に付ける(2時間) 内容:実データを用いた復習と演習(コンジョイント分析) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)

第10回	予習:実データを用いた復習と演習を通した分析手法を身に付ける(2時間) 内容:実データを用いた復習と演習(SWOT分析とポジショニングマッピング) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第11回	予習:実データを用いた復習と演習を通した分析手法を身に付ける(2時間) 内容:実データを用いた復習と演習(因子分析・回帰分析) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第12回	予習:実データを用いた復習と演習を通した分析(2時間) 内容:実データを用いた復習と演習(グループ演習:データ収集) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第13回	予習:実データを用いた復習と演習を通した分析(2時間) 内容:実データを用いた復習と演習(グループ演習:分析) 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(2時間)
第14回	予習:実データを用いた復習と演習を通した分析(2時間) 内容:グループ演習による成果物のまとめと提出 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出

オフィスアワー	月曜日と火曜日12:30～13:00
授業形態	講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	事例を交えてマーケティングに必要な手法および考え方を理解してもらう
関連科目	履修前:数理統計, 大規模データ解析応用事例, データサイエンス基礎, 履修後:製品企画, ビジネスモデル, 経営シミュレーション演習, 経営管理演習, この科目は, カリキュラムポリシー3, ディプロマポリシー3に該当する.
授業に持参するもの	ノートパソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布資料 適宜紹介』					

参考書	
学生へのメッセージ	身近なテーマです. 一緒に考えましょう. 各課題等に対しては, レポート等提出後に口頭によりフィードバックします.
その他・自由記述欄	問題解決を図るために必要なマネジメントの基礎能力だけでなく, 数理的・統計的解析技術を習得する.

参考URL

1.	田村研究室WebサイトのLECTUREページ	講義資料・データ・サンプルプログラムなど

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	ビジネスモデル
科目英名	Business Models
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	渡部　和雄
単位数	2

科目概要	〔科目区分　専門科目〕 〔対応する学習・教育到達目標(E), カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー5に該当する〕 企業や団体が実施しているビジネスモデルについて, ビジネスが成り立つ仕組みを講義する. また, 企業の業務改善や業務処理システム構築などのために業務処理の手順を単純なモデルとして記述する複数の方法を説明し, 学生が簡単な業務処理の手順を記述できるようにする.
達成目標	(1)ビジネスモデルおよびビジネスプロセスのモデリング技法を理解する. (2)ビジネスモデルについては, インターネットを使った多様なビジネスモデルを中心に, 多くのビジネスモデルの特徴をつかみ, 自分なりに分類できるようにする. (3)グループワークによりビジネスモデルの実例を調査し, 自ら考え, 発表する能力を養う. (4)ビジネスプロセスのモデリング技法については演習を交えながら, IDEF、ユースケース、CNモデル、バランススコアカード、業務プロセス図などを利用したビジネスプロセス設計技法を習得する.
成績評価	試験60% グループ発表40%（グループ発表自体の評価に加えて, 個人のグループへの貢献度相互評価を考慮することがある）
予習復習時間	1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要. 授業前には, 授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には, 取り扱った内容について課題に取り組み, あるいは学生同士でディスカッションするなどにより, 理解を深めること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「企業マネジメント」を履修していること.
授業計画	

第1回	ビジネスモデルの定義、概要
第2回	ビジネスモデル事例紹介 なぜ無料でビジネスが成り立つのか
第3回	顧客関係のビジネスモデル
第4回	（グループワーク）1　ビジネスモデルのケーススタディ　テーマ割り当て, 調査開始
第5回	提供価値のビジネスモデル
第6回	（グループワーク）2　ビジネスモデルのケーススタディ　調査とグループ討議を進める 中間レポート提出, 添削
第7回	価格／収入構造のビジネスモデル
第8回	ビジネスプロセスモデリング概要, ビジネスプロセスモデリング技法（1） アクティビティ図、IDEFと例
第9回	ビジネスプロセスモデリング技法（2） ユースケース, CNモデル, バランススコアカード
第10回	（グループワーク）3　発表資料作成, 発表準備 スライドファイルの提出
第11回	グループ発表会1（前半のグループ）

第12回	グループ発表会2（後半のグループ），発表会講評
第13回	ビジネスプロセス設計の考え方，ビジネスプロセス設計技法
第14回	まとめ，試験

オフィスアワー	授業前の休みや5時限目など，予約なしで訪問できる．
授業形態	講義および演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	パワーポイントによるスライドと指定教科書をもとに講義を進める．スライドのファイルはWebClassに掲載する． グループワークでは与えられたテーマについて，調査，グループ内議論，発表資料作成，発表を行ってもらう．グループワークの第2回終了時に中間レポートを提出してもらい，添削する．添削結果に応じてパワーポイントファイルを修正してもらう．
関連科目	履修前：企業マネジメント，履修後：企業会計基礎，企業評価，経営情報システム，グローバル企業マネジメント，ビジネスデータ分析演習
授業に持参するもの	WebClassにて配布される資料，指定教科書，ノート，筆記用具，ノートパソコン（グループワークで使用）

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ビジネスモデルの教科書』	今枝昌宏	東洋経済	2014	9784492533437	

参考書	
学生へのメッセージ	授業で使う自作パワーポイント資料はWebClassにて配布する．内容は適宜アップデートするので，授業前にその回の部分をダウンロードすること．
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	製品企画
科目英名	Product Planning
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	前期
担当者	兼子　毅
単位数	2

科目概要	「顧客にとって価値ある製品」を創造するための「製品企画方法論」を学ぶ。顧客の潜在ニーズの発掘、おおまかなコンセプトの決定から具体的な製品コンセプトへの昇華まで、一連の流れを概観する
達成目標	製品企画に必要な様々な手法（統計的手法、アイデア創出法、プレゼンテーション技法）を習得する
成績評価	小レポート（60点）＋最終プレゼンテーション（40点）
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。復習及び次回講義のためのデータ収集などで、学則第１８条に基づき、１時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	基本的な統計の知識があること。パソコンが使いこなせること。
授業計画	

第1回	製品企画の重要性
第2回	価値創造と製品企画
第3回	インタビュー調査
第4回	グループ・インタビュー
第5回	評価グリッド法
第6回	インタビューのまとめ
第7回	アンケートの設計
第8回	アンケートの実施
第9回	ポジショニング分析
第10回	ポジショニング分析とアイデア発想法
第11回	アイデア選択法
第12回	コンジョイント分析
第13回	プレゼンテーション設計
第14回	総合発表

オフィスアワー	火曜日　15:10～16:50

授業形態	講義＋演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	製品企画で重要な各種手法の説明、及びグループにわかれた演習・実習を通じて理解を深めてもらう
関連科目	履修前：基礎確率統計、多変量解析、マーケティングサイエンス，履修後：実験計画法，経営シミュレーション演習
授業に持参するもの	パソコン

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『商品企画七つ道具』	神田範明	日科技連出版社	1995	9784817102874	

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ゼロから始めるR』	兼子毅	日科技連出版社	2015	9784817195661	
2.	『Rで学ぶ多変量解析』	兼子毅	日科技連出版社	2011	9784817193896	

学生へのメッセージ	「新しい製品」には「新しい技術」が多くの場合必要であるが、「技術」だけでは魅力的な製品は生まれない。本当に顧客にとって価値のあることは何か、を知らなければならない。非常に難しい問題だが、挑戦しがいのあるテーマである。是非積極的に参加してほしい。
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(F)、カリキュラムポリシー5、ディプロマポリシー5に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	人間工学
科目英名	Ergonomics
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	岡　誠
単位数	2

科目概要	人間工学・認知工学とはどのような学問であるかの基本的な内容を紹介する。 主に、人間の身体的・生理的特性、人間の情報処理モデル、認知特性、記憶、知識表現・問題解決、およびヒューマンエラーに関する知識を学ぶ。
達成目標	人間の身体的・生理的・認知的特性を学び、環境設計やシステム設計に生すことができる。
成績評価	人間工学・認知工学の基礎知識に関する試験を行い60点以上で合格とする。
予習復習時間	復習4時間
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	前提科目なし
授業計画	

第1回	内容: 人間工学とは、人間工学の歴史 復習: 授業内容に関するレポート作成
第2回	内容: Man Machine System、Fault Tree Analysis 復習: 授業内容に関するレポート作成
第3回	内容: 人間の視覚特性(視力の分解能と解像度) 復習: 授業内容に関するレポート作成
第4回	内容: 人間の視覚特性(順応、色覚異常) 復習: 授業内容に関するレポート作成
第5回	内容: 人間の聴覚特性(音の特性と聴覚特性) 復習: 授業内容に関するレポート作成
第6回	内容: 負担と疲労 復習: 授業内容に関するレポート作成
第7回	内容: 前半のまとめと理解度の確認 復習: 授業内容に関するレポート作成
第8回	内容: 人間の認知とは、神経情報処理 復習: 授業内容に関するレポート作成
第9回	内容: 視覚情報処理 復習: 授業内容に関するレポート作成
第10回	内容: 記憶(記憶の貯蔵庫モデル、記憶と忘却) 復習: 授業内容に関するレポート作成
第11回	内容: 知識表現、推論、問題解決 復習: 授業内容に関するレポート作成
第12回	内容: ヒューマンエラー 復習: 授業内容に関するレポート作成

第13回	内容: 人間の情報処理モデル 復習: 授業内容に関するレポート作成
第14回	内容: 後半のまとめと理解度の確認 復習: 授業内容に関するレポート作成

オフィスアワー	火曜日3限(その他は事前にメールでアポイントを取って下さい)
授業形態	座学、ただし随時演習を行う
コース区分	
授業の具体的な進め方	授業資料を配付し(可能な限り演習を交えて)講義を行う。
関連科目	履修前:知識工学汎論, 経営工学概論, 履修後:知的情報処理、製品企画、ヒューマンインターフェス、人間中心設計演習
授業に持参するもの	(紙の)ノート、筆記用具を持参すること。関数電卓を用いることがある。

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配付資料』					

参考書	
学生へのメッセージ	人間の特性は非常に身近なテーマである。応用分野は人間の関与する様々な道具、システム、サービスであり、大変広い分野に適用可能な知識である。是非興味を持って参加して欲しい。
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(C)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー2に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	認知工学
科目英名	Cognitive Engineering
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	森　博彦
単位数	2

科目概要	この科目では、人間の心理的・認知的特性を説明し、人間の心理・認知にあった製品について説明する。
達成目標	人間の認知特性を理解し、製品やシステムの設計への応用方法を習得することを目標とする。
成績評価	期末試験により評価する。
予習復習時間	1回(90分)の授業に対して4時間の自学自習が必要(学則第18条に基づく)
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	人間工学を履修のこと
授業計画	

第1回	人間の認知とは
第2回	神経情報処理
第3回	視覚情報処理(1) -生理的アプローチ-
第4回	視覚情報処理(2) -心理的アプローチ-
第5回	心的イメージ
第6回	記憶(1) - 記憶の貯蔵庫モデル -
第7回	記憶(2) - 記憶と忘却-
第8回	知識表現
第9回	推論
第10回	問題解決
第11回	ヒューマンエラー
第12回	意思決定
第13回	人間の情報処理モデル
第14回	システム設計への応用 - 情報処理システムを中心に-

オフィスアワー	随時
授業形態	講義

コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	
授業に持参するもの	
教科書	

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『なし』					

参考書	
学生へのメッセージ	自己観察をしながら、講義を聴いてもらいたい。
その他・自由記述欄	
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	知的情報処理
科目英名	Intelligent Information Processing
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	森　博彦
単位数	2

科目概要	この科目では、アルゴリズムが明確ではない問題に対して、どのようにコンピュータで解くのかという人工知能の手法を学び、人間とコンピュータの知能の違いを明らかにしていく。さらに、ネットワーク時代の検索と探索、そこから得られた情報からの学習による知識表現、それを活用した推論についての様々な方法を学び、集団的な組織知から生成される知の役割について講義を進めていく。
達成目標	人工知能の手法を用いて、アルゴリズムのわからない問題を解く方法を身につけると同時に、人間とコンピュータの知能の差を理解することが目標となる。さらに本講義ではインターネットのページ内容や多くの人の検索情報から集団的知識を生成することによって、新時代の人工知能システムの構築能力と組織知の活用方法について理解することを目的としている。
成績評価	最終試験100%
予習復習時間	授業で行った内容を復習する時間4時間を要する。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	プログラミングや人間工学などの科目を履修しておくこと。
授業計画	

第1回	人間の知、組織知、機械の知 予習：人工知能とはどのようなものかについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第2回	問題空間 予習：問題空間と状態遷移規則について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第3回	縦型探索と横型探索 予習：縦型探索と横型探索について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第4回	発見的探索 予習：山登り法・最良優先探索について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第5回	知識表現　プロダクションシステムによるインターネットからの組織知構成 予習：プロダクションシステムについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第6回	知識表現　意味ネットワークとインターネットのオントロジーの実習 予習：オントロジーについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第7回	機械学習 −決定木、ベイジアンフィルタ− 予習：ベイズの定理について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第8回	機械学習− サポートベクターマシン、k−means法、x−means法 予習：上記方法について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第9回	データマイニング−相関ルールマイニング− 予習：相関ルールマイニングについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）

第10回	ニューラルネットワーク 予習：誤差逆伝搬法について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第11回	深層学習 予習：深層学習の特徴について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第12回	遺伝的アルゴリズム 予習：遺伝的アルゴリズムについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第13回	自然言語処理 予習：形態素解析・構文解析について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第14回	学習と自然言語処理を用いた検索システムのインターネット上での実習 予習：オントロジーと形態素解析について復習すること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）

オフィスアワー	月曜日昼休み及び5時限目
授業形態	講義形式
コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	履修前：人間工学、認知工学、プログラミング、アルゴリズム設計、履修後：ヒューマンインタフェース，コンピュテーショナルモデリング、人間中心設計演習
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『なし』					

参考書	
学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(E)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー5に該当する 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	ヒューマン･インタフェース
科目英名	Human Interface
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門･必修■
学年	3年生
学期	前期
担当者	森　博彦
単位数	2

科目概要	この講義ではすべての人にとって使いやすいシステムの設計を目指し、様々な情報システムのユーザインタフェース設計方法について学ぶ。
達成目標	様々な性質を持った人間に合わせたシステム設計技法とそれに関連する人間の特性について修得することを目標とする。
成績評価	期末試験100%
予習復習時間	1回の授業に対して4時間の自学自習が必要（学則第18条に基づく）
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	人間工学を履修していること
授業計画	

第1回	ガイダンス
第2回	ユーザビリティとは 予習：ユーザビリティのISOの定義を調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第3回	人間中心設計原理 予習：人間中心設計プロセスについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第4回	CUI(Command User Interface) 予習：Command User Interfaceとはどのようなものかを調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第5回	GUI(Graphical User Interface)とマルチウィンドウシステム 予習：GUIの構成要素のWIMPについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第6回	GUIの設計 予習：デスクトップメタフォアについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第7回	情報の可視化 予習：focus+contextについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第8回	マルチモーダルユーザインタフェース 予習：マルチモーダルユーザインタフェースについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第9回	仮想現実 予習：現実感のための3要素について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第10回	ユビキタスコンピューティング 予習：ユビキタスコンピュータの意味について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）

第11回	実世界指向ユーザインタフェース 予習：AR、TUIについて調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第12回	グループウェアとCSCW 予習：グループウェアの種類について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第13回	ユニバーサルデザイン（1）－ 概略－ 予習：ユニバーサルデザインの対象者について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）
第14回	ユニバーサルデザイン（2）－ 具体例と設計論 － 予習：ユニバーサルデザインの具体例について調べること（100分） 復習：講義内容を自分なりにノートにまとめること（100分）

オフィスアワー	月曜日の昼休み及び、5時限目
授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	
関連科目	履修前：人間工学，知的情報処理，履修後：事例研究
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『なし』					

参考書	
学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(F)、カリキュラムポリシー5、ディプロマポリシー5に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	ｺﾝﾋﾟｭｰﾃｰｼｮﾅﾙﾓﾃﾞﾘﾝｸﾞ
科目英名	Computational Modeling
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	前期前半
担当者	穴田　一
単位数	2

科目概要	対象を理解する上でシミュレーションを行う事は非常に効果的な手法である. 本講義では，まずシミュレーション基礎で学習したトップダウン型シミュレーションの一つである微分方程式によるモデル化についてより深く学び，続いてボトムアップ型シミュレーションについて学ぶ.
達成目標	シミュレーションとは何かを理解し，微分方程式によるモデル化とその特徴，ボトムアップ型シミュレーションのモデル化とその特徴の理解を目指す.
成績評価	課題50%，筆記試験50%
予習復習時間	4時間
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	基本的なプログラミングの知識，基本的な微積分の知識
授業計画	

第1回	予習：シミュレーションとは何かについて調べる（100分） 内容：シミュレーションの重要性，トップダウン型シミュレーション，ボトムアップ型シミュレーション 復習：シミュレーションとその重要性についてまとめる（100分）
第2回	予習：配布プリントを用いて，データ表現と誤差，計算量ついて理解する（100分） 内容：コンピュータの基礎（データ表現と誤差，計算量） 復習：配布プリントの演習問題を全て行う（100分）
第3回	予習：配布プリントを参考に微分方程式の解法について理解する（100分） 内容：微分方程式の解法 復習：配布プリントの演習問題を全て行う（100分）
第4回	予習：配布プリントを参考にロトカボルテラの方程式について調べる（100分） 内容：微分方程式によるモデル化（1）（ロトカボルテラの方程式） 復習：ロトカボルテラの方程式についてまとめる（100分）
第5回	予習：配布プリントを参考にローレンツの方程式について調べる（100分） 内容：微分方程式によるモデル化（2）（ローレンツの方程式） 復習：ローレンツの方程式についてまとめる（100分）
第6回	予習：配布プリントを参考に人間関係の自己組織化について調べる（100分） 内容：ボトムアップ型シミュレーション1（人間関係の自己組織化） 復習：人間関係の自己組織化とその問題点，打開策についてまとめる（100分）
第7回	予習：配布プリントを参考に金融市場の基礎知識について調べる（100分） 内容：ボトムアップ型シミュレーション2（金融市場のモデル化） 復習：金融市場のモデル化とその問題点，打開策についてまとめる（100分）
第8回	予習：配布プリントを参考に流行現象と広告について調べる（100分） 内容：ボトムアップ型シミュレーション3（流行現象のモデル化） 復習：流行現象のモデル化とその問題点，打開策についてまとめる（100分）
第9回	予習：細胞分化について調べる（100分） 内容：ボトムアップ型シミュレーション4（細胞分化のモデル化） 復習：細胞分化のモデル化とその問題点，打開策についてまとめる（100分）

第10回	予習：生物進化について調べる（100分） 内容：ボトムアップ型シミュレーション5（生物進化のモデル化） 復習：生物進化のモデル化とその問題点，打開策についてまとめる（100分）
第11回	予習：ボトムアップ型シミュレーション（講義6～講義10）について復習し，疑問点をまとめる（100分） 内容：疑問点とそれに関する質疑応答 復習：ボトムアップ型シミュレーションについてまとめる（100分）
第12回	予習：組合せ最適化問題とその基本的解法について調べる（100分） 内容：組合せ最適化問題とその基本的解法 復習：組合せ最適化問題とその基本的解法についてまとめる（100分）
第13回	予習：配布プリントを参考に進化的アルゴリズムについて調べる（100分） 内容：組合せ最適化問題の進化的アルゴリズムによる解法 復習：組合せ最適化問題の進化的アルゴリズムによる解法についてまとめる（100分）
第14回	予習：学習のアルゴリズムについて復習し，疑問点をまとめる（100分） 内容：疑問点とそれに関する質疑応答 復習：学習のアルゴリズムについて再度まとめる（100分）

オフィスアワー	月曜日5限，水曜日5限
授業形態	配布資料に基づく講義と演習
コース区分	
授業の具体的な進め方	前半講義を行い，後半講義内容について議論する
関連科目	履修前：プログラミング，シミュレーション基礎，人間工学，知的情報処理 履修後：事例研究
授業に持参するもの	配布資料，コンピュータ

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『配布資料』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『特になし』					

学生へのメッセージ	理解することを意識して勉強して下さい． 課題を毎週着実にこなし，翌週に持ち越さないようにして下さい．
その他・自由記述欄	経営システム工学における問題解決を図るために必要なマネジメントの基礎能力だけでなく，数理的・統計的解析技術を習得する． この科目は、学習・教育到達目標(D)、カリキュラムポリシー3、ディプロマポリシー3に該当する

参考URL

1.	特になし	

画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	古典制御理論
科目英名	Classical Control Theory
開講年度	2019
開講学科	2018年度 情報科学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	大屋　英稔
単位数	2

科目概要	本科目は，ディプロマポリシーにおける専門知識，特にカリキュラムポリシーに記載されている情報工学に関する幅広い視野とその応用力を有する技術者を養成するための専門応用科目の1つである。本科目では，まず動的システムの伝達関数表現，状態方程式表現について理解する。次に，ブロック線図を用いてシステムの構造を記述する方法，システムの時間応答，周波数伝達関数，および周波数応答について学ぶ。また，伝達関数表現に基づいたシステムの安定性と安定判別法，およびフィードバック制御系の設計仕様と制御系設計法の基礎的事項を修得する。 [深く関連(◎)あるいは関連(○)する学習・教育到達目標] ○(D),◎(E) This course is one of specialized subjects to train engineers with wide range of view on information engineering described in the diploma policy, especially in the curriculum policy. In this lecture, transfer function and state equation of linear dynamical systems are introduced. Next, properties (time and frequency responses) of basic elements of transfer functions are given. Additionally, this lecture covers Laplace transform, stability analysis for linear dynamical systems and the fundamental method for control system design. [Relation to the aim of learning and education] ○(D),◎(E)
達成目標	(1) 動的システムの伝達関数表現，状態方程式表現を理解している. (2) システムの時間応答，周波数応答を求めることができる。 (3) 制御系の安定性を調べることができる。 (4) 制御系設計仕様，および制御系設計の基礎的事項を修得している。 (1) To derive transfer functions and state equations of linear dynamical systems. (2) To derive time response and freuency response of linear dynamical systems. (3) To master the analysis method for stability of transfer functions. (4) To understand the notion of design specification and the fundamental method of control system design.
成績評価	前半試験40%，後半試験40%，レポート20%で評価し，全体で60%以上あれば合格とする。 Your final grade will be calculated according to the following process: Examination (80% (the first half : 40%, the second half : 40%)) and reports (20%). The passing score is not less than 60%.
予習復習時間	1回の授業に対して4時間の自学自習が必要（学則第18条に基づく） Students are required to spend at least 4 hours per a class studying.
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	微分積分学，ラプラス変換，フーリエ変換を勉強しておくことが望ましい. It is desirable to study differential and integral calculus, Laplace transform and Fourier transform.
授業計画	

第1回	導入：システムの制御と制御工学 【授業時間外課題】：レポート（No.1）に取り組み，動的システムの表現について予習を行う Introduction : Systems control and control engineering 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.1) and prepare for representation of linear dynamical systems
第2回	動的システムの内部表現と外部表現 【授業時間外課題】：レポート（No.2）に取り組み，ラプラス変換・逆ラプラス変換について予習を行う Transfer functions and state equations 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.2) and prepare for Laplace transform
第3回	ラプラス変換とその性質，部分分数展開 【授業時間外課題】：レポート（No.3）に取り組み，伝達関数について予習を行う

	Laplace transform and its properties 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.3) and prepare for transfer functions
第4回	伝達関数とブロック線図 【授業時間外課題】:レポート(No.4)に取り組み，動的システムの時間応答について予習を行う Transfer functions and block diagram 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.4) and prepare for time responses of transfer functions
第5回	動的システムの時間応答 【授業時間外課題】:レポート(No.5)に取り組み，周波数応答について予習を行う Time responses for linear dynamical systems 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.5) and prepare for frequency responses
第6回	周波数伝達関数と周波数応答 【授業時間外課題】:レポート(No.6)に取り組み，基本伝達関数について予習を行う Frequency transfer functions and frequency responses 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.6) and prepare for basic elements of transfer functions
第7回	基本伝達関数の特性 【授業時間外課題】:レポート(No.7)に取り組むとともに，前半の内容を復習する Basic elements for transfer functions 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.7) and review for the first half
第8回	授業内容前半に関する総括と理解度のチェック(前半試験) 【授業時間外課題】:前半試験を踏まえて前半の内容を復習し，制御系の安定性について予習を行う Conclusions for the first half (for goals 1 and 2) 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Review for the first half and prepare for stablity of control systems
第9回	制御系の安定性 【授業時間外課題】:レポート(No.8)に取り組み，ラウス・フルビッツの安定判別法について予習を行う Stablity of control systems 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.8) and prepare for Routh-Hurwitz stability criterion
第10回	ラウス・フルビッツの安定判別法 【授業時間外課題】:レポート(No.9)に取り組み，ナイキストの安定判別法について予習を行う Routh-Hurwitz stablity criterion 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.9) and prepare for Nyquist criterion
第11回	ナイキストの安定判別法 【授業時間外課題】:レポート(No.10)に取り組み，制御系の設計仕様について予習を行う Nyquist criterion 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.10) and prepare for stability margin of feedback control systems
第12回	安定余裕と制御系設計仕様 【授業時間外課題】:レポート(No.11)に取り組み，制御系設計法について予習を行う Stability margin and design specification of control systems 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.11) and prepare for control system design
第13回	制御系設計 【授業時間外課題】:レポート(No.12)に取り組み，後半の内容を復習する Control system design 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Work on Report (No.12) and review for the second half
第14回	授業の総括と理解度のチェック(後半試験) 【授業時間外課題】:後半試験を踏まえて後半の内容を復習する Conclusions for the second half (for goals 3 and 4) 【Preperation and review (Out-of-Class learning)】 Review for the second half

オフィスアワー	水曜日の3時限目．その他の時間は，事前にアポイントを取ること。
授業形態	講義
コース区分	
授業の具体的な進め方	板書によって講義を進めるので，ノートを必ずとること。また，講義中に例題を通して習熟度のチェックを行う。 This lecture will be proceeded by writing on blackboard. Students should take notes. During the class, your proficiency level will be checked through examples.

関連科目	システム解析，現代制御理論
授業に持参するもの	

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『特に使用しない．適宜資料を配布する．』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『自動制御理論』	樋口竜雄	森北出版	1989	9784627726406	
2.	『制御工学』	竹内倶佳，萩野剛二郎	培風館	1996	9784563036720	

学生へのメッセージ

1. 制御工学は，複雑なシステムを望み通りに制御するための基礎となる学問である。数学的な理論が難解かもしれないが，積極的に質問して次回の授業に疑問を持ち越さないよう心がけること。
2. 講義はすべて板書によって授業を進めるので，ノートをしっかりとること。欠席した場合，次の授業までに他の学生のノートを写させてもらっておくこと。また，ほぼ毎回レポートを課すので，提出期限を厳守するとともに，予習・復習を必ず行うこと。
3. 授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である。

1. Control engineering can be applied to a wide variety of systems. Although it may be difficult in terms of mathematics, we would like you to actively ask questions.
2. Since this lecture will be proceeded by writing on blackboard, students should take notes. If you absent from class, you should copy the notes of other students by the next lesson. Additionally, you should submit reports by the deadline.
3. Each lesson requires 2 hour of preparation and 2 hours for reviewing the lecture, i.e. 4 hours in total for preparation and reviewing.

その他・自由記述欄

1. 授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である。
2. 制御工学は，横断的学問である。学習するには，広い分野の知識を必要とする。製造関係の企業への職業を選択する場合，身につけておかねばならない学問の一つである。
授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。

1. Each lesson requires 2 hour of preparation and 2 hours for reviewing the lecture, i.e. 4 hours in total for preparation and reviewing.
2. Control engineering can be applied to a wide variety of systems. In order to analyze/design control systems needs to widespread knowledges, and is one of the sciences that must be studied when you consider taking a job related to manufacturing, instrumentation and so on.

参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	コンピュータネットワーク
科目英名	Computer Network
開講年度	2019
開講学科	2018年度 情報通信工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	塩本　公平
単位数	2

科目概要	インターネットを中心としてコンピュータネットワークの仕組みを学習する。上位レイヤから下位レイヤへ学習する(トップダウンアプローチ)。 ディプロマポリシー((①科学と工学を体系的に理解すると共に、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力を身に付けている、②各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力および、関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を身に付けている)に則り、特に、関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を身に付けていることを目標に、コンピュータネットワークの基本的な考え方を学ぶことで、日々発展する当該技術の最先端の技術を自らの手で習得しうる力を養う。
達成目標	コンピュータネットワークの基本的な考え方を身に付ける(アーキテクチャ、レイヤ構造、プロトコル)。 基本的な考え方をもとに日々進化する新しいコンピュータネットワークの技術を修得できる力を身に付ける。 日々進化するコンピュータネットワークの課題を把握して、新しい方式を産み出し、その有効性を評価するための基礎となる知識、考え方、能力を身に付ける。
成績評価	成績は中間・期末テスト(50)、クイズ(30)、グループレポート(20)で評価する。 中間・期末テストは授業中に実施予定。 クイズは授業中に実施予定。 グループレポートは3種類を実施し、レポート作成は授業内外で実施予定。 講義中やグループワークの発表や出席状況も考慮する。 達成目標を評価基準とするが、より具体的には(1)コンピュータネットワークの基本的な概念(アーキテクチャ、レイヤ構造、プロトコル)を理解しており、これらの概念の理解に基づき、文章を作成してコンピュータネットワークを説明できること、(2)修得した知識に基づき、パケットキャプチャの分析、ソケットプログラミング、ルーティングアルゴリズムなどの基礎をグループワーク実習を通じて理解していること、を合格の基準とする。なお、レポート作成にあたって、「コピー」「ペースト」をした場合には即刻不合格となる。
予習復習時間	1回(100分)に対して4時間の自学自習が必要。授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 学則第18条に基づき、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要。
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	コンピュータ概論、コンピュータアーキテクチャ、オペレーティングシステム、プログラミング
授業計画	

第1回	1章　イントロ コンピュータネットワークの概論を学ぶ (パケット交換と回線交換、ユニキャストとマルチキャストとブロードキャスト、プロトコルと階層化、OSIモデル、インターネット、TCP/IPプロトコル、IPアドレス、ポート番号、ドメイン名) パケットキャプチャの環境構築とグループワーク(Wireshark Lab)の準備
第2回	2章　アプリケーションレイヤ アプリケーションレイヤプロトコルの基本概念を学ぶ (人が見てもわかるテキストベースのプロトコル、HTTPとWeb、DNS、電子メール、SMTP、POPとIMAP、FTPとTELNET、SCP/SFTPとSSH) 1章のクイズを実施 グループワーク(Wireshark Lab)
第3回	3章　トランスポートレイヤ トランスポートレイヤプロトコルの基本概念を学ぶ (パケットのプロトコル、UDPとTCP、ポート番号、高信頼、シーケンス番号、ACKとNACK、フロー制御、輻輳制御) 2章のクイズを実施 グループワーク(Wireshark Lab)
第4回	

	4章　ネットワークレイヤ ネットワークレイヤプロトコルの基本概念を学ぶ （IPアドレス、フォワーディング、TTL、ICMP、ARP、DプレーンとCプレーン、ルーティングプロトコル、EGPとIGP） 3章のクイズを実施 グループワーク（ Wireshark Lab）
第5回	5章　データリンクレイヤ データリンクレイヤの基本概念を学ぶ （MACアドレス、ブロードキャスト、CSMA、Ethernet、IEEE802.11/WiFI） 4章のクイズを実施 グループワーク（Wireshark Lab）
第6回	6章　ネットワークセキュリティ ネットワークセキュリティの基本概念を学ぶ （暗号、共通鍵暗号、公開鍵暗号、認証、レイヤ毎の暗号化、TLS、IPsec、マルウェア、DOS攻撃・DDOS攻撃） 5章のクイズを実施 グループワーク（Wireshark Lab）
第7回	中間テストを実施。中間テストの解説 7章　ソケットプログラミングとアプリケーションレイヤプロトコル （ソケット・API、コネクション型通信、コネクションレス通信、アプリケーションレイヤプロトコル・SMTP） グループワーク（ソケットプログラミング）
第8回	8章　WebブラウジングとCDN （HTML、CSS、Javascript、DOM、ブラウザ、HTTP、CDN、DNS、HTTP2.0） 6章のクイズを実施 グループワーク（ソケットプログラミング）
第9回	9章　ストリーミングと適応型レート制御 （MPEG-DASH、Adaptive Bit Rate） グループワーク（ソケットプログラミング）
第10回	10章　TCPの輻輳制御 （フィードバック型フロー制御、AIMD、Tahoe、Reno、Vegas、Compound TCP、Westwood、CUBIC、BBR、QUIC、バッファブロート問題、TCPスループット公式） グループワーク（ソケットプログラミング）
第11回	11章　ルーター （テーブルルックアップ、キューイング、スイッチング、スケジューリング、Click Modulaar Router） グループワーク（Click Modular Router）
第12回	12章　インターネットルーティング （ディスタンスベクター型、リンクステート型、パスベクター型、OSPF、BGP） グループワーク（Click Modular Router）
第13回	13章　MPLS、VLAN （ラベルスイッチング、タグスイッチング、トラヒックエンジニアリング、VPN、VLAN、スパニングツリー） 14章　ミドルボックス （ACL、キャッシュ、NAT、FW、IDS、IPS、Proxy） （snort, Bro, iptables, linuxのネットワーク設定） グループワーク（Click Modular Router）
第14回	講義のまとめ 期末テスト（個人レポート）を実施 期末テスト（個人レポート）の解説 グループワーク（Click Modular Router）

オフィスアワー	授業終了後1時間。他の時間でも随時受け付ける。事前に質問事項・問題点を整理しておくこと。
授業形態	講義を中心に実習も行う。
コース区分	
授業の具体的な進め方	第1回目から第6回目までで基本的な概念を修得する。第7回目以降は応用的な概念を修得する。グループワークも並行して行い、パケットキャプチャ分析、ソケットプログラミング、ルーターアーキテクチャなどを実習する。 ＋単なる知識だけでなく、原理を修得して、応用力を身に付ける。 ＋実習を通して、コンピュータ・プログラミングの技術を身に付ける。 ＋レポート課題を通して、思考力を伸ばす。 ＋グループワークを通して、協働性を身に付ける。 ＋できるだけ英語も使って、英語になれる。

関連科目	コンピュータ概論、プログラミング、コンピュータアーキテクチャ、オペレーティングシステム、アルゴリズムとデータ構造、情報セキュリティ
授業に持参するもの	教科書、ノートPC、イーサネットケーブル

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『コンピュータネットワーク入門—TCP/IPプロトコル群とセキュリティ（Computer Science Library)』	小口 正人	サイエンス社	2007	978-4781911663	英語によるトップダウン・アプローチの教科書として世界の大学および大学院での標準的な教科書

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『Computer Networking: A Top-Down Approach, Global Edition; 7th版』	James Kurose、Keith Ross	Pearson Education Limited	2016	978-1292153599	英語によるトップダウン・アプローチの教科書として世界の大学および大学院での標準的な教科書
2.	『コンピュータネットワークセキュリティ』	八木 毅、村山 純一、秋山 満昭	コロナ社	2015	978-4339024951	ネットワークセキュリティの教科書
3.	『インターネットのカタチ』	あきみち、空閑洋平	オーム社	2011	978-4-274-068824-9	インターネットの最先端のトピックを分かりやすく紹介

学生へのメッセージ	課題、レポートの解説やフィードバックは授業中に行う。提出されたグループワークのレポートは全ての講義修了後三週間後をめどにWebClassに掲示することで、グループワークの発表会とする。 コンピュータネットワークは情報化が進むにつれてあらゆる分野で求められる現代に必須の技術である。コンピュータネットワークの技術は時代とともに進化してきており、これからも進化し続ける。コンピュータネットワーク技術を知識として身に付けることはもちろん重要であるが、それ以上にその原理を理解することがもっと重要である。コンピュータとネットワークの本質を理解しながら、知識が身につくように講義を進めていく。
その他・自由記述欄	この授業科目は、実務経験を有した教員が担当する。実務経験の概要は、通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、革新的技術を創造してきた。また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及に貢献してきた。担当授業科目においては、これらの実務経験を伝えることで、企業での研究開発で必要となるスキルを把握させる。特に、革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを理解させる。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	ネットワークアルゴリズム
科目英名	Network Algorithm
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	2年生
学期	後期前半
担当者	塩本　公平
単位数	2

科目概要	インターネット、モバイル、クラウドに代表されるコンピュータネットワークおよびコンピュータなどのシステムの設計・運用に必要な性能評価や最適化を行うための数学的道具（待ち行列理論、確率過程に基づくシミュレーション、数理計画法、各種アルゴリズム）を修得する。 ディプロマポリシー（①科学と工学を体系的に理解すると共に、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力を身に付けている、②各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力および、関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を身に付けている）に則り、日々進化するシステムの本質を捉えてモデル化を行う能力、問題に適した手法を適材適所に応用し、システムの性能評価や最適化を行う能力を身に付ける。
達成目標	システムのスループット、遅延、パケットロスなどの性能指標を評価するのに必要な確率過程によるモデル化手法と待ち行列理論を修得する。 所望の要求条件を満足するネットワークを設計するために必要なネットワークフロー問題による定式化手法と数理計画法や各種アルゴリズムを修得する。 日々進化するコンピュータネットワークおよびコンピュータなどのシステムの設計・運用における課題を理解し、課題を解決するための革新的な手法を考案し、その有効性を評価するための基礎となる知識、考え方、能力を身を修得する。 ・ポアソン分布、指数分布、アーラン分布などの確率分布を説明できる ・確率分布から期待値、分散値などを計算することができる ・待ち行列理論とはどのようなものであるか説明できる ・基本的な待ち行列システムでの平均待ち時間、平均処理時間などを計算することができる ・ネットワークの最短経路を求めるアルゴリズムを理解している ・テーブル検索アルゴリズムを理解している。 ・スケジューリングアルゴリズムを理解している。
成績評価	成績は中間・期末テスト（60）、レポート（40）で評価する。 中間・期末テストは授業中に実施予定。 レポートは授業内外で実施予定。 達成目標を評価基準とするが、より具体的には以下を合格の基準とする。 （1）確率過程によるモデル化手法と待ち行列理論を用いて、システムのスループット、遅延、パケットロスなどの性能指標を評価できること。 （2）ネットワーク計画問題に関して、各種アルゴリズムを用いて、最短経路やフロー割り当てなどの課題を解決することができること。 （3）テーブル検索アルゴリズムおよびスケジューリングアルゴリズムを理解し、説明できること。 講義中やグループワークの発表や出席状況も考慮する。 レポート作成にあたって、「コピー」「ペースト」をした場合には即刻不合格となる。
予習復習時間	1回(100分)に対して4時間の自学自習が必要。 授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を読み、理解しずらい点や疑問点を明確にしてくるように努めること。 授業後には，取り扱った内容についての重要箇所を熟読し、課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	確率論に関する数学的基礎知識、アルゴリズムに関する基礎知識、プログラミング能力
授業計画	

第1回	、第1章 ガイダンス、イントロダクション、 待ち行列、性能評価、システム、、 電話の呼損、コンピュータシステムの性能、 ネットワーク問題、
第2回	第2章　待ち行列モデル、 到着、サービス時間、待ち時間、 平均待ち時間、平均待ち行列長、、性能評価指標、 リトルの公式、 定常状態と過渡状態、 待ち行列理論・トラフィック理論が用いられている身近な事例について考える。 待ち行列の概念について理解する。

第3回	第3章　指数分布とポアソン分布、 指数分布、ポアソン分布、到着過程、サービス過程、 定常状態と過渡状態、 到着過程とサービス時間分布、
第4回	第4章　M/M/1モデル、 出生死滅過程、状態遷移、定常状態確率・定常分布、 M/M/1システムの評価尺度、平均待ち行列長、平均待ち時間、リトルの公式、 M/M/1モデル、M/M/1(K)モデル、M/M/cモデル、M/M/c(0)モデル、 リトルの公式を理解する。 M/M/cシステムへ拡張する。 処理窓口が複数に拡張した場合の状態方程式を導出する。 M/M/1システムとM/M/cシステムの違いを理解する。
第5回	第5章　確率変数 確率変数、確率分布関数、確率密度関数、モーメント、平均、分散、 離散と連続
第6回	第6章　さまざまな確率分布、 指数分布、ポアソン分布、幾何分布、二項分布、パレート分布、Power-Law、 ランダム性とバースト性、離散時間と連続時間、 疑似乱数、
第7回	第6章　シミュレーション、 イベントドリブンとタイムドリブン、 確率過程、確率分布、疑似乱数、 過渡状態と定常状態、 信頼区間、 シミュレータの作成方法、
第8回	第6章　シミュレーション パケットスイッチの性能評価の実習（理論解析とシミュレーション） グループワーク、レポート課題 第7章　付録：確率論の基礎 確率変数と確率空間、期待値と分散、ラプラス-スティルチェス変換、確率母関数、確率変数に関する便利な不等式、条件付き確立と独立 中間テスト、ここまでの内容のまとめ
第9回	第8章　マルコフ連鎖 連続時間マルコフ連鎖、離散時間マルコフ連鎖 第9章　待ち行列ネットワーク 待ち行列ネットワークと積形式解、開放型待ち行列ネットワーク、閉鎖型待ち行列ネットワーク
第10回	第10章　ネットワークアルゴリズム、 データ構造、接続性、 最短経路ルーティング（Shortest Path Routing）、Bellman-Fordアルゴリズム、Dijkstraアルゴリズム、Floyd-Warshallアルゴリズム）、 最短経路問題について理解する。
第11回	第11章　その他のネットワークアルゴリズム、 リンクステート、Flooding、 スパニングツリーアルゴリズム、 最大フロー問題、最小費用流問題、 トラヒックエンジニアリング（多品種輸送問題、数理計画法、ヒューリスティック、メタヒューリスティック）、
第12回	第12章　テーブル検索アルゴリズム、 二分探索、最長一致検索、パトリシアツリー、 ハッシュ、ブルームフィルター
第13回	第13章　スケジューリングアルゴリズム、 ラウンドロビン、WRR、HoLブロッキング、Virtual Output Queue・Work Conserving、
第14回	期末テスト、まとめ 期末テストの講評、講義全体のまとめを行う。 モデル化、確率過程、待ち行列理論、ネットワークアルゴリズム、テーブル検索アルゴリズム、スケジューリングアルゴリズムに関して説明ができるかを確認する

オフィスアワー	授業終了後1時間。他の時間でも随時受け付ける。 事前に質問事項・問題点を整理しておくこと。 WebClassなどを活用して質問すること。
授業形態	教科書、資料を使用した講義および毎回の講義内容を確認するための演習
コース区分	

授業の具体的な進め方	通信において限られた通信回線、通信装置などの資源を効率的にサービスを行うためにサービスの待ち時間、資源の利用効率などを理論的に取り扱うこと考察するトラフィック理論の基礎的事項を理解できるように講義を行うと同時に演習を実施し、内容理解を促進するようにする 第1回目から第7回までは待ち行列理論について講義を行い、コンピュータやコンピュータネットワークなどのシステムの理論解析による性能評価手法を修得する。第8回と第9回でシミュレーション技法について学習する。 第10回から第13回まではルーティングやネットワークに関連する事項を修得する。 グループワークでは理論解析やシミュレーションについプログラミング実習を行い、性能評価を体験する。 単なる知識だけでなく、原理を修得して、応用力を身に付ける。 実習を通して、コンピュータ・プログラミングの技術を身に付ける。 レポート課題を通して、思考力を伸ばす。 グループワークを通して、協働性を身に付ける。 できるだけ英語も使って、英語になれる。
関連科目	コンピュータネットワーク オペレーションズリサーチ、数理統計、シミュレーション基礎、時系列解析、アルゴリズム設計
授業に持参するもの	教科書、インターネットを通じて配布する資料

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『事前にWebClassを使って教材を配布する』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『待ち行列と確率分布』	吉岡 良雄	森北出版	2004	9784627828216	
2.	『待ち行列理論の基礎と応用（未来へつなぐ デジタルシリーズ29）』	塩田 茂雄、河西 憲一、豊泉 洋、会田 雅樹、川島 幸之助	共立出版	2014	978-4320123496	
3.	『Data Networks (2nd Edition)』	Dimitri P. Bertsekas, Robert Gallager	Pearson	1992	978-0132009164	
4.	『Routing, Flow, and Capacity Design in Communication and Computer Networks (The Morgan Kaufmann Series in Networking) 』』	Michal Pioro, Deep Medhi	Morgan Kaufmann	2004	978-0125571890	
5.	『System Modeling and Analysis: Foundations of System Performance Evaluation』	Hisashi Kobayashi, Brian L. Mark	Pearson Limited	2008	978-0130348357	

学生へのメッセージ	テストやレポートのフィードバックは授業中に行う。 銀行のATMに並ぶ行列や、バス停でバスを待つ人の行列等でどれぐらい待てば良いのか、待ち時間を減らすためにはどうしたら良いかを考えるための理論が「待ち行列理論」である。電話やインターネットにおいてもこれらの行列と同様に考えることができる。通信において限られた通信回線、通信装置などの資源を効率的にサービスを行うためにサービスの待ち時間、資源の利用効率などを理論的に取り扱うこと考察するのがトラフィック理論である。本講義では通信のためのトラフィック理論を演習を交えながら理解し、使うことができるようにすることを目指す。 インターネット、モバイル、クラウドなどのシステムは日々進歩しており、このようなシステムの性能を評価し適切に使いこなすことは現在もこれからも必須の技術である。複雑なシステムの本質を捉えてモデル化し、システムの性能を評価できる能力は社会に出てからも必要な能力である。コンピュータネットワーク、コンピュータなどシステムの本質を捉えて、理論解析やシミュレーションを使いこなして性能評価する能力や問題に応じた定式化を行い要求条件にあったネットワークを設計できる能力が身につくように講義を進めていく。
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。 この授業科目は、実務経験を有した教員が担当する。実務経験の概要は、通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、革新的技術を創造してきた。また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及に貢献してきた。担当授業科目においては、これらの実務経験を伝えることで、企業での研究開発で必要となるスキルを把握させる。特に、革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを理解させる。ネットワークアルゴリズムで学ぶシステムの設計・運用に必要な性能評価や最適化を行うための数学的道具（待ち行列理論、確率過程に基づくシミュレーション、数理計画法、各種アルゴリズム）が企業での研究開発にどのように用いられるかを伝える。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	生産システム工学
科目英名	Production Systems Engineering
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	前期前半
担当者	細野　泰彦
単位数	2

科目概要	生産システムの構成と運用に関する基本事項について講義する. 現実の生産システムは, どのようになっているかを明らかにする. 生産システムの基本形をいかに構成し, 設計するかという生産システムの設計方法を教授する. さらに生産システムを運営するための計画と管理の基礎についても教授する. 本講義は, カリキュラムポリシーの3と4に, ディプロマポリシーの2と4にそれぞれ相当している.
達成目標	工業先進国であるわが国は, この科目である「生産システム」の推進と発展に大きく貢献してきた. この講義では, 生産システムに関する最新の技術や考え方の修得を達成目標としている. 具体的には, 生産システムの基礎概念、生産管理に関する基本的手法、および生産システム設計手法の基礎知識と技法について, 演習を通じて修得する.　この科目は, 国家資格である技術士の経営工学分野, 中小企業診断士のほか, ビジネスキャリア試験の生産管理分野に関する試験範囲の学習内容を含んでいる.　当科目の修得により, 製造業での生産管理技術者や工程設計技術者としての活躍だけでなく, 製造業と関係する情報システム設計者, 物流システム技術者, 経営コンサルタント, ファブレス企業における企画職などとしての活躍が期待される. この科目は学習・教育到達目標(C)に該当し, これらの内容は, カリキュラムポリシーに沿った内容である.
成績評価	期末試験(70%), 種々の小テストおよびレポート(30%)に基づいて評価する. この成績評価の基準は, 上記の達成目標に整合したものである.
予習復習時間	次回の授業内容の予習(100分), 当日の授業内容の復習(100分). 予習・復習の内容は, 下記の授業計画に明記されている.
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	経営システム工学の対象分野および対象とする問題に関する基礎的な知識.「知識工学汎論」,「経営工学概論」を履修済みであること.
授業計画	

第1回	予習:テキスト第1章の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:生産と生産管理 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第2回	予習:テキスト第2章の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:生産組織 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第3回	予習:テキスト第3章3・1と3・2の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:生産計画と製品計画 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第4回	予習:テキスト第3章3・3の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:工場計画 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第5回	予習:テキスト第4章4・1と4・2の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:工程管理・工程計画 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第6回	予習:テキスト第4章4・2と4・3の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:工程計画・作業の手配と統制 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第7回	予習:テキスト第1章から第4章までの内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:生産管理の手法, 重要事項に関する理解度の第1回達成度確認試験とまとめ 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第8回	予習:テキスト第4章4・4の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:PERTとその解析 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)

第9回	予習:テキスト第5章の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:作業研究と生産管理 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第10回	予習:テキスト第6章6・1と6・2の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:資材管理と購買管理 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第11回	予習:テキスト第6章6・3の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:外注管理 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第12回	予習:テキスト第6章6・4と6・5の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:運搬管理と倉庫管理 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第13回	予習:テキスト第7章の内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:設備と工具の管理 復習:重要事項, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第14回	予習:テキスト第4章4・4から第7章までの内容と専門用語の意味の理解(100分) 内容:生産管理の手法, 重要事項に関する理解度の第2回達成度確認試験とまとめ 復習:達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り(100分)

オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける.
授業形態	講義を中心に, 適宜演習, 学習課題による宿題, 予習および復習の課題による学習をおこなう.
コース区分	
授業の具体的な進め方	教科書に基づく講義を主体とする. 学習内容に関するマルチメディア教材およびWeb教材を適宜使用する. 受講者は演習問題を解いて, 具体的な各種の数値解法および表計算ソフトを利用した解法, コンピュータ・プログラムによる解法を実践的に学ぶ. 現代社会で生じる生産システムの実際と課題について, 調査し分析する問題に取り組むことがある. 現状打破の問題解決の一環として, 独創力や発想力を試す課題に取り組む場合がある.
関連科目	履修前:経営工学概論, 履修後:サプライチェーンマネジメント, 生産システム工学演習, 品質管理, ファシリティー・プランニング
授業に持参するもの	教科書および配布資料を原則とし, その他の持参物は講義において適宜指示する.

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『生産管理入門【第4版】』	坂本碩也・細野泰彦	オーム社	2017	9784274219955	
2.	『生産システム』	細野泰彦				

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『生産システム設計法原論』	吉田祐夫	三恵社	2003	4883611787	
2.	『生産管理用語辞典』	日本経営工学会編	日本規格協会	2002	4542201546	
3.	『ビジネス・キャリア標準テキスト【専門知識】生産管理プランニング2級(生産システム・生産計画)〔第3版〕』	中央職業能力開発協会編	社会保険研究所	2015	9784789499224	
4.	『ビジネス・キャリア標準テキスト【専門知識】生産管理オペレーション 2級(作業・工程・設備管理)〔第3版〕』	中央職業能力開発協会編	社会保険研究所	2015	9784789499620	
5.	『ビジネス・キャリア標準テキスト【専門知識】生産管理オペレーション 3級 〔第3版〕』	中央職業能力開発協会編	社会保険研究所	2015	9784789499521	

学生へのメッセージ	生産システムを学ぶことは経営システム工学を理解するために特に大切である. 出席して, 毎回の授業をしっかりと理解すること. 特に, これまでの授業評価アンケートの結果, この講義の分野は社会でどのように役立つかの説明を補強し, また予習・復習に資する課題を強化するので, しっかりと学んで欲しい. 関連する資格試験:(1)国家資格:技術士(経営工学), (2)公的資格試験:ビジネス・キャリア検定試験の生産管理分野に, 生産管理プランニング1級, 同2級(製品企画・設計管理)および同2級(生産システム・生産計画), 同3級, 生産管理オペレーション1級, 同2級(作業・工程・設備管理)および同2級(購買・物流・在庫管理), 同3級などがあります.
その他・自由記述欄	経営を科学することにより、企業活動を合理的で、効果的に遂行できる能力を習得する.

参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	作業設計工学
科目英名	Operations Design Engineering
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・必修■
学年	2年生
学期	後期後半
担当者	大久保　寛基
単位数	2

科目概要	工場などの製造現場を最適な状態に設計・改善するためには、そこで、扱われている人・物・設備および情報などの資源を有効活用する必要がある。そのためには、現状を正しく把握する必要があり、そのための各種IE分析技法を理解し、演習を通じてその実践力を見に付けてもらう。
達成目標	各種IE分析技法を理解し、その使用法を習得することである。 また、改善の目的や問題現象に合わせて、適切に使用するIE分析技法を選択できることも目指す。
成績評価	授業時間内に行う不定期の小テストや、レポート課題で30%、中間テストを30%、期末試験を40%として評価する。 工場などの改善手法の理解度合いを重点的に評価する
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて配布資料等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，理解を深めること（予習1時間、復習3時間）
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	特になし
授業計画	

第1回	予習：知識工学汎論の復習 ガイダンス、QCD、5Sと改善活動 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第2回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 IEの歴史　IE／VEアプローチ　生産性（サービス生産性） 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第3回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 稼働分析 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第4回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 時間研究・標準時間 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第5回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 習熟・レーティング 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第6回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 動作分析　（サーブリック） 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第7回	中間テストと解説
第8回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 人・機械分析 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第9回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 工程分析 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施

第10回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 ライン編成とバランシング 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第11回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 生産形態の分類　トヨタ生産方式　改善事例の紹介 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第12回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 ディスパッチングルール　ジョンソンルール　ガントチャート 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第13回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 MRP 復習：授業における疑問点の列挙と、指定課題の実施
第14回	期末テストと解説

オフィスアワー	授業終了後の1時間を原則とする。また、随時研究室前に掲示する.
授業形態	配布資料に基づく講義と演習を行う。適宜、レポート課題も出す
コース区分	生産・物流管理コース
授業の具体的な進め方	講義を中心に授業を進め、テーマごとにレポートや演習を行う。 映像資料などを用いて理解の向上を図る。
関連科目	履修前：経営工学概論，生産システム工学，サプライチェーン・マネジメント，履修後：ファシリティー・プランニング，生産システム工学演習，事例研究
授業に持参するもの	配布資料を原則とし，その他の持参物は講義において適宜指示する.

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『資料を配布する』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『メソッドエンジニアリング』	吉本一穂　他	朝倉書店		9784254275391	

学生へのメッセージ	経営システム工学において、IE技法に関する知識は基本的な知識であり、正確に理解することは大変重要である. 毎回出席して、授業内容をしっかりと理解し，将来に役立つ実践的な知識として身につけて欲しい.
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(E)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー5に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	サプライチェーン･マネジメント
科目英名	Supply Chain Management
開講年度	2019
開講学科	2018年度 経営システム工学科
分野系列	■専門･選択■
学年	2年生
学期	前期後半
担当者	大久保　寛基
単位数	2

科目概要	現在、製造業における、原材料の調達から生産･流通に至るサプライチェーンは、グローバル化も含めて、大変、複雑になってきており、その状況下でも高効率性を求められる。本講義では、SCMの概念から、構成要素及び役割といった基本的知識に加え、リスク対策も含めた実践的な知識を習得してもらうことを目指し、事例紹介なども行いながら授業を行う。
達成目標	(1)サプライチェーンマネジメント(SCM)の概念を理解する (2)SCMの基本構造や各種事例を把握する (3)SCMに関するリスク対応事例を把握する
成績評価	授業時間内に行う不定期の小テストや、レポート課題で30%、中間テストを30%、期末試験を40%として評価する。 SCMの基本知識と事例の理解度合いを重点的に評価します。
予習復習時間	授業前には，授業計画に合わせて配布資料等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，理解を深めること(予習1時間、復習3時間)
履修する上で必要な条件(前提とする知識など)	経営工学概論や知識工学汎論の授業内容をよく把握していることが望まれる
授業計画	

第1回	予習:経営工学概論の復習 サプライチェーンマネジメント(SCM)の概要 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第2回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCMの目的，SCM発展までの経緯とその周辺知識 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第3回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおける戦略と戦術 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第4回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCMの対象範囲と概念(SCORなど) 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第5回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおけるTOC，ボトルネック管理 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第6回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCにおける全体管理とその支援技術 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第7回	中間テストと解説
第8回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおける調達の役割とその支援技術 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第9回	予習:事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおける生産の役割とその支援技術 復習:授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施

第10回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおける販売の役割とその支援技術 復習：授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第11回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおけるメンバー間コラボレーション（CPFR, SRM） 復習：授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第12回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおける新たな課題（リサイクル、グローバル化） 復習：授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第13回	予習：事前配布資料における疑問点の列挙 SCMにおけるリスクと対応 復習：授業内容の疑問点の列挙と指定課題の実施
第14回	期末テストと解説

オフィスアワー	授業終了後の1時間を原則とする。また、随時研究室前に掲示する.
授業形態	配布資料に基づく講義と演習を行う。適宜、レポート課題も出す
コース区分	生産・物流管理コース
授業の具体的な進め方	講義を中心に授業を進め、不定期にレポートや演習を行う。 映像資料などを用いて理解の向上を図る。 現状の諸問題の調査分析を必要とする演習課題やレポート課題を通じて、授業内容と企業における実務上の課題との関係性を理解することを目指す。
関連科目	履修前：経営工学概論、生産システム工学、履修後：作業設計工学、ファシリティー・プランニング、生産システム工学演習
授業に持参するもの	配布資料を原則とし, その他の持参物は講義において適宜指示する.

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『資料を配布する』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『サプライチェーンマネジメントの理論と実践』	アーンスト・アンド・ヤング・アドバイザリー	幻冬舎	2013	4344999606	
2.	『ザ・ゴール ―企業の究極の目的とは何か―』	エリヤフ・ゴールドラット	ダイヤモンド社	2001	4478420408	

学生へのメッセージ	経営システム工学において、サプライチェーンマネジメントに関する知識は実践的な知識であり、正確に理解することは大変重要である. 毎回出席して、授業内容をしっかりと理解し, 将来に役立つ実践的な知識として身につけて欲しい.
その他・自由記述欄	この科目は、学習・教育到達目標(E)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー5に該当する
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	知的財産マネジメント
科目英名	Intellectual Property Management
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	後期前半
担当者	芝　正孝
単位数	2

科目概要	ますますグローバル化するビジネスにおいて、特許だけではなく、広義の知的財産の戦略的な活用が大切になってきています。本授業では、アクティブ・ラーニング（グループでの討議や作業）の手法も組み込み、知的財産管理に関する十分な理解と、その活用のために必要ないくつかの素養を身に付けることを目指します。
達成目標	（1）広義の知的財産の意味、価値について理解します。 （2）グローバル化に対応できる課題発見プロセスや論理的説明などの重要性を認識します。 （3）狭義の知的財産管理の概要についても理解します。
成績評価	レポート　60%程度 出席　　40%程度 （各回の配分は、レポートの課題の難易度などで変化します）
予習復習時間	教科書を読む予習と毎回のレポート作成のため、1時限分の授業に対して4時間超の自学自習が必要となります。
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	アクティブ・ラーニングをより有効なものとするためは、自分で考え、自らの意見をしっかりと述べる積極性が大切です。 また、一方で、他者の意見をしっかりと聞き、その内容を尊重することも大切です。
授業計画	

第1回	知的財産マネジメントにおける、「他人に正しく情報が伝わる文章の大切さ」を説明した後、グループ作業①（目的：人に正しく情報を伝えるための文章の在り方について考える。）を実施します。
第2回	グループ作業①のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。
第3回	グローバル化における多様性理解の重要性について説明した後、グループ作業②（目的：多言語訳がしやすい日本語文章の在り方について考える。）を実施します。
第4回	グループ作業②のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。
第5回	知的財産や広義の知的資産の意味や、そのマネジメントの目的について説明し明した後、グループ作業③（目的：身近な知的財産に関するリスクを知る。）を実施します。
第6回	グループ作業③のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。
第7回	オープンイノベーションについて説明した後、グループ作業④（目的：オープンイノベーションにおける作法とリスクについて考える。）を実施します。
第8回	グループ作業④のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。
第9回	論理の可視化について説明した後、グループ作業⑤（目的：与えられた課題の解決を通して、論理の可視化プロセスを理解する。）を行います。
第10回	グループ作業⑤のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。
第11回	特許について、その概要を説明した後、グループ作業⑥（目的：実際の特許明細を読んで、そのポイントを説明できるようにする。）を実施します。
第12回	グループ作業⑥のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。

第13回	会社設立や商標取得の流れについて説明した後、グループ作業⑦（目的：新しいビジネス、会社名、商品名を考えてみる。）を実施します。
第14回	グループ作業⑦のまとめ、結果発表と、その結果発表に対する講評を行います。

オフィスアワー	講義日の月曜日16：50から17：10とします。
授業形態	授業は、2コマを1単位とし、この中で、講義、グループ作業、発表、講評を実施します。
コース区分	
授業の具体的な進め方	授業は、2コマを1単位とし、この中で、講義、グループ作業、発表、質疑応答、講評を実施します。 グループ作業では、毎回、与えられたテーマについて、数名程度のグループで議論し、考えをまとめ、代表者が発表します。 授業終了後、学生はグループで行った発表内容に、質疑応答や講評の内容、各自の意見を反映させたレポートを作成し、期限までに提出します。
関連科目	
授業に持参するもの	ノートPC（学内WiFiを介して、インターネットにアクセスでき、文書作成やプレゼンテーション資料作成のアプリが使えるもの）

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『楽しく学べる知財入門』	稲穂健市	講談社現代新書	2017	9784062884129	
2.	『配布資料』					

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『トヨタの問題解決』	（株）OJTソリューションズ	KADOKAWA	2014	9784046003126	

学生へのメッセージ	「知財管理」なんて、自分達には関係ないと思っている人が多いのではないでしょうか？しかし、皆さんの周りでも、SNSやクラウド・サービスが爆発的に普及したり、海外で保護主義的施策が増えてきたりしているため、実は「知財とその管理」について知っておくことがますます重要になってきています。本授業では、これから社会に出て活躍する学生の皆さんの役に立つよう、「知財管理」とその周辺のエッセンスをお伝えします。
その他・自由記述欄	授業前には，授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には，取り扱った内容について課題に取り組み，あるいは学生同士でディスカッションするなどにより，理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	

シラバス参照

授業科目名	ファシリティー・プランニング/ 再・物流システム
科目英名	Facility Planning / Logistic Systems
開講年度	2019
開講学科	2017年度 経営システム工学科
分野系列	■専門・選択■
学年	3年生
学期	後期前半
担当者	細野　泰彦
単位数	2

科目概要	ファシリティー・プランニングは，土地，建物および機械装置などの工場設備に関する計画であり，工場の稼働形態と方法を規定することである．本講義では，その基本的な構成方法に関する考え方と計画の方法を教授する．本講義は，カリキュラムポリシーの3と4に，ディプロマポリシーの2と4にそれぞれ相当している．
達成目標	工場設備の計画問題を理解し，生産システムを構成するために，数学的知識を応用した分析技術，工場設備の配置に関する計画案の立案・評価方法を適用できるようになることである．この科目は学習・教育到達目標(C)に該当し，これらの内容は，カリキュラムポリシーに沿った内容である．
成績評価	期末試験(70%)，出席学習状況を含む種々の小テストおよびレポート(30%)に基づいて評価する．この成績評価の基準は，上記の達成目標に整合したものである．
予習復習時間	次回の授業内容の予習（100分），当日の授業内容の復習（100分）．予習・復習の内容は，下記の授業計画に明記されている．
履修する上で必要な条件（前提とする知識など）	「生産システム工学」，「作業設計工学」を履修済みであること．
授業計画	

第1回	予習：テキスト第1章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：工場設備の計画問題ー構成要素，基本計画 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第2回	予習：テキスト第2章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：工場計画の5段階ー準備計画，計画方針，全体計画，細部計画，実施計画，実施 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第3回	予習：テキスト第3章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：機械加工の生産システムの設計法 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第4回	予習：テキスト第4章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：製品類似性に基づく生産タイプの分析 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第5回	予習：テキスト第5章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：製品類似性に基づく生産タイプの選定法 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第6回	予習：テキスト第6章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：生産タイプに基づく工程編成法 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第7回	予習：テキスト第1章から第6章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：工場設備の計画と機械加工の生産システムに関する第1回理解度確認試験とまとめ 復習：重要事項，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第8回	予習：テキスト第7章の専門用語と内容の理解（100分） 内容：製品組立の生産システムの設計法 復習：学修内容の理解，理解できなかった点をまとめ，次回の授業前に提出（100分）
第9回	

	予習:テキスト第8章の専門用語と内容の理解(100分) 内容:組立タイプの分析とステーション数の決定 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第10回	予習:テキスト第9章の専門用語と内容の理解(100分) 内容:組立工程類似性に基づく製品・工程区分 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第11回	予習:テキスト第11章の専門用語と内容の理解(100分) 内容:組立ラインの設計 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第12回	予習:テキスト第11章の専門用語と内容の理解(100分) 内容:組立ラインの設計 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第13回	予習:テキスト第12章の専門用語と内容の理解(100分) 内容:工場計画案の評価と課題 復習:学修内容の理解, 理解できなかった点をまとめ, 次回の授業前に提出(100分)
第14回	予習:テキスト第7章から第12章の専門用語と内容の理解(100分) 内容:製品組立の生産システムと工場計画案の評価に関する第2回理解度確認試験とまとめ 復習:達成度の自己評価および授業評価アンケートによる学修内容の振り返り(100分)

オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける.
授業形態	講義を中心に, 適宜演習, 学習課題による宿題, 予習および復習の課題による学習をおこなう.
コース区分	
授業の具体的な進め方	教科書および配布資料に基づく講義を主体とする.
関連科目	履修前:生産システム工学, サプライチェーンマネジメント, 作業設計工学, 履修後:事例研究
授業に持参するもの	教科書および配布資料を原則とし, その他の持参物は講義において適宜指示する.

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『ファシリティー・プランニング』	細野泰彦				

参考書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1.	『生産システム設計法原論』	吉田祐夫	三恵社	2003	4883611787	

学生へのメッセージ	
その他・自由記述欄	経営を科学することにより、企業活動を合理的で、効果的に遂行できる能力を習得する. この科目は、学習・教育到達目標(C)、カリキュラムポリシー4、ディプロマポリシー2に該当する 授業前には, 授業計画に合わせて教科書等の該当する部分等を熟読すること。授業後には, 取り扱った内容について課題に取り組み, あるいは学生同士でディスカッションするなどにより, 理解を深めること。
参考URL	
画像ファイル	
更新日付	